中間貯蔵施設環境安全委員会（第 30 回）

令和８年 10 月 30 日（金）13：30～15：00
於双葉町産業交流センター　大会議室

議　事　次　第

１．開会

２．議題

（１）中間貯蔵施設に係る事業の実施状況について
・除去土壌等の搬入及び施設の運営状況
・県外最終処分に向けた取組の進捗状況　ほか

（２）中間貯蔵施設事業において発生した事故事例と対応等について

（３）福島県等が実施した令和８年度中間貯蔵施設における状況確認等の結果について
（途中経過）

（４）その他

３．閉会

配布資料一覧

中間貯蔵施設環境安全委員会　委員名簿
中間貯蔵施設環境安全委員会（第 30 回）座席表
中間貯蔵施設環境安全委員会　出席者名簿

資料１　中間貯蔵施設事業の状況等について

資料１別添　モニタリング等の状況の詳細について

資料２　中間貯蔵施設事業において発生した事故事例と対応等について（2026 年３月環境安全委員会報告以降）

資料３　令和８年度中間貯蔵施設における福島県の取組について（中間報告）

資料３別添　令和８年度中間貯蔵施設事業に係るモニタリング結果

福島、
その先の環境へ。

資料1

中間貯蔵施設事業の状況等について

2026年10月

環境省

事業の方針

令和8年度の中間貯蔵施設事業の方針

総　論

〇安全を第一に、地域の理解を得ながら、住民の帰還や生活に支障を及ぼさないよう、事業を実施する。

輸　送

〇特定帰還居住区域等で発生した除去土壌等の搬入を進める。また、仮置場を介さない輸送も実施する。

〇安全で円滑な輸送のため、以下の対策を実施する。

・運転者研修等の交通安全対策や必要な道路補修等を実施し、安全な輸送を確保

・円滑な輸送のため、輸送出発時間の調整など、特定の時期・時間帯への車両の集中防止・平準化

〇福島県と連携し、市町村と調整の上、立地町である大熊町・双葉町への配慮等をしつつ、計画的な輸送を実施する。

令和8年度の中間貯蔵施設事業の方針

用　地

〇着実な事業実施に向け、丁寧な説明を尽くしながら、施設整備の進捗状況、除去土壌等の発生状況に応じて、必要な用地取得を行う。

施　設

〇新たな受入・分別施設の設計・工事を進め、令和8年度中の稼働を目指す。これまでの知見や除染の進捗等を踏まえた更なる施設整備の検討を進める。なお、新たな施設を整備するまでの間は、搬入した除去土壌等は保管場において適切に保管する。

〇土壌貯蔵施設は、安全性を確保しつつ、適切な維持管理を徹底する。

〇仮設焼却施設及び仮設灰処理施設並びに廃棄物貯蔵施設は、安全に稼働しつつ有効に活用する。

〇各種施設等においては、防犯対策を含め、適切な管理を実施する。

令和8年度の中間貯蔵施設事業の方針

復興再生利用・県外最終処分

○福島県内で発生した除去土壌等については、中間貯蔵開始後30年以内（2045年3月まで）に、福島県外での最終処分を完了するため、復興再生利用・最終処分の基準、今後の進め方等に基づき、着実に取り組んでいく。

○再生利用の推進等に係る閣僚会議での議論を踏まえつつ、各府省庁と連携し、地元の御理解を得ながら、理解醸成の場としても活用しうる復興再生利用の案件創出、実用途における先行事例の創出に向けた検討を進める。

○最終処分場の構造・必要面積等の複数選択肢を踏まえ、最新技術や知見に関する情報を収集しつつ、県外最終処分の管理終了、中間貯蔵施設内での取り出し・運搬、減容技術等の効率化・低コスト化、減容技術の組合せ、減容化後の処分方法、県外最終処分場に関する立地の技術的事項、最終処分対象物の放射能濃度と社会的受容性、地域とのコミュニケーションや地域共生のあり方、候補地選定のプロセス等を検討する。

令和8年度の中間貯蔵施設事業の方針

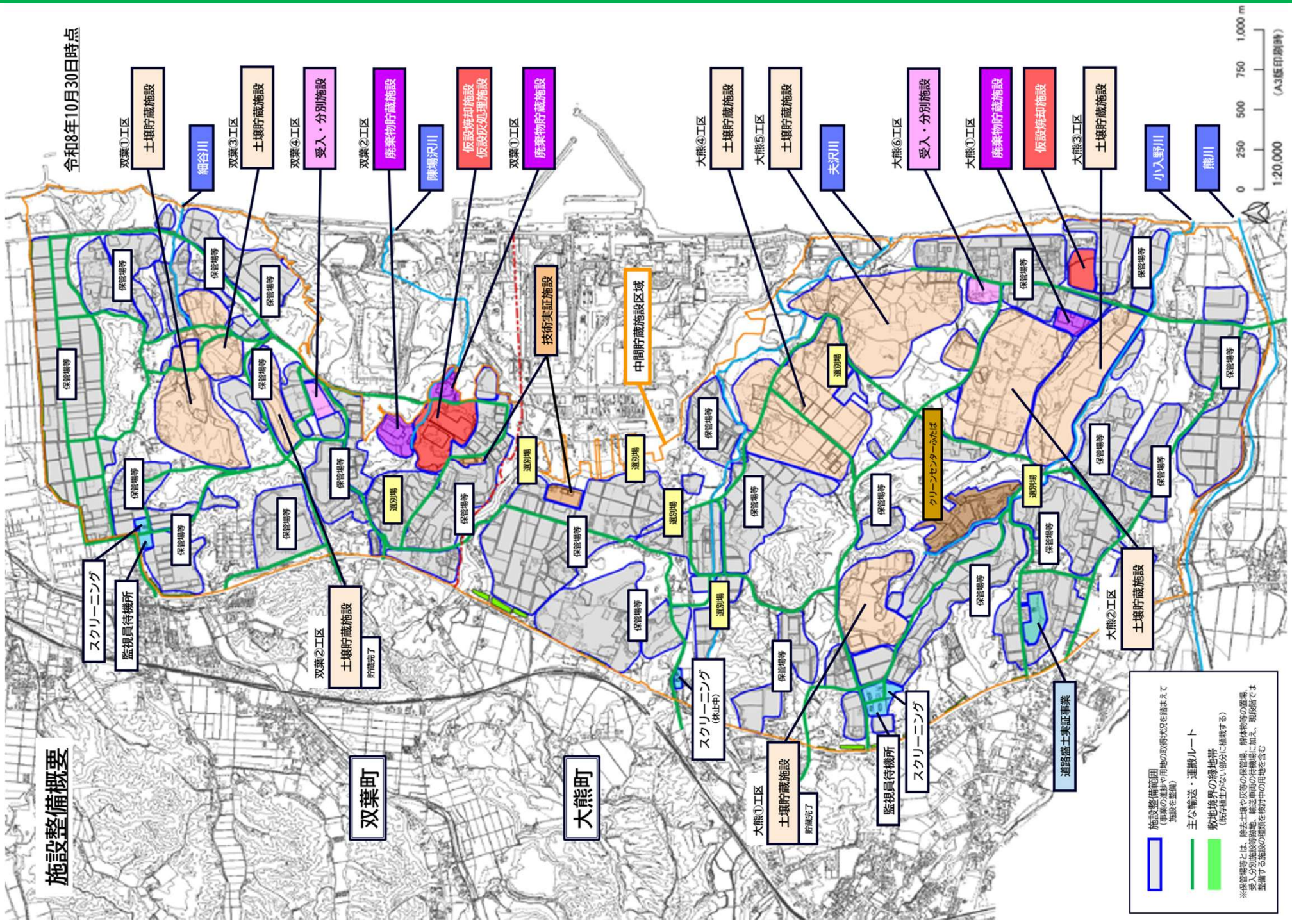
理解醸成・情報発信

○除去土壌等の県外最終処分の実現、復興再生利用の推進に向けて、その必要性・安全性等に対する全国民的な理解・信頼の醸成を進めること、特に、地元自治体、地域住民等による社会的受容性の段階的な拡大・深化を図ることを継続的に進める。

○中間貯蔵事業情報センターや復興再生利用の現場等を有効に活用しつつ、現場視察・見学会の充実や地方自治体・関係省庁等との連携を推進し、より多くの方に福島の復興・環境再生の取組や地元の思いなどを発信する。

施設整備概要

参考

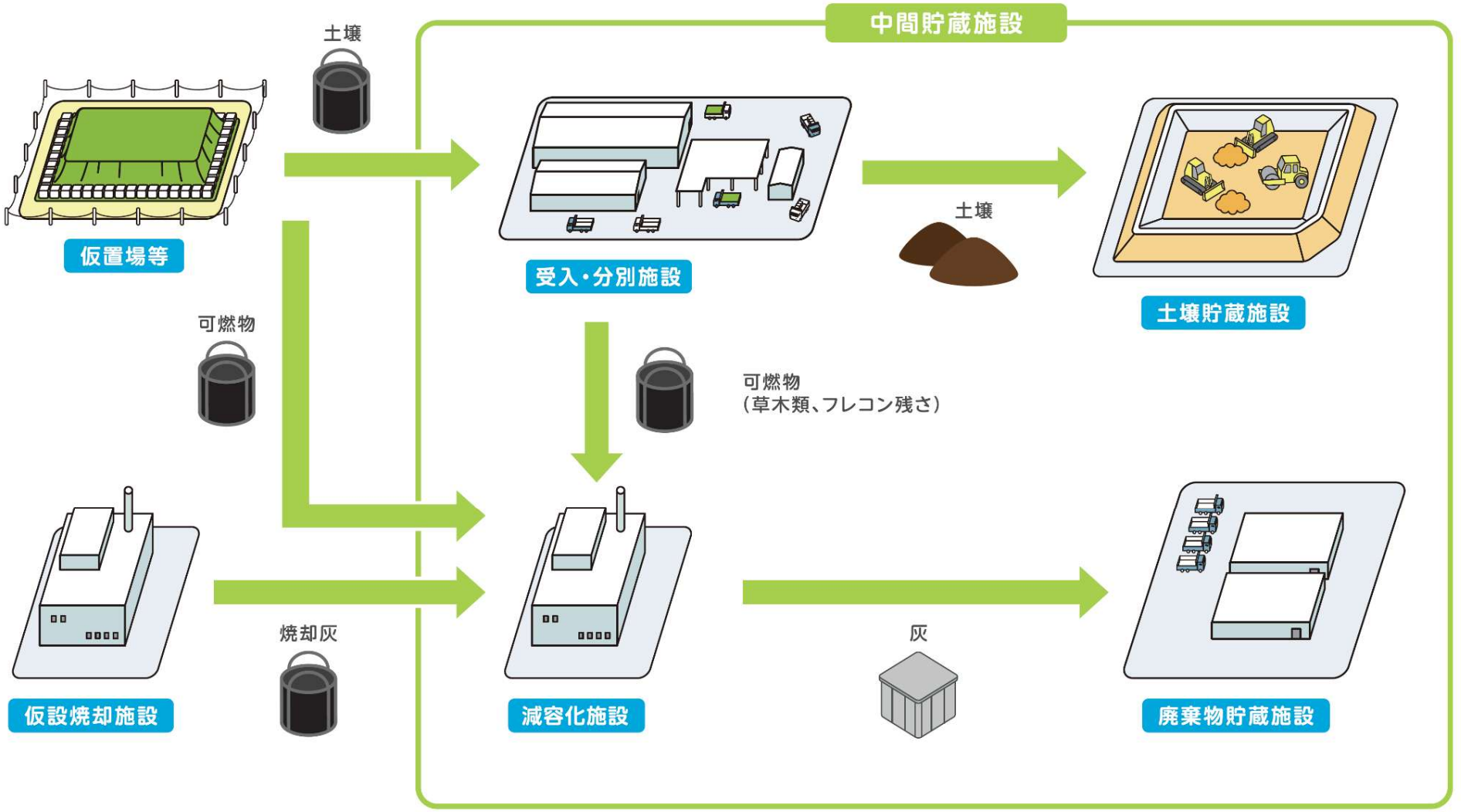

施設整備概要
令和8年10月30日時点
双葉町
大熊町
双葉①工区 土壌貯蔵施設
双葉③工区 土壌貯蔵施設
双葉④工区 受入・分別施設
双葉②工区 廃棄物貯蔵施設
双葉①工区 廃棄物貯蔵施設
仮設焼却施設
仮設灰処理施設
技術実証施設
中間貯蔵施設区域
大熊④工区 土壌貯蔵施設
大熊⑤工区 土壌貯蔵施設
大熊⑥工区 受入・分別施設
大熊①工区 廃棄物貯蔵施設
仮設焼却施設
大熊③工区 土壌貯蔵施設
細谷川
陳場沢川
夫沢川
小入野川
熊川
スクリーニング
監視員待機所
双葉②工区 土壌貯蔵施設
貯蔵完了
スクリーニング（休止中）
大熊①工区 土壌貯蔵施設
貯蔵完了
監視員待機所
スクリーニング
クリーンセンターふたば
大熊②工区 土壌貯蔵施設
道路盛土実証事業
保管場等
選別場
施設整備範囲
（事業の進捗や用地の取得状況を踏まえて施設を整備）
主な輸送・運搬ルート
緑地境界の緑地帯
（既存緑地がない箇所に植栽する）
※保管場等とは、除去土壌や災害の保管場、解体物等の置場、受入分別施設等敷地、輸送車両の待機場所、加え、将来的には整備する施設の建設を検討中の用地を含む
0 250 500 750 1,000 m
1:20,000
（A3版印刷時）

施設の整備

中間貯蔵施設事業の流れ

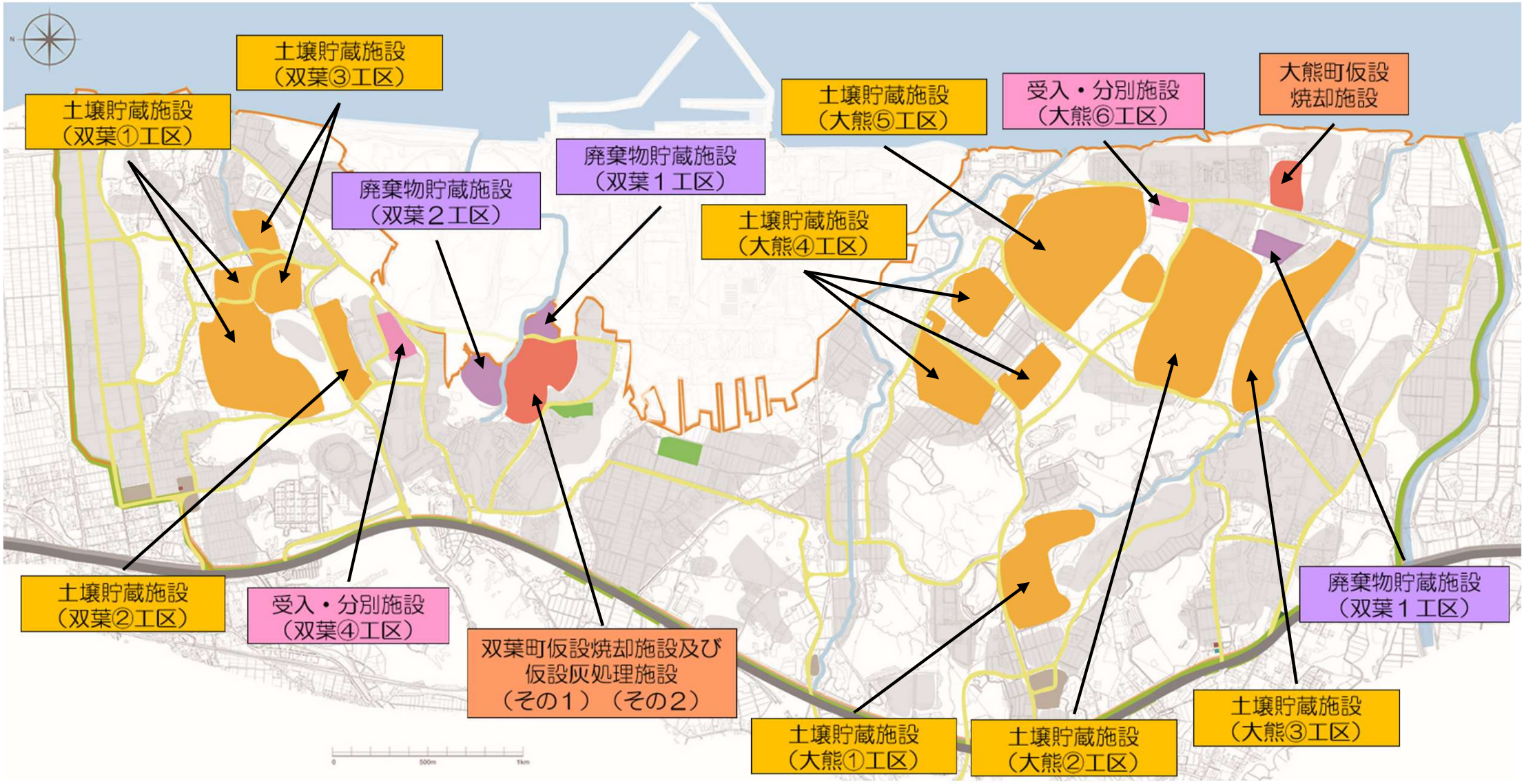
○　仮置場や仮設焼却施設から輸送した除去土壌等は、中間貯蔵施設で処理し、貯蔵する。

中間貯蔵施設事業の流れ



●主な物の流れを示しています。

主な施設の配置


土壌貯蔵施設
（双葉③工区）
土壌貯蔵施設
（双葉①工区）
廃棄物貯蔵施設
（双葉２工区）
廃棄物貯蔵施設
（双葉１工区）
土壌貯蔵施設
（大熊⑤工区）
受入・分別施設
（大熊⑥工区）
大熊町仮設
焼却施設
土壌貯蔵施設
（大熊④工区）
土壌貯蔵施設
（双葉②工区）
受入・分別施設
（双葉④工区）
双葉町仮設焼却施設及び
仮設灰処理施設
（その１）（その２）
土壌貯蔵施設
（大熊①工区）
土壌貯蔵施設
（大熊②工区）
土壌貯蔵施設
（大熊③工区）
廃棄物貯蔵施設
（双葉１工区）
土壌貯蔵施設
仮設焼却施設
スクリーニング施設
保管場等
受入・分別施設
廃棄物貯蔵施設
技術実証施設

土壌貯蔵施設の概要

工区	大熊①工区	大熊②工区	大熊③工区	大熊④工区	大熊⑤工区	双葉①工区	双葉②工区	双葉③工区
貯蔵容量※1	約103万㎥	約297万㎥※2	約167万㎥※2,3	約180万㎥	約269万㎥※2,3	約105万㎥※2,3	約85万㎥	約77万㎥※2,3
貯蔵量※1	約103万㎥	約289万㎥	約167万㎥	約171万㎥	約221万㎥	約102万㎥	約85万㎥	約63万㎥
土壌貯蔵施設スケジュール	2018年7月 貯蔵開始 2023年1月 貯蔵完了	2017年10月 貯蔵開始 (暫定キャッピング中)	2018年10月 貯蔵開始 (暫定キャッピング中)	2020年3月 貯蔵開始 (暫定キャッピング中)	2019年4月 貯蔵開始 (暫定キャッピング中)	2017年12月 貯蔵開始 (暫定キャッピング中)	2019年5月 貯蔵開始 2022年9月 貯蔵完了	2019年12月 貯蔵開始 (暫定キャッピング中)

※1　貯蔵容量及び貯蔵量は、仮置場等からの輸送量ベース（1袋＝1㎥で換算）であり締め固め前。
※2　今後、必要に応じ堰堤を造成し、容量を増やす予定の工区。
※3　※2のうち現行工事において堰堤の造成を行う工区。

土壌貯蔵施設等（大熊工区）の状況

大熊①工区



大熊②工区



大熊③工区



大熊④工区



土壌貯蔵施設等（大熊工区・双葉工区）の状況

大熊⑤工区



双葉①工区



双葉②工区

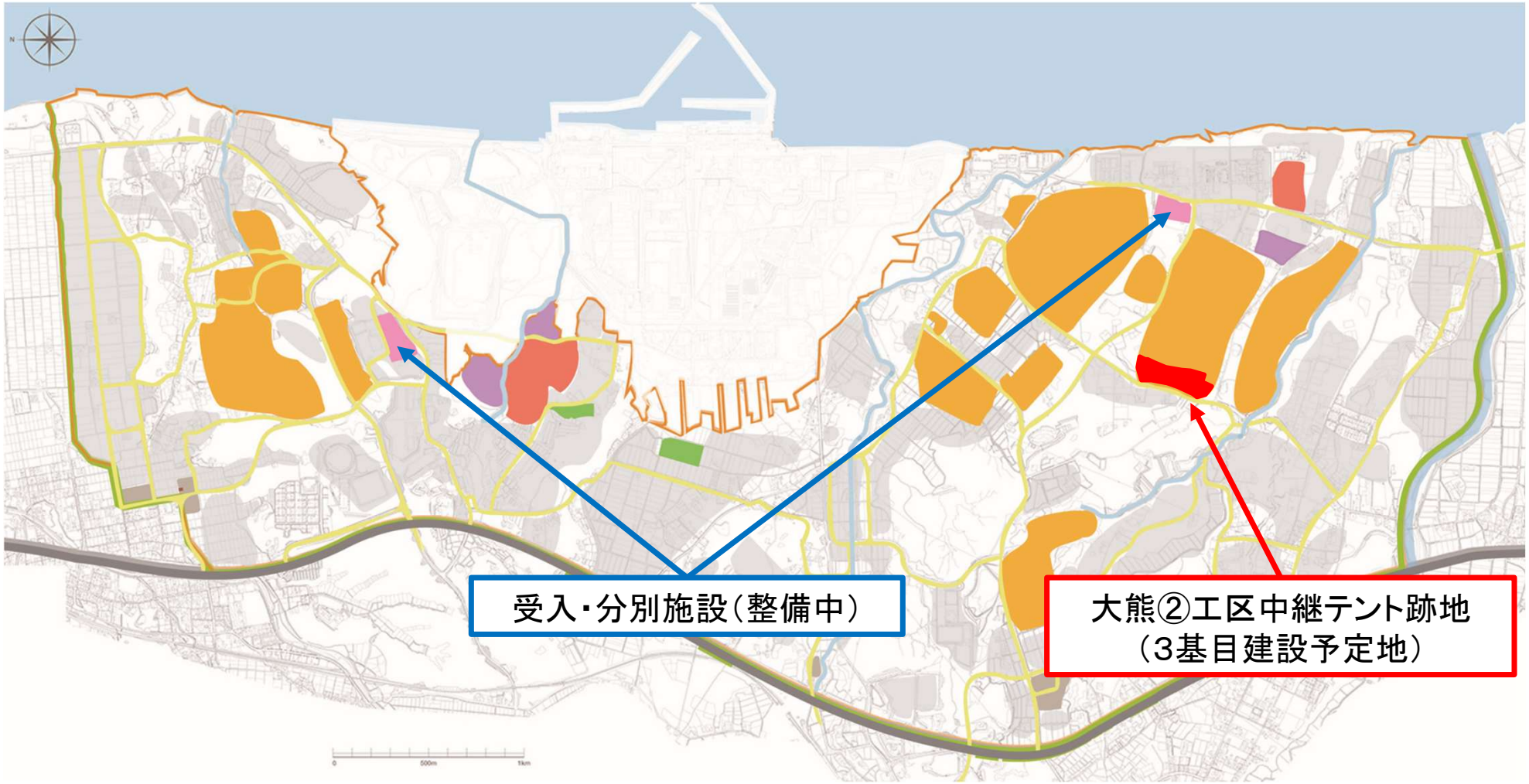


双葉③工区



今後の受入・分別施設の設置について

- 現在整備中の受入・分別施設（大熊町、双葉町各1基）については、令和8年度内の稼働開始に向けて整備を進めている。
- 加えて、特定帰還居住区域等の除染範囲の拡大に対応しつつ、復興再生利用・県外最終処分に向けた取組を加速化するため、3基目の受入・分別施設を整備し、令和10年度中に稼働開始を目指している。
- 予定地については、立地条件等を考慮して、「大熊②工区中継テント跡地」に建設することとしたい。

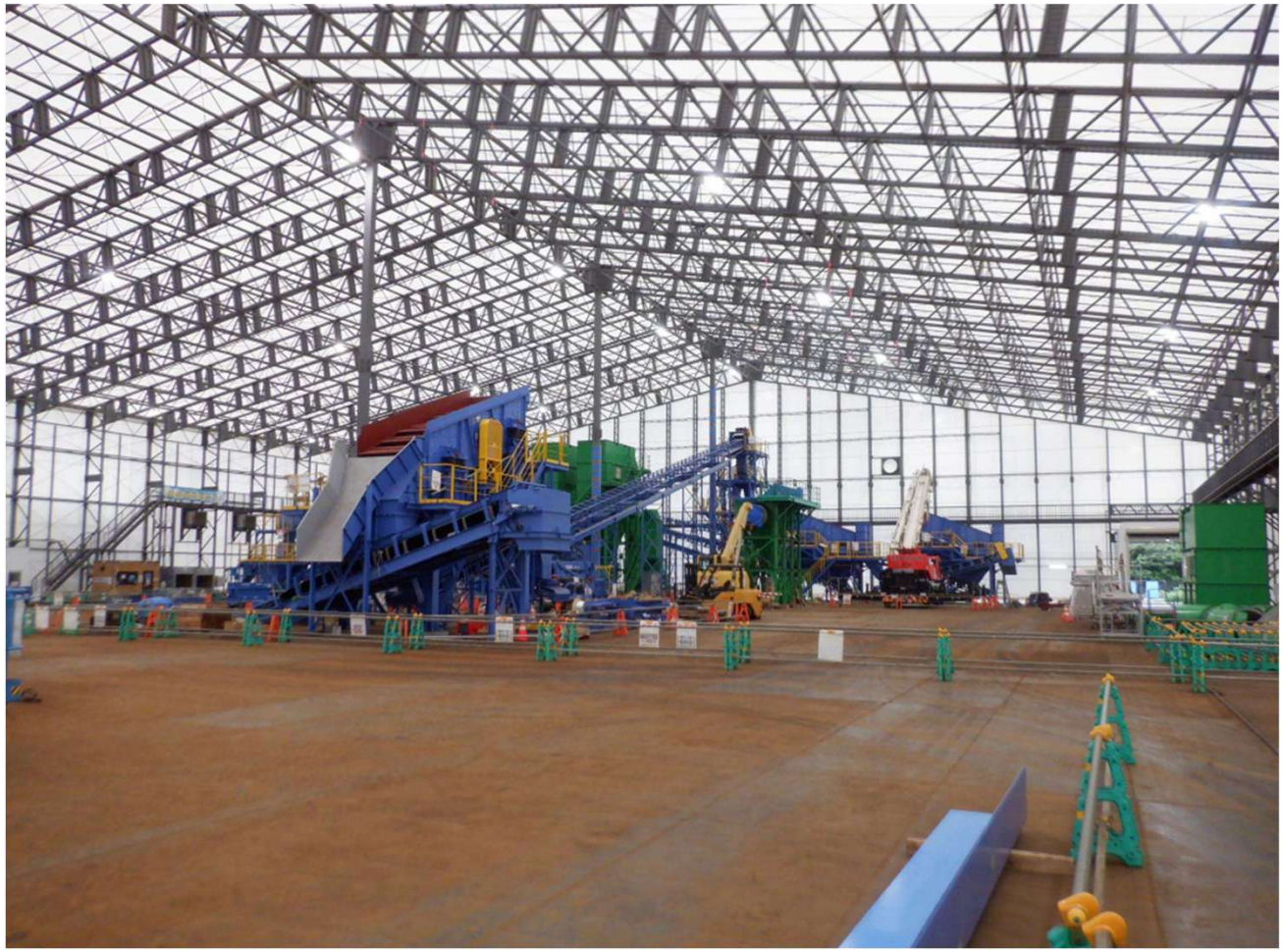


新受入・分別施設及び土壌貯蔵施設工事の概要

工事件名	令和7～10年度中間貯蔵大熊地区 受入分別処理・貯蔵工事			令和7～10年度中間貯蔵双葉地区 受入分別処理・貯蔵工事	
土壌貯蔵工区	大熊4工区	大熊5工区	双葉3工区	大熊3工区	双葉1工区
概要	既設テントを活用した受入・分別施設および土壌貯蔵施設を整備するとともに、整備後は土壌の受入・分別処理、土壌貯蔵施設への埋立てを行う。			受入・分別施設および土壌貯蔵施設を整備するとともに、整備後は土壌の受入・分別処理、土壌貯蔵施設への埋立てを行う。	
受入・分別 要求処理能力	100袋/時以上			100袋/時以上	
受注者	清水JV			大林JV	
工期 ※継続工事あり	令和7年9月～令和11年3月			令和7年9月～令和11年3月	

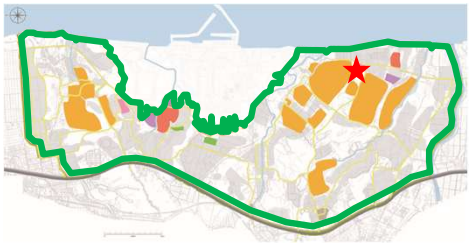
新受入・分別施設（大熊⑥工区）の状況

- 2026年4月に受入・分別施設の建設工事に着手。
- 2027年1月に受入・分別施設の試運転。3月に本格稼働予定。



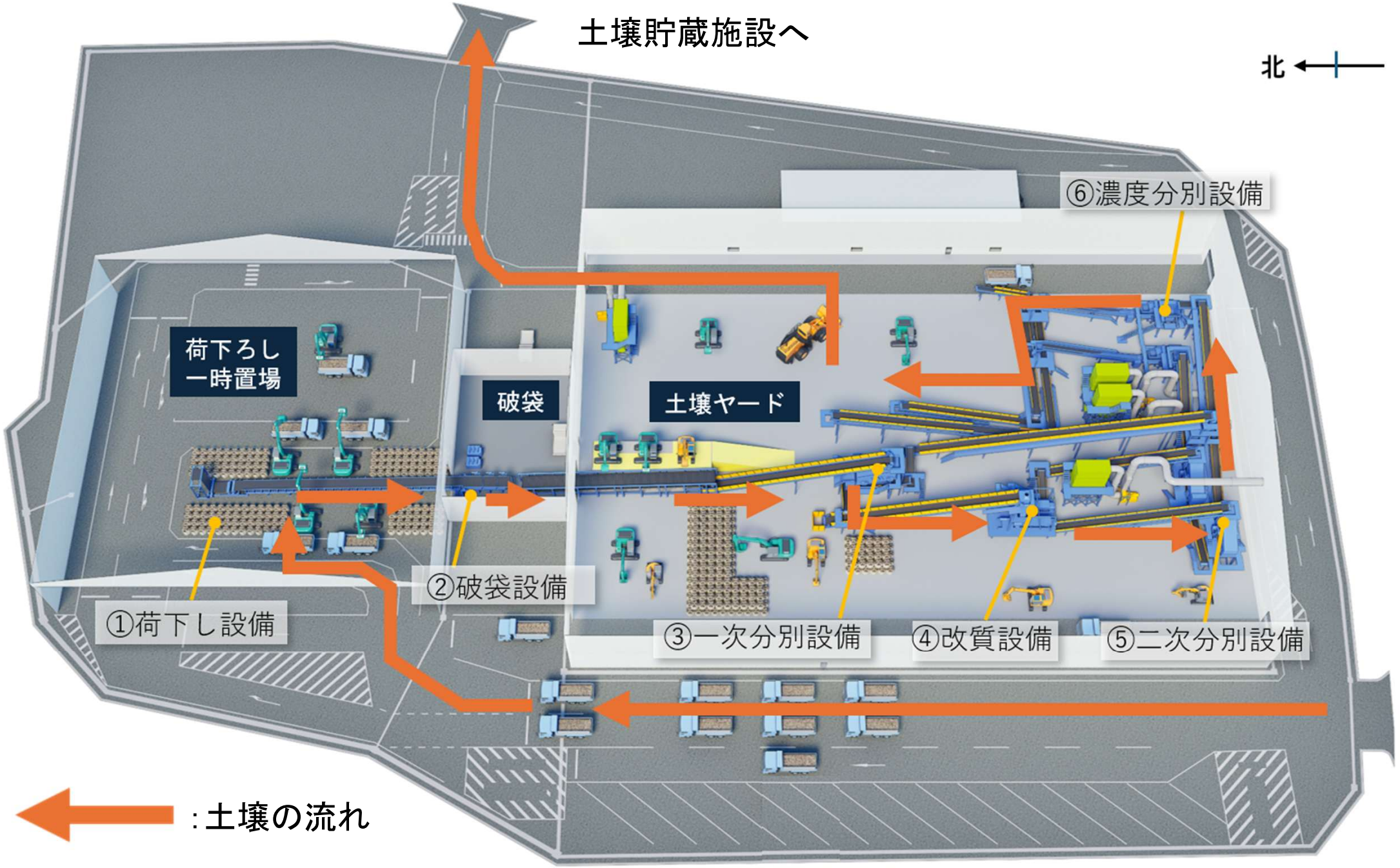
受入・分別施設

施設の位置



★：受入・分別施設

（参考）新受入・分別施設（大熊⑥工区）における処理の流れ



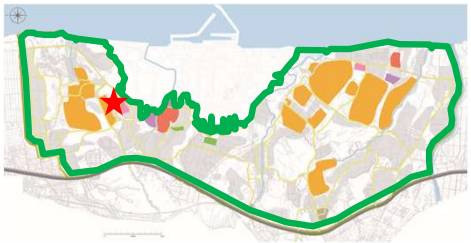
新受入・分別施設（双葉④工区）の状況

- 2026年５月に受入・分別施設の建設工事に着手。
- 2027年３月に受入・分別施設の試運転、５月に本格稼働予定。



受入・分別施設

施設の位置



★：受入・分別施設

（参考）新受入・分別施設（双葉④工区）における処理の流れ

荷台シート剥がし
タグ読み込み

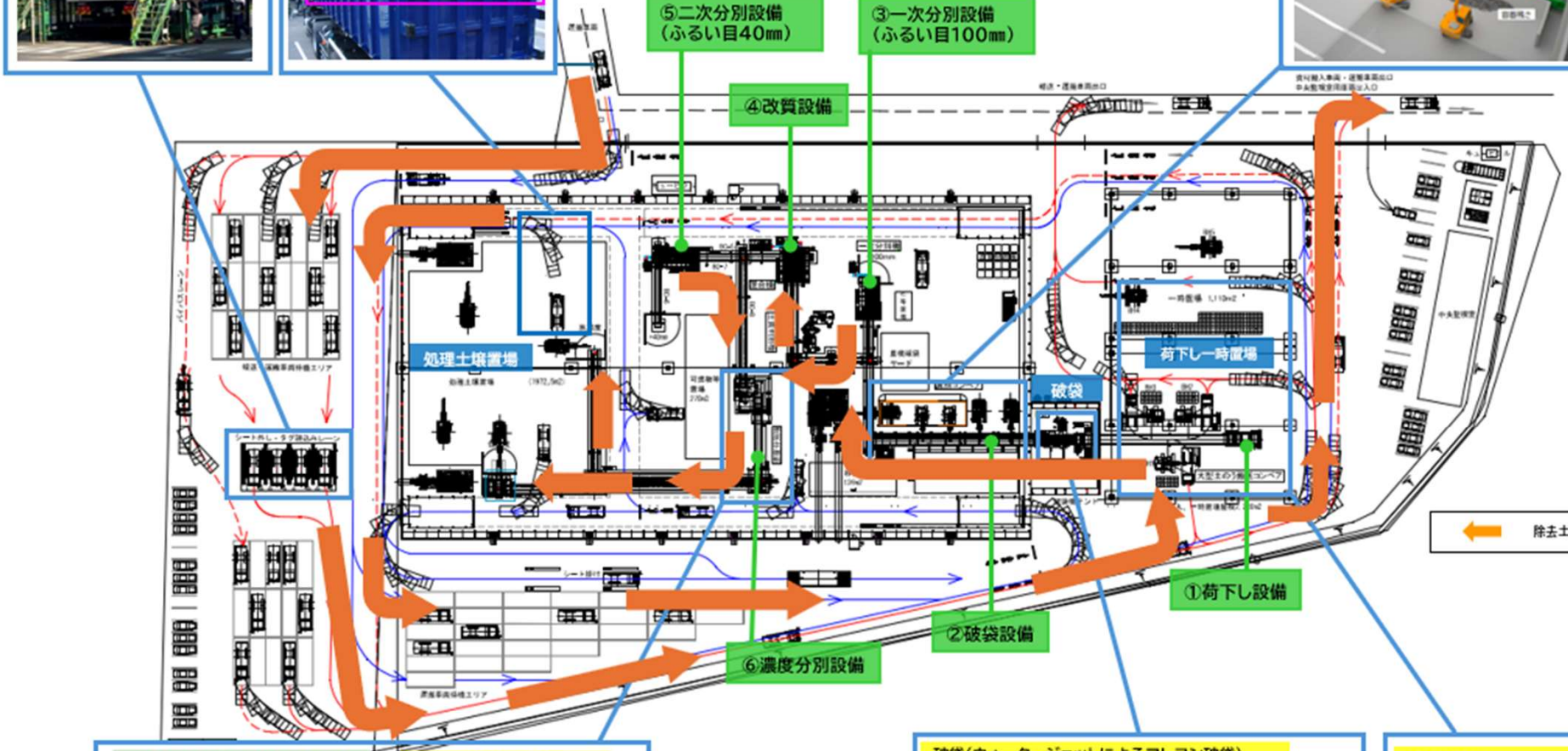


自動天蓋ダンプによる
除去土壌運搬
（荷台天蓋イメージ）

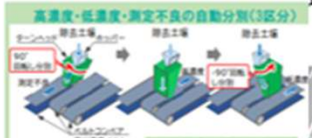


容器残渣の選別（重機による容器残渣除去）

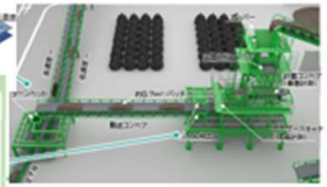




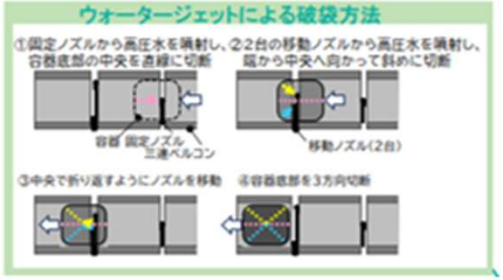
高濃度・低濃度・測定不良の自動分別（3区分）



高濃度・低濃度の分別
（NaI検出器）



破袋（ウォータージェットによるフレコン破袋）



受入・荷下し
（重機による除去土壌荷下し）



新受入・分別施設の主な安全対策

【巻き込まれ防止】

- 破袋設備や改質設備の回転部周辺にAI監視カメラを設置
  併せてインターロックを採用
- 危険エリア内は柵で囲んだうえ、入場管理システムを導入
- 機器各所に非常停止スイッチ・非常引綱スイッチを設置

【転落・墜落防止】

- 土壌運搬の際、人力でのシート掛けが不要となる自動ダンプを採用
- フレコンの段積みする際には、足元にネットを設置することで吊り紐へのつまずきを防止（大熊⑥工区で採用）
- フレコンの荷下ろし・段積をする際には、玉掛者を不要とする専用吊具付バックホウを採用（双葉④工区で採用）

中間貯蔵容器残さ分別処理工事

●破袋した容器残さに付着する土石等を土・石・フレコン片に分別処理する工事

【 処理工程 】

①**運搬**　保管場から容器残さフレコンを運搬する

分別処理

②**仮置き**　建屋内へ搬入・仮置きする
③**開封**　フレコンを開封し、中に入った容器残さを取り出す
④**乾燥**　容器残さを乾燥室で乾燥させる
⑤**分別処理**　乾燥した容器残さを、1次ふるい機と振動ふるい機により100mmで分別した後、2次ふるい機により40mm以下の土砂に分別する。回収した容器残さはフレコンに詰める
⑥**搬出**　容器残さおよび分別した土砂を保管場等に搬出する

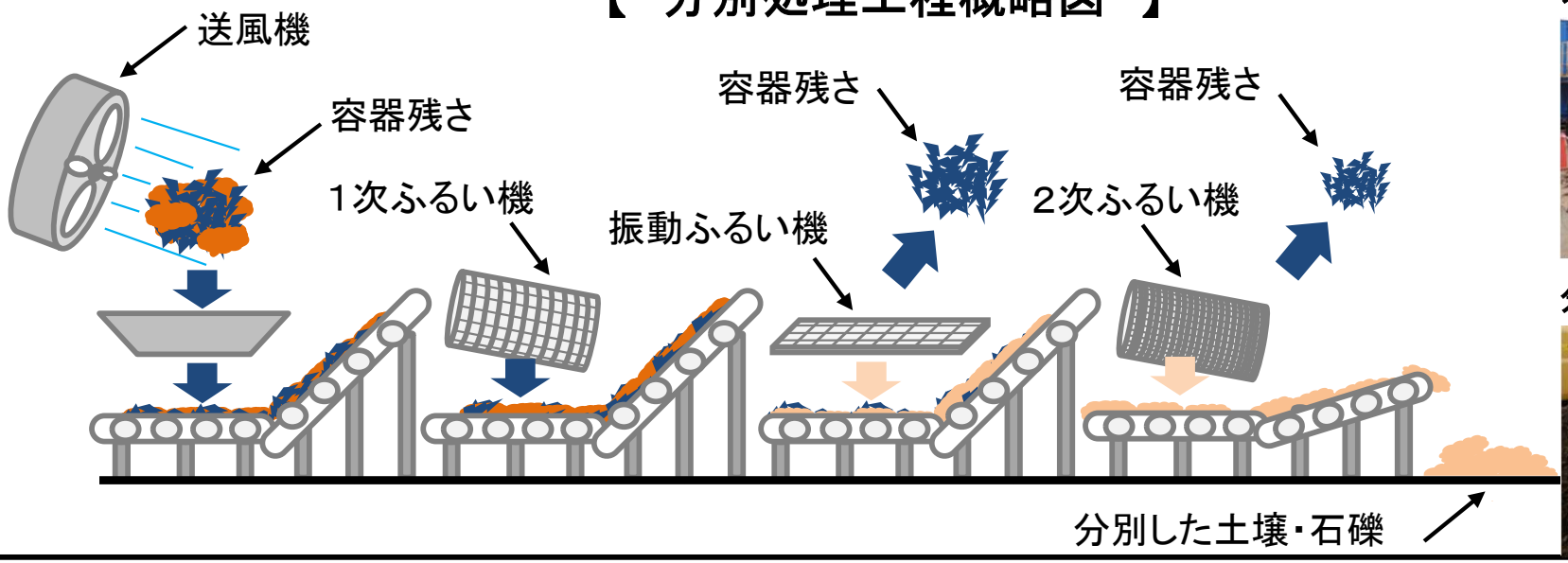
⑦**保管場等定置**　分別処理した容器残さフレコンを置場へ定置する

施設内全景



処理期間（R7年8月からR8年2月）で合計2,901t処理済

【 分別処理工程概略図 】



分別処理前



分別処理後



仮設焼却施設及び仮設灰処理施設の概要

工区	大熊町	双葉町（その1）	双葉町（その2）
規模	・仮設焼却施設： 200t／日 × 1炉 （ストーカ炉）	・仮設焼却施設： 150t／日 × 1炉 （シャフト炉） ・仮設灰処理施設： 75t／日 × 2炉 （表面溶融炉）	・仮設焼却施設： 200t／日 × 1炉 （ストーカ炉） ・仮設灰処理施設： 75t／日 × 2炉 （コークスベッド式灰溶融炉）
業務用地面積	約5.0ha	約5.7ha	約6.8ha
処理開始	2018年2月	2020年3月	2020年3月 ※2026年度末で運営終了予定
処理対象物	・大熊町で発生した除染廃棄物、災害廃棄物等 ・中間貯蔵施設内で発生した廃棄物及び搬入した除染廃棄物	・双葉町で発生した除染廃棄物、災害廃棄物等 ・中間貯蔵施設内で発生した廃棄物及び搬入した除染廃棄物 ・中間貯蔵施設内で発生する焼却残さ及び中間貯蔵施設内に搬入した焼却残さ	同左
受注者	三菱・鹿島JV	新日鉄・クボタ・大林・TPTJV	JFE・前田JV

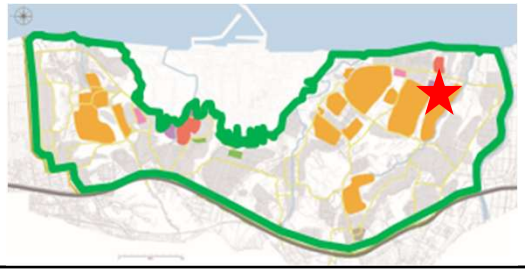
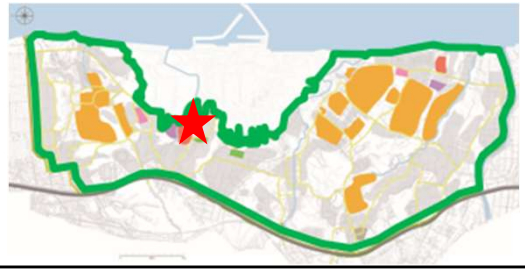
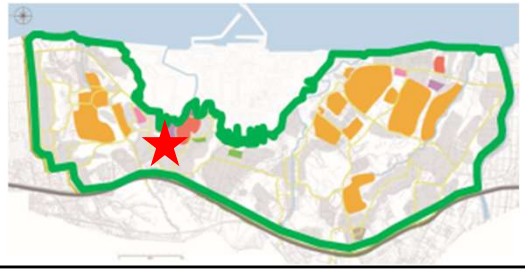
仮設焼却施設及び仮設灰処理施設の処理量等

工区	大熊町	双葉町（その1）	双葉町（その2）
処理量 （2026年3月 ~2026年9月末）	可燃物：392,504トン （+19,319トン）	可燃物　：250,597トン （+18,504トン） 焼却残渣：195,862トン （+16,636トン）	可燃物：185,169トン （+15,893トン） 焼却残渣：166,214トン （+18,332トン）
焼却灰等の放射性物質濃度	焼却灰：3,600～180,000Bq/kg ばいじん：3,900～290,000Bq/kg	ばいじん：12,000～660,000Bq/kg スラグ：9～6,700Bq/kg	ばいじん：1,600～360,000Bq/kg スラグ：22～7,200Bq/kg
外観			

廃棄物貯蔵施設の概要

【貯蔵対象物】

・主に双葉町仮設灰処理施設で発生したばいじん（鋼製角形容器に封入し、積み上げて貯蔵）

工区	大熊1工区	双葉1工区	双葉2工区
主な建築構造	鉄骨鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造（2棟）	鉄骨鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造（1棟）	鉄骨鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造（1棟）
貯蔵容量	29,280個	14,678個	30,028個
敷地面積	約2.4ha	約2.2ha	約3.7ha
施設の位置			
着工	2018年7月　造成開始 2018年12月　建築開始	2018年6月　造成開始 2018年11月　建築開始	2019年12月　造成開始 2019年12月　建築開始
貯蔵 スケジュール	2020年4月 貯蔵開始	2020年3月　貯蔵開始 2024年12月　貯蔵完了	2023年12月 貯蔵開始
施設整備受注者	鹿島建設	大林組	鹿島建設
定置・維持管理 受注者	双葉町減容化その1業務 新日鉄・クボタ・大林・TPT JV	JESCO	双葉町減容化その1業務 新日鉄・クボタ・大林・TPT JV

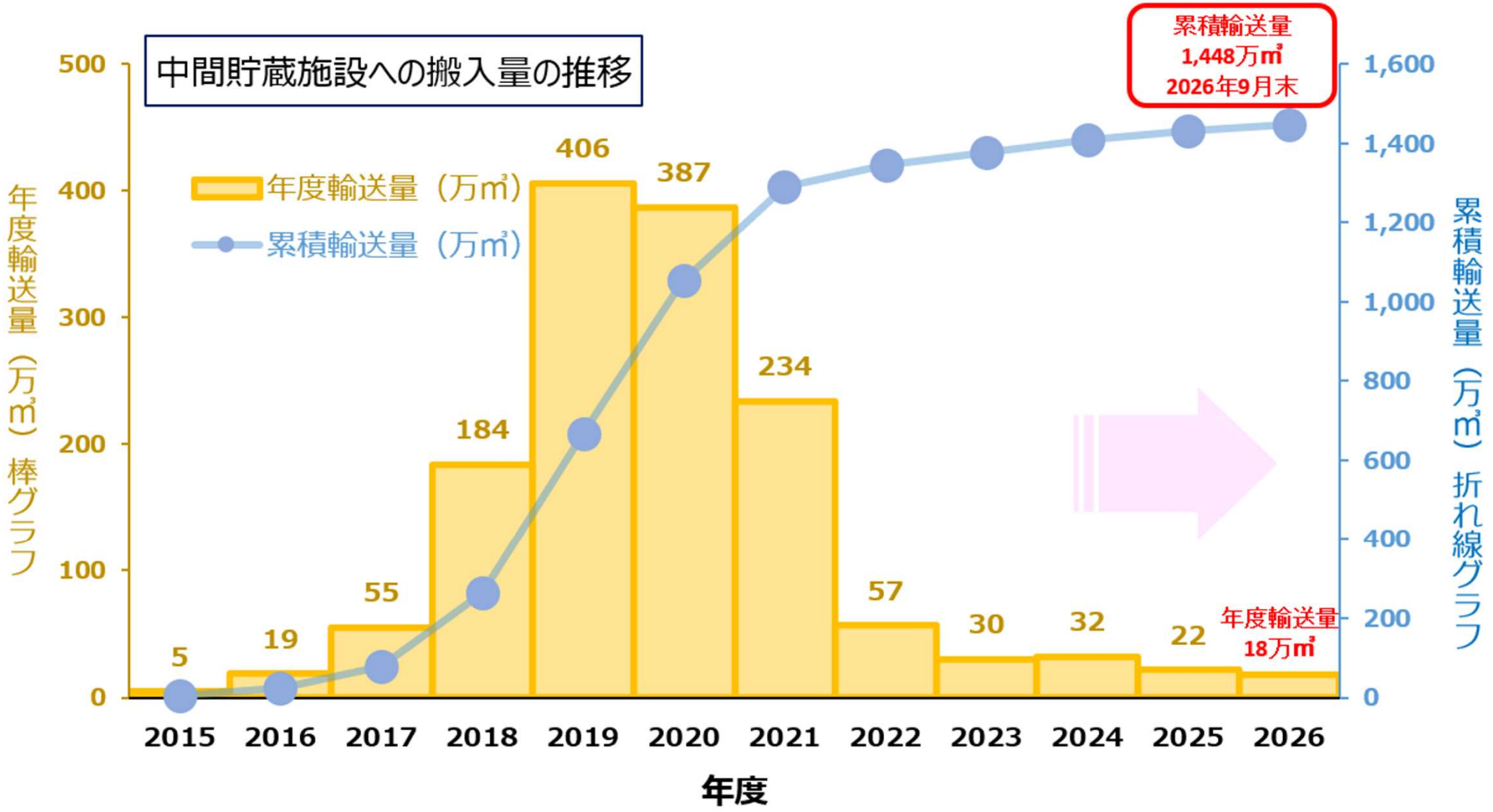
廃棄物貯蔵施設の貯蔵量等

工区	大熊1工区	双葉1工区	双葉2工区
貯蔵量 (2026年3月 ～2026年9月末)	鋼製角形容器：15,940個 （＋552個）	鋼製角形容器：14,678個 （＋0個：貯蔵完了）	鋼製角形容器：8,147個 （＋2,626個）
外観			
貯蔵状況			

輸送・道路交通対策

中間貯蔵施設に係る輸送の状況

○ 中間貯蔵施設への輸送にあたっては、<u>安全を第一に、地域の理解を得ながら</u>、輸送を実施する。
○ これまでに<u>約1,448万㎥の除去土壌等（帰還困難区域を含む）を中間貯蔵施設に輸送</u>した。
（2026年９月末時点）



（注）端数処理の関係により合計が一致しない場合がある。
（注）輸送量には除染現場からの仮置場を介さない輸送（直送）量を含む。

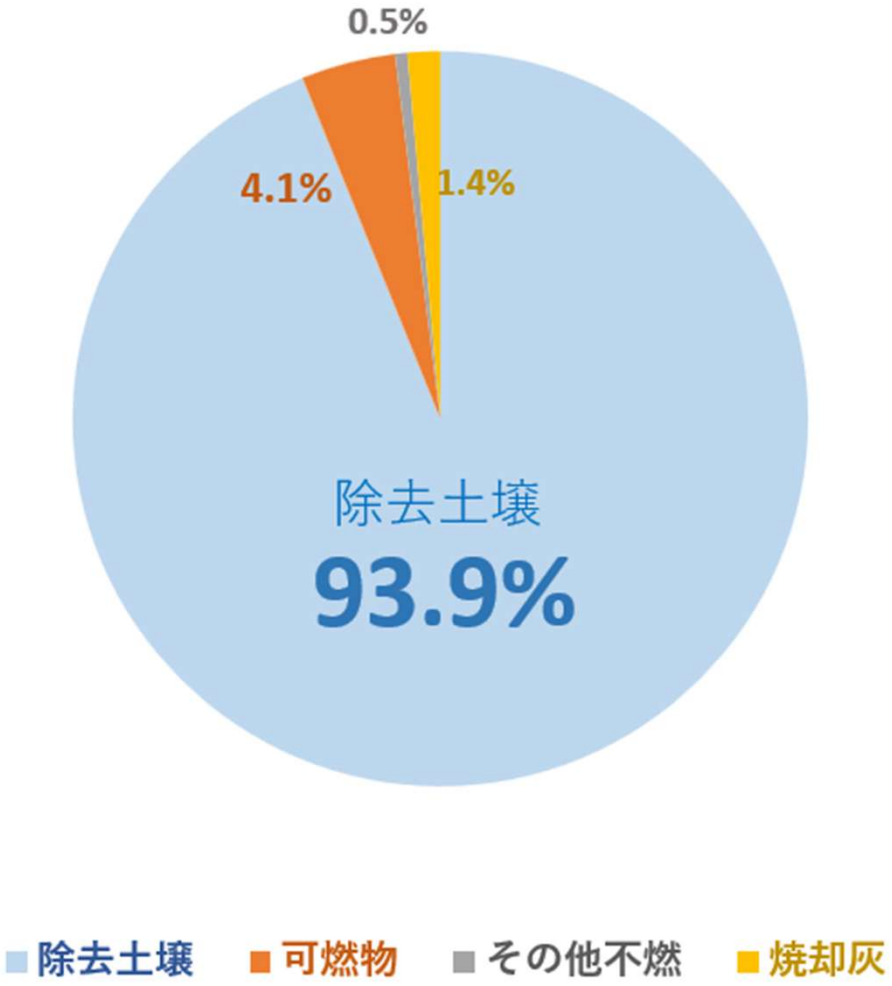
2026年度の中間貯蔵施設への搬入量

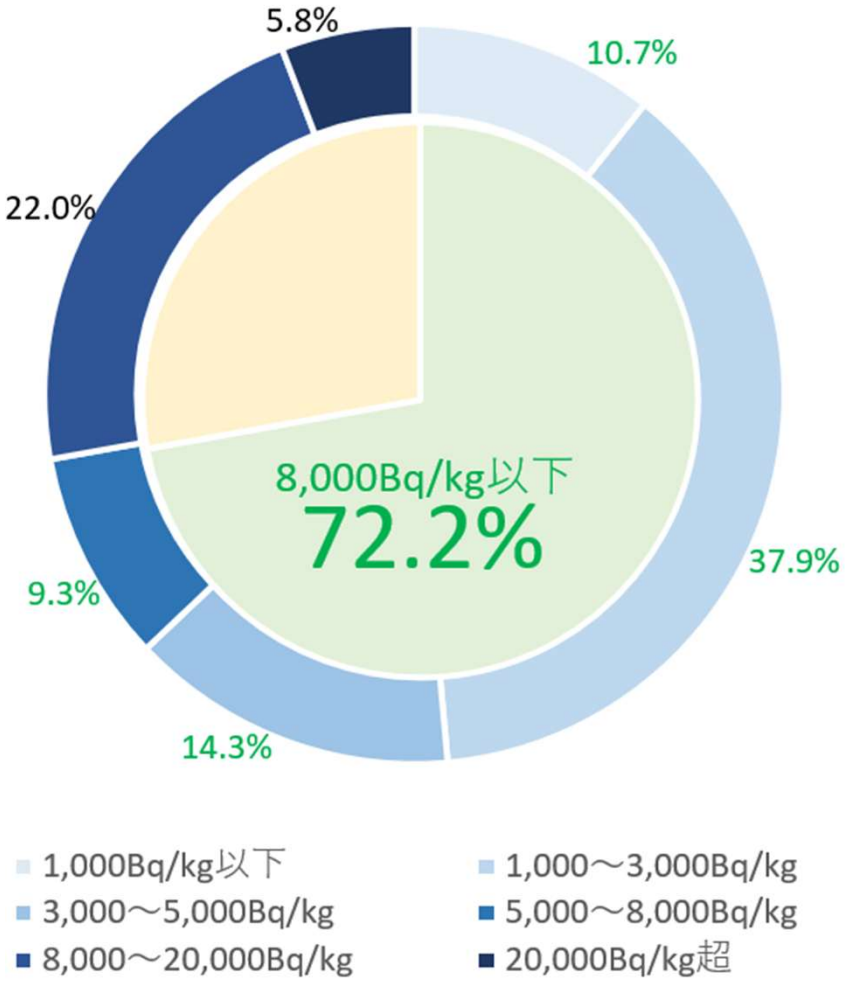
市町村名	2026年度 輸送予定量（㎥）	2026年度 輸送実績量（㎥） （2026年9月末時点）
南相馬市	3,000	0
富岡町	10,000	0
大熊町	182,000 （うち基幹輸送40,000、直送142,000）	104,941 （うち基幹輸送22,948、直送81,993）
双葉町	144,000 （うち基幹輸送14,000、直送130,000）	39,601 （うち基幹輸送0、直送39,601）
浪江町	89,000	39,204
飯舘村	20,000	0
合計	448,000 （うち基幹輸送176,000、直送272,000）	183,746 （うち基幹輸送62,152、直送121,594）

※　①実際の搬入量や輸送対象市町村は、下記の要因により変更の可能性がある。
・自然災害等が発生した場合。
・年度をまたぐ前倒し・繰越しを行う場合。
・輸送対象物の発生見込数量が変わる場合。
②特定復興再生拠点区域、特定帰還居住区域、その他において発生する除去土壌等を計上。
③除染実施者が仮置場を介さず直接中間貯蔵施設に除去土壌等を搬入（直送）する数量も計上。

中間貯蔵施設に輸送した除去土壌等の種類と濃度の分布

- 2026年９月末までに輸送した除去土壌等のうち、**土壌が93.9%**であり、可燃物は4.1%、焼却灰1.4%である。
- 除去土壌について、輸送時に仮置場等で測定した表面線量率及び重量によって換算した放射能濃度の分布を見ると、**8,000Bq/kg以下が約４分の３**を占めている。 ※1袋＝1㎥換算での体積での比率





（注）小数点以下は四捨五入している。そのため合計が一致しない場合がある。

輸送ルートと道路交通対策（大熊町）

至 常磐双葉IC

至 南相馬市

⑦国道288号の見通し改善及び局部改良
・工事完了

双葉町

⑩工事用道路の整備
県道252号線立体ルートの構築
・工事完了

⑧工事用道路の整備
大熊・双葉を連絡するルートの構築
・工事完了

①県道252号線
・災害復旧工事完了

④工事用道路（町道中央台線）の整備
・工事完了

町道東84号線

至 田村市

町道西20号線

大熊IC

⑤注意喚起の路面標示等

②予定地内の町道等
・舗装厚改良工事完了

JR大野駅

③予定地外の町道等
・舗装厚改良工事完了

⑨町道西20号線の車道幅員拡幅
大熊IC待機所設置
・工事完了

⑥工事用道路の整備
（一部町道中央台線含む）
・工事完了

大熊町

常磐自動車道

常磐富岡IC

富岡町

至 広野IC

至 いわき市

⑩工事用道路の整備（完了）：県道252号立体交差



⑥工事用道路の整備（完了）
国道6号橋梁（名称：中央台こ道橋）



④工事用道路の整備（完了）

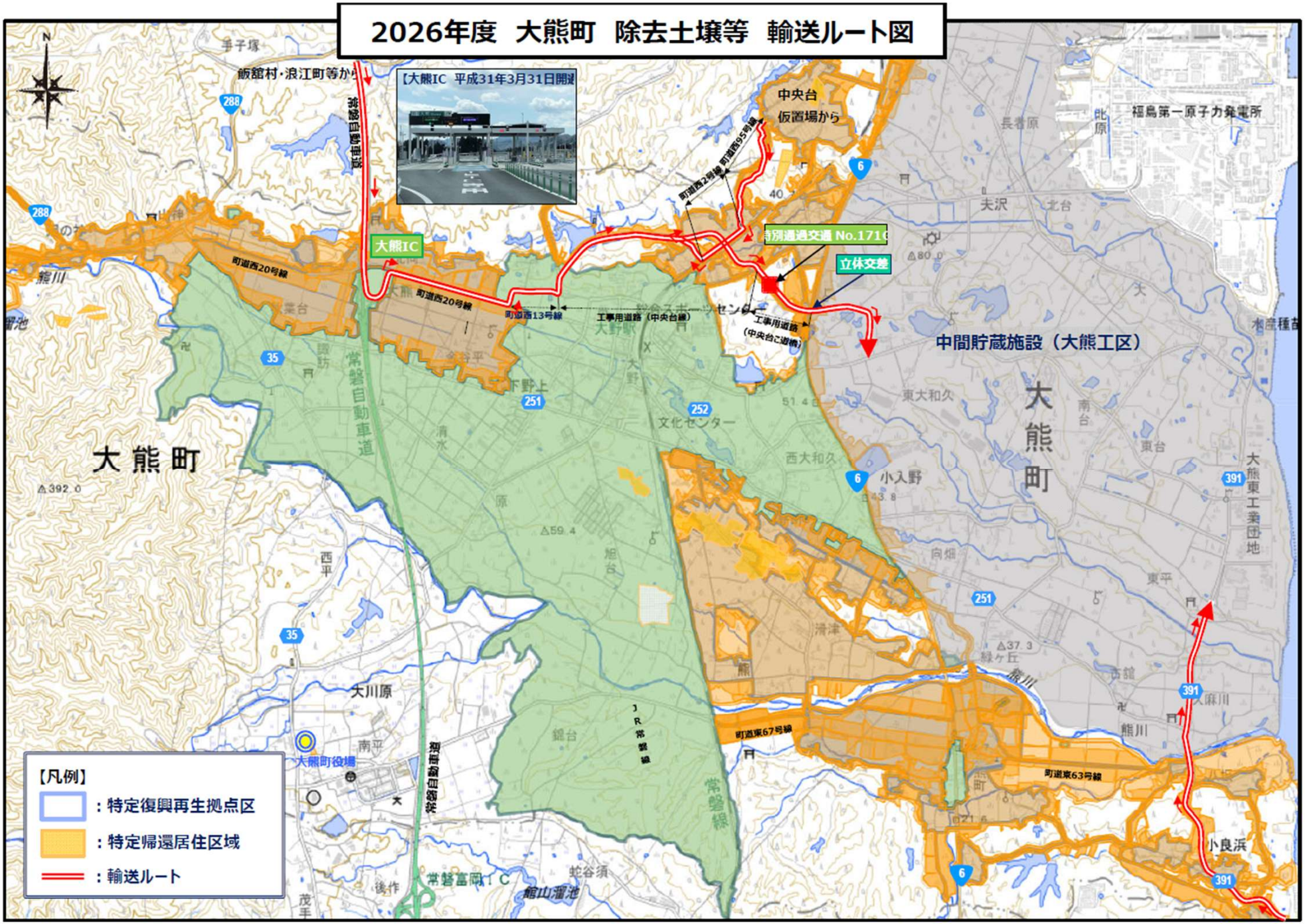


輸送ルートの凡例

：輸送ルート

：中間貯蔵施設

仮置場からの輸送ルート（大熊町）



輸送ルートと道路交通対策（双葉町）

至 浪江IC

至 南相馬市

浪江町

双葉町

大熊町

常磐双葉IC

大熊IC

常磐自動車道

JR常磐線

町道西20号線

⑥町道原田目迫線を工事用道路として整備
（一部舗装厚改良有り）
・工事完了

⑦道路管理者と連携した舗装厚改良
・工事完了

①町道高万迫取付1号線
・工事完了

⑪下条・北磯坂線の交差点改良
・工事完了

③予定地内の町道等
・舗装厚改良工事完了

⑩町道野竹内1号線、町道目迫水沢線、町道前田水沢線
・舗装厚改良工事完了

②町道山田郡山線を工事用道路として整備
・工事完了

⑧町道陳場沢・久保谷地線
・災害復旧箇所工事完了

⑤注意喚起の路面標示等

⑫陳場下交差点
・工事完了

④予定地外の国道等
・舗装厚改良工事完了

⑨町境バリケードの
変更と管理

⑬国道288号の対策
・道路補修工事完了

工事着手前



⑥町道原田目迫線 （完了）



工事着手前



②町道山田郡山線 富沢橋（完了）



至 常磐富岡IC

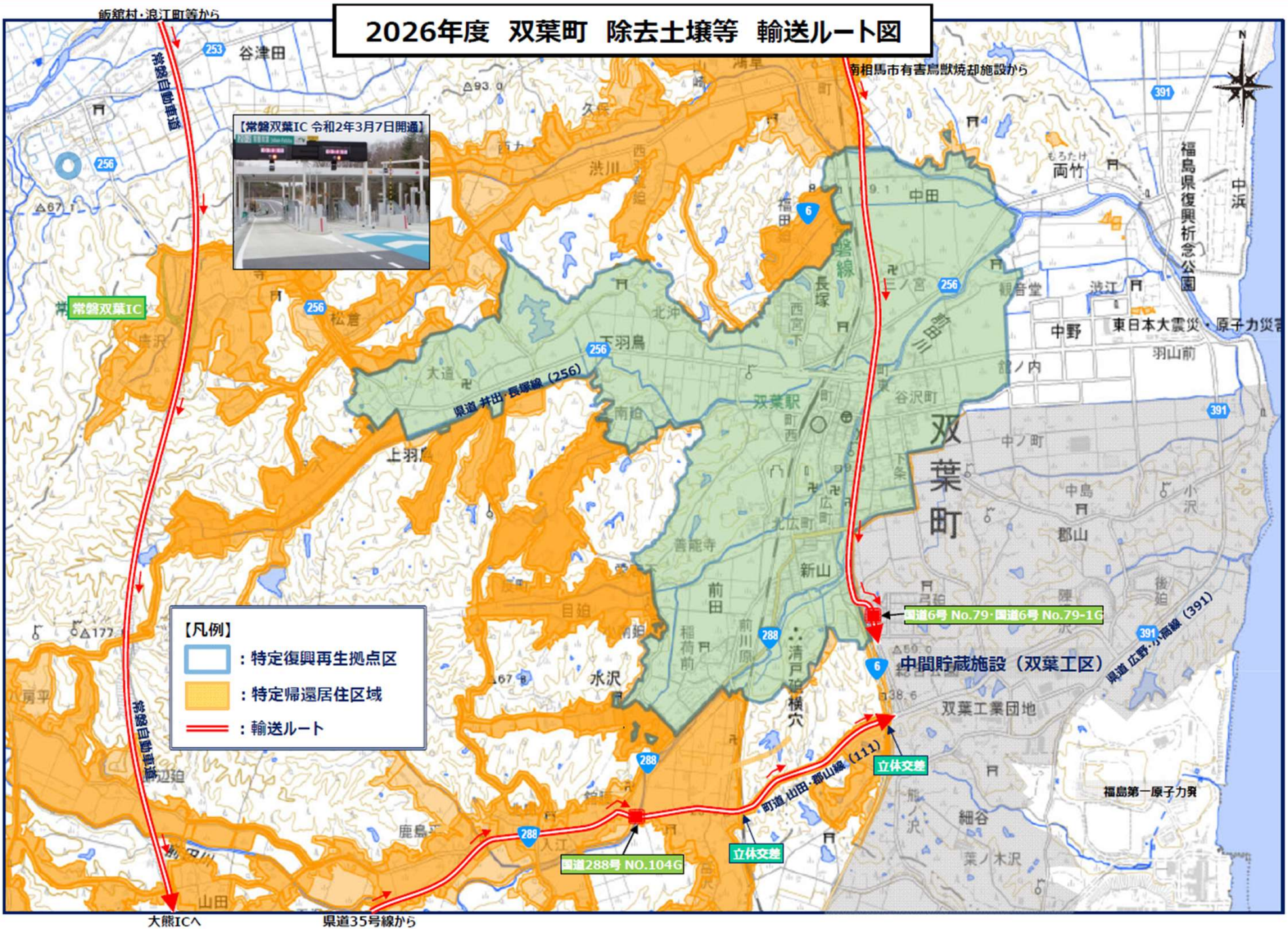
至 いわき市

輸送ルートの凡例

：輸送ルート

：中間貯蔵施設

仮置場からの輸送ルート（双葉町）



輸送ルート



※データ集計の条件
○速度データ（NEXCOトラカンデータ）
・輸送を実施していない日曜、祝日を控除。
また、通行止め等の時間帯を控除。
○一般車両（NEXCOトラカンデータ）
・輸送を実施していない日曜、祝日を控除。
また、通行止め等の時間帯を控除。
・1日当たりの平均輸送車両台数を控除。
○輸送車両（輸送課実走行データ）
・1日当たりの平均輸送車両台数。
また、通行止め等の時間帯を控除。

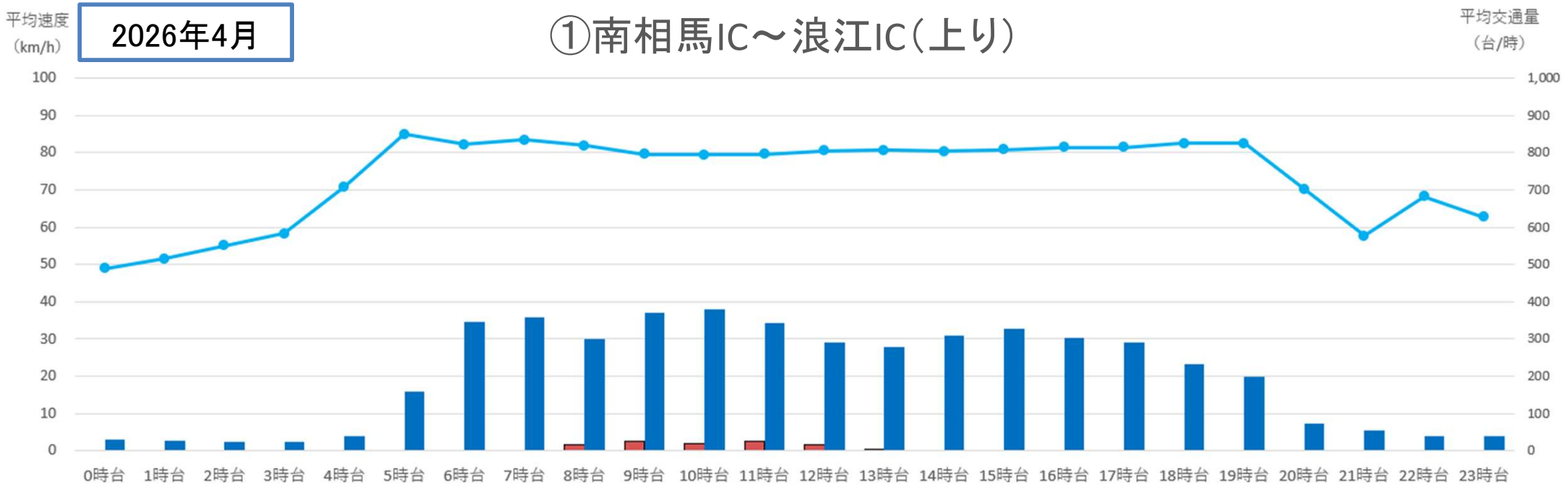
NEXCO東日本

○ ④広野IC～常磐富岡IC間及び⑤いわき四倉IC～広野IC間は、基本的に現在輸送車両は通行していない。
○ 引き続き、関係機関と連携の上、当該エリアを含む輸送ルートの交通状況を注視していく。

輸送ルート常磐道の交通状況　その1

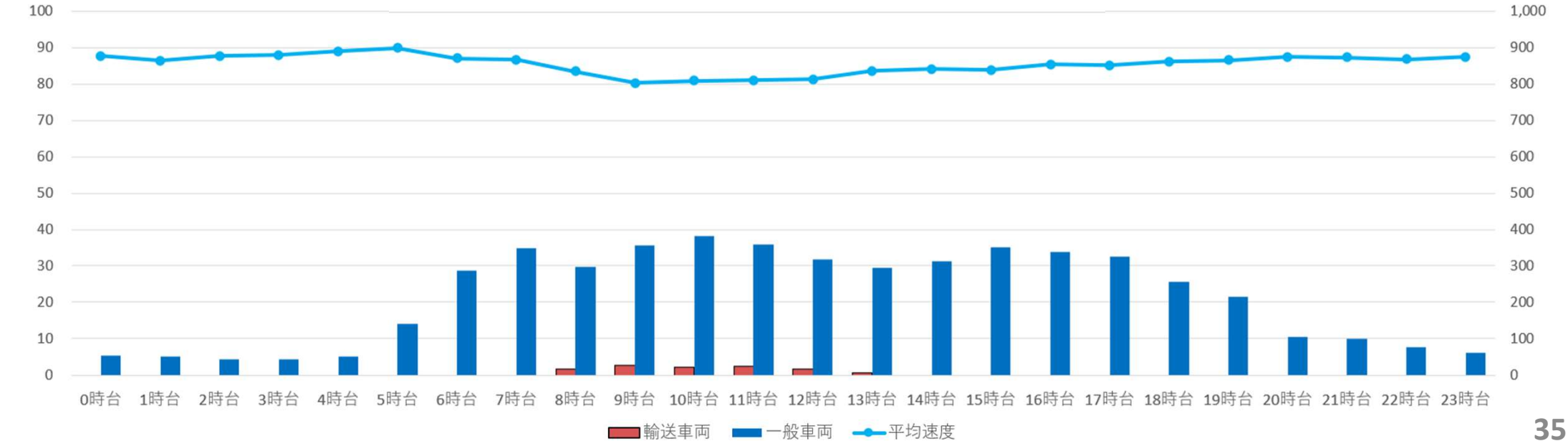
2026年4月

①南相馬IC～浪江IC（上り）



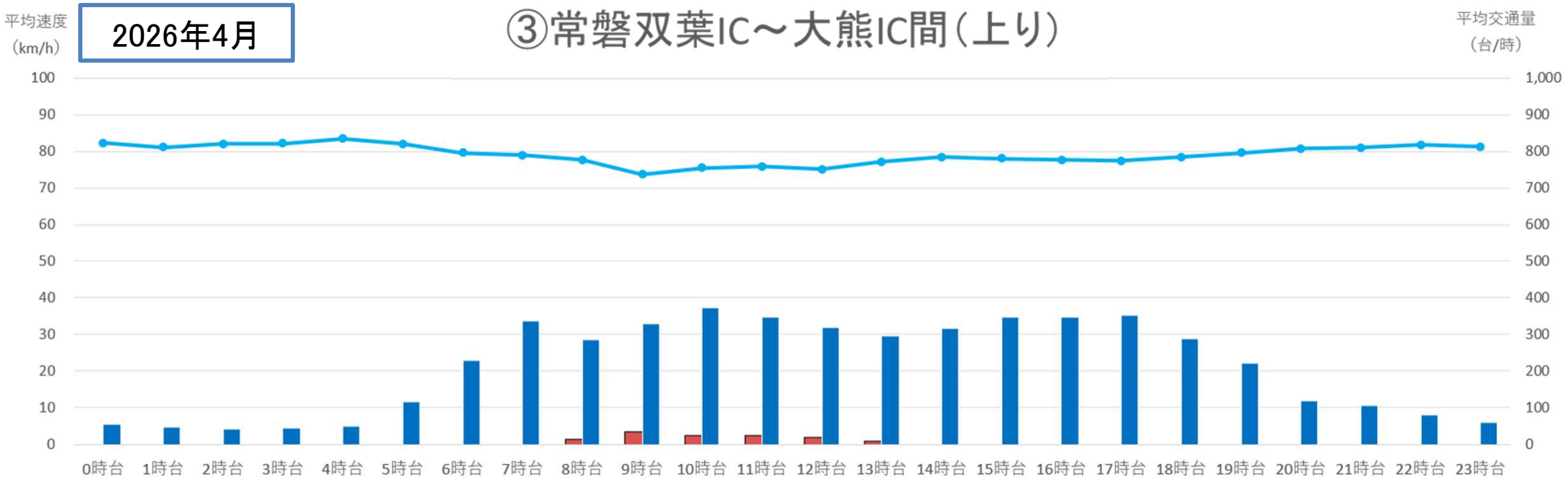
2026年4月

②浪江IC～常磐双葉IC間（上り）

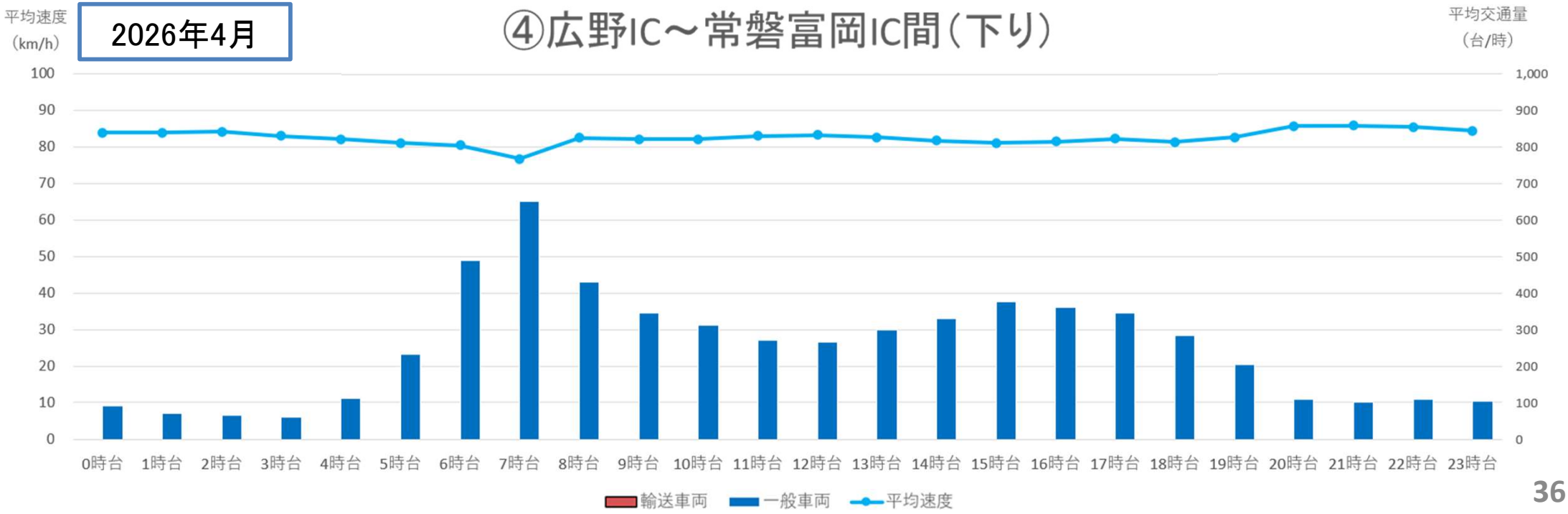


輸送ルート常磐道の交通状況　その2

2026年4月

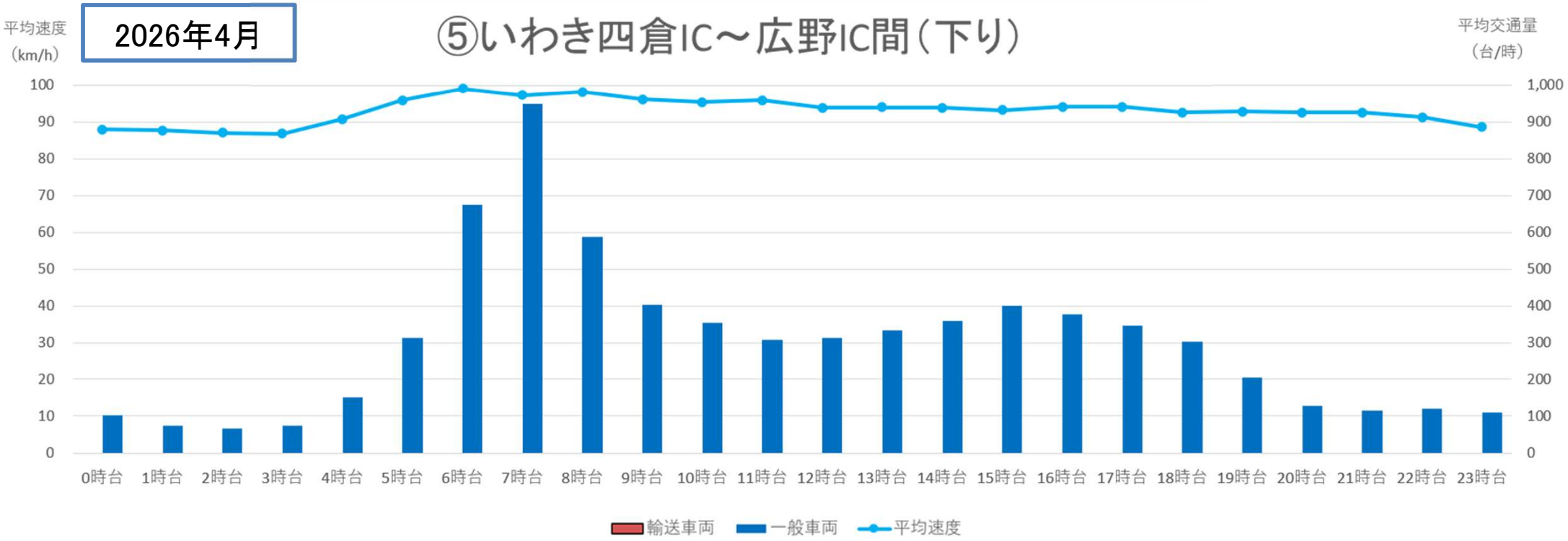


2026年4月



輸送ルート常磐道の交通状況　その3

2026年4月



モニタリング等

- 2026年3月1日から8月31日の中間貯蔵施設のモニタリングにおいては、大熊④工区土壌貯蔵施設の地下水年次測定（2026年4月20日）でダイオキシン類の基準超過が確認されたが、解析の結果、農薬由来と推定されている。
  また、双葉①工区西側土壌貯蔵施設の地下水年次測定（2026年4月13日及び15日）でカドミウムの基準超過が確認されたが、中間貯蔵施設事業の影響ではなく、地質等に起因する自然由来のものと推定されている。
  それ以外のモニタリングでは、基準超過等は確認されなかった。

- なお、森ノ内保管場（双葉町）aにおいて、2026年9月5日～11日の週次モニタリング結果は欠測。
  前後の測定データには異常がないことを確認。

モニタリング結果概要（土壌貯蔵施設　その1）

主な測定項目	対象施設	対象期間	概要	詳細
◆地下水（井戸）中の放射能濃度（Cs134.Cs137）	大熊①工区	2026年3月17日 ～ 8月18日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。（2023年1月以降＜貯蔵中＞として管理）	資料1別添 P.4
	大熊②工区	2026年3月10日 ～ 8月4日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。（2024年4月以降＜貯蔵中＞として管理）	資料1別添 P.7
	大熊③工区	2026年3月10日 ～ 8月10日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。（2024年4月以降＜貯蔵中＞として管理）	資料1別添 P.9
	大熊④工区	2026年3月3日 ～ 8月18日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。（2024年4月以降＜貯蔵中＞として管理）	資料1別添 P.11
	大熊⑤工区	2026年3月3日 ～ 8月27日（週1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。（2024年5月以降＜稼働中＞として管理）	資料1別添 P.13
	双葉①工区東側	2026年3月5日 ～ 8月21日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。（2021年4月以降＜貯蔵中＞として管理）	資料1別添 P.15
	双葉①工区西側	2026年3月12日 ～ 8月27日（週1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。（2026年7月以降＜稼働中＞として管理）	資料1別添 P.17
	双葉②工区	2026年3月5日 ～ 8月21日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。（2023年2月以降＜貯蔵中＞として管理）	資料1別添 P.20
	双葉③工区	2026年3月5日 ～ 8月21日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。（2024年4月以降＜貯蔵中＞として管理）	資料1別添 P.22
●地下水（集排水設備）中の放射能濃度（Cs134.Cs137）	大熊①工区	2026年3月24日 ～ 8月24日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.4
	大熊②工区	2026年3月24日 ～ 8月24日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.7
	大熊③工区	2026年3月24日 ～ 8月24日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.9
	大熊④工区	2026年3月24日 ～ 8月24日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.11
	大熊⑤工区	2026年3月24日 ～ 8月24日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.13
	双葉①工区東側	2026年3月3日 ～ 8月6日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.15
	双葉①工区西側	2026年3月3日 ～ 8月6日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.17
	双葉②工区	2026年3月3日 ～ 8月6日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.20
	双葉③工区	2026年3月3日 ～ 8月6日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.22

モニタリング結果概要（土壌貯蔵施設　その2）

主な測定項目	対象施設	対象期間	概要	詳細
■処理水放流先河川の放射能濃度（Cs134.Cs137）	大熊①工区	2026年3月17日 ～ 8月18日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。なお、処理水は土壌貯蔵施設（大熊②工区）の浸出水処理施設において処理を実施した。	資料1別添 P.4
	大熊②工区	2026年3月10日 ～ 8月4日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。なお、処理水の放射能濃度（週1回）は全て検出下限値（1Bq/L）未満であった。	資料1別添 P.7
	大熊③工区	2026年3月10日 ～ 8月4日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。なお、処理水は土壌貯蔵施設（大熊②工区）の浸出水処理施設において処理を実施した。	資料1別添 P.9
	大熊④工区	2026年3月3日 ～ 8月18日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。なお、処理水の放射能濃度（週1回）は、全て検出下限値（1Bq/L）未満であった。	資料1別添 P.11
	大熊⑤工区	2026年3月3日 ～ 8月4日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。なお、処理水は土壌貯蔵施設（大熊④工区）の浸出水処理施設において処理を実施した。	資料1別添 P.13
	双葉①工区東側	2026年3月5日 ～ 8月21日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。 （当施設で発生した浸出水は、土壌貯蔵施設（双葉③工区）の浸出水処理施設へ移送される。）	資料1別添 P.15
	双葉①工区西側	2026年3月12日 ～ 8月6日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。なお、処理水は土壌貯蔵施設（大熊④工区）の浸出水処理施設において処理を実施した。	資料1別添 P.17
	双葉②工区	2026年3月5日 ～ 8月21日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。なお、処理水は土壌貯蔵施設（大熊②工区）の浸出水処理施設において処理を実施した。	資料1別添 P.20
	双葉③工区	2026年3月5日 ～ 8月21日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。なお、処理水は土壌貯蔵施設（大熊④工区）の浸出水処理施設において処理を実施した。	資料1別添 P.22
河川最下流における放射性セシウムの測定結果	前田川	2026年6月19日（年4回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.54
	細谷川	2026年6月18日（年4回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.54
	陳場沢川	2026年6月18日（年4回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.54
	夫沢川	2026年6月19日（年4回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.54
	小入野川	2026年6月18日（年4回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.54
	熊川	2026年6月18日（年4回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.54

モニタリング結果概要（土壌貯蔵施設　その3）

主な測定項目	対象施設	対象期間	概要	詳細
★粉じん濃度	大熊②工区	2026年3月12日 ～ 8月7日（月1回）	最大値は5.2mg/m^3であり、高濃度粉じん作業（10mg/m^3超）に該当しない。	資料1別添 P.7
	大熊④工区	2026年3月12日 ～ 8月7日（月1回）	最大値は4.2mg/m^3であり、高濃度粉じん作業（10mg/m^3超）に該当しない。	資料1別添 P.11
	大熊⑤工区	2026年3月13日 ～ 8月5日（月1回）	最大値は5.7mg/m^3であり、高濃度粉じん作業（10mg/m^3超）に該当しない。	資料1別添 P.13
	双葉①工区西側	2026年7月31日 ～ 8月26日（月1回）	最大値は2.1mg/m^3であり、高濃度粉じん作業（10mg/m^3超）に該当しない。	資料1別添 P.17
★空間線量率（作業環境）	大熊②工区	2026年3月12日 ～ 8月7日（月1回）	0.13 ～ 0.57 μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.7
	大熊④工区	2026年3月12日 ～ 8月7日（月1回）	0.25 ～ 0.35 μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.11
	大熊⑤工区	2026年3月13日 ～ 8月5日（月1回）	0.57 ～ 0.90 μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.13
	双葉①工区西側	2026年7月22日 ～ 8月26日（月1回）	0.51 ～ 0.69 μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.17
	双葉③工区	2026年3月6日 ～ 8月5日（月1回）	2.82 ～ 2.96 μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.22
★空気中の放射能濃度（Cs134.Cs137）	大熊②工区	2026年3月12日 ～ 8月7日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.7
	大熊④工区	2026年3月12日 ～ 8月7日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.11
	大熊⑤工区	2026年3月13日 ～ 8月5日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.13
	双葉①工区西側	2026年7月24日 ～ 8月26日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.17
表面汚染密度（★床★壁・貯蔵エリア境界★設備★重機）	大熊②工区	2026年3月12日 ～ 8月7日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.7
	大熊④工区	2026年3月12日 ～ 8月7日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.11
	大熊⑤工区	2026年3月13日 ～ 8月28日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.13
	双葉①工区西側	2026年7月22日 ～ 8月26日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.17

モニタリング結果概要（中間貯蔵容器残さ分別処理施設）

主な測定項目	対象施設	対象期間	概要	詳細
◆地下水中の放射能濃度 （Cs134.Cs137）	東大和久容残分別テント	2026年6月2日 ～ 8月5日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.25
●排気中の放射能濃度 （Cs134.Cs137）	東大和久容残分別テント	2026年6月2日 ～ 8月5日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.25
★粉じん濃度	東大和久容残分別テント	2026年6月9日 ～ 8月6日（月1回）	全て定量下限値未満（0.1mg/m^3）であることを確認した。	資料1別添 P.25
★空間線量率 （作業環境）	東大和久容残分別テント	2026年6月9日 ～ 8月6日（月1回）	0.12 ～ 0.15μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.25
★空気中の放射能濃度 （Cs134.Cs137）	東大和久容残分別テント	2026年6月9日 ～ 8月6日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.25
表面汚染密度 （★床★壁★設備）	東大和久容残分別テント	2026年6月2日 ～ 8月5日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.25

モニタリング結果概要（仮設焼却施設　大熊町）

主な測定項目	施設名	測定時期	概要	詳細
排ガス中の放射能濃度（Cs134.Cs137）	大熊町仮設焼却施設	2026年3月1日～ 2026年9月30日（月１回）	全て検出下限値(1Bq/Nm^3)未満であることを確認した。	資料１別添 P．58
地下水（井戸）中の放射能濃度 （Cs134.Cs137）	大熊町仮設焼却施設	2026年3月1日～ 2026年9月30日（月１回）	全て検出下限値(1Bq/L)未満であることを確認した。	資料１別添 P．58
雨水（雨水排水集水桝）中の放射能濃度（Cs134.Cs137）	大熊町仮設焼却施設	2026年3月1日～ 2026年9月30日（月１回）	全て検出下限値(1Bq/L)未満であることを確認した。	資料１別添 P．58
空間線量率	大熊町仮設焼却施設	2026年3月1日～ 2026年9月30日（毎日）	0.23 ～ 2.56μSv/h の範囲であった。	資料１別添 P．58
粉じん濃度	大熊町仮設焼却施設	2026年3月1日～ 2026年9月30日（月１回）	今回の最大値は2mg/m3であった。	資料１別添 P．58

モニタリング結果概要（仮設処理施設　双葉町）

主な測定項目	施設名	測定時期	概要	詳細
排ガス中の放射能濃度（Cs134.Cs137）	双葉町仮設処理施設	2026年3月1日～ 2026年9月30日（月１回）	全て検出下限値(1Bq/Nm^3)未満であることを確認した。	資料１別添 P. 60
地下水（井戸）中の放射能濃度（Cs134.Cs137）	双葉町仮設処理施設	2026年3月1日～ 2026年9月30日（月１回）	全て検出下限値(1Bq/L)未満であることを確認した。	資料１別添 P. 60
雨水（雨水排水集水桝）中の放射能濃度（Cs134.Cs137）	双葉町仮設処理施設	2026年3月1日～ 2026年9月30日（月１回）	全て検出下限値(1Bq/L)未満であることを確認した。	資料１別添 P. 60
空間線量率	双葉町仮設処理施設	2026年3月1日～ 2026年9月30日（毎日）	0.11 ～ 0.31 μSv/h の範囲であった。	資料１別添 P. 60
粉じん濃度	双葉町仮設処理施設	2026年3月1日～ 2026年9月30日（月１回）	今回の最大値は4.34mg/m3であった。	資料１別添 P. 60

モニタリング結果概要（廃棄物貯蔵施設）

主な測定項目	対象施設	対象期間	概要	詳細
◆地下水中の放射能濃度 （Cs134.Cs137）	大熊1工区	2026年3月2日 ～ 8月3日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.28
	双葉1工区	2026年3月19日 ～ 8月6日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。 （2025年1月以降＜貯蔵中＞として管理）	資料1別添 P.30
	双葉2工区	2026年3月2日 ～ 8月3日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.32
★空間線量率 （作業環境）	大熊1工区	2026年3月19日 ～ 8月12日（月1回）	0.09 ～ 9.62μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.28
	双葉1工区	2026年3月12日 ～ 8月18日（月1回）	0.98 ～ 10.4μSv/hの範囲であった。 （2025年1月以降＜貯蔵中＞として管理）	資料1別添 P.30
	双葉2工区	2026年3月19日 ～ 8月4日（月1回）	0.06 ～ 9.75μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.32
表面汚染密度 （★床★壁）	大熊1工区	2026年3月19日 ～ 8月12日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.28
	双葉2工区	2026年3月19日 ～ 8月4日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.32

モニタリング結果概要（技術実証フィールド）

主な測定項目	対象施設	対象期間	概要	詳細
◆地下水中の放射能濃度（Cs134.Cs137）	技術実証フィールド	2026年3月3日 ～ 8月4日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.35
●排気中の放射能濃度（Cs134.Cs137）	技術実証フィールド	2026年3月5日 ～ 8月5日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.35
★沈砂池からの放流水の放射能濃度（Cs134.Cs137）	技術実証フィールド	2026年3月3日 ～ 8月4日（月1回）	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.35
■処理水放流先河川の放射能濃度（Cs134.Cs137）	技術実証フィールド	2026年3月3日 ～ 8月4日（月1回）	Cs134は全て検出下限値（1Bq/L）未満、Cs137は検出下限値（1Bq/L）未満～ 1.3Bq/Lの範囲であり、基準（Cs134の濃度/60+Cs137の濃度/90≦1）を下回った。なお、対象期間中に処理水の放流実績はなかった。	資料1別添 P.35
★粉じん濃度	技術実証フィールド	2026年3月6日 ～ 8月5日（月1回）	最大値は0.2mg/m^3であり、高濃度粉じん作業（10mg/m^3超）に該当しない。	資料1別添 P.35
★空間線量率（作業環境）	技術実証フィールド	2026年3月5日 ～ 8月5日（月1回）	0.07 ～ 0.70μSv/hの範囲であった。	資料1別添 P.35
★空気中の放射能濃度（Cs134.Cs137）	技術実証フィールド	2026年3月5日 ～ 8月5日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.35
表面汚染密度（★床★壁★設備）	技術実証フィールド	2026年3月5日 ～ 8月5日（月1回）	全て検出下限値未満であることを確認した。	資料1別添 P.35

その他の空間線量率、放射能濃度等の測定結果

測定項目	対象期間	概要	詳細
各施設及び保管場等における 空間線量率、地下水中放射能濃度 （Cs134.Cs137）	2026年3月1日 ～ 8月31日	空間線量率については、除去土壌等の保管・処理・貯蔵、灰処理ばいじんを封入した鋼製角形容器の貯蔵及び除去土壌等を用いた実証試験事業等による周辺への影響は見られなかった。 また、除去土壌の貯蔵作業が完了した施設においても周辺への影響は見られなかった。 地下水中の放射能濃度については、全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	資料1別添 P.70～72
中間貯蔵施設区域境界における 大気中放射能濃度（Cs134.Cs137）、空間線量率	2026年3月1日 ～ 8月31日	大気中放射能濃度については、全て検出下限値未満であり、基準（Cs134の濃度/20＋Cs137の濃度/30≦1）を下回った。 空間線量率については、通常の変動の範囲内で推移していることを確認した。	資料1別添 P.73,74
輸送路における放射線量率	2026年3月1日 ～ 8月31日	輸送車両が通る時などに、数十秒間程度、平常時より高い放射線量率が観測される場合があったが、追加被ばく線量は十分に小さいことを確認した。	資料1別添 P.76,77
仮置場搬出時の輸送車両周辺の 空間線量率	2026年3月1日 ～ 8月31日	全輸送車両が除去土壌の収集・運搬に係るガイドラインの基準の100μSv/hを十分に下回った。 （表面線量率が30μSv/hを超える大型土のうを積載した車両について測定を実施）	資料1別添 P.79
中間貯蔵施設退出時の 輸送車両の表面汚染密度	2026年3月1日 ～ 8月31日	全輸送車両が退出基準の13,000cpmを十分に下回った。	資料1別添 P.80
中間貯蔵施設区域境界（ゲート付近等） における空間線量率、表面汚染密度	2026年7月4日 （年2回）	空間線量率（1m、表面）及び表面汚染密度の測定結果において、低い数値となっていることを確認した。	資料1別添 P.82

作業員の被ばく線量①

- 仮置場等及び中間貯蔵施設の作業員、輸送車両の運転者等、全ての業務従事者の被ばく線量が、電離則及び除染電離則で定められた限度（5年間で100mSvかつ1年間で50mSv等）を超えないよう、各工事の受注者が管理している。具体的には、安全を見込んだ自主的な目安値（年間20mSvよりも低い数値）を設定し、管理している。
- 環境省は、各受注者が管理する作業員の被ばく線量の情報を収集・分析し、管理が適切に実施されていることを確認している。目安値を超える事例はなかった。

2026年2月1日～7月31日の被ばく線量値集計結果



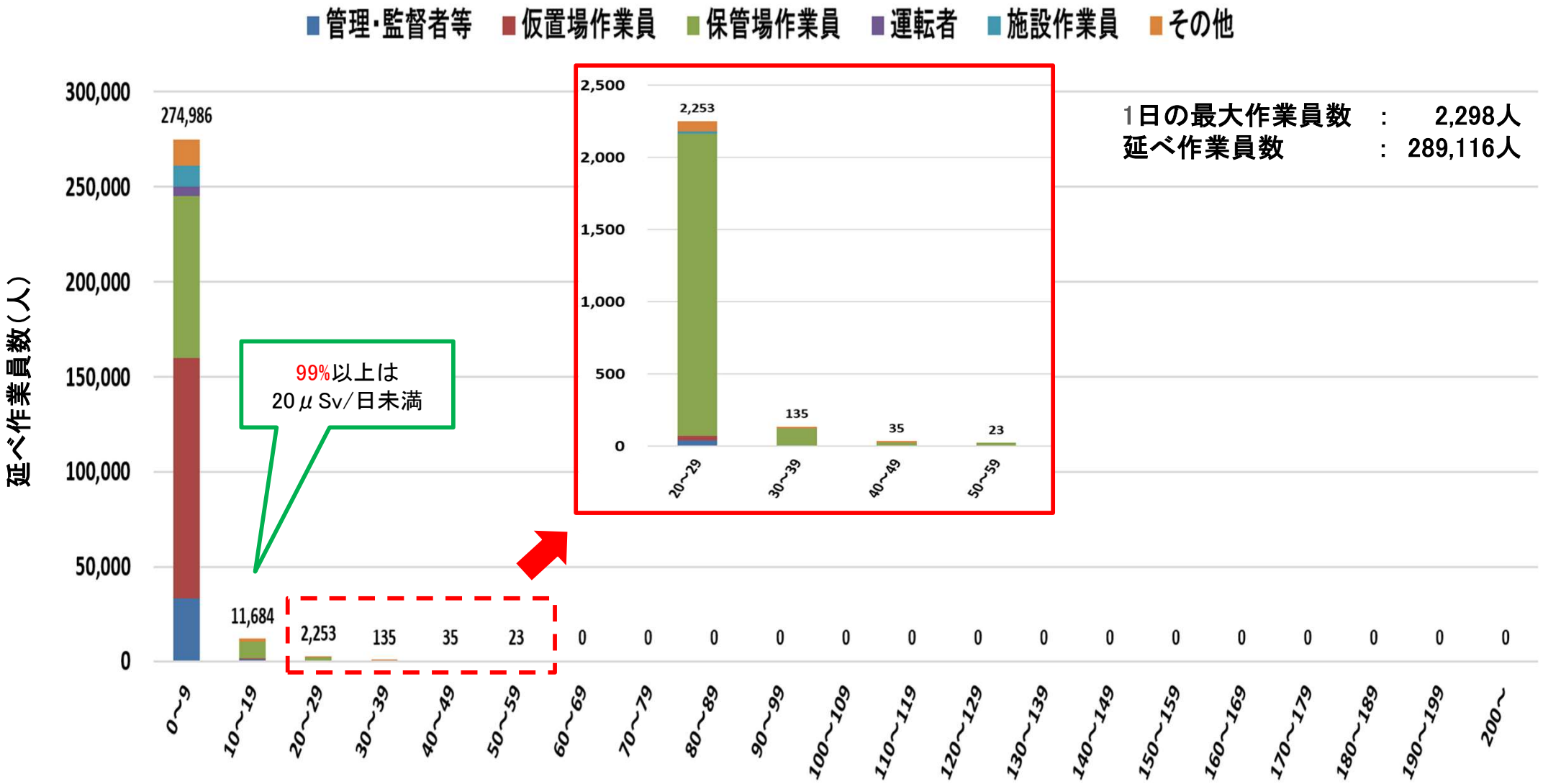
作業員の累積被ばく線量の分布

2022～2025年度毎の線量値集計結果

単位：mSv	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	集計 単位：人
20以上	0	0	0	0	0
19以上20未満	0	0	0	0	0
18以上19未満	0	0	0	0	0
17以上18未満	0	0	0	0	0
16以上17未満	1	0	0	0	1
15以上16未満	1	0	0	0	1
14以上15未満	0	1	0	1	2
13以上14未満	0	0	0	0	0
12以上13未満	0	1	1	0	2
11以上12未満	0	0	1	0	1
10以上11未満	0	0	1	3	4
9以上 10未満	0	0	0	1	1
8以上　9未満	0	0	3	1	4
7以上　8未満	0	1	1	1	3
6以上　7未満	0	2	2	1	5
5以上　6未満	0	2	1	1	4
4以上　5未満	0	2	2	4	8
3以上　4未満	0	22	6	6	34
2以上　3未満	13	60	41	40	154
1以上　2未満	258	322	232	321	1,133
0以上　1未満	10,253	7,461	5,727	5,309	28,750

※上記グラフは、2026年2月1日～7月31日に中間貯蔵施設事業ならびに減容化事業に従事者登録された作業員の人数を示す。
※中間貯蔵施設事業による被ばく線量に限ると、2026年2月1日～7月31日の累積被ばく線量の最大値は4.79mSv。
　2022年度～2025年度における年度別の累積被ばく最大値は、それぞれ4.40mSv、3.80mSv 、5.58mSv 、4.79mSv。
※2026年2月1日～7月31日における女性従事者の3か月間の被ばく線量の最大値は1.20mSvであり、線量限度の5mSvを下回っている。過去最大は2018年度の3.00mSv。
※2026年4月の総作業員数2,166人に対し、女性従事者は127人で、女性割合は5.86％（2025年4月は6.89％）となっている。

作業員の被ばく線量②



作業員の日次被ばく線量の分布（2026年2月1日～7月31日）

単位：μSv/日

※作業員数は、登録された作業員の延べ人数を示す。

県外最終処分の実現に向けた取組

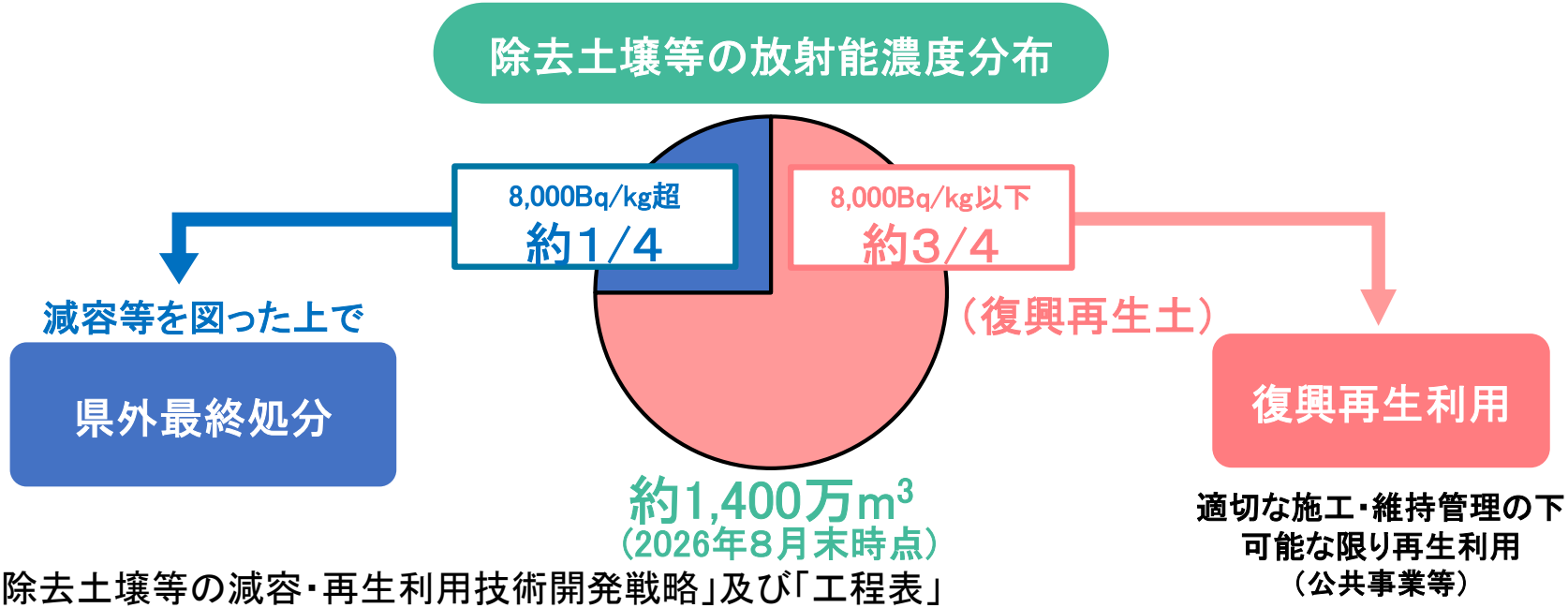
県外最終処分、復興再生利用の基本的考え方

○福島県内で発生した除去土壌等については、**中間貯蔵開始後30年以内（2045年３月まで）に、福島県外で最終処分を完了するために必要な措置を講ずる**旨法律に規定。

○県外最終処分の実現に向けては、**除去土壌の復興再生利用等による最終処分量の低減が鍵**。
2016年に策定した方針※1に沿って、減容技術の開発、再生利用の実証事業、全国民的な理解醸成等を着実に進めてきた。

○これまでの取組の成果や、国内外の有識者からの助言等も踏まえ、2025年３月に**復興再生利用・埋立処分の基準を策定**した。また、**最終処分場の構造・必要面積等の複数選択肢を提示**し、**2025年度以降の取組の進め方**※2についてとりまとめた。

○除去土壌の復興再生利用等による最終処分量の低減方策、風評影響対策等の施策について、政府一体となって推進するため、2024年12月に**「福島県内除去土壌等の県外最終処分の実現に向けた再生利用等推進会議」が設置**された。



※1「中間貯蔵除去土壌等の減容・再生利用技術開発戦略」及び「工程表」
※2「県外最終処分に向けたこれまでの取組の成果と2025 年度以降の進め方」

福島県内除去土壌等の県外最終処分の実現に向けた再生利用等推進会議について

○福島県内除去土壌等の県外最終処分の実現に向けて、除去土壌の復興再生利用等による最終処分量の低減方策、風評影響対策等の施策について、政府一体となって推進するため、**閣僚会議**（福島県内除去土壌等の県外最終処分の実現に向けた再生利用等推進会議）を2024年12月に設置。

○**第２回を2025年５月に開催**し、「福島県内除去土壌等の県外最終処分の実現に向けた再生利用等の推進に関する**基本方針**」を策定。

○**第３回を2025年８月に開催**し、当面５年程度で取り組む事項をとりまとめた「福島県内除去土壌等の県外最終処分の実現に向けた復興再生利用等の推進に関する**ロードマップ**」を決定。
県外最終処分に向けた取組を段階的かつ確実に実施できるよう、**本閣僚会議を年に１回程度開催し、進捗状況を継続的に確認する。**

○**第４回を2026年8月に開催**し、ロードマップ等に基づく、「復興再生利用の推進」「県外最終処分に向けた検討」「理解醸成・リスクコミュニケーション」に係る取組の進捗状況を確認した。このうち復興再生利用の推進については、仙台市、さいたま市をはじめとして、地方支分部局等における利用を実施していくこととした。

＜閣僚会議の構成＞

議　長：官房長官
副議長：環境大臣
　　復興大臣
構成員：内閣総理大臣を除く他のすべての国務大臣

＜第４回会議の様子＞



中間貯蔵施設内での道路盛土実証事業（概要）

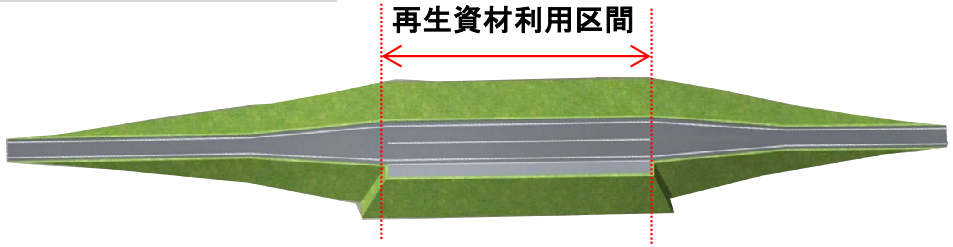
（1）実施目的

〇中間貯蔵施設用地を活用し、道路盛土への利用について実証事業を実施。放射線や沈下量等のモニタリングを通じた放射線に対する安全性や構造物の安定性のほか、走行試験を通じて使用性の確認を行った。

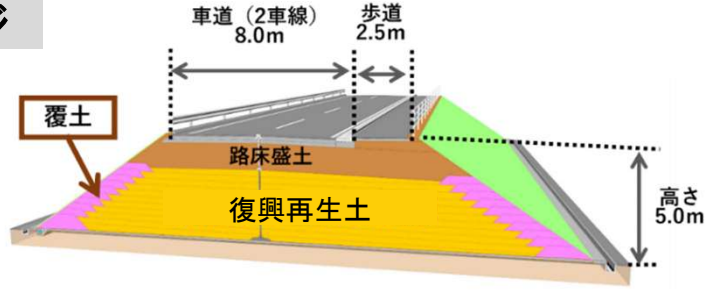
（2）事業概要

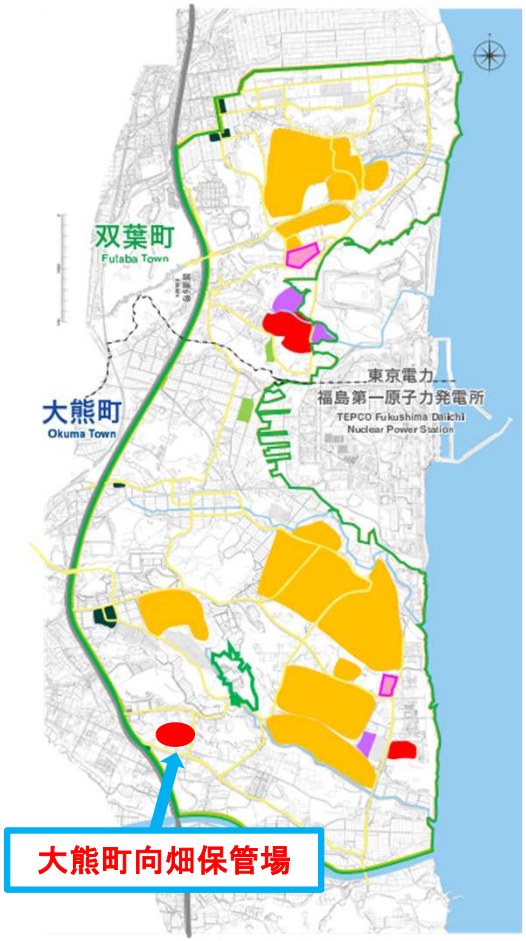
〇実施場所　　中間貯蔵施設内
〇構造物の種類　　一般的な道路規格として、3種2級（交通量4千～2万台/日）の歩道付きの構造
〇放射能濃度が平均約6,400Bq/kgの除去土壌を約2,700㎥使用

上方からのイメージ



構造イメージ





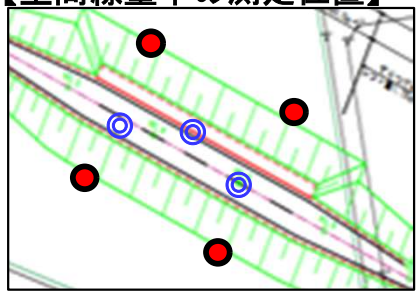
（3）盛土の施工期間

2022年10月３日～2023年10月３日
※2023年１月から2023年３月までは、除去土壌の品質調整に係る検討を実施。

道路盛土実証事業①（空間線量率）

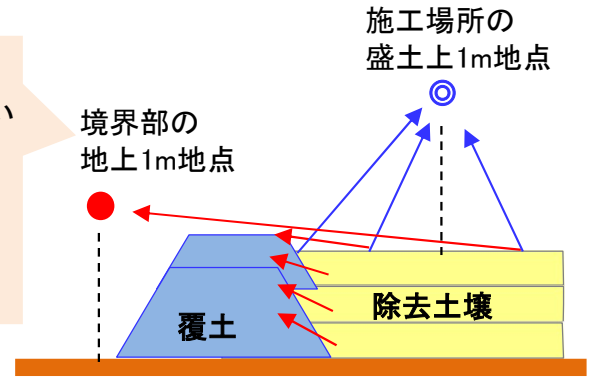
■境界部の空間線量率は、施工中を含め、施工前後で0.15～0.24μSv/hで推移。
■盛土上の空間線量率は、施工中0.16μSv/h～1.32μSv/hで推移したが、竣工後は施工前と同程度で推移。

【空間線量率の測定位置】



【空間線量率】
境界部　●4地点
（周辺住民を想定）

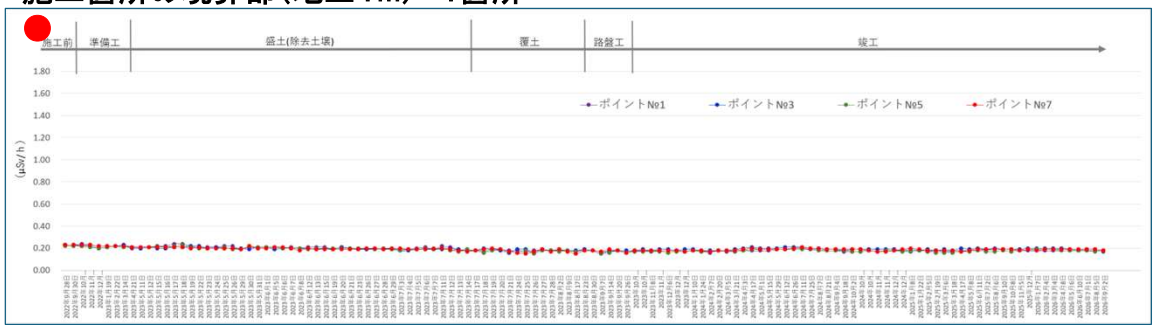
施工場所となる盛土上
（作業者・道路利用者を想定）　◎3地点



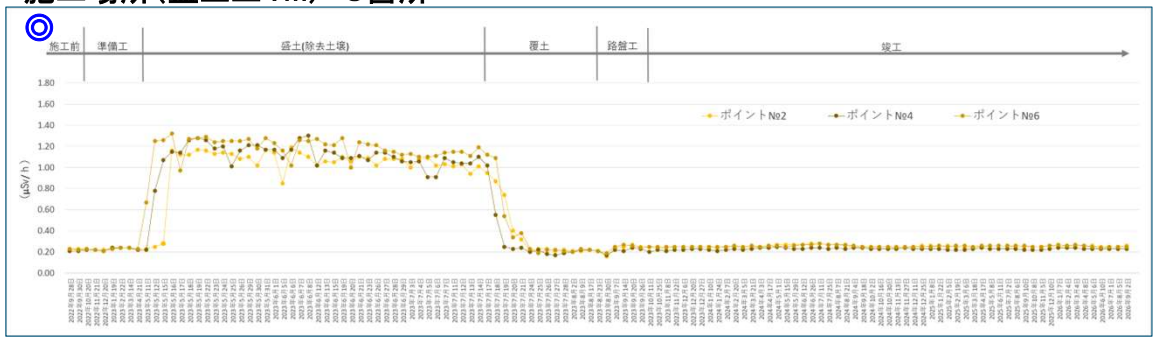
距離減衰や覆土による遮へい効果により、境界部の空間線量率は盛土作業の前後で変化なし。

＜3層目盛土施工時のイメージ＞

施工箇所の境界部（地上1m）　4箇所



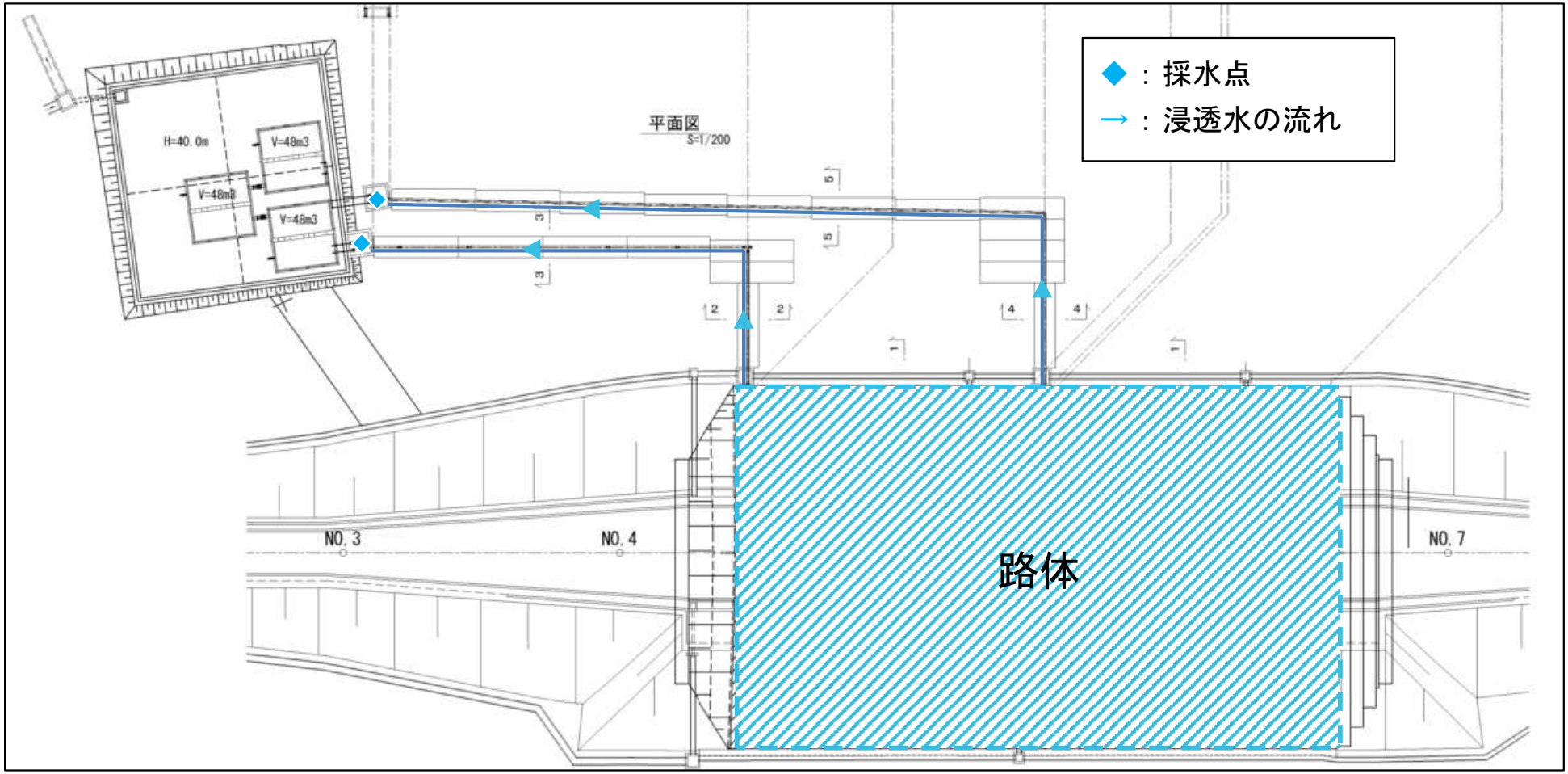
施工場所（盛土上1m）　3箇所



測定位置		測定期間	測定頻度	測定結果
境界部	施工前	2022年9月28日～2023年5月9日	1回/月	0.20～0.23μSv/h
	施工中	2023年5月10日～2023年10月2日	1回/日	0.15～0.24μSv/h
	竣工後	2023年10月3日～2026年9月2日	1回/2週	0.16～0.21μSv/h
盛土上	施工前	2022年9月28日～2023年5月9日	1回/月	0.21～0.24μSv/h
	施工中	2023年5月10日～2023年10月2日	1回/日	0.16～1.32μSv/h
	竣工後	2023年10月3日～2026年9月2日	1回/2週	0.20～0.28μSv/h

道路盛土実証事業②（浸透水中の放射線濃度）

■浸透水中の放射能濃度は、全て検出下限値未満であることを確認。



測定項目	測定期間	結果の概要	測定頻度
未改良土・改良土別の採水点における盛土浸透水の放射能濃度	2023年5月22日 ～継続中	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認。	週1回 ※2024年度より2週1回

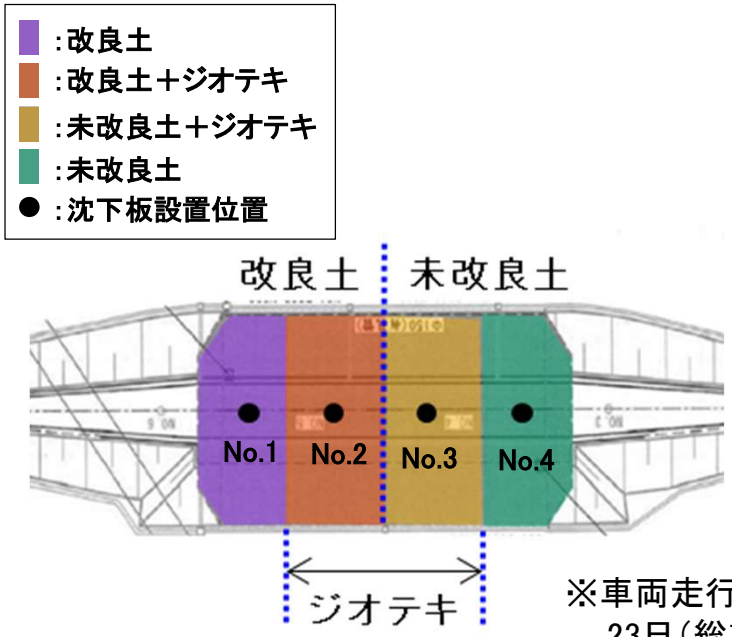
道路盛土実証事業③（沈下板による沈下量測定）

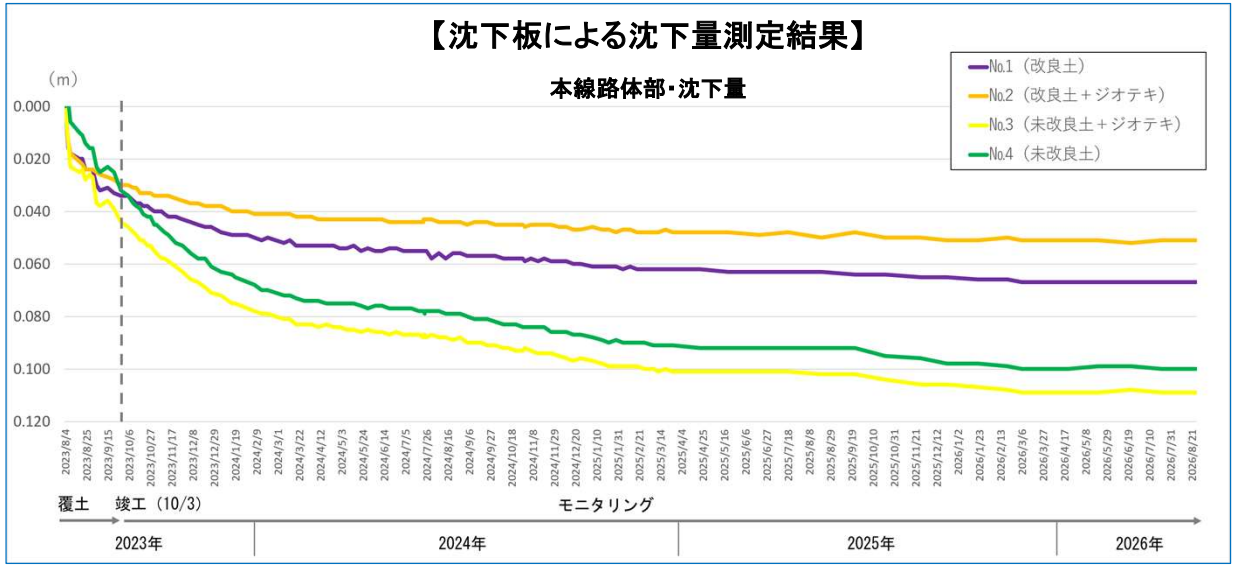
【測定結果】
■沈下板による沈下量 （下図参照）
- 改良土では、沈下量が竣工後、おおむね21～33mmとなっている。
- 未改良土では、沈下量が竣工後、おおむね63～66mmとなっている。

■変位杭による深さ方向への沈下量
- 安定性が損なわれるような沈下は生じていない。
  ※ 盛土の法肩付近における竣工後の沈下量は、改良土で27～34mm、未改良土で57～67mm と上記沈下板と同程度の沈下量を観測。

【測定期間】
2023年8月4日～

【計測頻度】
・盛土完了後1ヶ月後まで：2回/週
・盛土完了後2ヶ月後～2025年3月： 1回/週（走行試験中は、各試験日とも走行前後に計測）
・2025年4月～：1回/月





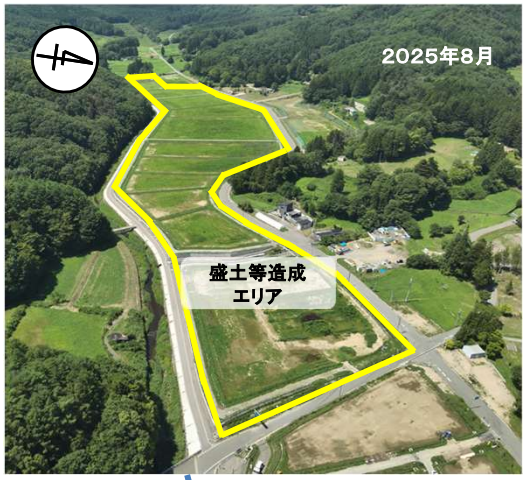
※車両走行による負荷を掛け、盛土の安定性及び使用性を確認するための走行試験を2024年7月23日（総重量約10t）、7月24日(総重量約20t)、10月29日（総重量約25t)に行った。

飯舘村長泥地区の環境再生事業（概要）

【飯舘村長泥地区環境再生事業の実施状況】

- ・2～4工区全体で、再生資材化した除去土壌（約20万立米）による盛土を実施
- ・完成した4工区については2025年4月に飯舘村や地権者へ引継ぎ、現在は営農再開に向けた試験栽培等を村や県主導で実施中
  - ・環境省では引き続き環境モニタリング等を実施中
- ・2、3工区については覆土工事と暗きょ排水工事を実施しているほか、環境モニタリング等を実施中
- ・1工区については設計中

① 農地盛土等造成（2021年度以降実施）



【2工区】

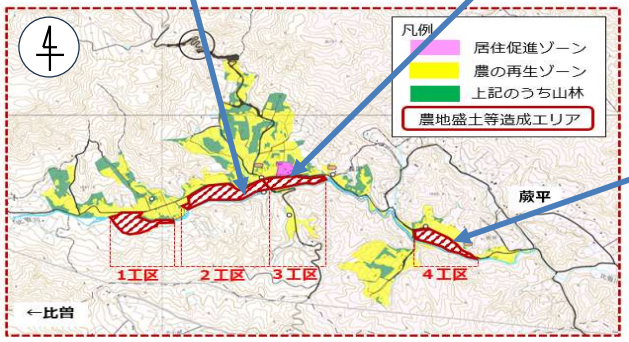


【3工区】



【4工区】

【飯舘村長泥地区】



② 水田試験等

水田試験（2021年～2024度実施）

水田機能（透水性、地耐力等）を確認し、概ね基準の範囲内。
玄米の放射性セシウム濃度は食品の基準（100Bq/kg)を大きく下回った（0.4～0.6 Bq/kg）。





【4工区】水田試験エリア

栽培試験（2019年～2024度実施）

花き類及び野菜等の栽培試験を実施。
収穫した食用作物の放射性セシウムの濃度を測定した結果、放射性セシウム濃度は食品の基準（100Bq/kg）を大きく下回った。（0.1～4.7Bq/kg）



【4工区】転換畑



【4工区】傾斜畑

飯舘村長泥地区の環境再生事業

放射線等の安全性モニタリング：2工区～4工区（2020年～2025年度）

主な測定項目	測定期間	結果の概要	測定頻度
空間線量率（周辺環境）	2021年4月2日 ～2026年9月14日	0.16～1.32μSv/hの範囲であった。	週1回
空気中の放射能濃度	2021年9月22日 ～2026年9月7日	全て検出下限値未満（Cs134：1.0×10^{-7}Bq/cm^3、Cs137：1.0×10^{-7}Bq/cm^3）であることを確認した。	月1回
放流先河川の放射能濃度	2021年4月27日 ～2026年9月4日	全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。	月1回
地下水監視孔(井戸)中の放射能濃度	2021年1月25日 ～2026年9月14日	Cs134は全て検出下限値（1Bq/L）未満、Cs137は検出下限値（1Bq/L）未満～2.6Bq/Lの範囲であり、基準（Cs134の濃度/60+Cs137の濃度/90≦1）を下 回った。	月1回
湧水処理集水枡からの放流水中の放射線濃度	2021年12月1日 ～2026年9月4日	Cs134は全て検出下限値（1Bq/L）未満、Cs137は検出下限値（1Bq/L）未満～7.7Bq/Lの範囲であり基準（Cs134の濃度/60+Cs137の濃度/90≦1）を下回った。	週1回

※4工区は工事が終了したことから、2025年度より3回／年（4・6・10月）測定。

※3工区は工事が終了したことから、2026年度より3回／年（4・6・10月）測定。

※詳細につきましては、中間貯蔵施設情報サイトのモニタリング情報をご覧ください。
（URL：http://josen.env.go.jp/chukanchozou/facility/recycling/project_iitate/）

技術実証フィールドの状況

○ ロードマップにおいて県外最終処分に向けた検討事項として示された、減容技術等の効率化・低コスト化、減容化後の処分方法の検討等の課題解決のため、引き続き技術実証フィールドを活用し、実証試験を行っていく。

1. 技術実証フィールド施設の現状



ドローンによる技術実証フィールド全景（2026年9月2日時点）

2. 実証事業等概要

（1）新規実施予定の事業

・2024年度までに実施した公募実証事業等の実証事業により得られた除去土壌の土質データ等を基に、除去土壌の復興再生利用に向けた土質調整実証試験、県外最終処分に向けた分級後細粒分の処分実証試験などを実施予定。

（2）継続実施中の事業

国立環境研究所との共同実証事業【2022年度～】（テーマ名：溶融スラグの有効利用のための環境安全性評価）

・地盤利用安全性確認試験：2024年度で沈下量モニタリングが終了したスラグ混合盛土を保管中。保管中も引き続き頻度を下げて沈下量等を確認中。

・環境安全性確認試験　　：2024年度に設置したテストセル（屋外大型カラム試験装置）を用いて、溶融スラグ浸透水の水質を継続的に測定中。

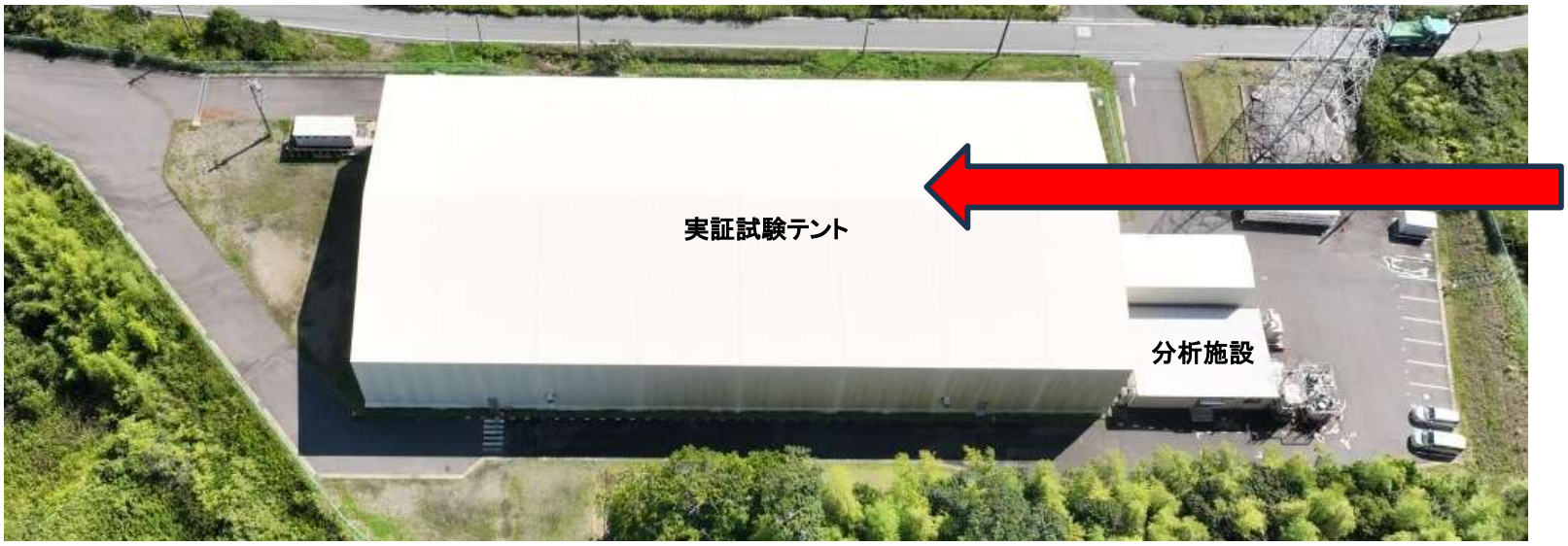
技術実証施設(双葉)(旧:飛灰洗浄処理技術等実証施設)の状況

○ ロードマップにおいて県外最終処分に向けた検討事項として示された、減容技術等の効率化・低コスト化、減容技術の組合せに関する検討等の課題解決のため、引き続き技術実証施設(双葉)(旧:飛灰洗浄処理技術等実証施設)を活用し、実証試験を行っていく。

(参考)減容化のプロセスの例

分級 → 熱処理(溶融/焼成) → 飛灰洗浄・吸着処理

1. 技術実証施設(双葉)の現状



ドローンによる技術実証施設(双葉)全景(2026年9月2日時点)



国立環境研究所の試験テント
(実証試験テント内)

2. 実証事業等概要

・2024年度までに技術の実証試験を行ったが、今後は減容技術等の効率化・低コスト化や、減容化のプロセスにおける前段の減容化(分級、熱処理)が後段の減容化(熱処理、飛灰洗浄・吸着処理)に与える影響のような、減容技術の組合せに関する検討等を行う必要がある。

・このため、技術実証施設(双葉)では、2025年度から国立環境研究所との共同実証事業として、飛灰の洗浄処理技術の更なる効率化、飛灰の埋立処分にあたってのセメント固型化に係る適切な条件に関する検討を実施中。

環境再生に関する技術等検討会

○環境省では、県外最終処分に向けた技術的事項等の検討に当たり、専門的知見を活用するため、**2025年９月に、「環境再生に関する技術等検討会」**（以下、検討会）を新たに設置。
○検討会の検討事項は、復興再生利用に係る事項、除去土壌等の最終処分に係る事項、理解醸成・リスクコミュニケーションに関する事項等。
○第１回検討会では、これまでの取組の進捗と今後の進め方について議論。合わせて**復興再生利用に用いる除去土壌の呼称**について検討※。
※　環境省では、検討会での意見を踏まえ、呼称を「復興再生土」と決定
○第２回検討会（2026年３月）/第３回検討会（2026年９月）では、ロードマップの優先的検討事項である**県外最終処分の管理終了の考え方、中間貯蔵施設からの除去土壌の掘り出し**等について議論。
○今後、検討会での議論も踏まえ、**除去土壌の掘り出しの試行を進める**とともに、**2030年以降の道筋の段階的な具体化**について検討する。

＜検討会の様子＞



＜検討会委員一覧＞

高橋　隆行（座長）	福島大学 共生システム理工学類 教授
飯本　武志	東京大学 アイソトープ総合センター 教授
遠藤　和人	国立研究開発法人国立環境研究所 福島地域協働研究拠点 廃棄物・資源循環研究室 室長
大迫　政浩	国立研究開発法人国立環境研究所 企画部 フェロー
大塚　直	早稲田大学 法学学術院 教授
勝見　武	京都大学大学院 地球環境学堂 教授
川瀬　啓一	環境放射能除染学会理事（元日本原子力研究開発機構）
佐藤　努	北海道大学 大学院工学研究院環境循環システム部門 教授
高村　昇	長崎大学 原爆後障害医療研究所 災害復興科学分野 教授
二村　真理子	東京女子大学 現代教養学部 経済経営学科 教授
宮武　裕昭	国立研究開発法人土木研究所　地質・地盤研究グループ グループ長
宮本　輝仁	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構　農村工学研究部門 農地基盤情報研究領域 農地整備グループ グループ長

出典：環境省ホームページ　（https://www.env.go.jp/guide/photo_report/report_00443.html）

除去土壌の掘り出しの試行の概要

○ 土壌貯蔵施設の除去土壌を掘り出してから施設内に保管するまでの工程について、一連の作業を行うことで、①県外最終処分の実現に向けた安全管理方法等の検討、②復興再生利用の推進に向けた土壌の性状把握工程の作業性等の確認を目的とする。

【掘り出し】 【施設内運搬】 【異物確認】 【性状把握】 【施設内保管】



検証事項：
作業時の粉じん濃度の測定

検証事項：
異物の量・種類の把握

検証事項：
必要な作業スペースの確認

検証事項：必要な作業時間の確認、円滑な作業のための課題の洗い出し等

復興再生利用・最終処分に係る理解醸成

○ 除去土壌の復興再生利用や最終処分に関する全国民的な**理解醸成が必要不可欠。**
若い世代向けの理解醸成（大学等での講義、現地WS等）、**現地見学会、メディアとのタイアップによる情報発信、首都圏の主要路線内での広告掲出（JR山手線等、東京メトロ全線、都営地下鉄全線）、Youtubeでの広告（1200万回以上再生）など、各種取組を展開中。**

○ 今年度は、最終処分・復興再生利用の安全性・必要性等について、特に、若い世代・自治体・メディア等への情報発信を更に進める等により、理解醸成の取組を強化。

若い世代向けの取組

大学等での講義



イベント出展

「SUMMER SONIC 2026」での展示



現場見学

中間貯蔵施設や飯舘村長泥地区の実証事業事業エリアを対象とした現地見学会を開催

中間貯蔵施設　現地視察



再生利用実証事業　現地視察



メディアとのタイアップ等による情報発信

YouTubeメディアタイアップ



YouTubeや公共交通機関へのCM発出



地方テレビ局と連携した情報発信



除去土壌を用いた鉢植え等の設置

総理大臣官邸



環境大臣室



2025年5月末時点で
26施設に設置済み

万博での展示



パネルディスカッション

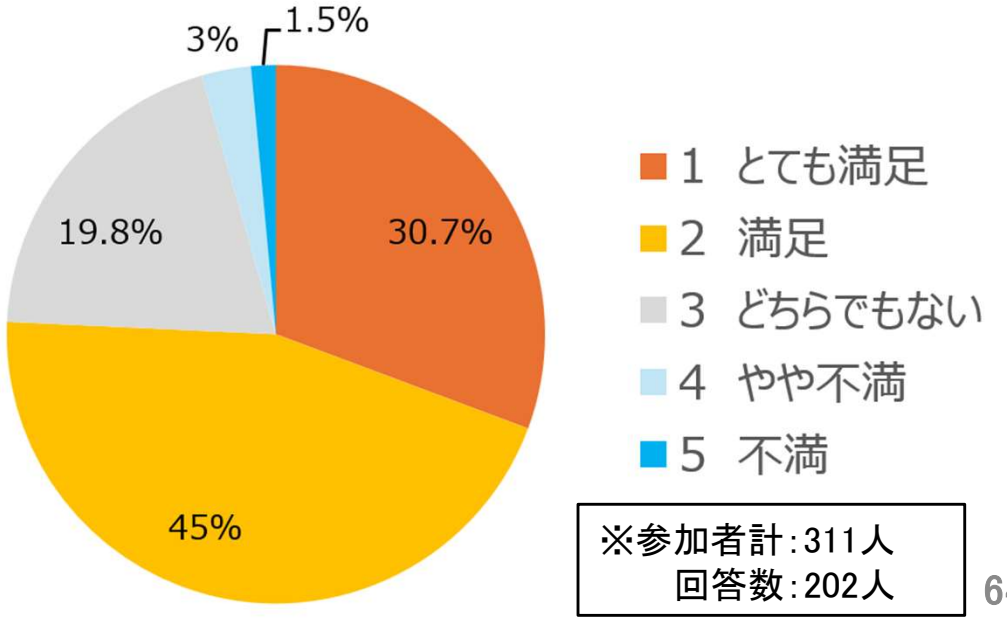
○ 福島県内除去土壌等の県外最終処分の実現に向けた、理解醸成活動の一環として、除去土壌等の県外最終処分・復興再生利用についてともに考え、**理解を深めるためのパネルディスカッションを計7回実施。**
（福島開催：2025/8/18　東京開催：2025/9/5、6　宮城開催：2026/3/15
埼玉開催：2026/3/18　秋田開催：2026/7/16　　愛知開催：2026/7/23　）

○ パブリックコメント、事前に受け付けた質問、参加者が記載した付箋から、下記の話題などを取り扱った。
・復興再生利用の必要性、安全性について
・復興再生利用の説明の仕方について
・復興再生利用・県外最終処分の今後の進め方について

＜2025年8月18日のパネルディスカッションの様子＞



＜参加者の満足度アンケート（全7回合計）＞



※参加者計：311人
回答数：202人

霞が関の中央官庁の花壇等への復興再生利用概要（理解醸成）

○ 環境省のウェブページにおいてこれまでに実施した復興再生利用の**概要やモニタリングデータを掲載**。

○ さらに、**来庁者に対し、花壇等の利用現場を活用し、復興再生利用の必要性や安全性について**、昨年3月に定めた**基準等を踏まえ、科学的根拠に基づき説明**。**政務三役の視察などによる発信**も実施。
環境省では、これまで、**首長を含む700人以上**に対して見学会で説明を実施。

○ **関係省庁においても**これらの取組を実施し、**政府一丸となって、国民の理解醸成の取組を進めている**。

○ 環境省では、7月29・30日のこども霞が関見学デーにおいて、**飯舘村長泥地区で栽培されたお花を活用した押し花カード**の作成体験や**花壇見学会**を実施。



環境省
ウェブページ



パネル





長泥地区のお花を活用した
押し花カード作成体験



大臣等による視察



来庁者への説明

講義・ワークショップ

○ 全国の<u>大学等</u>にて環境再生事業等に関する有識者による<u>講義</u>や、当該講義を受けた<u>学生を対象とした福島県の現地でのフィールドワーク、ワークショップ</u>を実施。

○ さらに、参加者自身が行程を検討し、現地の見学会とワークショップを組み合わせた見学会を実施。2025年度は約170名が参加。

大学等での講義



双葉町ワークショップ



現地でのその他ワークショップ







現地の見学会とワークショップを組み合わせた見学会







中間貯蔵事業情報センターについて

○　2025年３月15日にグランドオープンした大熊町産業交流施設内に「中間貯蔵事業情報センター」を新たに開設。
○　同センターでは中間貯蔵事業の進捗や規模感を視覚的に伝える展示等により、中間貯蔵事業、除去土壌等の再生利用及び県外最終処分をはじめとする福島の復興・環境再生の取組を発信している。
○　また、同センターは、中間貯蔵施設の見学会等の発着拠点となり、中間貯蔵施設の建設を受け入れ、大切な土地を提供いただいた大熊町・双葉町の方の思い等についても発信している。

イメージ図



展示面積：650㎡
（前センターは約100㎡）



（26年度は9月末まで）

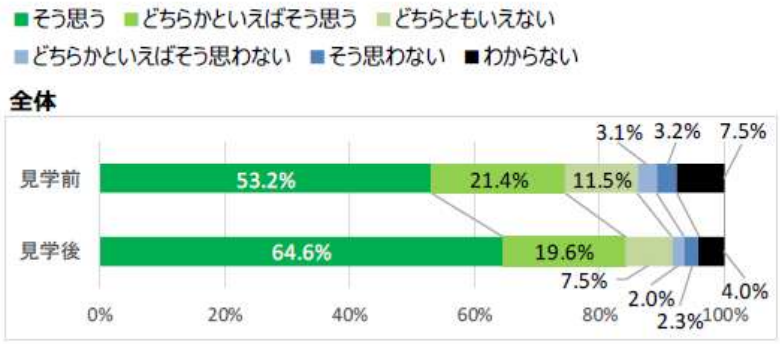
新情報センターのオープンにより　来館者は大幅に増加
2026年度は中貯区域視察者が大幅増前年比132.3%

中間貯蔵施設の現地見学①

・中間貯蔵事業や除去土壌等の県外最終処分に向けた取組等に対する認知度や理解度を高めるため、2018年度から中間貯蔵施設の視察・見学を受け付けている。
・2026年9月末時点で累計37,752名の方に御参加いただいており、視察後にはアンケートを実施している。

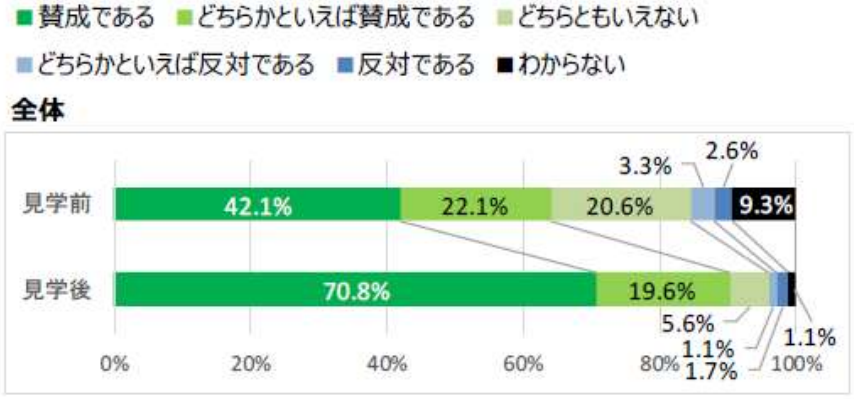
中間貯蔵施設見学後のアンケート結果

復興再生利用をする必要があると思いますか？



2026年9月の見学者からの回答

復興再生利用を進めることに賛成・反対ですか？



2026年9月の見学者からの回答



サンライトおおくま（見晴台）



道路盛土実証



双葉町　正八幡神社



双葉2工区　土壌貯蔵施設

中間貯蔵施設の現地見学②



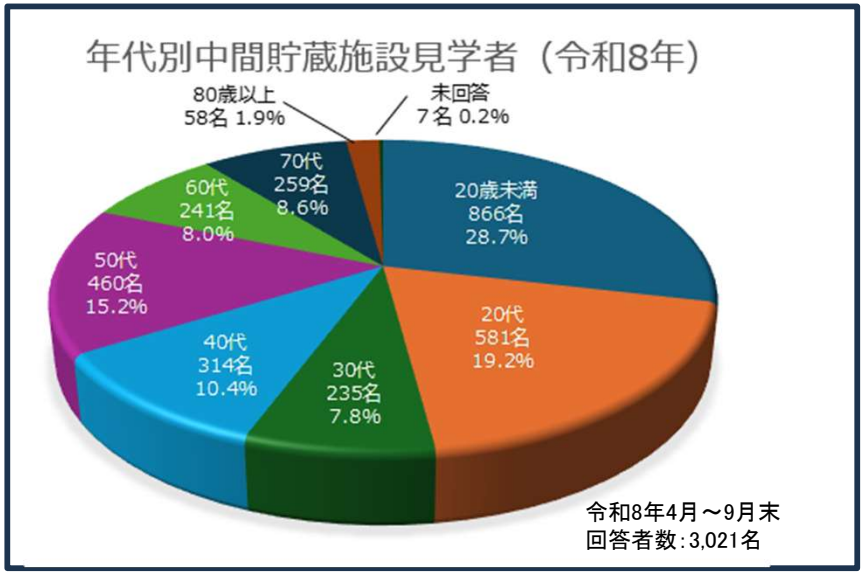


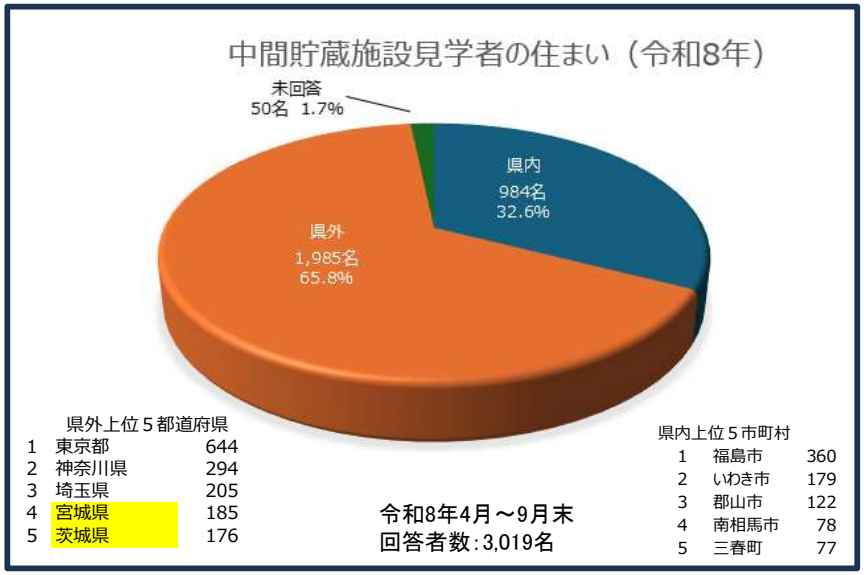
県民ツアーの開催
令和8年上期3回実施
8月8日/22日
9月5日開催
111人参加
下期に2回予定



多数の学生ツアー
学生団体は97団体
1,998人(全体の34.6%)

実績は令和8年4月～9月末





飯舘村長泥地区環境再生事業の広報拠点エリア

広報拠点エリア（ながどろひろば、駐車場、ビニールハウス）



ながどろひろば
～花の里 ながどろ～
環境再生情報ひろば

（2025.4..25オープン）




▲動画放映ゾーン


▲パネル展示


▲再生資材化施設模型





ビニールハウス　（2024.4.1運用開始）

栽培している花きの種類：
トルコギキョウ、カンパニュラ、カスミソウ、
マリーゴールド、キンギョソウ、アルストロメリア、
スターチス、ラナンキュラス、カーネーション　等

【施設情報】

開館時間	10:00～16:00
休 館 日	毎週水曜日・年末年始
入 館 料	無料
住　　所	〒960-1723 福島県相馬郡飯舘村長泥字長泥815-1

【ながどろひろば一般来訪者数】　※一般見学会、視察等除く

期間	人数
令和7年度（4/25～3/31）	980名
令和8年度（4/1～9/30）	602名

長泥地区の現地見学会について

・長泥地区環境再生事業に対する認知度や理解度を高める為、視察・見学対応等を2021年度から実施している。
・2026年9月末時点で累計7,750名以上の方を案内した。

一般見学会

・2026年度の長泥地区環境再生事業の一般の方向け現地見学会（一般見学会）は6回開催し、81名の参加があった。
また、2021年～2026年度9月末までに合計59回開催し、のべ774名の参加があった。今後も継続開催。





一般の方向けの現地見学会の様子（花き栽培ビニールハウス、看板前、放射線測定体験）

視察等（視察、ツアー、見学、取材）

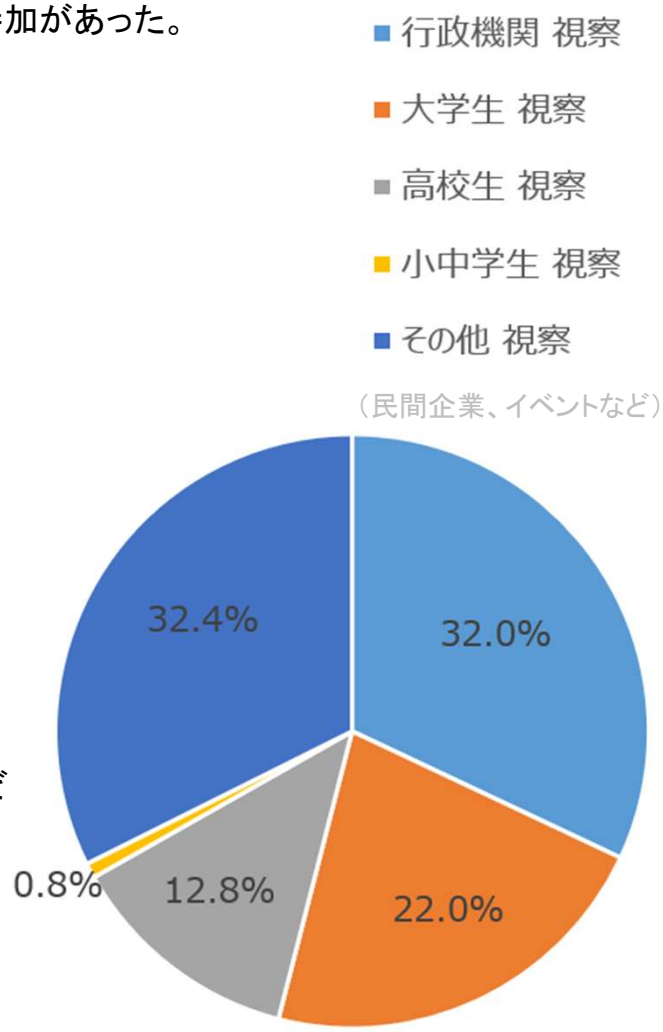
・2026年度の視察等については、1,104名に対応した（9月末時点）。
また、2021年～2026年度9月末までにのべ6,976名に対応した。

＜主な視察者＞※2026年度
行 政 機 関：復興庁（政務官等）、環境省、宮城県土地連、福島県、飯舘村　など
小中高校生：飯舘村立いいたて希望の里学園、栃木県立大田原高校、静岡学園高校　など
大　学　生：福島大学、上智大学、関西学院大学、山梨大学　慶応大学　など
そ　の　他：ふくしま部福島視察、日米学生会議、環境省主催イベント（花つくり教室）、民間企業　など


古川復興大臣政務官（当時）視察


宮城県土地連視察


福島大学生見学



2026年度（4月～9月）　見学、ツアー、
視察者の内訳について

福島、
その先の環境へ。

資料1別添

モニタリング等の状況の詳細について

2026年10月

環境省

土壌貯蔵施設のモニタリング結果
（月次測定等）

土壌貯蔵施設（大熊①工区）のモニタリング測定地点（月次測定）＜貯蔵中＞



☆：施設の位置



【 凡例 】

- ◆：地下水（井戸）中の電気伝導率等、放射能濃度
- ●：地下水（集排水設備）中の放射能濃度
- ■：放流先河川の放射能濃度
- ----：敷地境界線

土壌貯蔵施設（大熊①工区）のモニタリング測定結果（月次測定）

◆地下水（井戸）中の電気伝導率等

測定地点	測定日＼測定項目	電気伝導率（mS/m）	塩化物イオン濃度（mg/L）
上流①	2018/7/11（稼働前）	240	8.1
	2026/3/17～2026/8/18（貯蔵中）	100	17
上流②	2020/2/24（稼働前）	110	25
	2026/3/17～2026/8/18（貯蔵中）	44	12
下流①	2018/7/11（稼働前）	32	9.5
	2026/3/17～2026/8/18（貯蔵中）	150	8.9
下流②	2020/2/24（稼働前）	42	23
	2026/3/17～2026/8/18（貯蔵中）	33	9.5
下流③	2021/2/23（稼働前）	42	9.6
	2026/3/17～2026/8/18（貯蔵中）	43	15

※期間中の最大値を示す。

◆地下水（井戸）中の放射能濃度

測定地点	測定日＼測定項目	Cs-134（Bq/L）	Cs-137（Bq/L）
上流①	2018/7/11（稼働前）	ND	ND
	2026/3/17～2026/8/18（貯蔵中）	ND	ND
上流②	2020/2/24（稼働前）	ND	ND
	2026/3/17～2026/8/18（貯蔵中）	ND	ND
下流①	2018/7/11（稼働前）	ND	ND
	2026/3/17～2026/8/18（貯蔵中）	ND	ND
下流②	2020/2/24（稼働前）	ND	ND
	2026/3/17～2026/8/18（貯蔵中）	ND	ND
下流③	2021/2/23（稼働前）	ND	ND
	2026/3/17～2026/8/18（貯蔵中）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

●地下水（集排水設備）中の放射能濃度

測定地点	測定日＼測定項目	Cs-134（Bq/L）	Cs-137（Bq/L）
集排水設備①	2018/7/11（稼働前）	ND	ND
	2026/3/24～2026/8/24（貯蔵中）	ND	ND
集排水設備②	2020/3/5（稼働前）	ND	ND
	2026/3/24～2026/8/24（貯蔵中）	ND	ND
集排水設備③	2021/3/9（稼働前）	ND	ND
	2026/3/24～2026/8/24（貯蔵中）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

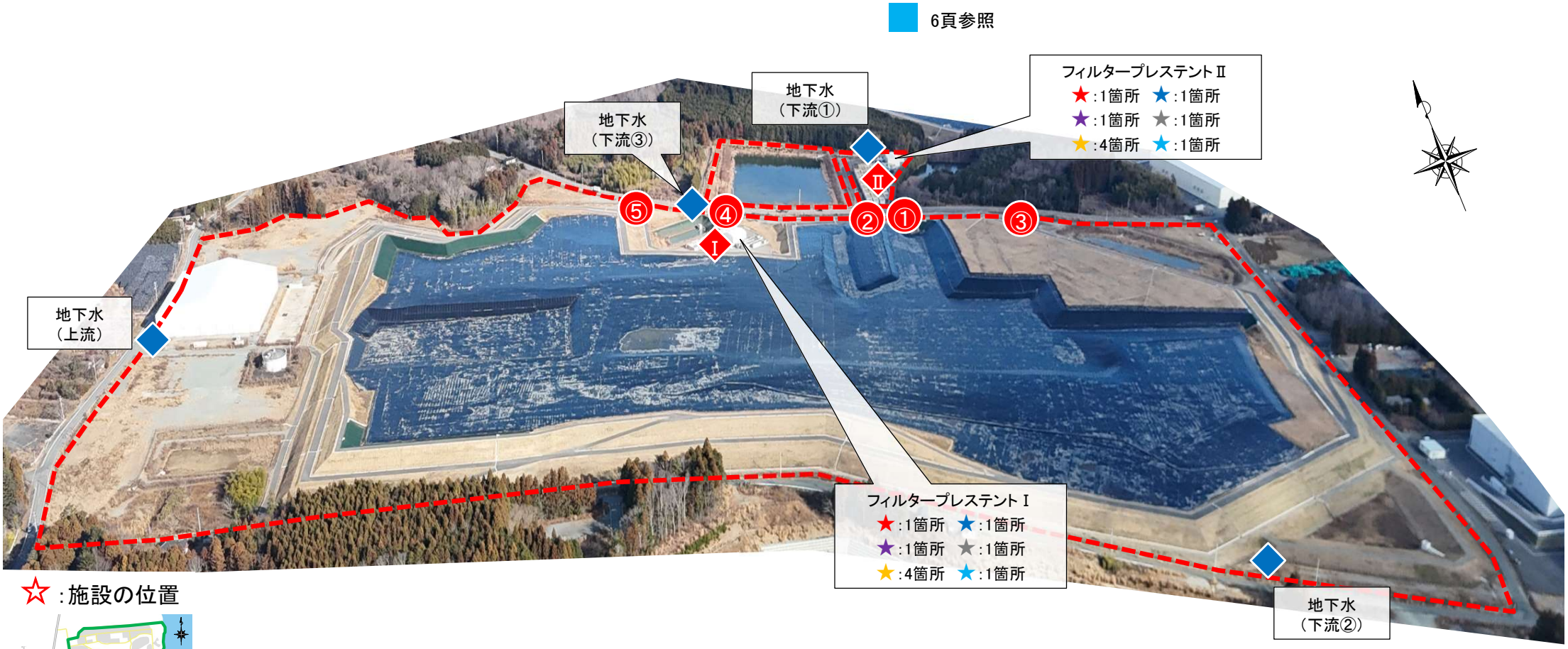
■放流先河川の放射能濃度

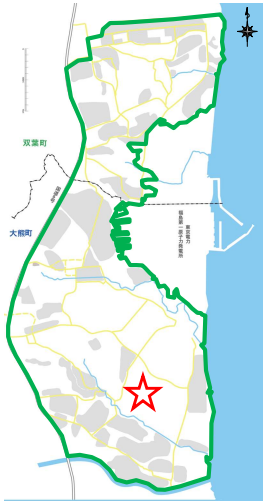
測定日＼測定項目	Cs-134（Bq/L）	Cs-137（Bq/L）
2018/7/11（稼働前）	ND	ND
2026/3/17～2026/8/18（貯蔵中）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/L]の基準：セシウム134の濃度／60＋セシウム137の濃度／90≦1

※本工区の浸出水処理施設は2025年4月以降、稼働停止中。
浸出水処理は土壌貯蔵施設（大熊②工区）の浸出水処理施設において実施。

土壌貯蔵施設（大熊②工区）のモニタリング測定地点（月次測定等）＜貯蔵中＞①

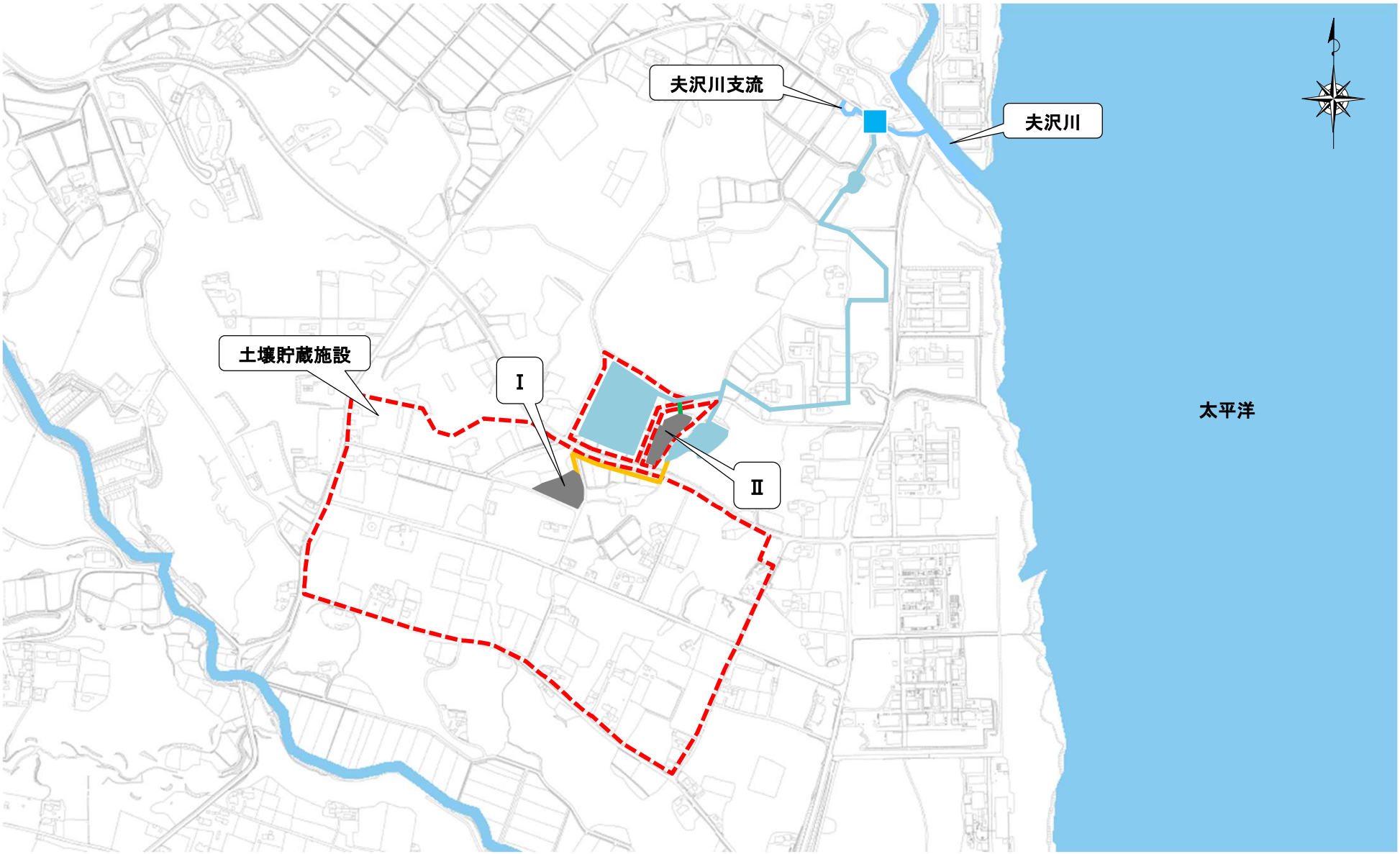




【 凡例 】

- ◆:地下水（井戸）中の電気伝導率等、放射能濃度
- ●:地下水（集排水設備）中の放射能濃度
- ◆:浸出水処理施設放流水の放射能濃度等
- ■:放流先河川の放射能濃度
- ★:粉じん濃度
- ★:空間線量率（作業環境）
- ★:空気中の放射能濃度
- ★:表面汚染密度（床）
- ★:表面汚染密度（壁）
- ★:表面汚染密度（設備）
- ―― :敷地境界線

土壌貯蔵施設（大熊②工区）のモニタリング測定地点（月次測定等）＜貯蔵中＞②



土壌貯蔵施設（大熊②工区）のモニタリング測定結果（月次測定等）

◆地下水（井戸）中の電気伝導率等

測定地点	測定日＼測定項目	電気伝導率（mS/m）	塩化物イオン濃度（mg/L）
上流	2018/7/10（稼働前）	13	13
	2026/3/10～2026/8/4（貯蔵中）	13	15
下流①	2018/7/11（稼働前）	23	13
	2026/3/10～2026/8/4（貯蔵中）	28	16
下流②	2018/7/10（稼働前）	17	5.7
	2026/3/10～2026/8/4（貯蔵中）	22	8.9
下流③	2017/10/11（稼働前）	19	6.5
	2026/3/10～2026/8/4（貯蔵中）	53	25

※期間中の最大値を示す。

◆地下水（井戸）中の放射能濃度

測定地点	測定日＼測定項目	Cs-134（Bq/L）	Cs-137（Bq/L）
上流	2018/7/10（稼働前）	ND	ND
	2026/3/10～2026/8/4（貯蔵中）	ND	ND
下流①	2018/7/11（稼働前）	ND	ND
	2026/3/10～2026/8/4（貯蔵中）	ND	ND
下流②	2018/7/10（稼働前）	ND	ND
	2026/3/10～2026/8/4（貯蔵中）	ND	ND
下流③	2017/10/11（稼働前）	ND	ND
	2026/3/10～2026/8/4（貯蔵中）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

●地下水（集排水設備）中の放射能濃度

測定地点	測定日＼測定項目	Cs-134（Bq/L）	Cs-137（Bq/L）
集排水設備①	2018/7/5（稼働前）	ND	ND
	2026/3/24～2026/8/24（貯蔵中）	ND	ND
集排水設備②	2018/10/15（稼働前）	ND	ND
	2026/3/24～2026/8/24（貯蔵中）	ND	ND
集排水設備③	2019/6/26（稼働前）	ND	ND
	2026/3/24～2026/8/24（貯蔵中）	ND	ND
集排水設備④	2017/10/5（稼働前）	ND	ND
	2026/3/24～2026/8/24（貯蔵中）	ND	ND
集排水設備⑤	2020/5/28（稼働前）	ND	ND
	2026/3/24～2026/8/24（貯蔵中）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

◆浸出水処理施設放流水の環境項目

測定地点	測定日＼測定項目	水素イオン濃度（pH）		生物化学的酸素要求量（BOD）（mg/L）	化学的酸素要求量（COD）（mg/L）	浮遊物質量（SS）（mg/L）
		最小値	最大値			
処理水Ⅰ	2026/3/3～2026/8/5	7.9	8.3	0.8～2.5	6.6～20	ND
処理水Ⅱ	2026/3/4～2026/8/4	7.9	8.1	1.3～2.6	14～21	ND～2

pH基準：5.8～8.6，BOD基準：60mg/L，COD管理値：90mg/L，SS基準：60mg/L
浮遊物質量（SS）のNDとは、報告下限値（1mg/L）未満であることを示す。

◆浸出水処理施設放流水の放射能濃度（週次測定）

測定地点	測定日＼測定項目	Cs-134（Bq/L）	Cs-137（Bq/L）
処理水Ⅰ	2026/3/3～2026/8/20	ND	ND
処理水Ⅱ	2026/3/4～2026/8/26	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。
※放流水の放射能濃度測定(週次測定)は、浸出水処理を行った週に実施。

◆浸出水処理施設放流水の自動測定結果

測定地点	放流日	放流回数	濁度		放射性セシウム（Bq/L）	放流量（m^3）
			最小値	最大値		
処理水Ⅰ	2026/3/2～2026/8/20	57	0.1	1.0	ND	1688.5
処理水Ⅱ	2026/3/4～2026/8/26	272	0.1	2.9	ND	8379.4

濁度管理値：5以下
放射性セシウム管理値：ND
NDとは、検出下限値（5.85Bq/L）未満であることを示す。

■放流先河川の放射能濃度

測定日＼測定項目	Cs-134（Bq/L）	Cs-137（Bq/L）
2018/7/10（稼働前）	ND	5.0
2026/3/10～2026/8/4（貯蔵中）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/L]の基準：セシウム134の濃度／60＋セシウム137の濃度／90≦1

★粉じん濃度

測定地点	2026/3/12～2026/8/7 粉じん濃度（mg/m^3）
フィルタープレステントⅠ	3.2
フィルタープレステントⅡ	5.2

定量下限値：0.1mg/m^3、高濃度粉じんの下限値：10mg/m^3
※期間中の最大値を示す。

★空間線量率（作業環境）

測定地点	2026/3/12～2026/8/7 空間線量率（μSv/h）	
	最小値	最大値
フィルタープレステントⅠ	0.13	0.15
フィルタープレステントⅡ	0.51	0.57

★空気中の放射能濃度

測定地点	2026/3/12～8/7	
	Cs-134（Bq/cm^3）	Cs-137（Bq/cm^3）
フィルタープレステントⅠ	ND	ND
フィルタープレステントⅡ	ND	ND

放射能濃度検出下限値：セシウム134：$1.0\times10^{-7}Bq/cm^3$、セシウム137：$1.0\times10^{-7}Bq/cm^3$
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/cm^3]の限度：セシウム134の濃度／2×10^{-3}+セシウム137の濃度／3×10^{-3}≦1

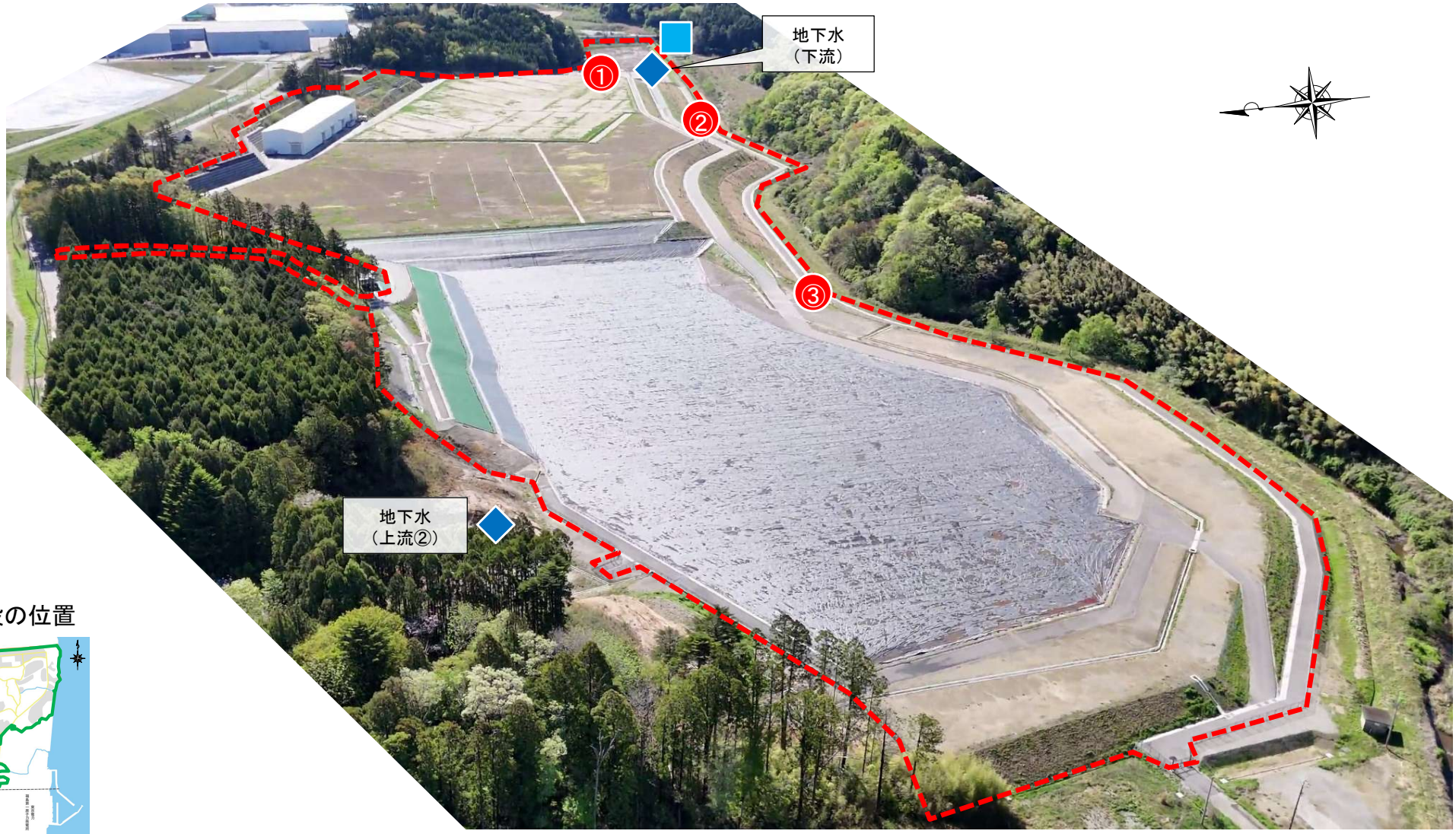
表面汚染密度（★床、★壁、★設備）

測定地点			2026/3/12～2026/8/7 表面汚染密度（Bq/cm^2）
フィルタープレステントⅠ	床	Ⅰ-①	ND
	壁	Ⅰ-①	ND
		Ⅰ-②	ND
		Ⅰ-③	ND
		Ⅰ-④	ND
	設備	フィルタープレスⅠ	ND
フィルタープレステントⅡ	床	①	ND
	壁	①	ND
		②	ND
		③	ND
		④	ND
	設備	フィルタープレスⅡ	ND

表面汚染密度検出下限値：0.26～0.30Bq/cm^2
NDとは、表面汚染密度が検出下限値未満であることを示す。
限度：40Bq/cm^2

※2025年4月以降、下記の土壌貯蔵施設の浸出水処理施設が稼働停止中のため、浸出水処理は本工区の浸出水処理施設において実施。
・大熊①工区
・大熊③工区
・双葉②工区

土壌貯蔵施設（大熊③工区）のモニタリング測定地点（月次測定）＜貯蔵中＞



☆：施設の位置



【 凡例 】

- ◆：地下水（井戸）中の電気伝導率等、放射能濃度
- ■：放流先河川の放射能濃度
- ●：地下水（集排水設備）中の放射能濃度
- ---：敷地境界線

土壌貯蔵施設（大熊③工区）のモニタリング測定結果（月次測定）

◆地下水（井戸）中の電気伝導率等

測定地点	測定項目 / 測定日	電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)
上流②	2021/6/3 （稼働前）	17	13
	2026/3/10 ～2026/8/4 （貯蔵中）	18	18
下流	2018/9/25 （稼働前）	90	130
	2026/3/10 ～2026/8/10 （貯蔵中）	120	110

※期間中の最大値を示す。

◆地下水（井戸）中の放射能濃度

測定地点	測定項目 / 測定日	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
上流②	2021/6/3 （稼働前）	ND	ND
	2026/3/10 ～2026/8/4 （貯蔵中）	ND	ND
下流	2018/9/25 （稼働前）	ND	ND
	2026/3/10 ～2026/8/10 （貯蔵中）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L

NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

●地下水（集排水設備）中の放射能濃度

測定地点	測定項目 / 測定日	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
集排水設備①	2020/2/10 （稼働前）	ND	ND
	2026/3/24 ～2026/8/24 （貯蔵中）	ND	ND
集排水設備②	2018/9/27 （稼働前）	ND	ND
	2026/3/24 ～2026/8/24 （貯蔵中）	ND	ND
集排水設備③	2021/10/8 （稼働前）	ND	ND
	2026/3/24 ～2026/8/24 （貯蔵中）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L

NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

■放流先河川の放射能濃度

測定項目 / 測定日	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
2018/9/18 （稼働前）	ND	1.2
2026/3/10 ～2026/8/4 （貯蔵中）	ND	ND

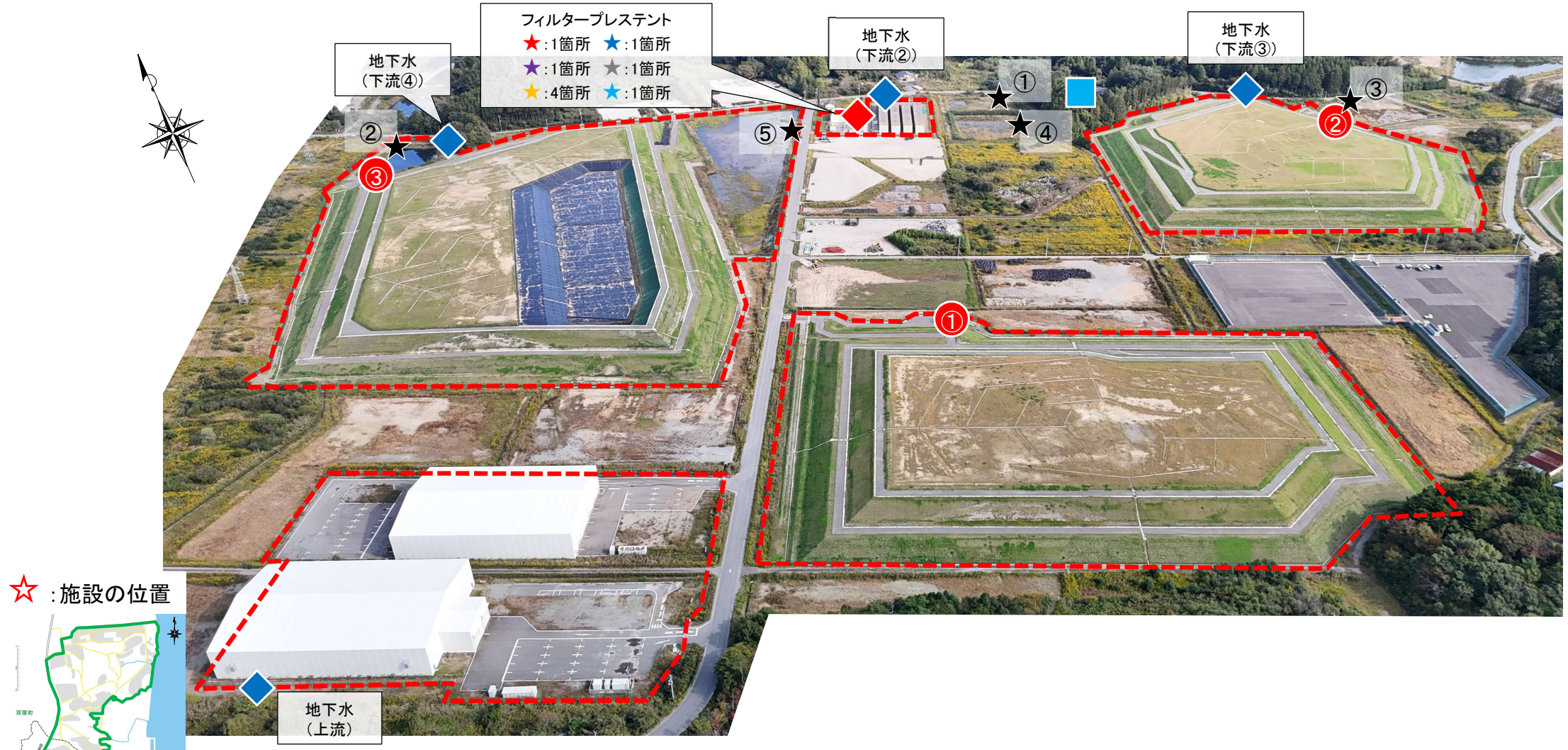
放射能濃度検出下限値：1Bq/L

NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

放射能濃度[Bq/L]の基準：セシウム134の濃度／60＋セシウム137の濃度／90≦1

※本工区の浸出水処理施設は2025年4月以降、稼働停止中。
浸出水処理は土壌貯蔵施設（大熊②工区）の浸出水処理施設において実施。

土壌貯蔵施設（大熊④工区）のモニタリング測定地点（月次測定等）＜貯蔵中＞



☆ :施設の位置



【 凡例 】

- ◆:地下水（井戸）中の電気伝導率等、放射能濃度
- ●:地下水（集排水設備）中の放射能濃度
- ◆:浸出水処理施設放流水の放射能濃度等
- ★: 沈砂池からの放流水の浮遊物質量
- ■:放流先河川の放射能濃度
- ★:粉じん濃度
- ★:空間線量率（作業環境）
- ★:空気中の放射能濃度
- ★:表面汚染密度（床）
- ★:表面汚染密度（壁）
- ★:表面汚染密度（設備）
- ーー:敷地境界線

土壌貯蔵施設（大熊④工区）のモニタリング測定結果（月次測定等）

◆地下水（井戸）中の電気伝導率等

測定地点	測定項目 / 測定日		電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)
上流	2020/3/12	（稼働前）	37	17
	2026/3/3 ～2026/8/18	（貯蔵中）	42	23
下流②	2020/3/12	（稼働前）	57	12
	2026/3/3 ～2026/8/18	（貯蔵中）	37	23
下流③	2020/3/12	（稼働前）	24	21
	2026/3/3 ～2026/8/18	（貯蔵中）	180	26
下流④	2020/9/3	（稼働前）	110	13
	2026/3/5 ～2026/8/18	（貯蔵中）	60	21

※期間中の最大値を示す。

◆地下水（井戸）中の放射能濃度

測定地点	測定項目 / 測定日		Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
上流	2020/3/12	（稼働前）	ND	ND
	2026/3/3 ～2026/8/18	（貯蔵中）	ND	ND
下流②	2020/3/12	（稼働前）	ND	ND
	2026/3/3 ～2026/8/18	（貯蔵中）	ND	ND
下流③	2020/3/12	（稼働前）	ND	ND
	2026/3/3 ～2026/8/18	（貯蔵中）	ND	ND
下流④	2020/9/3	（稼働前）	ND	ND
	2026/3/5 ～2026/8/18	（貯蔵中）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

●地下水（集排水設備）中の放射能濃度

測定地点	測定項目 / 測定日		Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
集排水設備①	2020/3/24	（稼働前）	ND	ND
	2026/3/24 ～2026/8/24	（貯蔵中）	ND	ND
集排水設備②	2020/4/15	（稼働前）	ND	ND
	2026/3/24 ～2026/8/24	（貯蔵中）	ND	ND
集排水設備③	2020/11/17	（稼働前）	ND	ND
	2026/3/24 ～2026/8/24	（貯蔵中）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

◆浸出水処理施設放流水の環境項目

測定項目 / 測定日	水素イオン濃度 (pH) 最小値	水素イオン濃度 (pH) 最大値	生物化学的酸素要求量 (BOD) (mg/L)	化学的酸素要求量 (COD) (mg/L)	浮遊物質量 (SS) (mg/L)
2026/3/3 ～2026/8/4	7.9	8.2	1.0～11	12～35	ND～2

pH基準：5.8～8.6，BOD基準：60mg/L，COD管理値：90mg/L，SS基準：60mg/L
浮遊物質量（SS）のNDとは、報告下限値（1mg/L）未満であることを示す。

◆浸出水処理施設放流水の放射能濃度（週次測定）

測定項目 / 測定日	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
2026/3/3 ～2026/8/25	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。
※放流水の放射能濃度測定(週次測定)は、浸出水処理を行った週に実施。

◆浸出水処理施設放流水の自動測定結果

放流日	放流回数	濁度 最小値	濁度 最大値	放射性セシウム (Bq/L)	放流量 (m^3)
2026/3/2 ～2026/8/31	1120	0.0	3.5	ND	30401.2

濁度管理値：5以下
放射性セシウム管理値：ND
NDとは、検出下限値（5.85Bq/L）未満であることを示す。

★沈砂池からの放流水の浮遊物質量

測定地点	測定項目 / 測定日	浮遊物質量 (SS) (mg/L)
沈砂池①	2026/3/24 ～2026/8/18	2.8
沈砂池②	2026/3/24 ～2026/8/18	3.6
沈砂池③	2026/3/24 ～2026/8/18	2.2
沈砂池④	2026/3/24 ～2026/8/18	2.6
沈砂池⑤	2026/3/24 ～2026/8/18	1.4

SS基準：60mg/L
浮遊物質量（SS）の報告下限値：1mg/L
※ 期間中の最大値を示す。

■放流先河川の放射能濃度

測定項目 / 測定日		Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
2020/3/12	（稼働前）	ND	ND
2026/3/3 ～2026/8/18	（貯蔵中）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/L]の基準：セシウム134の濃度／60＋セシウム137の濃度／90≦1

★粉じん濃度

測定地点	2026/3/12 ～2026/8/7 粉じん濃度 (mg/m^3)
フィルタープレステント	4.2

定量下限値：0.1mg/m^3、高濃度粉じんの下限値：10mg/m^3
※期間中の最大値を示す。

★空間線量率（作業環境）

測定地点	2026/3/12 ～2026/8/7 空間線量率 (μSv/h) 最小値	空間線量率 (μSv/h) 最大値
フィルタープレステント	0.25	0.35

★空気中の放射能濃度

測定地点	2026/3/12～8/7 Cs-134 (Bq/cm^3)	2026/3/12～8/7 Cs-137 (Bq/cm^3)
フィルタープレステント	ND	ND

放射能濃度検出下限値：セシウム134：1.0×10^{-7}Bq/cm^3、セシウム137：1.0×10^{-7}Bq/cm^3
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/cm^3]の限度：セシウム134の濃度／2×10^{-3}+セシウム137の濃度／3×10^{-3}≦1

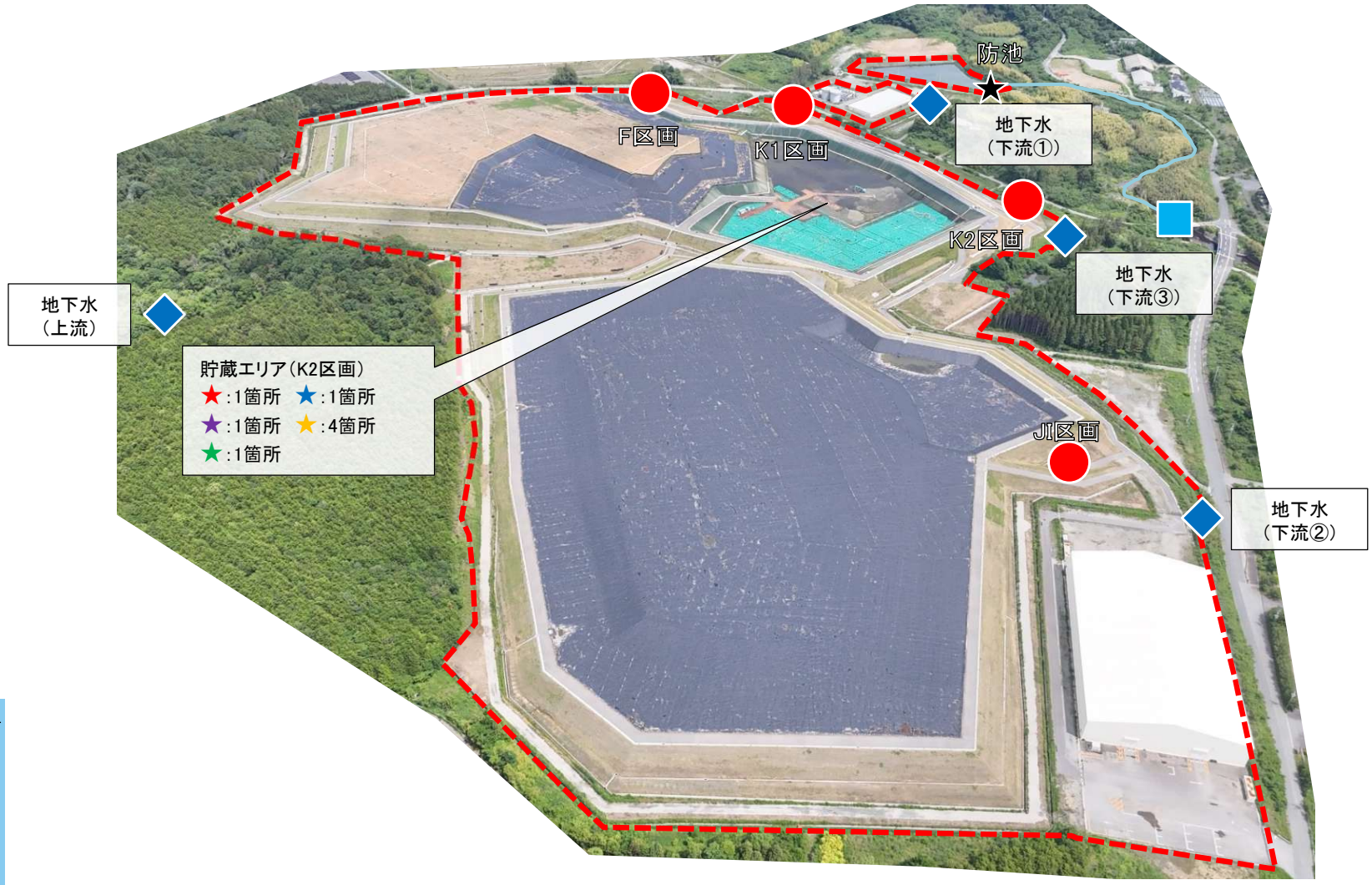
表面汚染密度（★床、★壁、★設備）

測定地点			2026/3/12 ～2026/8/7 表面汚染密度 (Bq/cm^2)
フィルタープレステント	床	①	ND
	壁	①	ND
		②	ND
		③	ND
		④	ND
	設備	フィルタープレス	ND

表面汚染密度検出下限値：0.28～0.32Bq/cm^2
NDとは、表面汚染密度が検出下限値未満であることを示す。
限度：40Bq/cm^2

※2025年4月以降、下記の土壌貯蔵施設の浸出水処理施設が稼働停止中のため、浸出水処理は本工区の浸出水処理施設において実施。
・大熊⑤工区
・双葉①工区西側
・双葉③工区

土壌貯蔵施設（大熊⑤工区）のモニタリング測定地点（月次測定等）



☆：施設の位置



【 凡例 】

- ◆：地下水（井戸）中の電気伝導率等、放射能濃度
- ●：地下水（集排水設備）中の放射能濃度
- ★：沈砂池からの放流水の浮遊物質量
- ■：放流先河川の放射能濃度
- ★：粉じん濃度
- ★：空間線量率（作業環境）
- ★：空気中の放射能濃度
- ★：表面汚染密度（壁）
- ★：表面汚染密度（重機）
- ―― ：敷地境界線

土壌貯蔵施設（大熊⑤工区）のモニタリング測定結果（月次測定等）

◆地下水（井戸）中の電気伝導率等

測定地点	測定日＼測定項目	電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)
上流	2019/4/18 （稼働前）	21	11
	2026/3/3 ～2026/8/4 （稼働後）	12	15
下流①	2019/4/18 （稼働前）	33	14
	2026/3/3 ～2026/8/4 （稼働後）	52	32
下流②	2020/7/31 （稼働前）	29	21
	2026/3/3 ～2026/8/4 （稼働後）	33	21
下流③	2024/4/12 （稼働前）	34	16
	2026/3/3 ～2026/8/4 （稼働後）	120	24

※期間中の最大値を示す。

◆地下水（井戸）中の放射能濃度（週次測定）

測定地点	測定日＼測定項目	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
上流	2019/4/18 （稼働前）	ND	ND
	2026/3/3 ～2026/8/27 （稼働後）	ND	ND
下流①	2019/4/18 （稼働前）	ND	ND
	2026/3/3 ～2026/8/27 （稼働後）	ND	ND
下流②	2020/8/6 （稼働前）	ND	ND
	2026/3/3 ～2026/8/27 （稼働後）	ND	ND
下流③	2024/4/12 （稼働前）	ND	ND
	2026/3/3 ～2026/8/27 （稼働後）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

●地下水（集排水設備）中の放射能濃度

測定地点	測定日＼測定項目	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
貯蔵エリア（F区画）	2019/4/18 （稼働前）	ND	ND
	2026/3/24 ～2026/8/24 （稼働後）	ND	ND
貯蔵エリア（K1区画）	2019/11/28 （稼働前）	ND	ND
	2026/3/24 ～2026/8/24 （稼働後）	ND	ND
貯蔵エリア（J1区画）	2020/8/18 （稼働前）	ND	ND
	2026/3/24 ～2026/8/24 （稼働後）	ND	ND
貯蔵エリア（K2区画）	2024/4/17 （稼働前）	ND	ND
	2026/3/24 ～2026/8/24 （稼働後）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

★沈砂池からの放流水の浮遊物質量

測定地点	測定日＼測定項目	浮遊物質量 (SS) (mg/L)
沈砂池（防池）	2026/3/3 ～2026/8/4	2.0

SS基準：60mg/L
浮遊物質量（SS）の報告下限値：1mg/L
※ 期間中の最大値を示す。

■放流先河川の放射能濃度

測定日＼測定項目	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
2020/12/22 （稼働前）※	ND	ND
2026/3/3 ～2026/8/4 （稼働後）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/L]の基準：セシウム134の濃度／60＋セシウム137の濃度／90≦1
※放流水の流路変更により2021年1月に観測地点を変更した。

★粉じん濃度

測定地点	2026/3/13 ～2026/8/5 粉じん濃度 (mg/m³)
貯蔵エリア（K2区画）	5.7

定量下限値：0.1mg/m³、高濃度粉じんの下限値：10mg/m³
※期間中の最大値を示す。

★空間線量率（作業環境）

測定地点	2026/3/13 ～2026/8/5 空間線量率 (μSv/h) 最小値	最大値
貯蔵エリア（K2区画）	0.57	0.90

★空気中の放射能濃度

測定地点	2026/3/13～8/5 Cs-134 (Bq/cm³)	Cs-137 (Bq/cm³)
貯蔵エリア（K2区画）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：セシウム134：1.0×10^{-7}Bq/cm³、セシウム137：1.0×10^{-7}Bq/cm³
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/cm³]の限度：セシウム134の濃度／2×10^{-3}+セシウム137の濃度／3×10^{-3}≦1

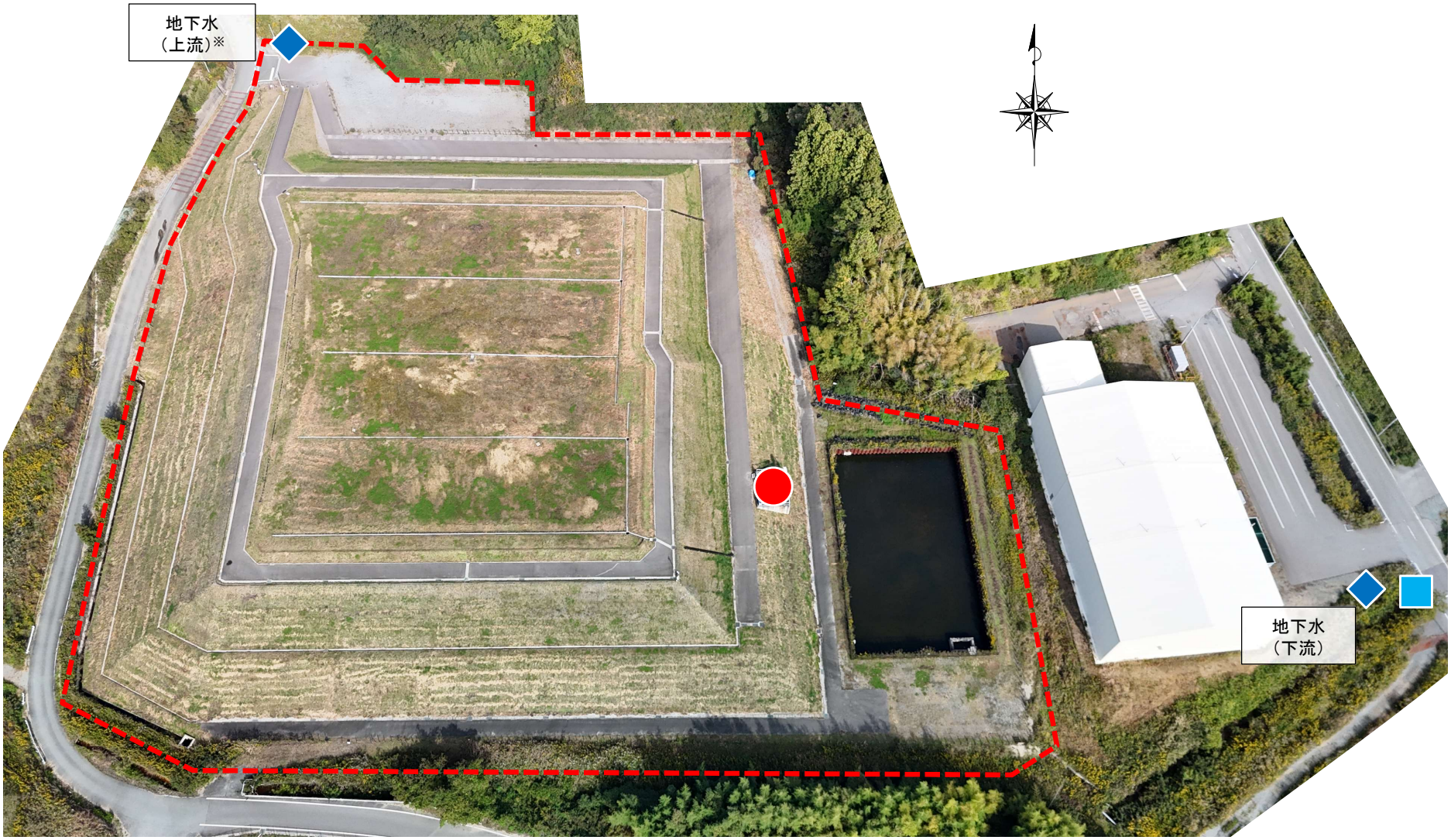
表面汚染密度（★壁、★重機）

測定地点			2026/3/13 ～2026/8/28 表面汚染密度 (Bq/cm²)
貯蔵エリア（K2区画）	壁	東側	ND
		西側	ND
		南側	ND
		北側	ND
	重機	バックホウ	ND

表面汚染密度検出下限値：0.31～0.34Bq/cm²
NDとは、表面汚染密度が検出下限値未満であることを示す。
限度：40Bq/cm²

※本工区の浸出水処理施設は2025年4月以降、稼働停止中。
浸出水処理は土壌貯蔵施設（大熊④工区）の浸出水処理施設において実施。

土壌貯蔵施設（双葉①工区東側）のモニタリング測定地点（月次測定）＜貯蔵中＞



☆：施設の位置



【 凡例 】

- ◆：地下水（井戸）中の電気伝導率等、放射能濃度
- ●：地下水（集排水設備）中の放射能濃度
- ■：放流先河川の放射能濃度
- ----：敷地境界線

※敷地境界の変更に伴い従前の上流井戸を移設し、2021年4月より現地点での測定を開始。

土壌貯蔵施設（双葉①工区東側）のモニタリング測定結果（月次測定）

◆地下水（井戸）中の電気伝導率等

測定地点	測定項目 / 測定日	電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)
上流	2021/4/7 （井戸移設後）	91	44
	2026/3/5 ～2026/8/21 （貯蔵中）	65	53
下流	2017/11/23 （稼働前）	17	9.4
	2026/3/5 ～2026/8/21 （貯蔵中）	21	12

※期間中の最大値を示す。

●地下水（集排水設備）中の放射能濃度

測定項目 / 測定日	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
2017/12/7 （稼働前）	ND	ND
2026/3/3 ～2026/8/6 （貯蔵中）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L

NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

◆地下水（井戸）中の放射能濃度

測定地点	測定項目 / 測定日	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
上流	2021/4/7 （井戸移設後）	ND	ND
	2026/3/5 ～2026/8/21 （貯蔵中）	ND	ND
下流	2017/11/23 （稼働前）	ND	ND
	2026/3/5 ～2026/8/21 （貯蔵中）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L

NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

■放流先河川の放射能濃度

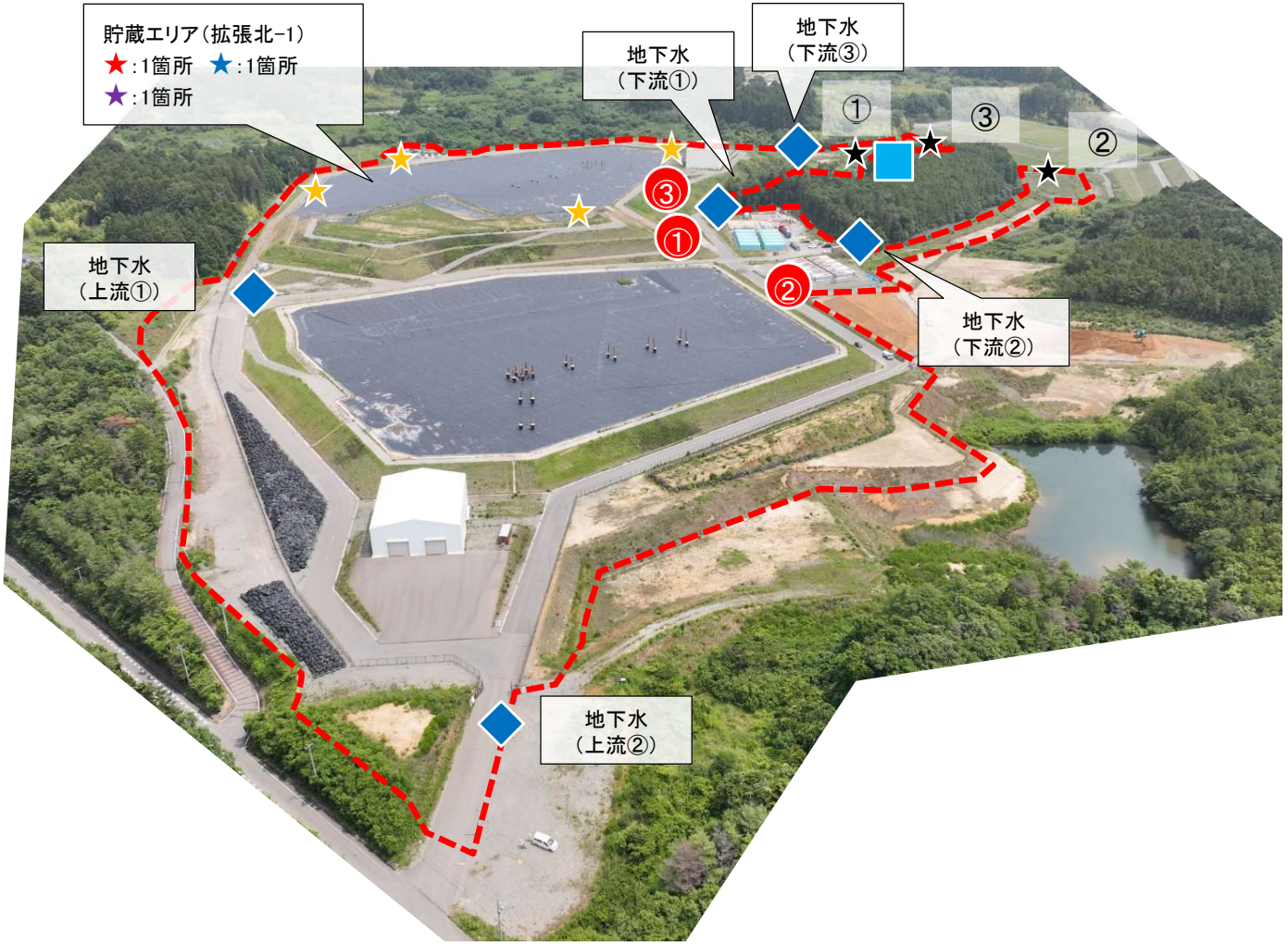
測定項目 / 測定日	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
2017/11/2 （稼働前）	ND	ND
2026/3/5 ～2026/8/21 （貯蔵中）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L

NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

放射能濃度[Bq/L]の基準：セシウム134の濃度／60＋セシウム137の濃度／90≦1

土壌貯蔵施設（双葉①工区西側）のモニタリング測定地点（月次測定等）



☆：施設の位置



【 凡例 】

- ◆：地下水（井戸）中の電気伝導率等、放射能濃度
- ■：放流先河川の放射能濃度
- ★：空気中の放射能濃度
- ●：地下水（集排水設備）中の放射能濃度
- ★：粉じん濃度
- ★：表面汚染密度（貯蔵エリア境界）
- ★：沈砂池からの放流水の浮遊物質量
- ★：空間線量率（作業環境）
- ―― ：敷地境界線

土壌貯蔵施設（双葉①工区西側）のモニタリング測定結果（月次測定等）

◆地下水（井戸）中の電気伝導率等

測定地点	測定日 ＼ 測定項目	電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)
上流①	2018/9/10 （稼働前）	100	6.8
	2026/3/12 （貯蔵中） ～2026/8/6 （稼働後）	150	42
上流②	2020/3/25 （稼働前）	19	13
	2026/3/12 （貯蔵中） ～2026/8/6 （稼働後）	67	140
下流①	2018/9/10 （稼働前）	19	11
	2026/3/12 （貯蔵中） ～2026/8/6 （稼働後）	27	16
下流②	2020/3/25 （稼働前）	83	9.6
	2026/3/12 （貯蔵中） ～2026/8/6 （稼働後）	21	11
下流③	2021/10/27 （稼働前）	34	7.2
	2026/3/12 （貯蔵中） ～2026/8/6 （稼働後）	350	21

※期間中の最大値を示す。

◆地下水（井戸）中の放射能濃度（週次測定）

測定地点	測定日 ＼ 測定項目	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
上流①	2018/9/10 （稼働前）	ND	ND
	2026/3/12 （貯蔵中） ～2026/8/27 （稼働後）	ND	ND
上流②	2020/3/25 （稼働前）	ND	ND
	2026/3/12 （貯蔵中） ～2026/8/27 （稼働後）	ND	ND
下流①	2018/9/10 （稼働前）	ND	ND
	2026/3/12 （貯蔵中） ～2026/8/27 （稼働後）	ND	ND
下流②	2020/3/25 （稼働前）	ND	ND
	2026/3/12 （貯蔵中） ～2026/8/27 （稼働後）	ND	ND
下流③	2021/11/2 （稼働前）	ND	ND
	2026/3/12 （貯蔵中） ～2026/8/27 （稼働後）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

●地下水（集排水設備）中の放射能濃度

測定地点	測定日 ＼ 測定項目	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
集排水設備①	2018/9/10 （稼働前）	ND	ND
	2026/3/3 （貯蔵中） ～2026/8/6 （稼働後）	ND	ND
集排水設備②	2020/3/31 （稼働前）	ND	ND
	2026/3/3 （貯蔵中） ～2026/8/6 （稼働後）	ND	ND
集排水設備③	2022/1/11 （稼働前）	ND	ND
	2026/3/3 （貯蔵中） ～2026/8/6 （稼働後）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

★沈砂池からの放流水の浮遊物質量

測定地点	測定日 ＼ 測定項目	浮遊物質量 (SS) (mg/L)
沈砂池①	2026/7/16 ～2026/8/6	7.9
沈砂池②	2026/7/16 ～2026/8/6	1.4
沈砂池③	2026/7/16 ～2026/8/6	1.8

SS基準：60mg/L
浮遊物質量（SS）の報告下限値：1mg/L
※ 期間中の最大値を示す。

■放流先河川の放射能濃度

測定日 ＼ 測定項目	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
2018/9/3 （稼働前）	ND	ND
2026/3/12 （貯蔵中） ～2026/8/6 （稼働後）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/L]の基準：セシウム134の濃度／60＋セシウム137の濃度／90≦1

★粉じん濃度

測定地点	2026/7/31 ～2026/8/26 粉じん濃度 (mg/m³)
貯蔵エリア（拡張北-1）	2.1

定量下限値：0.1mg/m³、高濃度粉じんの下限値：10mg/m³
※期間中の最大値を示す。

★空間線量率（作業環境）

測定地点	2026/7/22 ～2026/8/26 空間線量率 (μSv/h) 最小値	最大値
貯蔵エリア（拡張北-1）	0.51	0.69

★空気中の放射能濃度

測定地点	2026/7/24～8/26 Cs-134 (Bq/cm³)	Cs-137 (Bq/cm³)
貯蔵エリア（拡張北-1）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：セシウム134：1.0×10^{-7}Bq/cm³、セシウム137：1.0×10^{-7}Bq/cm³
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/cm³]の限度：セシウム134の濃度／2×10^{-3}+セシウム137の濃度／3×10^{-3}≦1

表面汚染密度（★貯蔵エリア境界）

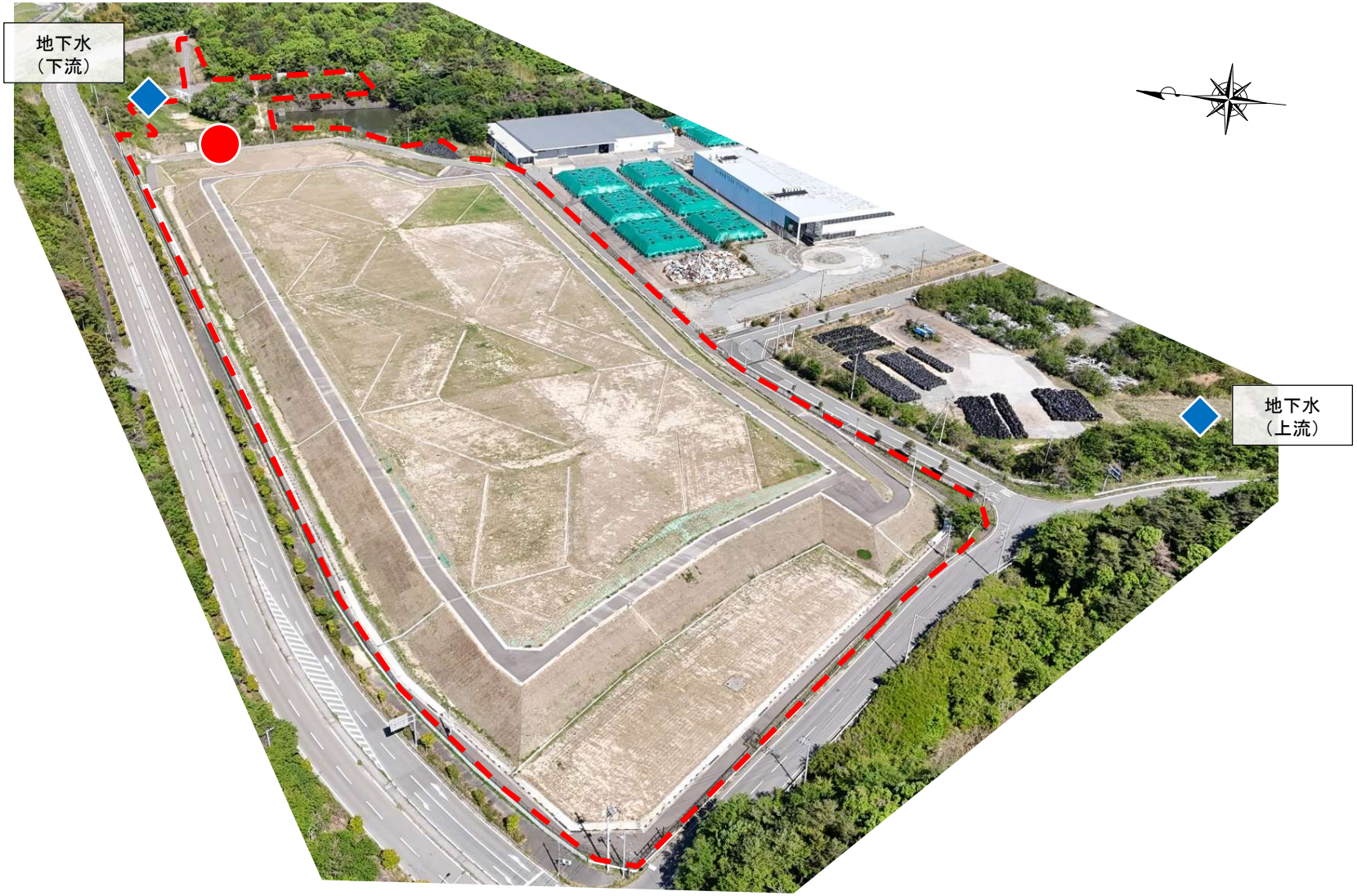
測定地点			2026/7/22 ～2026/8/26 表面汚染密度 (Bq/cm²)
貯蔵エリア（拡張北-1）	境界	東側	ND
		西側	ND
		南側	ND
		北側	ND

表面汚染密度検出下限値：0.37～0.38Bq/cm²
NDとは、表面汚染密度が検出下限値未満であることを示す。
限度：40Bq/cm²

※本工区の浸出水処理施設は2025年4月以降、稼働停止中。
浸出水処理は土壌貯蔵施設（大熊④工区）の浸出水処理施設において実施。

土壌貯蔵施設（双葉②工区）のモニタリング測定地点（月次測定）＜貯蔵中＞①

19頁参照



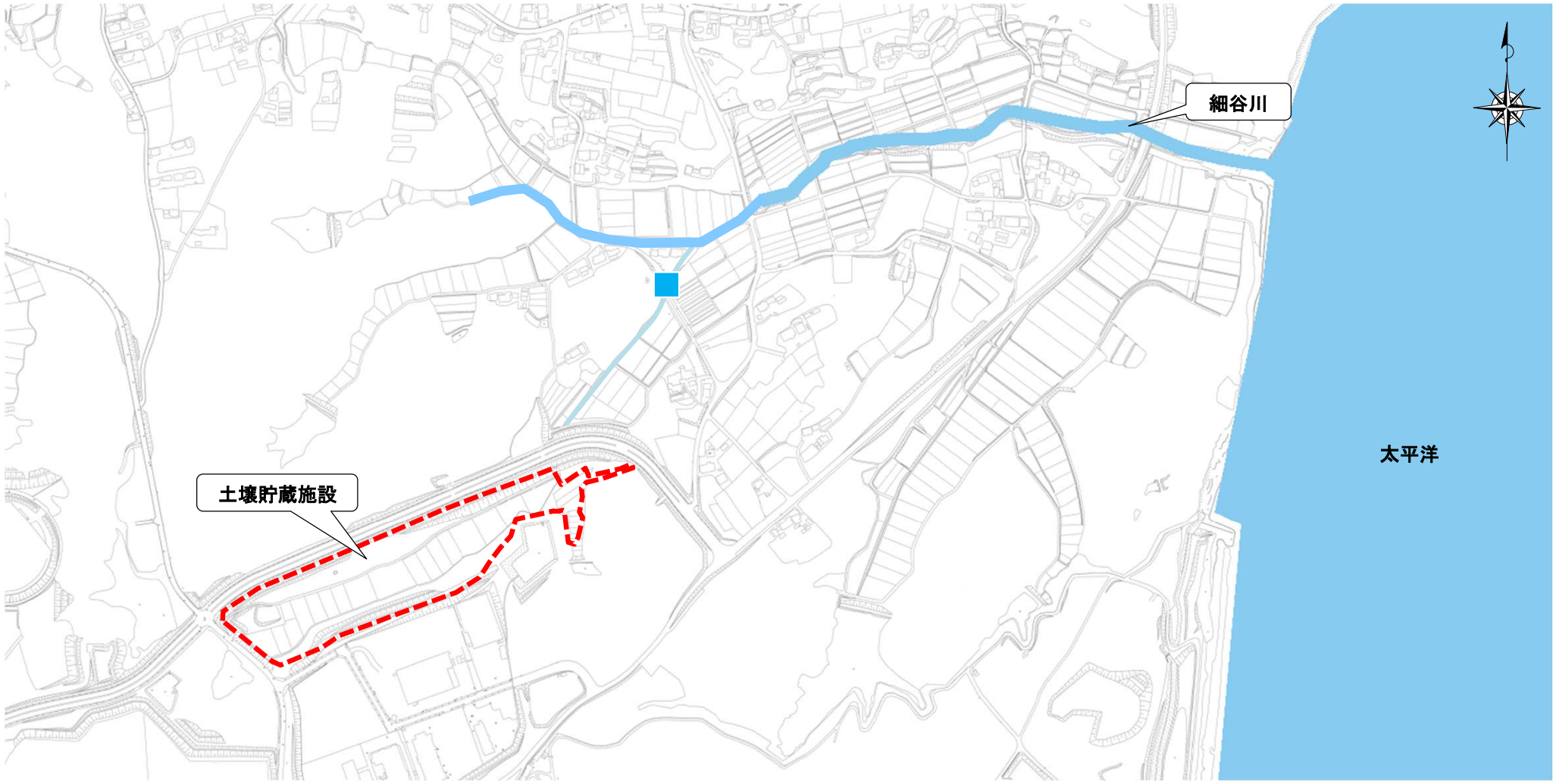
☆：施設の位置



【 凡例 】

- ◆：地下水（井戸）中の電気伝導率等、放射能濃度
- ■：放流先河川の放射能濃度
- ●：地下水（集排水設備）中の放射能濃度
- ---：敷地境界線

土壌貯蔵施設（双葉②工区）のモニタリング測定地点（月次測定）＜貯蔵中＞ ②



【 凡例 】
■ :河川水観測地点　　---- :敷地境界線

土壌貯蔵施設（双葉②工区）のモニタリング測定結果（月次測定）

◆地下水（井戸）中の電気伝導率等

測定地点	測定日＼測定項目		電気伝導率（mS/m）	塩化物イオン濃度（mg/L）
上流	2019/5/8	（稼働前）	61	8.0
	2026/3/5～2026/8/21	（貯蔵中）	50	13
下流	2019/5/8	（稼働前）	18	10
	2026/3/5～2026/8/21	（貯蔵中）	26	15

※期間中の最大値を示す。

◆地下水（井戸）中の放射能濃度

測定地点	測定日＼測定項目		Cs-134（Bq/L）	Cs-137（Bq/L）
上流	2019/5/8	（稼働前）	ND	ND
	2026/3/5～2026/8/21	（貯蔵中）	ND	ND
下流	2019/5/8	（稼働前）	ND	ND
	2026/3/5～2026/8/21	（貯蔵中）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L

NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

●地下水（集排水設備）中の放射能濃度

測定日＼測定項目		Cs-134（Bq/L）	Cs-137（Bq/L）
2019/5/21	（稼働前）	ND	ND
2026/3/3～2026/8/6	（貯蔵中）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L

NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

■放流先河川の放射能濃度

測定日＼測定項目		Cs-134（Bq/L）	Cs-137（Bq/L）
2019/4/24	（稼働前）	ND	ND
2026/3/5～2026/8/21	（貯蔵中）	ND	ND

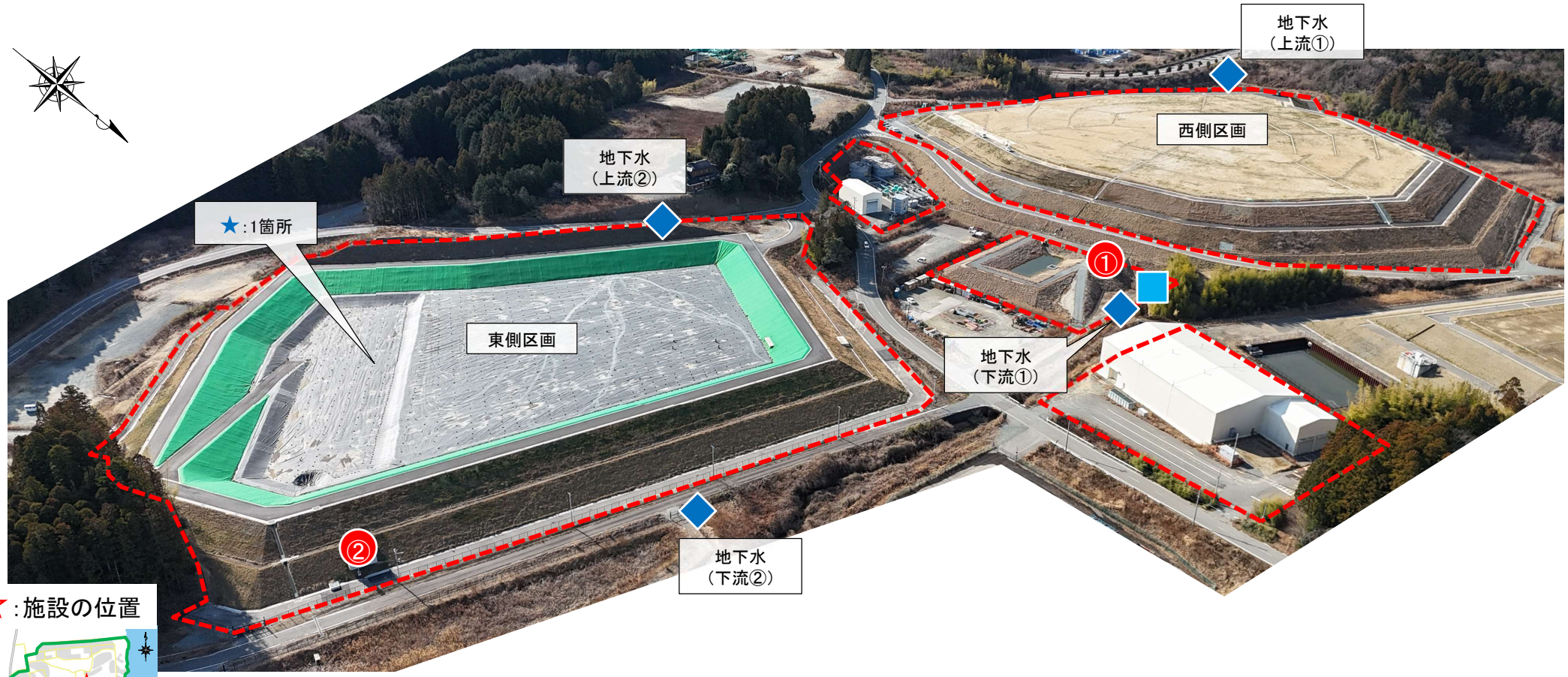
放射能濃度検出下限値：1Bq/L

NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

放射能濃度[Bq/L]の基準：セシウム134の濃度／60＋セシウム137の濃度／90≦1

※本工区の浸出水処理施設は2025年4月以降、稼働停止中。
浸出水処理は土壌貯蔵施設（大熊②工区）の浸出水処理施設において実施。

土壌貯蔵施設（双葉③工区）のモニタリング測定地点（月次測定）＜貯蔵中＞



☆：施設の位置



【 凡例 】

◆：地下水（井戸）中の電気伝導率等、放射能濃度

●：地下水（集排水設備）中の放射能濃度

■：放流先河川の放射能濃度

★：空間線量率（作業環境）

－－：敷地境界線

土壌貯蔵施設（双葉③工区）のモニタリング測定結果（月次測定）

◆地下水（井戸）中の電気伝導率等

測定地点	測定項目 / 測定日	電気伝導率（mS/m）	塩化物イオン濃度（mg/L）
上流①	2019/12/24 （稼働前）	18	8.1
	2026/3/5 ～2026/8/21 （貯蔵中）	33	12
上流②	2021/12/18 （稼働前）	20	14
	2026/3/5 ～2026/8/21 （貯蔵中）	25	20
下流①	2019/12/24 （稼働前）	22	7.8
	2026/3/9 ～2026/8/21 （貯蔵中）	25	14
下流②	2021/12/16 （稼働前）	49	52
	2026/3/5 ～2026/8/21 （貯蔵中）	48	42

※期間中の最大値を示す。

◆地下水（井戸）中の放射能濃度

測定地点	測定項目 / 測定日	Cs-134（Bq/L）	Cs-137（Bq/L）
上流①	2019/12/24 （稼働前）	ND	ND
	2026/3/5 ～2026/8/21 （貯蔵中）	ND	ND
上流②	2021/12/21 （稼働前）	ND	ND
	2026/3/5 ～2026/8/21 （貯蔵中）	ND	ND
下流①	2019/12/24 （稼働前）	ND	ND
	2026/3/9 ～2026/8/21 （貯蔵中）	ND	ND
下流②	2021/12/16 （稼働前）	ND	ND
	2026/3/5 ～2026/8/21 （貯蔵中）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

●地下水（集排水設備）中の放射能濃度

測定地点	測定項目 / 測定日	Cs-134（Bq/L）	Cs-137（Bq/L）
集排水設備①	2019/12/20 （稼働前）	ND	ND
	2026/3/3 ～2026/8/6 （貯蔵中）	ND	ND
集排水設備②	2021/12/16 （稼働前）	ND	ND
	2026/3/3 ～2026/8/6 （貯蔵中）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

■放流先河川の放射能濃度

測定項目 / 測定日	Cs-134（Bq/L）	Cs-137（Bq/L）
2019/12/17 （稼働前）	ND	ND
2026/3/5 ～2026/8/21 （貯蔵中）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/L]の基準：セシウム134の濃度／60＋セシウム137の濃度／90≦1

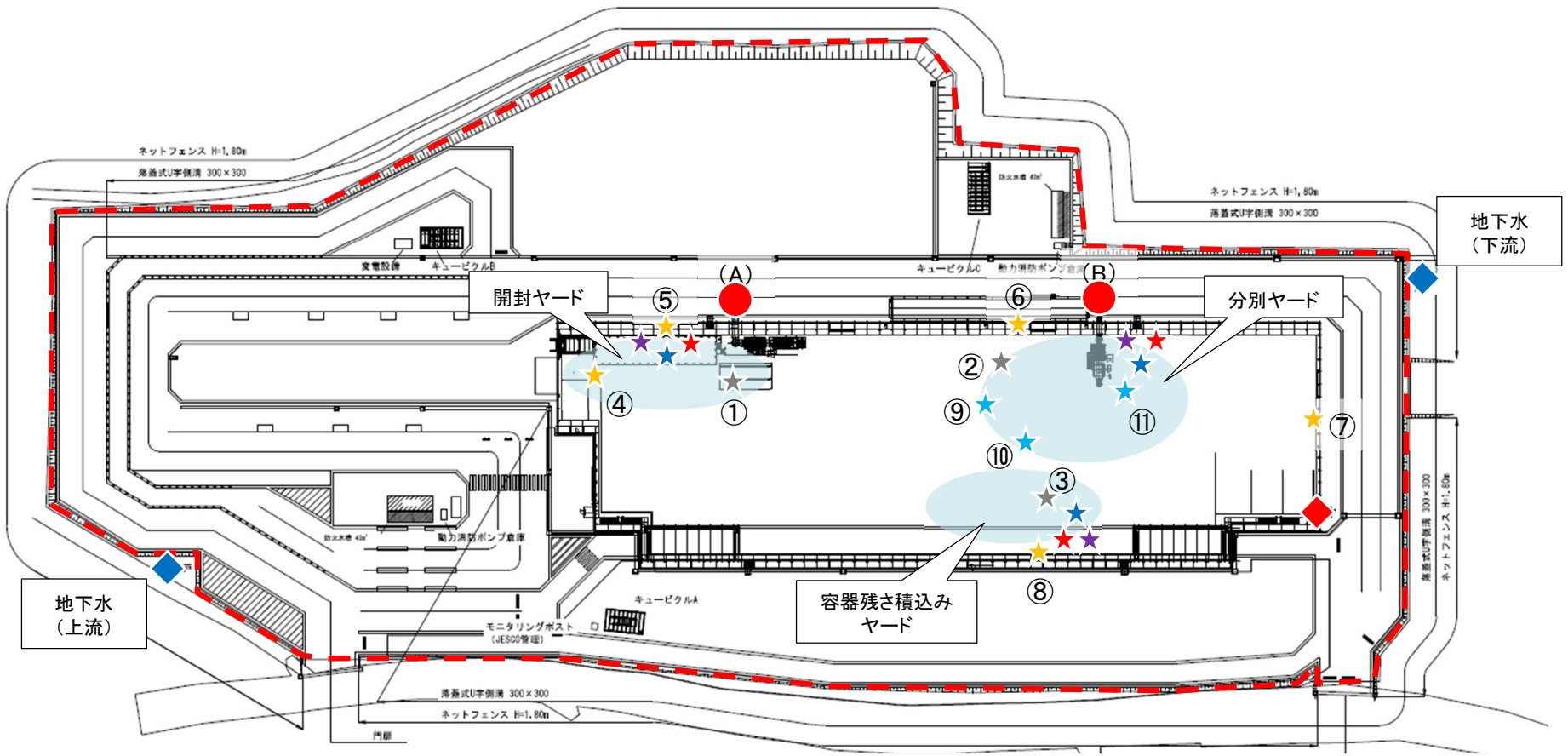
★空間線量率（作業環境）

測定地点	2026/3/6 ～2026/8/5 空間線量率（μSv/h）	
	最小値	最大値
東側区画	2.82	2.96

※本工区の浸出水処理施設は2025年4月以降、稼働停止中。
浸出水処理は土壌貯蔵施設（大熊④工区）の浸出水処理施設において実施。

中間貯蔵容器残さ分別処理施設のモニタリング結果（月次測定）

中間貯蔵容器残さ分別処理施設（東大和久容残分別テント）のモニタリング測定地点（月次測定）



★：施設の位置



【 凡例 】

- ◆：地下水中の放射能濃度等
- ●：排気中の放射能濃度
- ◆：排水中の放射能濃度
- ★：粉じん濃度
- ★：空間線量率（作業環境）
- ★：空気中の放射能濃度
- ★：表面汚染密度（床）
- ★：表面汚染密度（壁）
- ★：表面汚染密度（設備）
- ----：敷地境界線

中間貯蔵容器残さ分別処理施設（東大和久容残分別テント）のモニタリング測定結果（月次測定）

◆地下水中の放射能濃度等

測定地点	測定日＼測定項目		電気伝導率（mS/m）	塩化物イオン濃度（mg/L）
上流	2026/5/18	（稼働前）	42	10
	2026/6/2～2026/8/5	（稼働後）	38	12
下流	2026/5/18	（稼働前）	5.9	4.5
	2026/6/2～2026/8/5	（稼働後）	12	12

※期間中の最大値を示す。

測定地点	測定日＼測定項目		Cs-134（Bq/L）	Cs-137（Bq/L）
上流	2026/5/18	（稼働前）	ND	ND
	2026/6/2～2026/8/5	（稼働後）	ND	ND
下流	2026/5/18	（稼働前）	ND	ND
	2026/6/2～2026/8/5	（稼働後）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

●排気中の放射能濃度

測定地点		2026/6/2～8/5	
		Cs-134（Bq/m³N）	Cs-137（Bq/m³N）
集じん機A	円筒ろ紙	ND	ND
	ドレン部	ND	ND
集じん機B	円筒ろ紙	ND	ND
	ドレン部	ND	ND

放射能濃度検出下限値（ろ紙部）：セシウム134：0.1Bq/m³N、セシウム137：0.1Bq/m³N
放射能濃度検出下限値（ドレン部）：セシウム134：0.3Bq/m³N、セシウム137：0.3Bq/m³N
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

●排水中の放射能濃度

排水実績はないため測定なし。

★粉じん濃度

測定地点	2026/6/9～2026/8/6 粉じん濃度（mg/m³）
開封ヤード	ND
分別ヤード	ND
容器残さ積込ヤード	ND

定量下限値：0.1mg/m³、高濃度粉じんの下限値：10mg/m³
※期間中の最大値を示す。

★空間線量率（作業環境）

測定地点	2026/6/9～2026/8/6 空間線量率（μSv/h）	
	最小値	最大値
開封ヤード	0.13	0.14
分別ヤード	0.12	0.15
容器残さ積込ヤード	0.13	0.14

★空気中の放射能濃度

測定地点	2026/6/9～8/6	
	Cs-134（Bq/cm³）	Cs-137（Bq/cm³）
開封ヤード	ND	ND
分別ヤード	ND	ND
容器残さ積込ヤード	ND	ND

放射能濃度検出下限値：セシウム134：2.0×10^{-8}Bq/cm³、セシウム137：2.0×10^{-8}Bq/cm³
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/cm³]の限度：セシウム134の濃度／2×10^{-3}+セシウム137の濃度／$3\times10^{-3}\leqq1$

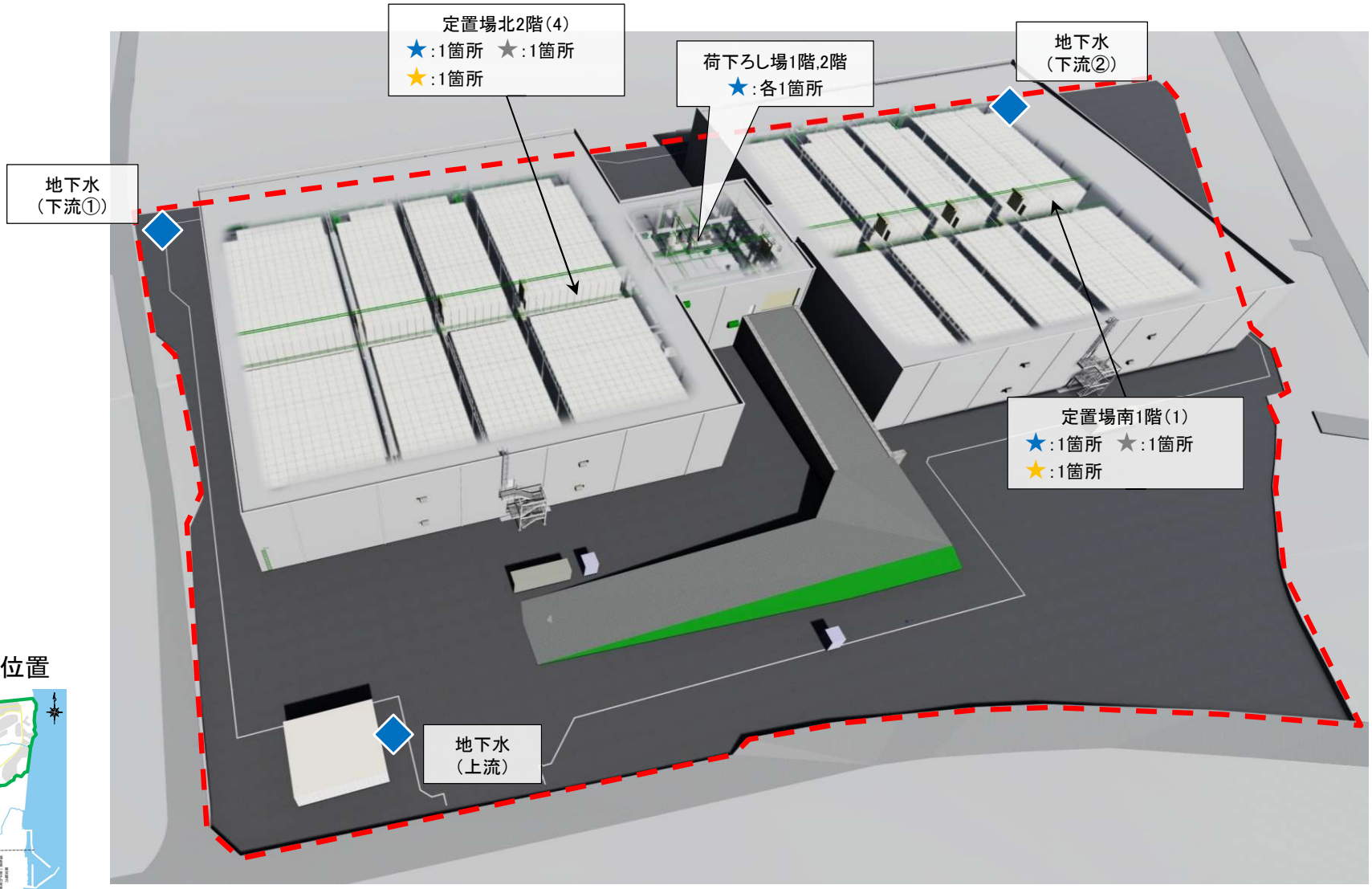
表面汚染密度（★床、★壁、★設備）

測定地点		2026/6/2～2026/8/5 表面汚染密度（Bq/cm²）
床	① 床面	ND
	② 床面	ND
	③ 床面	ND
壁	④ 壁面	ND
	⑤ 壁面	ND
	⑥ 壁面	ND
	⑦ 壁面	ND
	⑧ 壁面	ND
設備	⑨ 設備	ND
	⑩ 設備	ND
	⑪ 設備	ND

表面汚染密度検出下限値：0.28～0.30Bq/cm²
NDとは、表面汚染密度が検出下限値未満であることを示す。
限度：40Bq/cm²

廃棄物貯蔵施設のモニタリング結果（月次測定）

廃棄物貯蔵施設（大熊1工区）のモニタリング測定地点（月次測定）



★：施設の位置



【 凡例 】

◆：地下水中の放射能濃度等　★：空間線量率（作業環境）　★：表面汚染密度（床）

★：表面汚染密度（壁）　--- ：敷地境界線

廃棄物貯蔵施設（大熊1工区）のモニタリング測定結果（月次測定）

◆地下水中の放射能濃度等

測定地点	測定項目 / 測定日	電気伝導率（mS/m）	塩化物イオン濃度（mg/L）
上流	2020/3/31 （稼働前）	30	ND
	2026/3/2 ～2026/8/3 （稼働後）	17	17
下流①	2020/3/31 （稼働前）	28	ND
	2026/3/2 ～2026/8/3 （稼働後）	21	9.5
下流②	2020/3/31 （稼働前）	15	ND
	2026/3/2 ～2026/8/3 （稼働後）	20	9.8

塩化物イオン濃度報告下限値：（稼働前）100mg/L 、（稼働後）0.1mg/L
NDとは、塩化物イオン濃度が報告下限値未満であることを示す。
※期間中の最大値を示す。

測定地点	測定項目 / 測定日	Cs-134（Bq/L）	Cs-137（Bq/L）
上流	2020/3/12 （稼働前）	ND	ND
	2026/3/2 ～2026/8/3 （稼働後）	ND	ND
下流①	2020/3/9 （稼働前）	ND	ND
	2026/3/2 ～2026/8/3 （稼働後）	ND	ND
下流②	2020/3/9 （稼働前）	ND	ND
	2026/3/2 ～2026/8/3 （稼働後）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

★空間線量率（作業環境）

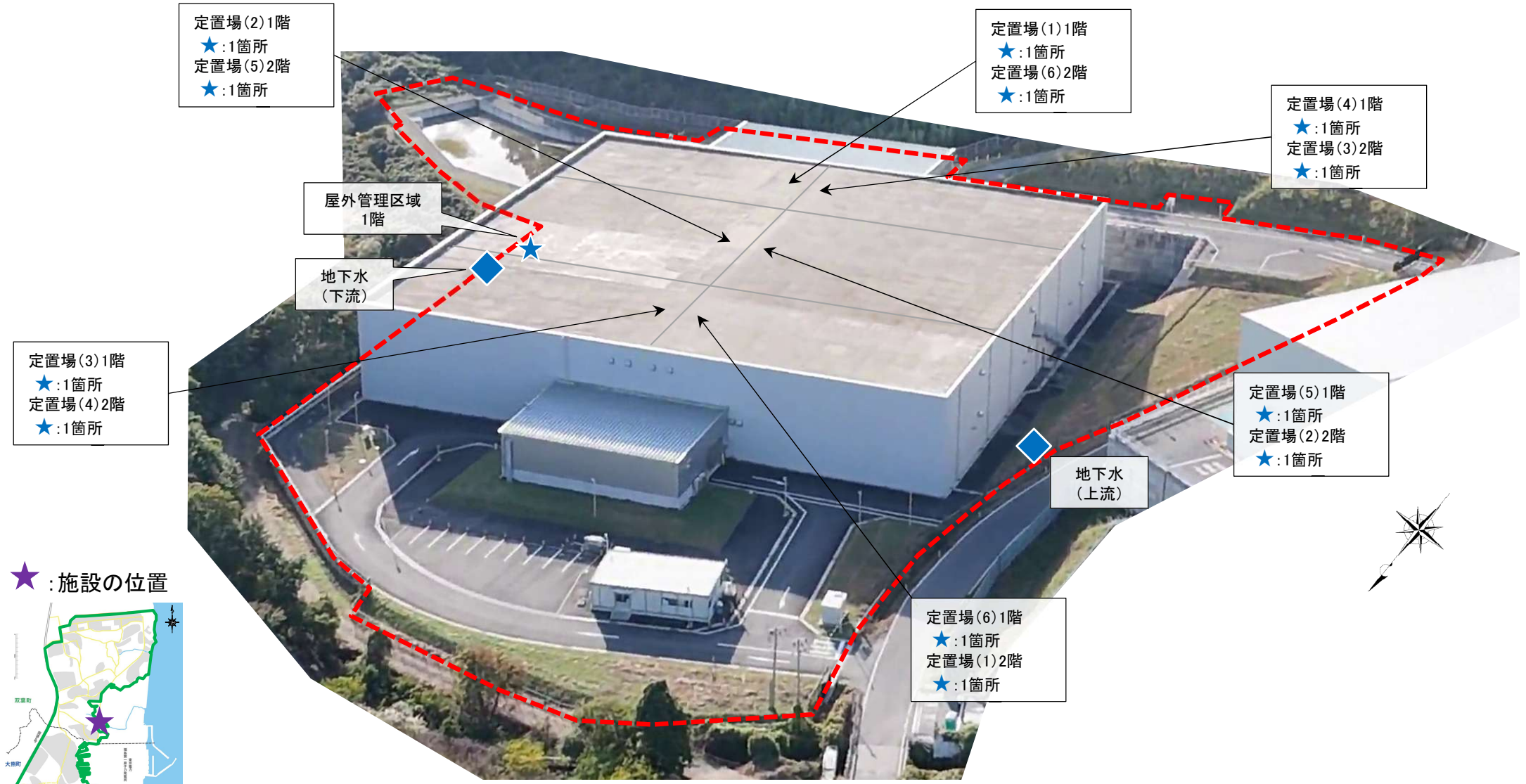
測定地点	2026/3/19 ～2026/8/12 空間線量率（μSv/h） 最小値	最大値
定置場南1階（1）	2.07	2.22
荷下ろし場 1階	0.10	0.11
定置場北2階（4）	9.31	9.62
荷下ろし場 2階	0.09	0.12

表面汚染密度（★床、★壁）

測定地点		2026/3/19 ～2026/8/12 表面汚染密度（Bq/cm^2）
床	定置場南1階（1）	ND
	定置場北2階（4）	ND
壁	定置場南1階（1）	ND
	定置場北2階（4）	ND

表面汚染密度検出下限値：0.29～0.41Bq/cm^2
NDとは、表面汚染密度が検出下限値未満であることを示す。
限度：40Bq/cm^2

廃棄物貯蔵施設（双葉1工区）におけるモニタリング測定地点（月次測定）＜貯蔵中＞



廃棄物貯蔵施設（双葉1工区）のモニタリング測定結果（月次測定）

◆地下水中の放射能濃度等

測定地点	測定項目 / 測定日	電気伝導率（mS/m）	塩化物イオン濃度（mg/L）
上流	2020/3/2 （稼働前）	16	7.3
	2026/3/19 ～2026/8/6 （貯蔵中）	19	9.6
下流	2020/3/2 （稼働前）	21	12
	2026/3/19 ～2026/8/6 （貯蔵中）	25	6.5

※期間中の最大値を示す。

測定地点	測定項目 / 測定日	Cs-134（Bq/L）	Cs-137（Bq/L）
上流	2020/3/2 （稼働前）	ND	ND
	2026/3/19 ～2026/8/6 （貯蔵中）	ND	ND
下流	2020/3/2 （稼働前）	ND	ND
	2026/3/19 ～2026/8/6 （貯蔵中）	ND	ND

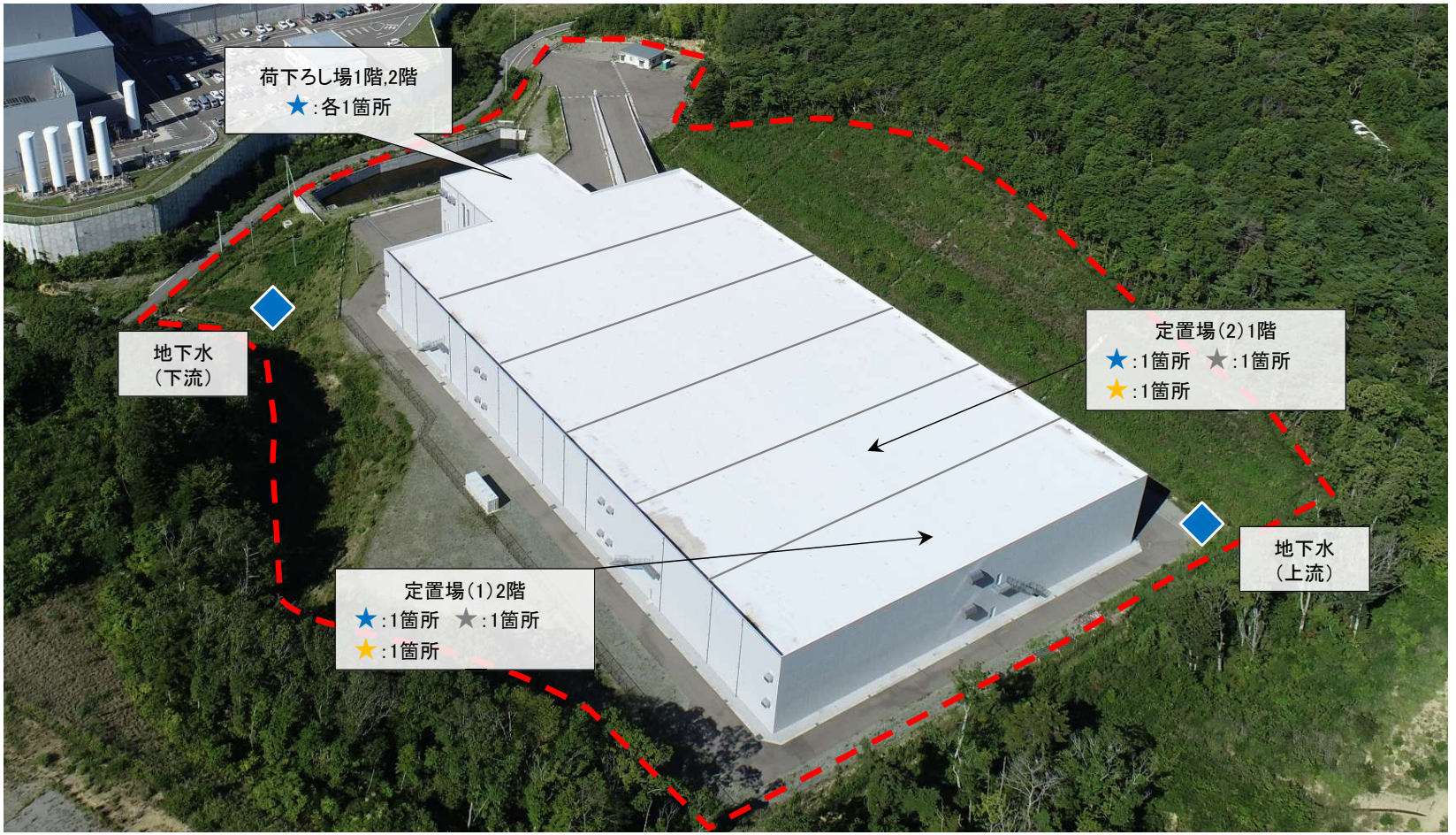
放射能濃度検出下限値：1Bq/L

NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

★空間線量率（作業環境）

測定地点	2026/3/12 ～2026/8/18 空間線量率（μSv/h）	
	最小値	最大値
定置場（1）1階	3.56	3.73
定置場（2）1階	9.98	10.4
定置場（3）1階	1.56	1.68
定置場（4）1階	6.44	6.57
定置場（5）1階	9.90	10.3
定置場（6）1階	4.00	4.25
屋外管理区域 1階	0.98	1.08
定置場（1）2階	1.93	2.12
定置場（2）2階	2.78	2.95
定置場（3）2階	2.52	2.65
定置場（4）2階	3.81	4.04
定置場（5）2階	1.52	1.63
定置場（6）2階	2.23	2.35

廃棄物貯蔵施設(双葉2工区)のモニタリング測定地点(月次測定)



★:施設の位置



【 凡例 】

◆: 地下水中の放射能濃度等　★:空間線量率(作業環境)　★: 表面汚染密度(床)

★: 表面汚染密度(壁)　--- : 敷地境界線

廃棄物貯蔵施設（双葉2工区）のモニタリング測定結果（月次測定）

◆地下水中の放射能濃度等

測定地点	測定項目 / 測定日	電気伝導率（mS/m）	塩化物イオン濃度（mg/L）
上流	2023/10/2（稼働前）	18	11
	2026/3/2～2026/8/3（稼働後）	25	13
下流	2023/10/2（稼働前）	24	5.4
	2026/3/2～2026/8/3（稼働後）	27	5.7

※期間中の最大値を示す。

測定地点	測定項目 / 測定日	Cs-134（Bq/L）	Cs-137（Bq/L）
上流	2023/10/2（稼働前）	ND	ND
	2026/3/2～2026/8/3（稼働後）	ND	ND
下流	2023/10/2（稼働前）	ND	ND
	2026/3/2～2026/8/3（稼働後）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

★空間線量率（作業環境）

測定地点	2026/3/19～2026/8/4 空間線量率（μSv/h） 最小値	最大値
定置場（2）1階	7.90	9.75
荷下ろし場 1階	0.06	0.07
定置場（1）2階	3.08	4.48
荷下ろし場 2階	0.06	0.07

表面汚染密度（★床、★壁）

測定地点		2026/3/19～2026/8/4 表面汚染密度（Bq/cm²）
床	定置場（2）1階	ND
	定置場（1）2階	ND
壁	定置場（2）1階	ND
	定置場（1）2階	ND

表面汚染密度検出下限値：0.26～0.41Bq/cm²
NDとは、表面汚染密度が検出下限値未満であることを示す。
限度：40Bq/cm²

技術実証フィールドのモニタリング結果（月次測定）

技術実証フィールドのモニタリング測定地点（月次測定）



☆ :施設の位置



【 凡例 】

- ◆: 地下水中の放射能濃度等
- ★: 沈砂池からの放流水の放射能濃度等
- ★: 空間線量率（作業環境）
- ★: 表面汚染密度（壁）
- ●: 排気中の放射能濃度
- ■: 放流先河川の放射能濃度
- ★: 空気中の放射能濃度
- ★: 表面汚染密度（設備）
- ◆: 実証試験排水の放射能濃度等
- ★: 粉じん濃度
- ★: 表面汚染密度（床）
- ―― : 敷地境界線

技術実証フィールドのモニタリング測定結果（月次測定）

◆地下水中の放射能濃度等

測定地点	測定日＼測定項目	電気伝導率（mS/m）	塩化物イオン濃度（mg/L）
上流	2019/9/6（稼働前）	27	8.0
	2026/3/3～2026/8/4（稼働後）	29	9.0
下流	2019/9/6（稼働前）	14	8.0
	2026/3/3～2026/8/4（稼働後）	28	10

※期間中の最大値を示す。

測定地点	測定日＼測定項目	Cs-134（Bq/L）	Cs-137（Bq/L）
上流	2019/9/6（稼働前）	ND	ND
	2026/3/3～2026/8/4（稼働後）	ND	ND
下流	2019/9/6（稼働前）	ND	ND
	2026/3/3～2026/8/4（稼働後）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

●排気中の放射能濃度

測定地点		測定対象	2026/3/5～8/5 Cs-134（Bq/m³N）	Cs-137（Bq/m³N）
第一資材置場	集じん機	円筒ろ紙	ND	ND
		ドレン部	ND	ND
分析室棟	①一般分析第一前処理室	円筒ろ紙	ND	ND
		ドレン部	ND	ND
	②固体試料第一前処理室	円筒ろ紙	ND	ND
		ドレン部	ND	ND
	③固体試料第二前処理室	円筒ろ紙	ND	ND
		ドレン部	ND	ND

放射能濃度検出下限値（ろ紙部）：セシウム134：0.5Bq/m³N、セシウム137：0.5Bq/m³N
放射能濃度検出下限値（ドレン部）：セシウム134：1.0Bq/m³N、セシウム137：1.0Bq/m³N
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

◆実証試験排水の環境項目

排水処理・放流の実績はないため測定なし。
（2025/1/24以降排水なし）

◆実証試験排水の放射能濃度等

排水処理・放流の実績はないため測定なし。
（2025/1/24以降排水なし）

★沈砂池からの放流水の浮遊物質量

測定日＼測定項目	浮遊物質量（SS）（mg/L）
2026/3/3～2026/8/4	8.6

SS管理値：60mg/L
浮遊物質量（SS）の報告下限値：1mg/L
※期間中の最大値を示す。

★沈砂池からの放流水の放射能濃度

測定日＼測定項目	Cs-134（Bq/L）	Cs-137（Bq/L）
2026/3/3～2026/8/4	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

■放流先河川の放射能濃度

測定日＼測定項目	Cs-134（Bq/L）	Cs-137（Bq/L）
2019/9/27（稼働前）	ND	1.2
2026/3/3～2026/7/2（稼働後）	ND	ND
2026/8/4（稼働後）	ND	1.3

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/L]の基準：セシウム134の濃度／60＋セシウム137の濃度／90≦1

★粉じん濃度

測定地点	2026/3/6～2026/8/5 粉じん濃度（mg/m³）
第一資材置場	0.2
第二資材置場	0.2

定量下限値：0.1mg/m³、高濃度粉じんの下限値：10mg/m³
NDとは、定量下限値未満であることを示す。
※期間中の最大値を示す。

★空間線量率（作業環境）

測定地点		2026/3/5～2026/8/5 空間線量率（μSv/h） 最小値	最大値
第一資材置場	東	0.58	0.70
	西	0.22	0.24
	南	0.53	0.60
	北	0.15	0.17
	中央	0.25	0.29
第二資材置場	東	0.26	0.39
	西	0.19	0.21
	南	0.20	0.22
	北	0.22	0.23
	中央	0.23	0.25
分析室棟	一般分析第一前処理室	0.08	0.08
	固体試料第二前処理室	0.09	0.19
	放射能濃度測定室	0.08	0.12
	防護具脱衣室	0.07	0.12
	廊下1	0.08	0.10

★空気中の放射能濃度

測定地点		2026/3/5～8/5 Cs-134（Bq/cm³）	Cs-137（Bq/cm³）
第一資材置場		ND	ND
第二資材置場		ND	ND
分析室棟	一般分析第一前処理室	ND	ND
	固体試料第一前処理室	ND	ND
	固体試料第二前処理室	ND	ND

放射能濃度検出下限値：セシウム134：1.0×10^{-7}Bq/cm³、セシウム137：1.0×10^{-7}Bq/cm³
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/cm³]の限度：セシウム134の濃度／2×10^{-3}+セシウム137の濃度／3×10^{-3}≦1

表面汚染密度（★床、★壁、★設備）

測定地点				2026/3/5～2026/8/5 表面汚染密度（Bq/cm²）
第一資材置場		床	中央	ND
		壁	東	ND
			西	ND
		設備	集じん機	ND
第二資材置場		床	中央	ND
		壁	東	ND
			西	ND
		設備	操作盤	ND
分析室棟	一般分析第一前処理室	床	中央	ND
		壁	東	ND
			西	ND
		設備	集じん機	ND
	固体試料第一前処理室	床	中央	ND
		壁	東	ND
			西	ND
		設備	集じん機	ND
	固体試料第二前処理室	床	中央	ND
		壁	東	ND
			西	ND
		設備	集じん機	ND

表面汚染密度検出下限値：0.20～0.21Bq/cm²
NDとは、表面汚染密度が検出下限値未満であることを示す。
限度：40Bq/cm²

土壌貯蔵施設のモニタリング結果（年次測定）

以下の施設については、中間貯蔵施設環境安全委員会（第29回）でモニタリング結果を報告して以降、年次測定は実施していないため、今回は報告対象外。

・双葉②工区
・双葉③工区

土壌貯蔵施設（大熊①工区）のモニタリング測定地点（年次測定）＜貯蔵中＞



☆：施設の位置



【 凡例 】

◆：地下水検査項目（井戸）　■：放流先河川の環境基準項目　----：敷地境界線

土壌貯蔵施設（大熊①工区）のモニタリング測定結果（年次測定）

◆地下水検査項目（井戸）

測定地点	測定項目 / 測定日	アルキル水銀 (mg/L)	総水銀 (mg/L)	カドミウム (mg/L)	鉛 (mg/L)	六価クロム※1 (mg/L)	砒素 (mg/L)	全シアン (mg/L)
	地下水検査基準	検出されないこと	0.0005以下	0.003以下	0.01以下	0.02以下	0.01以下	検出されないこと
上流①	2018/7/11 （稼働前）	不検出	ND	0.0023	0.028	ND	0.014	不検出
	2026/6/17 （貯蔵中）	不検出	ND	ND	ND	ND	0.006	不検出
上流②	2020/2/24 （稼働前）	不検出	ND	ND	0.022	ND	0.005	不検出
	2026/6/18 （貯蔵中）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	不検出
下流①	2018/7/11 （稼働前）	不検出	ND	0.0037	0.12	ND	0.027	不検出
	2026/6/17 （貯蔵中）	不検出	ND	0.0004	ND	ND	ND	不検出
下流②	2020/2/24 （稼働前）	不検出	ND	ND	0.005	ND	0.001	不検出
	2026/6/17 （貯蔵中）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	不検出
下流③	2021/2/23 （稼働前）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	不検出
	2026/6/18 （貯蔵中）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	不検出

測定地点	測定項目 / 測定日	PCB (mg/L)	トリクロロエチレン (mg/L)	テトラクロロエチレン (mg/L)	ジクロロメタン (mg/L)	四塩化炭素 (mg/L)	1,2-ジクロロエタン (mg/L)	1,1-ジクロロエチレン (mg/L)
	地下水検査基準	検出されないこと	0.01以下	0.01以下	0.02以下	0.002以下	0.004以下	0.1以下
上流①	2018/7/11 （稼働前）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2026/6/17 （貯蔵中）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND
上流②	2020/2/24 （稼働前）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2026/6/18 （貯蔵中）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND
下流①	2018/7/11 （稼働前）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2026/6/17 （貯蔵中）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND
下流②	2020/2/24 （稼働前）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2026/6/17 （貯蔵中）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND
下流③	2021/2/23 （稼働前）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2026/6/18 （貯蔵中）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	1,1,1-トリクロロエタン (mg/L)	1,1,2-トリクロロエタン (mg/L)	1,3-ジクロロプロペン (mg/L)	チウラム (mg/L)	シマジン (mg/L)	チオベンカルブ (mg/L)
	地下水検査基準	0.04以下	1以下	0.006以下	0.002以下	0.006以下	0.003以下	0.02以下
上流①	2018/7/11 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2026/6/17 （貯蔵中）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
上流②	2020/2/24 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2026/6/18 （貯蔵中）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
下流①	2018/7/11 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2026/6/17 （貯蔵中）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
下流②	2020/2/24 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2026/6/17 （貯蔵中）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
下流③	2021/2/23 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2026/6/18 （貯蔵中）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	ベンゼン (mg/L)	セレン (mg/L)	1,4-ジオキサン (mg/L)	クロロエチレン (mg/L)	ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)
	地下水検査基準	0.01以下	0.01以下	0.05以下	0.002以下	1以下
上流①	2018/7/11 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	0.75
	2026/6/17 （貯蔵中）	ND	ND	ND	ND	0.036
上流②	2020/2/24 （稼働前）	ND	0.002	ND	ND	0.18
	2026/6/18 （貯蔵中）	ND	ND	ND	ND	0.036
下流①	2018/7/11 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	17
	2026/6/17 （貯蔵中）	ND	ND	ND	ND	0.046
下流②	2020/2/24 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	0.12
	2026/6/17 （貯蔵中）	ND	ND	ND	ND	0.037
下流③	2021/2/23 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	0.07
	2026/6/18 （貯蔵中）	ND	ND	ND	ND	0.036

※1 放射性物質汚染対処特措法施行規則別表第三（第二十六条関係）の改正（2026年4月施行）により、
「六価クロム」の基準が「0.05mg/L以下」から「0.02mg/L以下」へ変更された。

NDとは、定量下限値未満であることを示す。

■放流先河川の環境基準項目

測定項目 / 測定日	カドミウム (mg/L)	全シアン (mg/L)	鉛 (mg/L)	六価クロム (mg/L)	砒素 (mg/L)
水質環境基準	0.003以下	検出されないこと	0.01以下	0.02以下	0.01以下
2018/7/11 （稼働前）	0.0015	不検出	ND	ND	ND
2026/6/17 （貯蔵中）	ND	不検出	ND	ND	0.001

測定項目 / 測定日	総水銀 (mg/L)	アルキル水銀 (mg/L)	PCB (mg/L)	ジクロロメタン (mg/L)	四塩化炭素 (mg/L)
水質環境基準	0.0005以下	検出されないこと	検出されないこと	0.02以下	0.002以下
2018/7/11 （稼働前）	ND	不検出	不検出	ND	ND
2026/6/17 （貯蔵中）	ND	不検出	不検出	ND	ND

測定項目 / 測定日	1,2-ジクロロエタン (mg/L)	1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	シス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	1,1,1-トリクロロエタン (mg/L)	1,1,2-トリクロロエタン (mg/L)
水質環境基準	0.004以下	0.1以下	0.04以下	1以下	0.006以下
2018/7/11 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
2026/6/17 （貯蔵中）	ND	ND	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	トリクロロエチレン (mg/L)	テトラクロロエチレン (mg/L)	1,3-ジクロロプロペン (mg/L)	チウラム (mg/L)	シマジン (mg/L)
水質環境基準	0.01以下	0.01以下	0.002以下	0.006以下	0.003以下
2018/7/11 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
2026/6/17 （貯蔵中）	ND	ND	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	チオベンカルブ (mg/L)	ベンゼン (mg/L)	セレン (mg/L)	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素 (mg/L)	フッ素 (mg/L)
水質環境基準	0.02以下	0.01以下	0.01以下	10以下	0.8以下
2018/7/11 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
2026/6/17 （貯蔵中）	ND	ND	ND	0.2	0.11

測定項目 / 測定日	ホウ素 (mg/L)	1,4-ジオキサン (mg/L)
水質環境基準	1以下	0.05以下
2018/7/11 （稼働前）	ND	ND
2026/6/17 （貯蔵中）	ND	ND

測定項目 / 測定日	水素イオン濃度 (pH) ※2	生物化学的酸素要求量 (BOD) ※2 (mg/L)	浮遊物質量 (SS) ※2 (mg/L)	溶存酸素量 (DO) ※2 (mg/L)	大腸菌数 ※2,※3 (CFU/100mL)
2018/7/11 （稼働前）	6.8	2	15	8.2	3
2026/6/17 （貯蔵中）	7.5	0.8	4.2	10.8	27

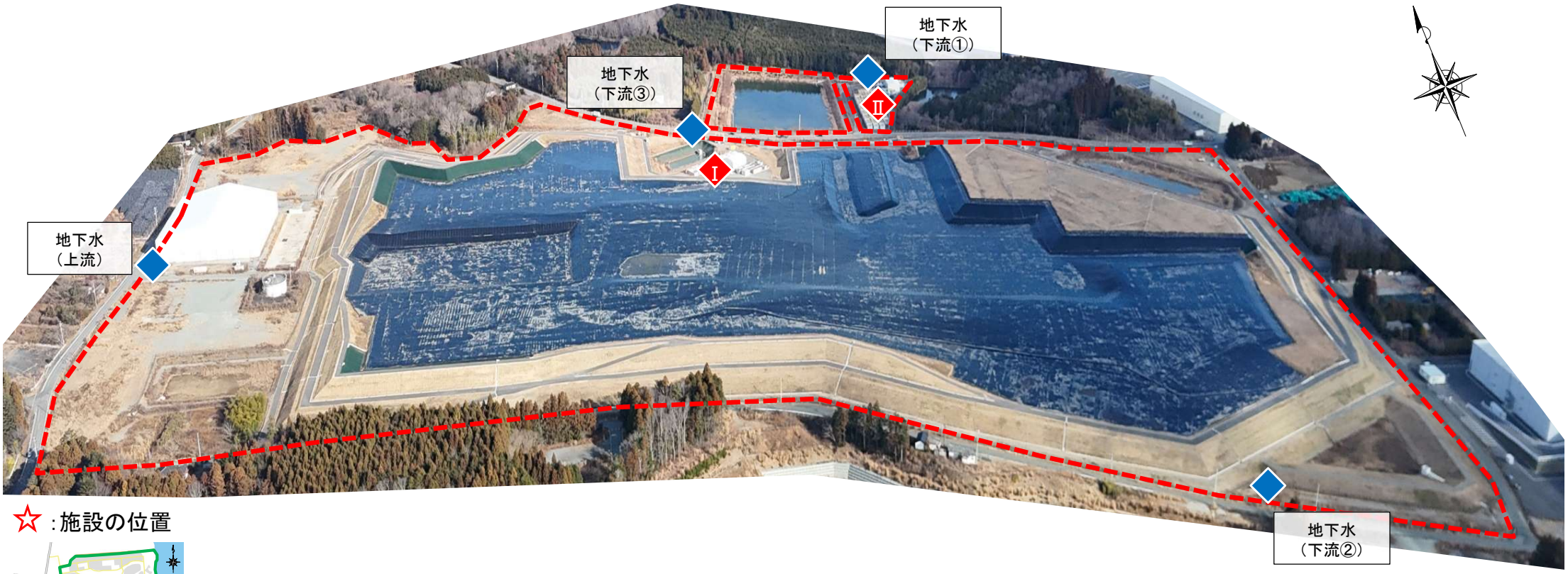
※2：中間貯蔵施設区域及び周辺の河川は、環境基準の水域類型に指定されていない。
（参考）河川C類型の環境基準：pH 6.5～8.5、BOD 5mg/L以下、SS 50mg/L以下、DO 5mg/L以上
※3：環境基準の改正（2022年4月施行）により大腸菌群数から大腸菌数に見直された。
2018年7月11日（稼働前）の大腸菌群数は 230000 MPN/100mLであった。

本工区の浸出水処理施設は2025年4月以降、稼働停止中。浸出水処理は土壌貯蔵施設（大熊②工区）の浸出水処理施設において実施。

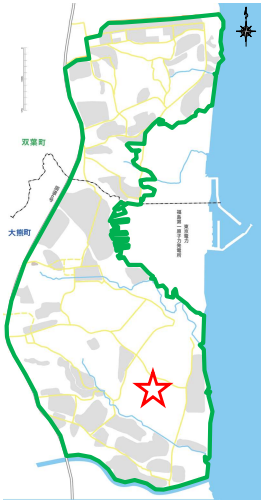
NDとは、定量下限値未満であることを示す。

土壌貯蔵施設（大熊②工区）のモニタリング測定地点（年次測定）＜貯蔵中＞

6頁参照



☆：施設の位置



【 凡例 】

◆：地下水検査項目（井戸）　◆：浸出水処理施設放流水の排水基準項目　■：放流先河川の環境基準項目

---：敷地境界線

土壌貯蔵施設（大熊②工区）のモニタリング測定結果（年次測定）①

◆地下水検査項目（井戸）

測定地点	測定項目 / 測定日	アルキル水銀 (mg/L)	総水銀 (mg/L)	カドミウム (mg/L)	鉛 (mg/L)	六価クロム※1 (mg/L)	砒素 (mg/L)	全シアン (mg/L)
	地下水検査基準	検出されないこと	0.0005以下	0.003以下	0.01以下	0.02以下	0.01以下	検出されないこと
上流	2018/7/10 （稼働前）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	不検出
	2026/6/22 （貯蔵中）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	不検出
下流①	2018/7/11 （稼働前）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	不検出
	2026/6/22 （貯蔵中）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	不検出
下流②	2018/7/10 （稼働前）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	不検出
	2026/6/19 （貯蔵中）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	不検出
下流③	2017/10/11 （稼働前）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	不検出
	2026/6/19 （貯蔵中）	不検出	0.00013	ND	ND	ND	ND	不検出

測定地点	測定項目 / 測定日	PCB (mg/L)	トリクロロエチレン (mg/L)	テトラクロロエチレン (mg/L)	ジクロロメタン (mg/L)	四塩化炭素 (mg/L)	1,2-ジクロロエタン (mg/L)	1,1-ジクロロエチレン (mg/L)
	地下水検査基準	検出されないこと	0.01以下	0.01以下	0.02以下	0.002以下	0.004以下	0.1以下
上流	2018/7/10 （稼働前）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2026/6/22 （貯蔵中）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND
下流①	2018/7/11 （稼働前）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2026/6/22 （貯蔵中）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND
下流②	2018/7/10 （稼働前）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2026/6/19 （貯蔵中）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND
下流③	2017/10/11 （稼働前）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2026/6/19 （貯蔵中）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	1,1,1-トリクロロエタン (mg/L)	1,1,2-トリクロロエタン (mg/L)	1,3-ジクロロプロペン (mg/L)	チウラム (mg/L)	シマジン (mg/L)	チオベンカルブ (mg/L)
	地下水検査基準	0.04以下	1以下	0.006以下	0.002以下	0.006以下	0.003以下	0.02以下
上流	2018/7/10 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2026/6/22 （貯蔵中）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
下流①	2018/7/11 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2026/6/22 （貯蔵中）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
下流②	2018/7/10 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2026/6/19 （貯蔵中）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
下流③	2017/10/11 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2026/6/19 （貯蔵中）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	ベンゼン (mg/L)	セレン (mg/L)	1,4-ジオキサン (mg/L)	クロロエチレン (mg/L)	ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)
	地下水検査基準	0.01以下	0.01以下	0.05以下	0.002以下	1以下
上流	2018/7/10 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	0.057
	2026/6/22 （貯蔵中）	ND	ND	ND	ND	0.035
下流①	2018/7/11 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	0.13
	2026/6/22 （貯蔵中）※2	ND	ND	ND	ND	0.060
下流②	2018/7/10 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	0.058
	2026/6/19 （貯蔵中）	ND	ND	ND	ND	0.035
下流③	2017/10/11 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	0.058
	2026/6/19 （貯蔵中）	ND	ND	ND	ND	0.036

※1 放射性物質汚染対処特措法施行規則別表第三（第二十六条関係）の改正（2026年4月施行）により、「六価クロム」の基準が「0.05mg/L以下」から「0.02mg/L以下」へ変更された。
※2 下流①：ダイオキシン類の測定日は2026年6月19日。

NDとは、定量下限値未満であることを示す。

土壌貯蔵施設（大熊②工区）のモニタリング測定結果（年次測定）②

◆浸出水処理施設放流水の排水基準項目

測定地点	測定項目 / 測定日	アルキル水銀化合物 (mg/L)	水銀及びアルキル水銀その他の水銀化合物 (mg/L)	カドミウム及びその化合物 (mg/L)	鉛及びその化合物 (mg/L)	有機燐化合物 (mg/L)
	浸出水処理施設の排水基準	検出されないこと	0.005以下	0.03以下	0.1以下	1以下
処理水Ⅰ	2026/6/18 （貯蔵中）	不検出	ND	ND	ND	ND
処理水Ⅱ	2026/6/19 （貯蔵中）	不検出	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	六価クロム化合物 ※2 (mg/L)	砒素及びその化合物 (mg/L)	シアン化合物 (mg/L)	ポリ塩化ビフェニル (mg/L)	トリクロロエチレン (mg/L)
	浸出水処理施設の排水基準	0.2以下	0.1以下	1以下	0.003以下	0.1以下
処理水Ⅰ	2026/6/18 （貯蔵中）	ND	ND	ND	ND	ND
処理水Ⅱ	2026/6/19 （貯蔵中）	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	テトラクロロエチレン (mg/L)	ジクロロメタン (mg/L)	四塩化炭素 (mg/L)	1,2-ジクロロエタン (mg/L)	1,1-ジクロロエチレン (mg/L)
	浸出水処理施設の排水基準	0.1以下	0.2以下	0.02以下	0.04以下	1以下
処理水Ⅰ	2026/6/18 （貯蔵中）	ND	ND	ND	ND	ND
処理水Ⅱ	2026/6/19 （貯蔵中）	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	シス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	1,1,1-トリクロロエタン (mg/L)	1,1,2-トリクロロエタン (mg/L)	1,3-ジクロロプロペン (mg/L)	チウラム (mg/L)
	浸出水処理施設の排水基準	0.4以下	3以下	0.06以下	0.02以下	0.06以下
処理水Ⅰ	2026/6/18 （貯蔵中）	ND	ND	ND	ND	ND
処理水Ⅱ	2026/6/19 （貯蔵中）	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	シマジン (mg/L)	チオベンカルブ (mg/L)	ベンゼン (mg/L)	セレン及びその化合物 (mg/L)	1,4-ジオキサン (mg/L)
	浸出水処理施設の排水基準	0.03以下	0.2以下	0.1以下	0.1以下	0.5以下
処理水Ⅰ	2026/6/18 （貯蔵中）	ND	ND	ND	ND	ND
処理水Ⅱ	2026/6/19 （貯蔵中）	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	ほう素及びその化合物 (mg/L)	ふっ素及びその化合物 (mg/L)	アンモニア、アンモニウム化合物、亜硝酸化合物及び硝酸化合物 (mg/L)	ノルマルヘキサン抽出物質含有量（鉱油類含有量） (mg/L)	ノルマルヘキサン抽出物質含有量（動植物油脂類含有量） (mg/L)
	浸出水処理施設の排水基準	50以下	15以下	200以下	5以下	30以下
処理水Ⅰ	2026/6/18 （貯蔵中）	ND	ND	0.3	ND	ND
処理水Ⅱ	2026/6/19 （貯蔵中）	ND	ND	1.2	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	フェノール類含有量 (mg/L)	銅含有量 (mg/L)	亜鉛含有量 (mg/L)	溶解性鉄含有量 (mg/L)	溶解性マンガン含有量 (mg/L)
	浸出水処理施設の排水基準	5以下	3以下	2以下	10以下	10以下
処理水Ⅰ	2026/6/18 （貯蔵中）	ND	ND	ND	ND	ND
処理水Ⅱ	2026/6/19 （貯蔵中）	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	クロム含有量 (mg/L)	大腸菌数 ※1 (CFU/mL)	ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)
	浸出水処理施設の排水基準	2以下	800以下	10以下
処理水Ⅰ	2026/6/18 （貯蔵中）	ND	ND	0.000018
処理水Ⅱ	2026/6/19 （貯蔵中）	ND	ND	0.00056

※1：放射性物質汚染対処特措法施行規則の改正（2025年4月施行）により大腸菌群数から大腸菌数に見直された。
※2：放射性物質汚染対処特措法施行規則別表第四（第二十六条関係）の改正（2026年4月施行）により、
「六価クロム化合物」の基準が「0.5mg/L以下」から「0.2mg/L以下」へ変更された。

2025年4月以降、下記の土壌貯蔵施設の浸出水処理施設が稼働停止中のため、浸出水処理は本工区の浸出水処理施設において実施。
大熊①工区、大熊③工区、双葉②工区

NDとは、定量下限値未満であることを示す。

■放流先河川の環境基準項目

測定日 / 測定項目	カドミウム (mg/L)	全シアン (mg/L)	鉛 (mg/L)	六価クロム (mg/L)	砒素 (mg/L)
水質環境基準	0.003以下	検出されないこと	0.01以下	0.02以下	0.01以下
2018/7/10 （稼働前）	ND	不検出	ND	ND	ND
2026/6/19 （貯蔵中）	ND	不検出	ND	ND	ND

測定日 / 測定項目	総水銀 (mg/L)	アルキル水銀 (mg/L)	PCB (mg/L)	ジクロロメタン (mg/L)	四塩化炭素 (mg/L)
水質環境基準	0.0005以下	検出されないこと	検出されないこと	0.02以下	0.002以下
2018/7/10 （稼働前）	ND	不検出	不検出	ND	ND
2026/6/19 （貯蔵中）	ND	不検出	不検出	ND	ND

測定日 / 測定項目	1,2-ジクロロエタン (mg/L)	1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	シス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	1,1,1-トリクロロエタン (mg/L)	1,1,2-トリクロロエタン (mg/L)
水質環境基準	0.004以下	0.1以下	0.04以下	1以下	0.006以下
2018/7/10 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
2026/6/19 （貯蔵中）	ND	ND	ND	ND	ND

測定日 / 測定項目	トリクロロエチレン (mg/L)	テトラクロロエチレン (mg/L)	1,3-ジクロロプロペン (mg/L)	チウラム (mg/L)	シマジン (mg/L)
水質環境基準	0.01以下	0.01以下	0.002以下	0.006以下	0.003以下
2018/7/10 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
2026/6/19 （貯蔵中）	ND	ND	ND	ND	ND

測定日 / 測定項目	チオベンカルブ (mg/L)	ベンゼン (mg/L)	セレン (mg/L)	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素 (mg/L)	フッ素 (mg/L)
水質環境基準	0.02以下	0.01以下	0.01以下	10以下	0.8以下
2018/7/10 （稼働前）	ND	ND	ND	0.38	ND
2026/6/19 （貯蔵中）	ND	ND	ND	0.3	ND

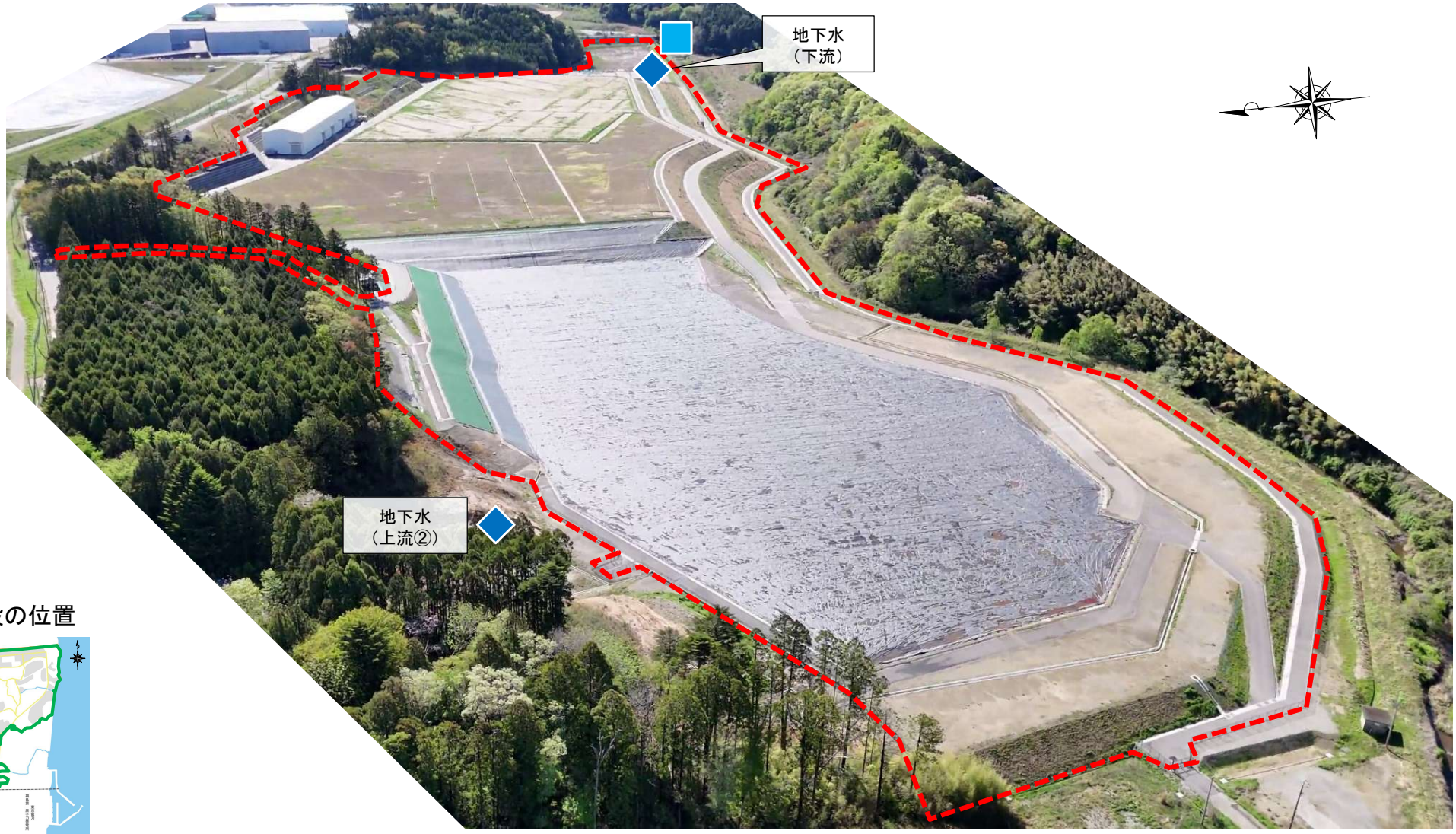
測定日 / 測定項目	ホウ素 (mg/L)	1,4-ジオキサン (mg/L)
水質環境基準	1以下	0.05以下
2018/7/10 （稼働前）	0.01	ND
2026/6/19 （貯蔵中）	ND	ND

測定日 / 測定項目	水素イオン濃度 （pH）※3	生物化学的酸素要求量 （BOD）※3 (mg/L)	浮遊物質量 （SS）※3 (mg/L)	溶存酸素量 （DO）※3 (mg/L)	大腸菌数 ※3,※4 (CFU/100mL)
2018/7/10 （稼働前）	7.1	0.9	19	9.4	—
2026/6/19 （貯蔵中）	8.1	1.5	12	11.6	510

※3：中間貯蔵施設区域及び周辺の河川は、環境基準の水域類型に指定されていない。
（参考）河川C類型の環境基準：pH 6.5～8.5、BOD 5mg/L以下、SS 50mg/L以下、DO 5mg/L以上
※4：環境基準の改正（2022年4月施行）により大腸菌群数から大腸菌数に見直された。
2018年7月10日（稼働前）の大腸菌群数は 240 MPN/100mLであった。

NDとは、定量下限値未満であることを示す。

土壌貯蔵施設（大熊③工区）のモニタリング測定地点（年次測定）＜貯蔵中＞



☆：施設の位置



【 凡例 】

◆：地下水検査項目（井戸）　■：放流先河川の環境基準項目　――：敷地境界線

土壌貯蔵施設（大熊③工区）のモニタリング測定結果（年次測定）

◆地下水検査項目（井戸）

測定地点	測定項目 / 測定日	アルキル水銀 (mg/L)	総水銀 (mg/L)	カドミウム (mg/L)	鉛 (mg/L)	六価クロム※1 (mg/L)
	地下水検査基準	検出されないこと	0.0005以下	0.003以下	0.01以下	0.02以下
上流②	2021/6/3 （稼働前）	不検出	ND	ND	ND	ND
	2026/5/29 （貯蔵中）	不検出	ND	ND	ND	ND
下流	2018/9/25 （稼働前）	不検出	ND	ND	ND	ND
	2026/5/28 （貯蔵中）	不検出	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	砒素 (mg/L)	全シアン (mg/L)	PCB (mg/L)	トリクロロエチレン (mg/L)	テトラクロロエチレン (mg/L)
	地下水検査基準	0.01以下	検出されないこと	検出されないこと	0.01以下	0.01以下
上流②	2021/6/3 （稼働前）	ND	不検出	不検出	ND	ND
	2026/5/29 （貯蔵中）	ND	不検出	不検出	ND	ND
下流	2018/9/25 （稼働前）	0.003	不検出	不検出	ND	ND
	2026/5/28 （貯蔵中）	ND	不検出	不検出	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	ジクロロメタン (mg/L)	四塩化炭素 (mg/L)	1,2-ジクロロエタン (mg/L)	1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	1,2-ジクロロエチレン (mg/L)
	地下水検査基準	0.02以下	0.002以下	0.004以下	0.1以下	0.04以下
上流②	2021/6/3 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2026/5/29 （貯蔵中）	ND	ND	ND	ND	ND
下流	2018/9/25 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2026/5/28 （貯蔵中）	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	1,1,1-トリクロロエタン (mg/L)	1,1,2-トリクロロエタン (mg/L)	1,3-ジクロロプロペン (mg/L)	チウラム (mg/L)	シマジン (mg/L)
	地下水検査基準	1以下	0.006以下	0.002以下	0.006以下	0.003以下
上流②	2021/6/3 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2026/5/29 （貯蔵中）	ND	ND	ND	ND	ND
下流	2018/9/25 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2026/5/28 （貯蔵中）	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	チオベンカルブ (mg/L)	ベンゼン (mg/L)	セレン (mg/L)	1,4-ジオキサン (mg/L)	クロロエチレン (mg/L)
	地下水検査基準	0.02以下	0.01以下	0.01以下	0.05以下	0.002以下
上流②	2021/6/3 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2026/5/29 （貯蔵中）	ND	ND	ND	ND	ND
下流	2018/9/25 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2026/5/28 （貯蔵中）	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)
	地下水検査基準	1以下
上流②	2021/6/3 （稼働前）	0.1
	2026/5/28 （貯蔵中）	0.097
下流	2018/9/25 （稼働前）	0.82
	2026/5/28 （貯蔵中）	0.036

※1 放射性物質汚染対処特措法施行規則別表第三（第二十六条関係）の改正（2026年4月施行）により、「六価クロム」の基準が「0.05mg/L以下」から「0.02mg/L以下」へ変更された。

NDとは、定量下限値未満であることを示す。

■放流先河川の環境基準項目

測定項目 / 測定日	カドミウム (mg/L)	全シアン (mg/L)	鉛 (mg/L)	六価クロム (mg/L)	砒素 (mg/L)
水質環境基準	0.003以下	検出されないこと	0.01以下	0.02以下	0.01以下
2018/9/18 （稼働前）	ND	不検出	ND	ND	ND
2026/5/28 （貯蔵中）	ND	不検出	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	総水銀 (mg/L)	アルキル水銀 (mg/L)	PCB (mg/L)	ジクロロメタン (mg/L)	四塩化炭素 (mg/L)
水質環境基準	0.0005以下	検出されないこと	検出されないこと	0.02以下	0.002以下
2018/9/18 （稼働前）	ND	不検出	不検出	ND	ND
2026/5/28 （貯蔵中）	ND	不検出	不検出	ND	ND

測定項目 / 測定日	1,2-ジクロロエタン (mg/L)	1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	シス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	1,1,1-トリクロロエタン (mg/L)	1,1,2-トリクロロエタン (mg/L)
水質環境基準	0.004以下	0.1以下	0.04以下	1以下	0.006以下
2018/9/18 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
2026/5/28 （貯蔵中）	ND	ND	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	トリクロロエチレン (mg/L)	テトラクロロエチレン (mg/L)	1,3-ジクロロプロペン (mg/L)	チウラム (mg/L)	シマジン (mg/L)
水質環境基準	0.01以下	0.01以下	0.002以下	0.006以下	0.003以下
2018/9/18 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
2026/5/28 （貯蔵中）	ND	ND	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	チオベンカルブ (mg/L)	ベンゼン (mg/L)	セレン (mg/L)	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素 (mg/L)	フッ素 (mg/L)
水質環境基準	0.02以下	0.01以下	0.01以下	10以下	0.8以下
2018/9/18 （稼働前）	ND	ND	ND	0.3	0.3
2026/5/28 （貯蔵中）	ND	ND	ND	0.3	0.13

測定項目 / 測定日	ホウ素 (mg/L)	1,4-ジオキサン (mg/L)
水質環境基準	1以下	0.05以下
2018/9/18 （稼働前）	0.14	ND
2026/5/28 （貯蔵中）	ND	ND

測定項目 / 測定日	水素イオン濃度 (pH) ※2	生物化学的酸素要求量 (BOD) ※2 (mg/L)	浮遊物質量 (SS) ※2 (mg/L)	溶存酸素量 (DO) ※2 (mg/L)	大腸菌数 ※2,※3 (CFU/100mL)
2018/9/18 （稼働前）	7.6	ND	5	9	—
2026/5/28 （貯蔵中）	7.5	1.0	3.4	9.2	25

※2：中間貯蔵施設区域及び周辺の河川は、環境基準の水域類型に指定されていない。
（参考）河川C類型の環境基準：pH 6.5～8.5、BOD 5mg/L以下、SS 50mg/L以下、DO 5mg/L以上
※3：環境基準の改正（2022年4月施行）により大腸菌群数から大腸菌数に見直された。
2018年9月18日（稼働前）の大腸菌群数は 240 MPN/100mLであった。

本工区の浸出水処理施設は2025年4月以降、稼働停止中。浸出水処理は土壌貯蔵施設（大熊②工区）の浸出水処理施設において実施。

NDとは、定量下限値未満であることを示す。

土壌貯蔵施設（大熊④工区）のモニタリング測定地点（年次測定）＜貯蔵中＞



☆：施設の位置



【 凡例 】

◆：地下水検査項目（井戸）　◆：浸出水処理施設放流水の排水基準項目　■：放流先河川の環境基準項目

――：敷地境界線

土壌貯蔵施設（大熊④工区）のモニタリング測定結果（年次測定）①

◆地下水検査項目（井戸）

測定地点	測定項目 / 測定日	アルキル水銀 (mg/L)	総水銀 (mg/L)	カドミウム (mg/L)	鉛 (mg/L)	六価クロム※1 (mg/L)	砒素 (mg/L)	全シアン (mg/L)
	地下水検査基準	検出されないこと	0.0005以下	0.003以下	0.01以下	0.02以下	0.01以下	検出されないこと
上流	2020/3/12 （稼働前）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	不検出
	2026/4/20 （貯蔵中）	不検出	ND	ND	ND	ND	0.001	不検出
下流②	2020/3/12 （稼働前）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	不検出
	2026/4/20 （貯蔵中）	不検出	ND	ND	ND	ND	0.002	不検出
下流③	2020/3/12 （稼働前）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	不検出
	2026/4/21 （貯蔵中）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	不検出
下流④	2020/9/3 （稼働前）	不検出	ND	ND	ND	ND	0.001	不検出
	2026/4/24 （貯蔵中）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	不検出

測定地点	測定項目 / 測定日	PCB (mg/L)	トリクロロエチレン (mg/L)	テトラクロロエチレン (mg/L)	ジクロロメタン (mg/L)	四塩化炭素 (mg/L)	1,2-ジクロロエタン (mg/L)	1,1-ジクロロエチレン (mg/L)
	地下水検査基準	検出されないこと	0.01以下	0.01以下	0.02以下	0.002以下	0.004以下	0.1以下
上流	2020/3/12 （稼働前）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2026/4/20 （貯蔵中）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND
下流②	2020/3/12 （稼働前）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2026/4/20 （貯蔵中）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND
下流③	2020/3/12 （稼働前）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2026/4/21 （貯蔵中）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND
下流④	2020/9/3 （稼働前）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2026/4/24 （貯蔵中）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	1,1,1-トリクロロエタン (mg/L)	1,1,2-トリクロロエタン (mg/L)	1,3-ジクロロプロペン (mg/L)	チウラム (mg/L)	シマジン (mg/L)	チオベンカルブ (mg/L)
	地下水検査基準	0.04以下	1以下	0.006以下	0.002以下	0.006以下	0.003以下	0.02以下
上流	2020/3/12 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2026/4/20 （貯蔵中）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
下流②	2020/3/12 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2026/4/20 （貯蔵中）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
下流③	2020/3/12 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2026/4/21 （貯蔵中）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
下流④	2020/9/3 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2026/4/24 （貯蔵中）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	ベンゼン (mg/L)	セレン (mg/L)	1,4-ジオキサン (mg/L)	クロロエチレン (mg/L)	ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)
	地下水検査基準	0.01以下	0.01以下	0.05以下	0.002以下	1以下
上流	2020/3/12 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	0.052
	2026/4/20 （貯蔵中）	ND	ND	ND	ND	0.041
下流②	2020/3/12 （稼働前）	ND	0.001	ND	ND	0.049
	2026/4/20 （貯蔵中）	ND	ND	ND	ND	0.047
下流③	2020/3/12 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	0.091
	2026/4/21 （貯蔵中）	ND	ND	ND	ND	0.038
下流④	2020/9/3 （稼働前）	0.006	0.002	ND	ND	0.29
	2026/4/24 （貯蔵中）※2	ND	ND	ND	ND	1.1

※1 放射性物質汚染対処特措法施行規則別表第三（第二十六条関係）の改正（2026年4月施行）により、「六価クロム」の基準が「0.05 mg/L以下」から「0.02 mg/L以下」へ変更された。
※2 下流④：ダイオキシン類の測定日は2026年4月20日。

NDとは、定量下限値未満であることを示す。

土壌貯蔵施設（大熊④工区）のモニタリング測定結果（年次測定）②

◆浸出水処理施設放流水の排水基準項目

測定項目 / 測定日	アルキル水銀化合物 (mg/L)	水銀及びアルキル水銀その他の水銀化合物 (mg/L)	カドミウム及びその化合物 (mg/L)	鉛及びその化合物 (mg/L)	有機燐化合物 (mg/L)
浸出水処理施設の排水基準	検出されないこと	0.005以下	0.03以下	0.1以下	1以下
2026/4/20 （貯蔵中）	不検出	ND	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	六価クロム化合物 ※2 (mg/L)	砒素及びその化合物 (mg/L)	シアン化合物 (mg/L)	ポリ塩化ビフェニル (mg/L)	トリクロロエチレン (mg/L)
浸出水処理施設の排水基準	0.2以下	0.1以下	1以下	0.003以下	0.1以下
2026/4/20 （貯蔵中）	ND	ND	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	テトラクロロエチレン (mg/L)	ジクロロメタン (mg/L)	四塩化炭素 (mg/L)	1,2-ジクロロエタン (mg/L)	1,1-ジクロロエチレン (mg/L)
浸出水処理施設の排水基準	0.1以下	0.2以下	0.02以下	0.04以下	1以下
2026/4/20 （貯蔵中）	ND	ND	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	シス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	1,1,1-トリクロロエタン (mg/L)	1,1,2-トリクロロエタン (mg/L)	1,3-ジクロロプロペン (mg/L)	チウラム (mg/L)
浸出水処理施設の排水基準	0.4以下	3以下	0.06以下	0.02以下	0.06以下
2026/4/20 （貯蔵中）	ND	ND	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	シマジン (mg/L)	チオベンカルブ (mg/L)	ベンゼン (mg/L)	セレン及びその化合物 (mg/L)	1,4-ジオキサン (mg/L)
浸出水処理施設の排水基準	0.03以下	0.2以下	0.1以下	0.1以下	0.5以下
2026/4/20 （貯蔵中）	ND	ND	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	ほう素及びその化合物 (mg/L)	ふっ素及びその化合物 (mg/L)	アンモニア、アンモニウム化合物、亜硝酸化合物及び硝酸化合物 (mg/L)	ノルマルヘキサン抽出物質含有量（鉱油類含有量） (mg/L)	ノルマルヘキサン抽出物質含有量（動植物油脂類含有量） (mg/L)
浸出水処理施設の排水基準	50以下	15以下	200以下	5以下	30以下
2026/4/20 （貯蔵中）	ND	ND	1.4	ND	ND

測定項目 / 測定日	フェノール類含有量 (mg/L)	銅含有量 (mg/L)	亜鉛含有量 (mg/L)	溶解性鉄含有量 (mg/L)	溶解性マンガン含有量 (mg/L)
浸出水処理施設の排水基準	5以下	3以下	2以下	10以下	10以下
2026/4/20 （貯蔵中）	ND	ND	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	クロム含有量 (mg/L)	大腸菌数 ※1 (CFU/mL)	ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)
浸出水処理施設の排水基準	2以下	800以下	10以下
2026/4/20 （貯蔵中）	ND	ND	0.0074

※1：放射性物質汚染対処特措法施行規則の改正（2025年4月施行）により大腸菌群数から大腸菌数に見直された。
※2：放射性物質汚染対処特措法施行規則別表第四（第二十六条関係）の改正（2026年4月施行）により、「六価クロム化合物」の基準が「0.5 mg/L以下」から「0.2 mg/L以下」へ変更された。

2025年4月以降、下記の土壌貯蔵施設の浸出水処理施設が稼働停止中のため、浸出水処理は本工区の浸出水処理施設において実施。
大熊⑤工区、双葉①工区西側、双葉③工区

NDとは、定量下限値未満であることを示す。

■放流先河川の環境基準項目

測定項目 / 測定日	カドミウム (mg/L)	全シアン (mg/L)	鉛 (mg/L)	六価クロム (mg/L)	砒素 (mg/L)
水質環境基準	0.003以下	検出されないこと	0.01以下	0.02以下	0.01以下
2020/3/12 （稼働前）	ND	不検出	ND	ND	ND
2026/4/20 （貯蔵中）	ND	不検出	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	総水銀 (mg/L)	アルキル水銀 (mg/L)	PCB (mg/L)	ジクロロメタン (mg/L)	四塩化炭素 (mg/L)
水質環境基準	0.0005以下	検出されないこと	検出されないこと	0.02以下	0.002以下
2020/3/12 （稼働前）	ND	不検出	不検出	ND	ND
2026/4/20 （貯蔵中）	ND	不検出	不検出	ND	ND

測定項目 / 測定日	1,2-ジクロロエタン (mg/L)	1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	シス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	1,1,1-トリクロロエタン (mg/L)	1,1,2-トリクロロエタン (mg/L)
水質環境基準	0.004以下	0.1以下	0.04以下	1以下	0.006以下
2020/3/12 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
2026/4/20 （貯蔵中）	ND	ND	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	トリクロロエチレン (mg/L)	テトラクロロエチレン (mg/L)	1,3-ジクロロプロペン (mg/L)	チウラム (mg/L)	シマジン (mg/L)
水質環境基準	0.01以下	0.01以下	0.002以下	0.006以下	0.003以下
2020/3/12 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
2026/4/20 （貯蔵中）	ND	ND	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	チオベンカルブ (mg/L)	ベンゼン (mg/L)	セレン (mg/L)	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素 (mg/L)	フッ素 (mg/L)
水質環境基準	0.02以下	0.01以下	0.01以下	10以下	0.8以下
2020/3/12 （稼働前）	ND	ND	ND	0.2	ND
2026/4/20 （貯蔵中）	ND	ND	ND	0.8	0.12

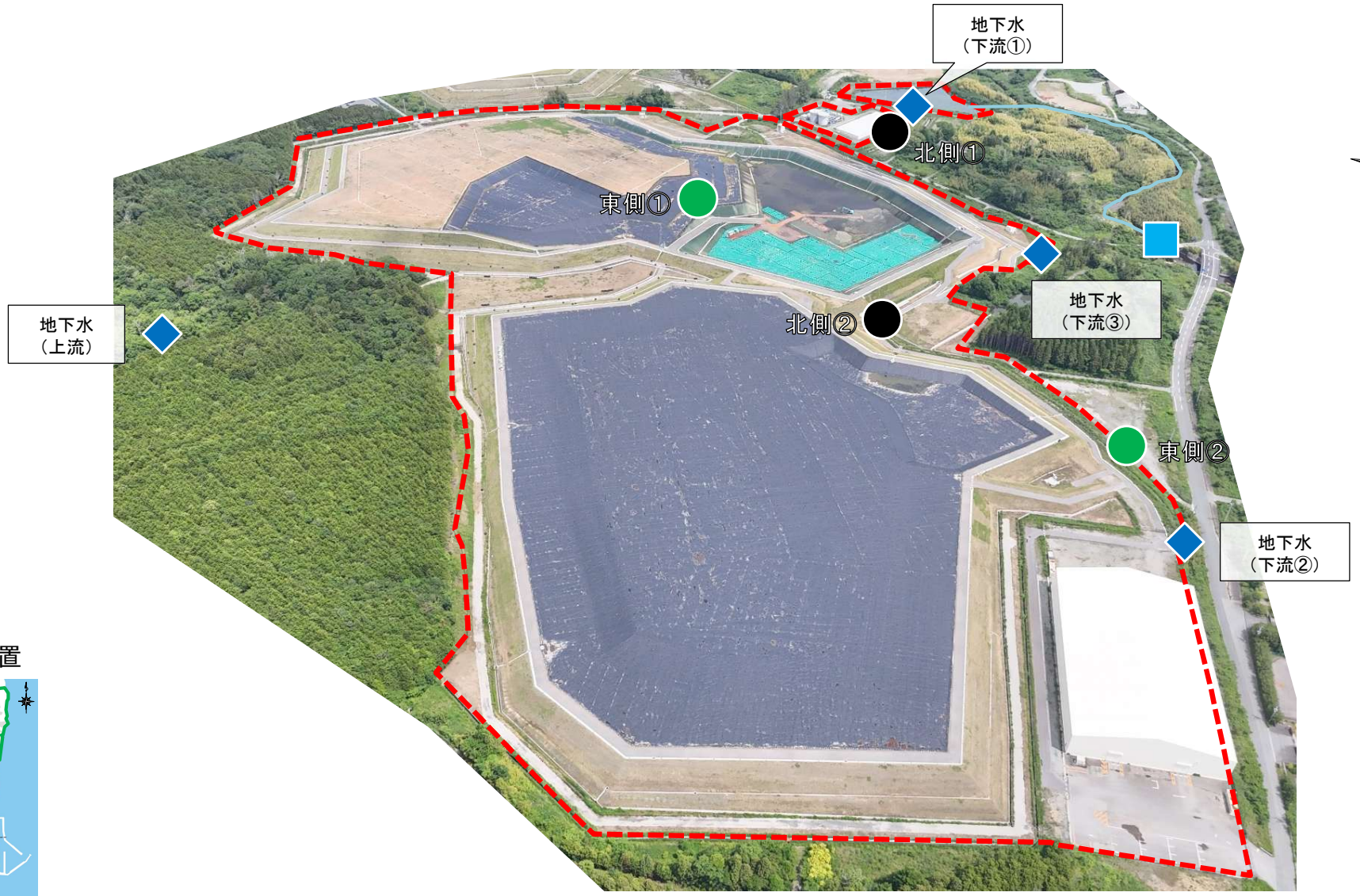
測定項目 / 測定日	ホウ素 (mg/L)	1,4-ジオキサン (mg/L)
水質環境基準	1以下	0.05以下
2020/3/12 （稼働前）	ND	ND
2026/4/20 （貯蔵中）	ND	ND

測定項目 / 測定日	水素イオン濃度 (pH) ※3	生物化学的酸素要求量 (BOD) ※3 (mg/L)	浮遊物質量 (SS) ※3 (mg/L)	溶存酸素量 (DO) ※3 (mg/L)	大腸菌数 ※3,※4 (CFU/100mL)
2020/3/12 （稼働前）	7.7	0.7	11	10	—
2026/4/20 （貯蔵中）	8.2	3.7	3.7	10.7	65

※3：中間貯蔵施設区域及び周辺の河川は、環境基準の水域類型に指定されていない。
（参考）河川C類型の環境基準：pH 6.5～8.5、BOD 5mg/L以下、SS 50mg/L以下、DO 5mg/L以上
※4：環境基準の改正（2022年4月施行）により大腸菌群数から大腸菌数に見直された。
2020年3月12日（稼働前）の大腸菌群数は 130 MPN/100mLであった。

NDとは、定量下限値未満であることを示す。

土壌貯蔵施設（大熊⑤工区）のモニタリング測定地点（年次測定）



☆：施設の位置



【 凡例 】
- ●：騒音・振動
- ●：悪臭
- ◆：地下水検査項目（井戸）
- ■：放流先河川の環境基準項目
- ----：敷地境界線

土壌貯蔵施設（大熊⑤工区）のモニタリング測定結果（年次測定）①

●騒音

測定地点	測定項目 / 測定日	騒音レベル (dB)
東側①	2019/4/18 （稼働前）	66
	2026/6/17 （稼働後）	54
東側②	2020/7/31 （稼働前）	63
	2026/6/17 （稼働後）	51

大熊町と双葉町は、騒音規制法に基づく指定地域を有する市町村に該当しない。
福島県生活環境の保全等に関する条例に基づく基準：60dB （昼間7:00～19:00）

●振動

測定地点	測定項目 / 測定日	振動レベル (dB)
東側①	2019/4/18 （稼働前）	54
	2026/6/17 （稼働後）	30未満
東側②	2020/7/31 （稼働前）	48
	2026/6/17 （稼働後）	30未満

大熊町と双葉町は、振動規制法に基づく指定地域を有する市町村に該当しない。
福島県振動防止対策指針に基づく基準：65dB（昼間7:00～19:00）

●悪臭

測定地点	測定項目 / 測定日	臭気指数
北側①	2019/4/18 （稼働前）	10未満 （風上）
	2026/6/17 （稼働後）	10未満 （風下）
北側②	2020/7/28 （稼働前）	10未満 （風下）
	2026/6/17 （稼働後）	10未満 （風上）

事業用地は悪臭防止法に基づく規制の対象地域ではない。
福島県悪臭防止対策指針による臭気指数の限度：15

◆地下水検査項目（井戸）

測定地点	測定項目 / 測定日	アルキル水銀 (mg/L)	総水銀 (mg/L)	カドミウム (mg/L)	鉛 (mg/L)	六価クロム※ (mg/L)	砒素 (mg/L)	全シアン (mg/L)
	地下水検査基準	検出されないこと	0.0005以下	0.003以下	0.01以下	0.02以下	0.01以下	検出されないこと
上流	2019/4/18 （稼働前）	不検出	ND	ND	0.051	ND	ND	不検出
	2026/6/23 （稼働後）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	不検出
下流①	2019/4/18 （稼働前）	不検出	ND	ND	0.008	ND	ND	不検出
	2026/6/23 （稼働後）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	不検出
下流②	2020/7/31 （稼働前）	不検出	ND	ND	0.009	ND	ND	不検出
	2026/6/24 （稼働後）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	不検出
下流③	2024/4/17 （稼働前）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	不検出
	2026/6/24 （稼働後）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	不検出

測定地点	測定項目 / 測定日	PCB (mg/L)	トリクロロエチレン (mg/L)	テトラクロロエチレン (mg/L)	ジクロロメタン (mg/L)	四塩化炭素 (mg/L)	1,2-ジクロロエタン (mg/L)	1,1-ジクロロエチレン (mg/L)
	地下水検査基準	検出されないこと	0.01以下	0.01以下	0.02以下	0.002以下	0.004以下	0.1以下
上流	2019/4/18 （稼働前）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2026/6/23 （稼働後）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND
下流①	2019/4/18 （稼働前）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2026/6/23 （稼働後）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND
下流②	2020/7/31 （稼働前）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2026/6/24 （稼働後）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND
下流③	2024/4/17 （稼働前）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2026/6/24 （稼働後）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	1,1,1-トリクロロエタン (mg/L)	1,1,2-トリクロロエタン (mg/L)	1,3-ジクロロプロペン (mg/L)	チウラム (mg/L)	シマジン (mg/L)	チオベンカルブ (mg/L)
	地下水検査基準	0.04以下	1以下	0.006以下	0.002以下	0.006以下	0.003以下	0.02以下
上流	2019/4/18 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2026/6/23 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
下流①	2019/4/18 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2026/6/23 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
下流②	2020/7/31 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2026/6/24 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
下流③	2024/4/17 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2026/6/24 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	ベンゼン (mg/L)	セレン (mg/L)	1,4-ジオキサン (mg/L)	クロロエチレン (mg/L)	ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)
	地下水検査基準	0.01以下	0.01以下	0.05以下	0.002以下	1以下
上流	2019/4/18 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	0.79
	2026/6/23 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	0.035
下流①	2019/4/18 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	0.039
	2026/6/23 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	0.035
下流②	2020/7/31 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	0.027
	2026/6/24 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	0.036
下流③	2024/4/17 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	0.041
	2026/6/24 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	0.063

※ 放射性物質汚染対処特措法施行規則別表第三（第二十六条関係）の改正（2026年4月施行）により、
「六価クロム」の基準が「0.05mg/L以下」から「0.02mg/L以下」へ変更された。

NDとは、定量下限値未満であることを示す。

土壌貯蔵施設（大熊⑤工区）のモニタリング測定結果（年次測定）②

■放流先河川の環境基準項目

測定項目 / 測定日	カドミウム (mg/L)	全シアン (mg/L)	鉛 (mg/L)	六価クロム (mg/L)	砒素 (mg/L)
水質環境基準	0.003以下	検出されないこと	0.01以下	0.02以下	0.01以下
2020/12/22 （稼働前）	ND	不検出	ND	ND	ND
2026/6/24 （稼働後）	ND	不検出	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	総水銀 (mg/L)	アルキル水銀 (mg/L)	PCB (mg/L)	ジクロロメタン (mg/L)	四塩化炭素 (mg/L)
水質環境基準	0.0005以下	検出されないこと	検出されないこと	0.02以下	0.002以下
2020/12/22 （稼働前）	ND	不検出	不検出	ND	ND
2026/6/24 （稼働後）	ND	不検出	不検出	ND	ND

測定項目 / 測定日	1,2-ジクロロエタン (mg/L)	1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	シス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	1,1,1-トリクロロエタン (mg/L)	1,1,2-トリクロロエタン (mg/L)
水質環境基準	0.004以下	0.1以下	0.04以下	1以下	0.006以下
2020/12/22 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
2026/6/24 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	トリクロロエチレン (mg/L)	テトラクロロエチレン (mg/L)	1,3-ジクロロプロペン (mg/L)	チウラム (mg/L)	シマジン (mg/L)
水質環境基準	0.01以下	0.01以下	0.002以下	0.006以下	0.003以下
2020/12/22 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
2026/6/24 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	チオベンカルブ (mg/L)	ベンゼン (mg/L)	セレン (mg/L)	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素 (mg/L)	フッ素 (mg/L)
水質環境基準	0.02以下	0.01以下	0.01以下	10以下	0.8以下
2020/12/22 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
2026/6/24 （稼働後）	ND	ND	ND	0.2	0.08

測定項目 / 測定日	ホウ素 (mg/L)	1,4-ジオキサン (mg/L)
水質環境基準	1以下	0.05以下
2020/12/22 （稼働前）	ND	ND
2026/6/24 （稼働後）	ND	ND

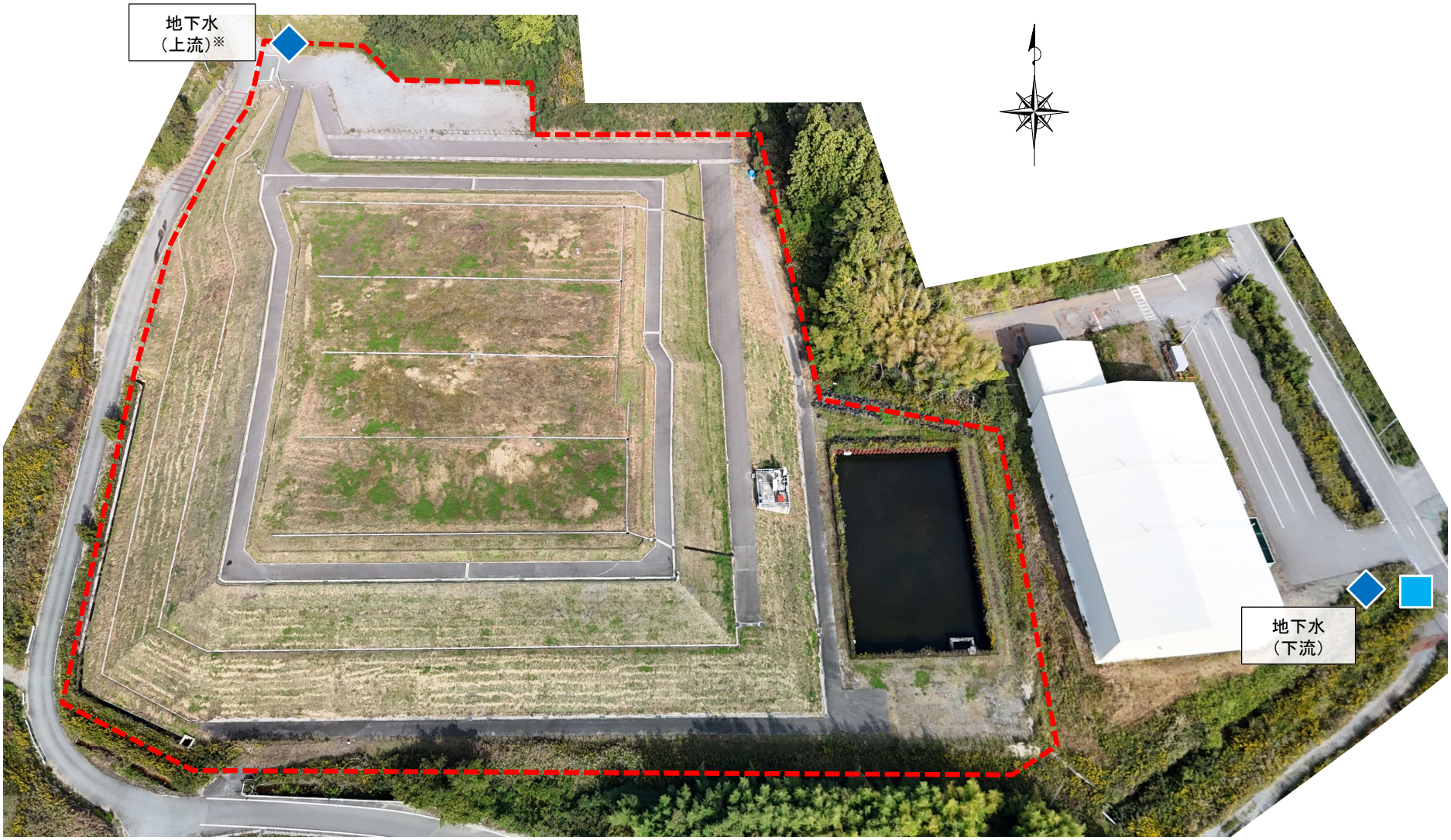
測定項目 / 測定日	水素イオン濃度 （pH）※1	生物化学的酸素要求量 （BOD）※1 (mg/L)	浮遊物質量 （SS）※1 (mg/L)	溶存酸素量 （DO）※1 (mg/L)	大腸菌数 ※1,※2 (CFU/100mL)
2020/12/22 （稼働前）	7.9	0.6	1	14.7	—
2026/6/24 （稼働後）	7.6	1.7	6.5	10.5	89

※1：中間貯蔵施設区域及び周辺の河川は、環境基準の水域類型に指定されていない。
（参考）河川C類型の環境基準：pH 6.5～8.5、BOD 5mg/L以下、SS 50mg/L以下、DO 5mg/L以上
※2：環境基準の改正（2022年4月施行）により大腸菌群数から大腸菌数に見直された。
2020年12月22日（稼働前）の大腸菌群数は 280 MPN/100mLであった。

本工区の浸出水処理施設は2025年4月以降、稼働停止中。浸出水処理は土壌貯蔵施設（大熊④工区）の浸出水処理施設において実施。

NDとは、定量下限値未満であることを示す。

土壌貯蔵施設（双葉①工区東側）のモニタリング測定地点（年次測定）＜貯蔵中＞



☆：施設の位置



【 凡例 】
◆：地下水検査項目（井戸）　■：放流先河川の環境基準項目　----：敷地境界線

※敷地境界の変更に伴い従前の上流井戸を移設し、2021年4月より現地点での測定を開始。

土壌貯蔵施設（双葉①工区東側）のモニタリング測定結果（年次測定）

◆地下水検査項目（井戸）

測定地点	測定項目 / 測定日	アルキル水銀 (mg/L)	総水銀 (mg/L)	カドミウム (mg/L)	鉛 (mg/L)	六価クロム※1 (mg/L)
	地下水検査基準	検出されないこと	0.0005以下	0.003以下	0.01以下	0.02以下
上流	2021/3/16 （井戸移設後）	不検出	ND	ND	0.009	ND
	2026/5/26 （貯蔵中）	不検出	ND	ND	ND	ND
下流	2017/11/23 （稼働前）	不検出	ND	ND	ND	ND
	2026/5/25 （貯蔵中）	不検出	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	砒素 (mg/L)	全シアン (mg/L)	PCB (mg/L)	トリクロロエチレン (mg/L)	テトラクロロエチレン (mg/L)
	地下水検査基準	0.01以下	検出されないこと	検出されないこと	0.01以下	0.01以下
上流	2021/3/16 （井戸移設後）	0.002	不検出	不検出	ND	ND
	2026/5/26 （貯蔵中）	ND	不検出	不検出	ND	ND
下流	2017/11/23 （稼働前）	ND	不検出	不検出	ND	ND
	2026/5/25 （貯蔵中）	ND	不検出	不検出	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	ジクロロメタン (mg/L)	四塩化炭素 (mg/L)	1,2-ジクロロエタン (mg/L)	1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	1,2-ジクロロエチレン (mg/L)
	地下水検査基準	0.02以下	0.002以下	0.004以下	0.1以下	0.04以下
上流	2021/3/16 （井戸移設後）	ND	ND	ND	ND	ND
	2026/5/26 （貯蔵中）	ND	ND	ND	ND	ND
下流	2017/11/23 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2026/5/25 （貯蔵中）	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	1,1,1-トリクロロエタン (mg/L)	1,1,2-トリクロロエタン (mg/L)	1,3-ジクロロプロペン (mg/L)	チウラム (mg/L)	シマジン (mg/L)
	地下水検査基準	1以下	0.006以下	0.002以下	0.006以下	0.003以下
上流	2021/3/16 （井戸移設後）	ND	ND	ND	ND	ND
	2026/5/26 （貯蔵中）	ND	ND	ND	ND	ND
下流	2017/11/23 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2026/5/25 （貯蔵中）	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	チオベンカルブ (mg/L)	ベンゼン (mg/L)	セレン (mg/L)	1,4-ジオキサン (mg/L)	クロロエチレン (mg/L)
	地下水検査基準	0.02以下	0.01以下	0.01以下	0.05以下	0.002以下
上流	2021/3/16 （井戸移設後）	ND	ND	ND	ND	ND
	2026/5/26 （貯蔵中）	ND	ND	ND	ND	ND
下流	2017/11/23 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2026/5/25 （貯蔵中）	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)
	地下水検査基準	1以下
上流	2021/3/16 （井戸移設後）	0.16
	2026/5/25 （貯蔵中）	0.051
下流	2017/11/23 （稼働前）	0.097
	2026/5/25 （貯蔵中）	0.037

※1 放射性物質汚染対処特措法施行規則別表第三（第二十六条関係）の改正（2026年4月施行）により、
「六価クロム」の基準が「0.05mg/L以下」から「0.02mg/L以下」へ変更された。

NDとは、定量下限値未満であることを示す。

■放流先河川の環境基準項目

測定項目 / 測定日	カドミウム (mg/L)	全シアン (mg/L)	鉛 (mg/L)	六価クロム (mg/L)	砒素 (mg/L)
水質環境基準	0.003以下	検出されないこと	0.01以下	0.02以下	0.01以下
2017/11/2 （稼働前）	0.0004	不検出	ND	ND	ND
2026/5/25 （貯蔵中）	0.0012	不検出	ND	ND	0.002

測定項目 / 測定日	総水銀 (mg/L)	アルキル水銀 (mg/L)	PCB (mg/L)	ジクロロメタン (mg/L)	四塩化炭素 (mg/L)
水質環境基準	0.0005以下	検出されないこと	検出されないこと	0.02以下	0.002以下
2017/11/2 （稼働前）	ND	不検出	不検出	ND	ND
2026/5/25 （貯蔵中）	ND	不検出	不検出	ND	ND

測定項目 / 測定日	1,2-ジクロロエタン (mg/L)	1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	シス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	1,1,1-トリクロロエタン (mg/L)	1,1,2-トリクロロエタン (mg/L)
水質環境基準	0.004以下	0.1以下	0.04以下	1以下	0.006以下
2017/11/2 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
2026/5/25 （貯蔵中）	ND	ND	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	トリクロロエチレン (mg/L)	テトラクロロエチレン (mg/L)	1,3-ジクロロプロペン (mg/L)	チウラム (mg/L)	シマジン (mg/L)
水質環境基準	0.01以下	0.01以下	0.002以下	0.006以下	0.003以下
2017/11/2 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
2026/5/25 （貯蔵中）	ND	ND	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	チオベンカルブ (mg/L)	ベンゼン (mg/L)	セレン (mg/L)	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素 (mg/L)	フッ素 (mg/L)
水質環境基準	0.02以下	0.01以下	0.01以下	10以下	0.8以下
2017/11/2 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	0.09
2026/5/25 （貯蔵中）	ND	ND	ND	0.2	0.16

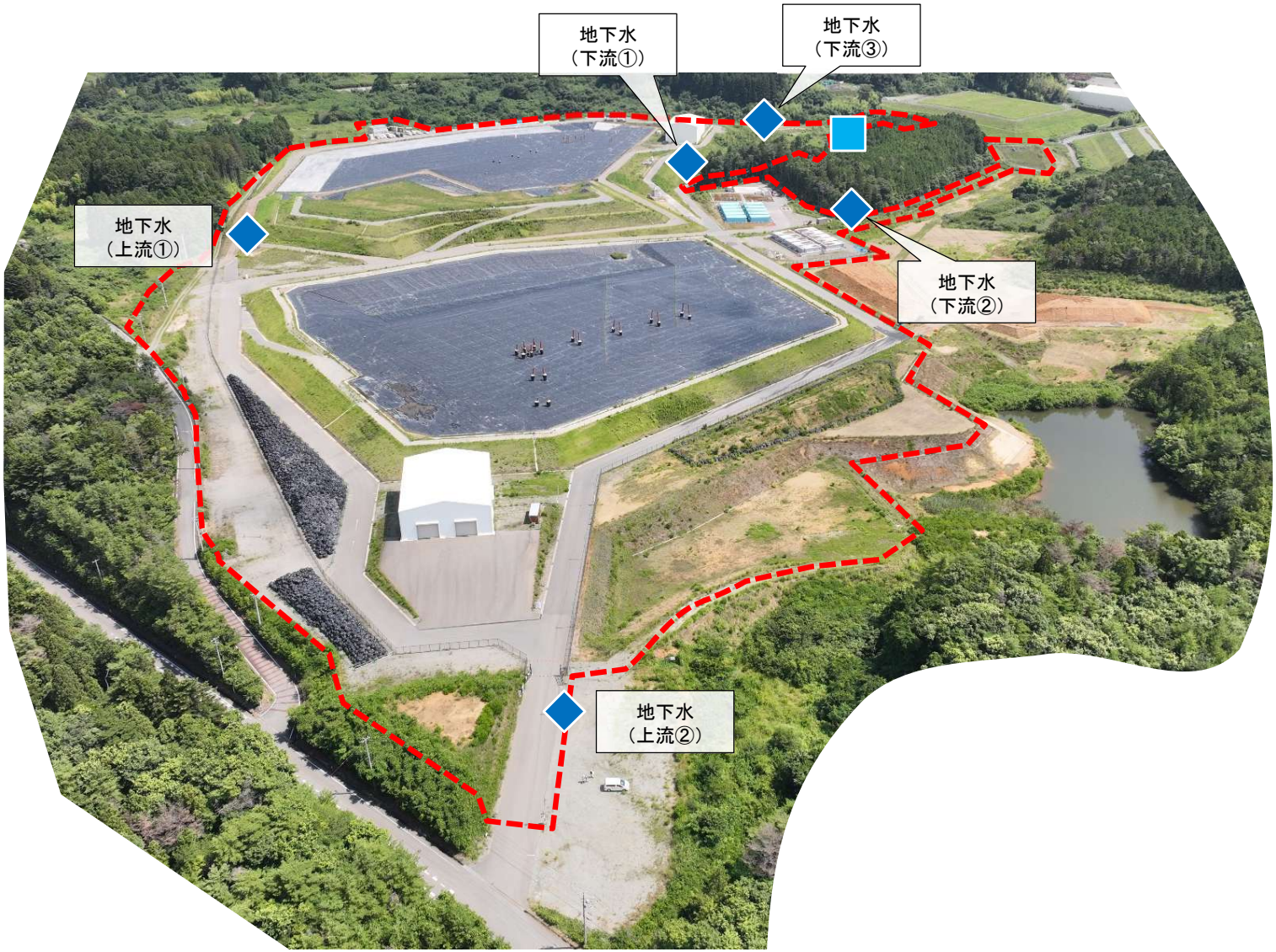
測定項目 / 測定日	ホウ素 (mg/L)	1,4-ジオキサン (mg/L)
水質環境基準	1以下	0.05以下
2017/11/2 （稼働前）	ND	ND
2026/5/25 （貯蔵中）	ND	ND

測定項目 / 測定日	水素イオン濃度 （pH）※2	生物化学的酸素要求量 （BOD）※2 (mg/L)	浮遊物質量 （SS）※2 (mg/L)	溶存酸素量 （DO）※2 (mg/L)	大腸菌数 ※2,※3 (CFU/100mL)
2017/11/2 （稼働前）	7.0	ND	7	9.7	—
2026/5/25 （貯蔵中）	6.6	1.5	23	10	4

※2：中間貯蔵施設区域及び周辺の河川は、環境基準の水域類型に指定されていない。
（参考）河川C類型の環境基準：pH 6.5～8.5、BOD 5mg/L以下、SS 50mg/L以下、DO 5mg/L以上
※3：環境基準の改正（2022年4月施行）により大腸菌群数から大腸菌数に見直された。
2017年11月2日（稼働前）の大腸菌群数は 2200 MPN/100mLであった。

NDとは、定量下限値未満であることを示す。

土壌貯蔵施設（双葉①工区西側）のモニタリング測定地点（年次測定）＜貯蔵中＞



☆：施設の位置



【 凡例 】

◆：地下水検査項目（井戸）　■：放流先河川の環境基準項目　----：敷地境界線

土壌貯蔵施設（双葉①工区西側）のモニタリング測定結果（年次測定）

◆地下水検査項目（井戸）

測定地点	測定項目 / 測定日	アルキル水銀 (mg/L)	総水銀 (mg/L)	カドミウム (mg/L)	鉛 (mg/L)	六価クロム※1 (mg/L)	砒素 (mg/L)	全シアン (mg/L)
	地下水検査基準	検出されないこと	0.0005以下	0.003以下	0.01以下	0.02以下	0.01以下	検出されないこと
上流①	2018/9/10 （稼働前）	不検出	ND	ND	0.008	ND	0.002	不検出
	2026/4/13 （貯蔵中）	不検出	ND	0.004	ND	ND	ND	不検出
上流②（拡張南）	2020/3/25 （稼働前）	不検出	ND	0.0003	0.029	ND	0.003	不検出
	2026/4/13 （貯蔵中）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	不検出
下流①	2018/9/10 （稼働前）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	不検出
	2026/4/13 （貯蔵中）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	不検出
下流②（拡張南）	2020/3/25 （稼働前）	不検出	ND	ND	0.025	ND	0.002	不検出
	2026/4/14 （貯蔵中）	不検出	ND	0.0027	ND	ND	0.004	不検出
下流③（拡張北）	2021/10/27 （稼働前）	不検出	ND	ND	0.002	ND	0.007	不検出
	2026/4/15 （貯蔵中）	不検出	ND	0.0051	0.001	ND	0.004	不検出

測定地点	測定項目 / 測定日	PCB (mg/L)	トリクロロエチレン (mg/L)	テトラクロロエチレン (mg/L)	ジクロロメタン (mg/L)	四塩化炭素 (mg/L)	1,2-ジクロロエタン (mg/L)	1,1-ジクロロエチレン (mg/L)
	地下水検査基準	検出されないこと	0.01以下	0.01以下	0.02以下	0.002以下	0.004以下	0.1以下
上流①	2018/9/10 （稼働前）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2026/4/13 （貯蔵中）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND
上流②（拡張南）	2020/3/25 （稼働前）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2026/4/13 （貯蔵中）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND
下流①	2018/9/10 （稼働前）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2026/4/13 （貯蔵中）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND
下流②（拡張南）	2020/3/25 （稼働前）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2026/4/14 （貯蔵中）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND
下流③（拡張北）	2021/10/27 （稼働前）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2026/4/15 （貯蔵中）	不検出	ND	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	1,1,1-トリクロロエタン (mg/L)	1,1,2-トリクロロエタン (mg/L)	1,3-ジクロロプロペン (mg/L)	チウラム (mg/L)	シマジン (mg/L)	チオベンカルブ (mg/L)
	地下水検査基準	0.04以下	1以下	0.006以下	0.002以下	0.006以下	0.003以下	0.02以下
上流①	2018/9/10 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2026/4/13 （貯蔵中）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
上流②（拡張南）	2020/3/25 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2026/4/13 （貯蔵中）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
下流①	2018/9/10 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2026/4/13 （貯蔵中）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
下流②（拡張南）	2020/3/25 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2026/4/14 （貯蔵中）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
下流③（拡張北）	2021/10/27 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	2026/4/15 （貯蔵中）	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	ベンゼン (mg/L)	セレン (mg/L)	1,4-ジオキサン (mg/L)	クロロエチレン (mg/L)	ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)
	地下水検査基準	0.01以下	0.01以下	0.05以下	0.002以下	1以下
上流①	2018/9/10 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	2.0
	2026/4/13 （貯蔵中）	ND	ND	ND	ND	0.044
上流②（拡張南）	2020/3/25 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	0.55
	2026/4/13 （貯蔵中）	ND	ND	ND	ND	0.036
下流①	2018/9/10 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	0.71
	2026/4/13 （貯蔵中）	ND	ND	ND	ND	0.036
下流②（拡張南）	2020/3/25 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	1.7
	2026/4/14 （貯蔵中）	ND	ND	ND	ND	0.036
下流③（拡張北）	2021/10/27 （稼働前）※2	ND	ND	ND	ND	0.19
	2026/4/15 （貯蔵中）※3	ND	ND	ND	ND	0.24

※1 放射性物質汚染対処特措法施行規則別表第三（第二十六条関係）の改正（2026年4月施行）により、「六価クロム」の基準が「0.05 mg/L以下」から「0.02 mg/L以下」へ変更された。
※2 下流③：ダイオキシン類の稼働前測定日は2021年11月2日。
※3 下流③：ダイオキシン類の測定日は2026年4月13日。

NDとは、定量下限値未満であることを示す。

■放流先河川の環境基準項目

測定項目 / 測定日	カドミウム (mg/L)	全シアン (mg/L)	鉛 (mg/L)	六価クロム (mg/L)	砒素 (mg/L)
水質環境基準	0.003以下	検出されないこと	0.01以下	0.02以下	0.01以下
2018/9/3 （稼働前）	0.004	不検出	0.001	ND	0.001
2026/4/14 （貯蔵中）	0.0016	不検出	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	総水銀 (mg/L)	アルキル水銀 (mg/L)	PCB (mg/L)	ジクロロメタン (mg/L)	四塩化炭素 (mg/L)
水質環境基準	0.0005以下	検出されないこと	検出されないこと	0.02以下	0.002以下
2018/9/3 （稼働前）	ND	不検出	不検出	ND	ND
2026/4/14 （貯蔵中）	ND	不検出	不検出	ND	ND

測定項目 / 測定日	1,2-ジクロロエタン (mg/L)	1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	シス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	1,1,1-トリクロロエタン (mg/L)	1,1,2-トリクロロエタン (mg/L)
水質環境基準	0.004以下	0.1以下	0.04以下	1以下	0.006以下
2018/9/3 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
2026/4/14 （貯蔵中）	ND	ND	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	トリクロロエチレン (mg/L)	テトラクロロエチレン (mg/L)	1,3-ジクロロプロペン (mg/L)	チウラム (mg/L)	シマジン (mg/L)
水質環境基準	0.01以下	0.01以下	0.002以下	0.006以下	0.003以下
2018/9/3 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
2026/4/14 （貯蔵中）	ND	ND	ND	ND	ND

測定項目 / 測定日	チオベンカルブ (mg/L)	ベンゼン (mg/L)	セレン (mg/L)	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素 (mg/L)	フッ素 (mg/L)
水質環境基準	0.02以下	0.01以下	0.01以下	10以下	0.8以下
2018/9/3 （稼働前）	ND	ND	ND	1.1	0.17
2026/4/14 （貯蔵中）	ND	ND	ND	0.4	0.3

測定項目 / 測定日	ホウ素 (mg/L)	1,4-ジオキサン (mg/L)
水質環境基準	1以下	0.05以下
2018/9/3 （稼働前）	ND	ND
2026/4/14 （貯蔵中）	ND	ND

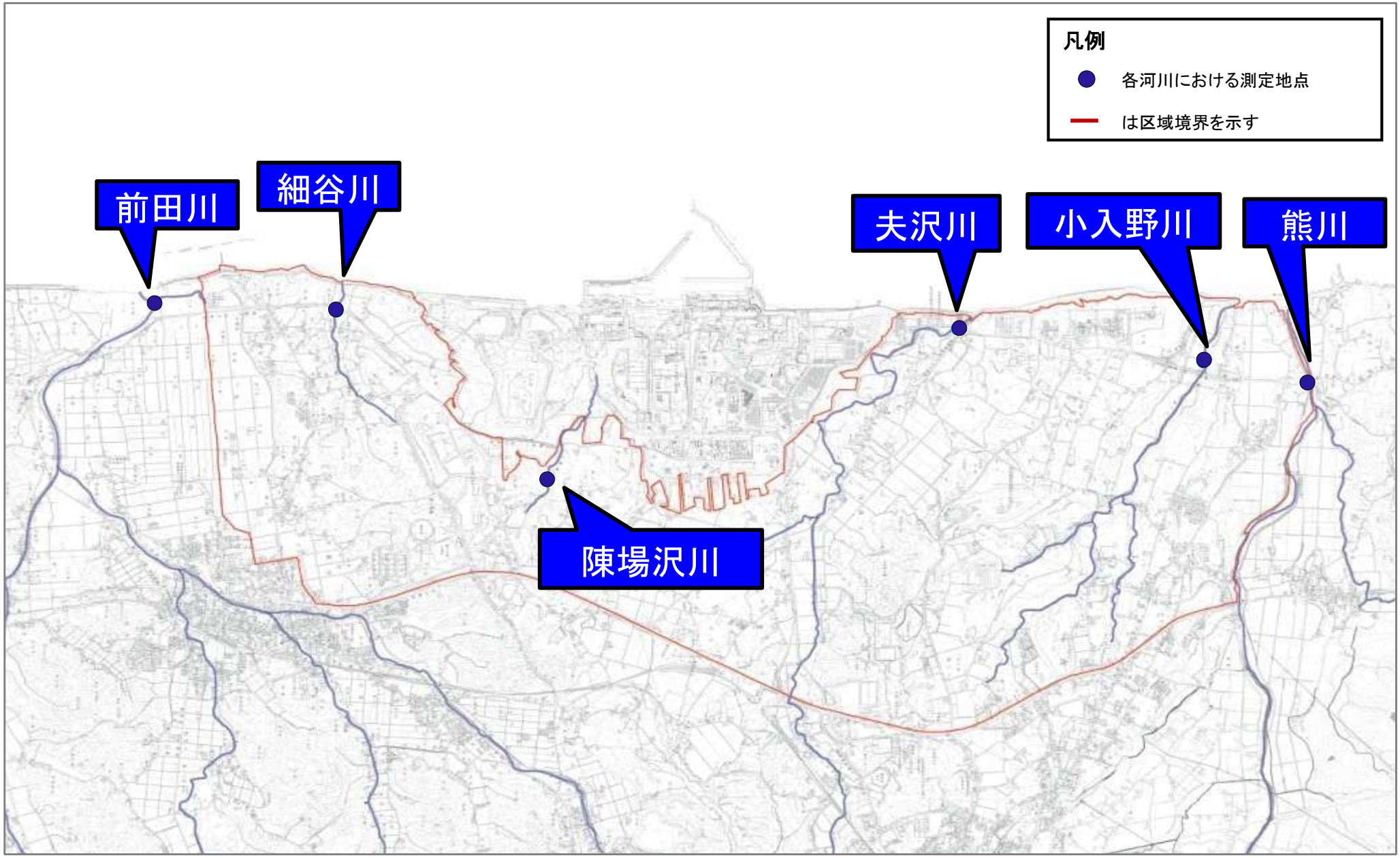
測定項目 / 測定日	水素イオン濃度 (pH) ※4	生物化学的酸素要求量 (BOD) ※4 (mg/L)	浮遊物質量 (SS) ※4 (mg/L)	溶存酸素量 (DO) ※4 (mg/L)	大腸菌数 ※4,※5 (CFU/100mL)
2018/9/3 （稼働前）	4.9	4.4	58	7.8	—
2026/4/14 （貯蔵中）	4.4	1.3	1.8	9.2	ND

※4：中間貯蔵施設区域及び周辺の河川は、環境基準の水域類型に指定されていない。
（参考）河川C類型の環境基準：pH 6.5～8.5、BOD 5mg/L以下、SS 50mg/L以下、DO 5mg/L以上
※5：環境基準の改正（2022年4月施行）により大腸菌群数から大腸菌数に見直された。
2018年9月3日（稼働前）の大腸菌群数は 330 MPN/100mLであった。

本工区の浸出水処理施設は2025年4月以降、稼働停止中。浸出水処理は土壌貯蔵施設（大熊④工区）の浸出水処理施設において実施。

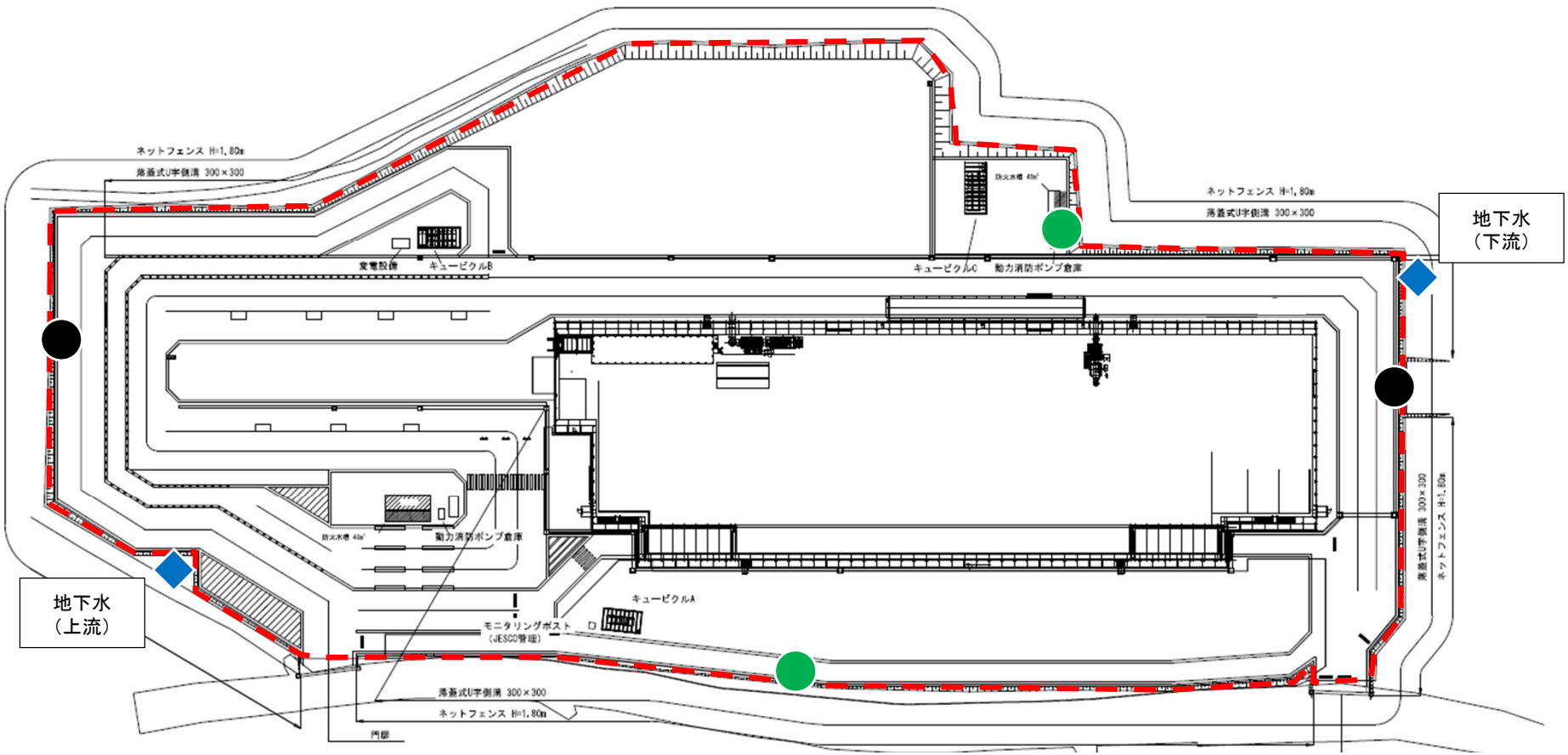
NDとは、定量下限値未満であることを示す。

河川最下流における放射性セシウムの測定地点



中間貯蔵容器残さ分別処理施設のモニタリング結果（年次測定等）

中間貯蔵容器残さ分別処理施設（東大和久容残分別テント）のモニタリング測定地点（年次測定等）



★：施設の位置



【 凡例 】
●：騒音・振動　●：悪臭　◆：地下水検査項目　----：敷地境界線

中間貯蔵容器残さ分別処理施設（東大和久容残分別テント）のモニタリング測定結果（稼働前）

●騒音

測定地点 / 測定日	騒音レベル（dB）	
	北側	南側
2026/5/18	54	61

大熊町と双葉町は、騒音規制法に基づく指定地域を有する市町村に該当しない。
福島県生活環境の保全等に関する条例に基づく基準：60dB （昼間7:00～19:00）

●振動

測定地点 / 測定日	振動レベル（dB）	
	北側	南側
2026/5/18	33	46

大熊町と双葉町は、振動規制法に基づく指定地域を有する市町村に該当しない。
福島県振動防止対策指針に基づく基準：65dB（昼間7:00～19:00）

●悪臭

測定地点 / 測定日	臭気指数	
	西側	東側
2026/5/11	10未満 （風上）	10未満 （風下）

事業用地は悪臭防止法に基づく規制の対象地域ではない。
福島県悪臭防止対策指針による臭気指数の限度：15

◆地下水検査項目

測定地点	測定項目 / 測定日	アルキル水銀 (mg/L)	総水銀 (mg/L)	カドミウム (mg/L)	鉛 (mg/L)	六価クロム※ (mg/L)
	地下水検査基準	検出されないこと	0.0005以下	0.003以下	0.01以下	0.02以下
上流	2026/5/18	不検出	ND	ND	0.001	ND
下流	2026/5/18	不検出	ND	ND	0.003	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	砒素 (mg/L)	全シアン (mg/L)	PCB (mg/L)	トリクロロエチレン (mg/L)	テトラクロロエチレン (mg/L)
	地下水検査基準	0.01以下	検出されないこと	検出されないこと	0.01以下	0.01以下
上流	2026/5/18	ND	不検出	不検出	ND	ND
下流	2026/5/18	ND	不検出	不検出	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	ジクロロメタン (mg/L)	四塩化炭素 (mg/L)	1,2-ジクロロエタン (mg/L)	1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	1,2-ジクロロエチレン (mg/L)
	地下水検査基準	0.02以下	0.002以下	0.004以下	0.1以下	0.04以下
上流	2026/5/18	ND	ND	ND	ND	ND
下流	2026/5/18	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	1,1,1-トリクロロエタン (mg/L)	1,1,2-トリクロロエタン (mg/L)	1,3-ジクロロプロペン (mg/L)	チウラム (mg/L)	シマジン (mg/L)
	地下水検査基準	1以下	0.006以下	0.002以下	0.006以下	0.003以下
上流	2026/5/18	ND	ND	ND	ND	ND
下流	2026/5/18	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	チオベンカルブ (mg/L)	ベンゼン (mg/L)	セレン (mg/L)	1,4-ジオキサン (mg/L)	クロロエチレン (mg/L)
	地下水検査基準	0.02以下	0.01以下	0.01以下	0.05以下	0.002以下
上流	2026/5/18	ND	ND	ND	ND	ND
下流	2026/5/18	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)
	地下水検査基準	1以下
上流	2026/5/18	0.12
下流	2026/5/18	0.21

※ 放射性物質汚染対処特措法施行規則別表第三（第二十六条関係）の改正（2026年4月施行）により、「六価クロム」の基準が「0.05mg/L以下」から「0.02mg/L以下」へ変更された。

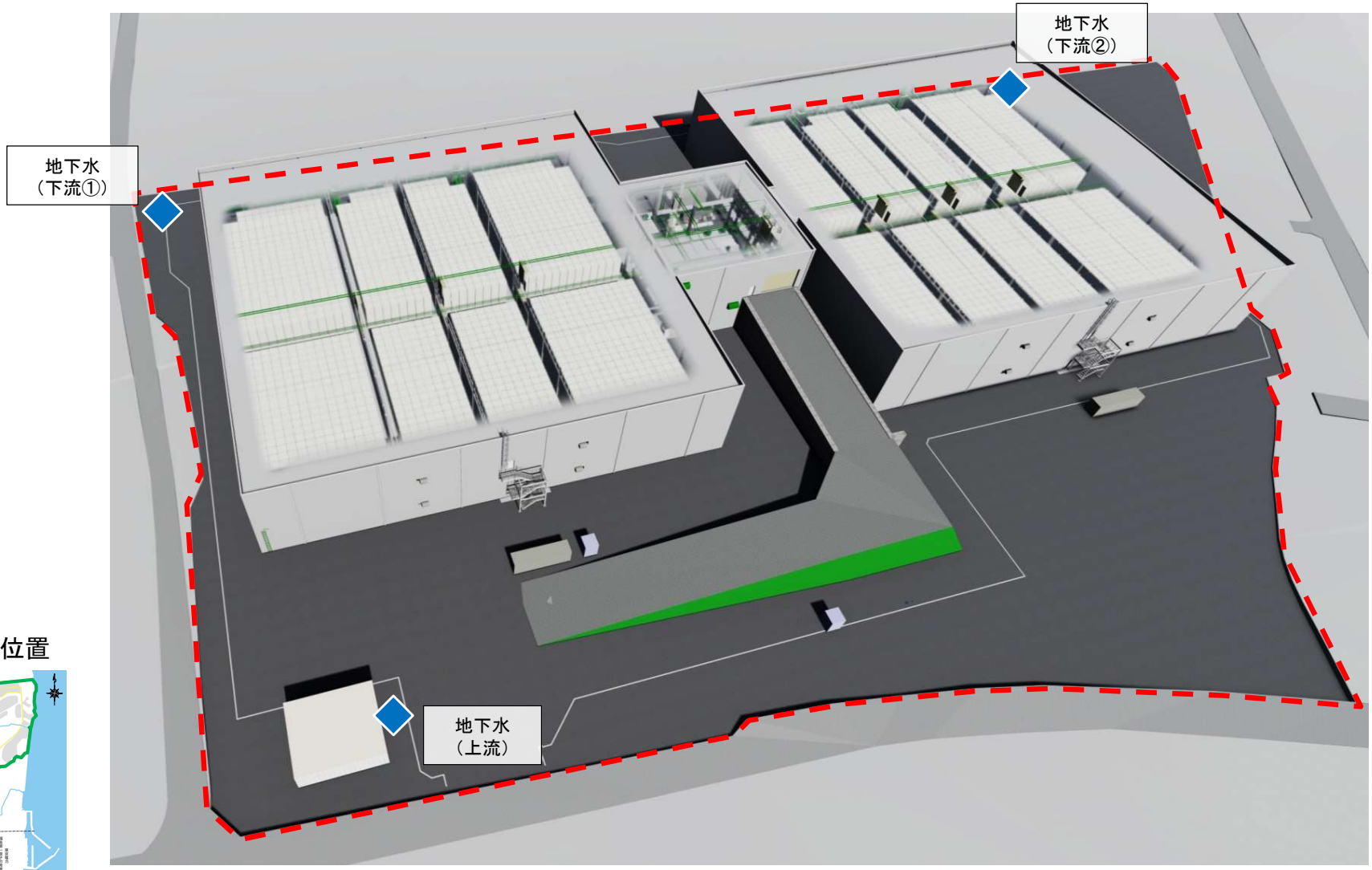
NDとは、定量下限値未満であることを示す。

廃棄物貯蔵施設のモニタリング結果（年次測定）

以下の施設については、中間貯蔵施設環境安全委員会（第29回）でモニタリング結果を報告して以降、年次測定は実施していないため、今回は報告対象外。

・双葉1工区

廃棄物貯蔵施設（大熊1工区）のモニタリング測定地点（年次測定）



★：施設の位置



【 凡例 】
◆：地下水検査項目（井戸）
---- ：敷地境界線

廃棄物貯蔵施設（大熊1工区）のモニタリング測定結果（年次測定）

◆地下水検査項目

測定地点	測定項目 / 測定日	アルキル水銀 (mg/L)	総水銀 (mg/L)	カドミウム (mg/L)	鉛 (mg/L)	六価クロム※ (mg/L)
	地下水検査基準	検出されないこと	0.0005以下	0.003以下	0.01以下	0.02以下
上流	2020/3/9 （稼働前）	不検出	ND	0.0009	0.015	ND
	2026/5/7 （稼働後）	不検出	ND	ND	ND	ND
下流①	2020/3/9 （稼働前）	不検出	ND	ND	0.002	ND
	2026/5/7 （稼働後）	不検出	ND	ND	0.001	ND
下流②	2020/3/9 （稼働前）	不検出	ND	ND	0.01	ND
	2026/5/7 （稼働後）	不検出	ND	ND	0.001	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	砒素 (mg/L)	全シアン (mg/L)	PCB (mg/L)	トリクロロエチレン (mg/L)	テトラクロロエチレン (mg/L)
	地下水検査基準	0.01以下	検出されないこと	検出されないこと	0.01以下	0.01以下
上流	2020/3/9 （稼働前）	0.016	不検出	不検出	ND	ND
	2026/5/7 （稼働後）	ND	不検出	不検出	ND	ND
下流①	2020/3/9 （稼働前）	0.002	不検出	不検出	ND	ND
	2026/5/7 （稼働後）	ND	不検出	不検出	ND	ND
下流②	2020/3/9 （稼働前）	0.009	不検出	不検出	ND	ND
	2026/5/7 （稼働後）	ND	不検出	不検出	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	ジクロロメタン (mg/L)	四塩化炭素 (mg/L)	1,2-ジクロロエタン (mg/L)	1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	1,2-ジクロロエチレン (mg/L)
	地下水検査基準	0.02以下	0.002以下	0.004以下	0.1以下	0.04以下
上流	2020/3/9 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2026/5/7 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND
下流①	2020/3/9 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2026/5/7 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND
下流②	2020/3/9 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2026/5/7 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	1,1,1-トリクロロエタン (mg/L)	1,1,2-トリクロロエタン (mg/L)	1,3-ジクロロプロペン (mg/L)	チウラム (mg/L)	シマジン (mg/L)
	地下水検査基準	1以下	0.006以下	0.002以下	0.006以下	0.003以下
上流	2020/3/9 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2026/5/7 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND
下流①	2020/3/9 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2026/5/7 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND
下流②	2020/3/9 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2026/5/7 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

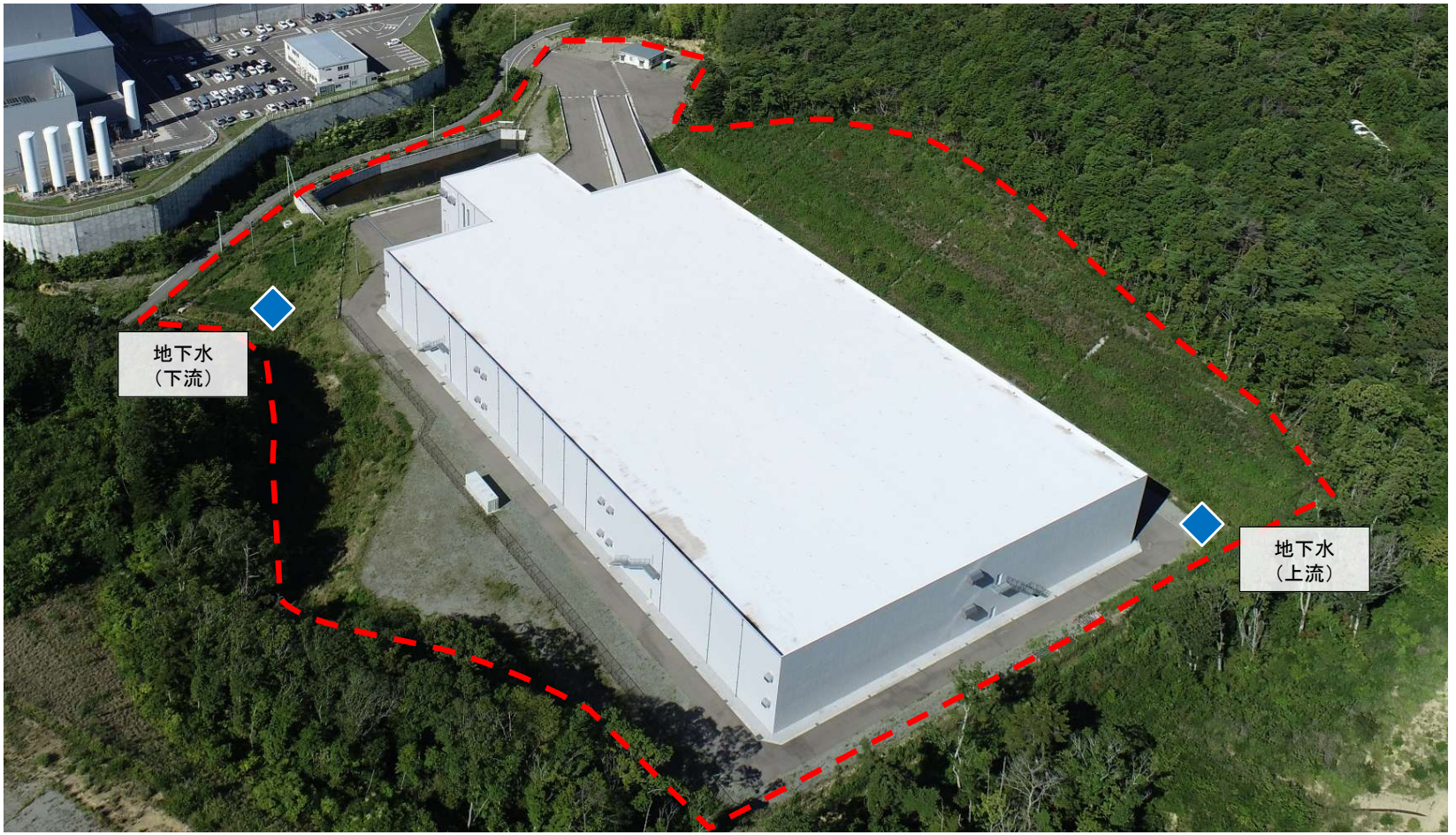
測定地点	測定項目 / 測定日	チオベンカルブ (mg/L)	ベンゼン (mg/L)	セレン (mg/L)	1,4-ジオキサン (mg/L)	クロロエチレン (mg/L)
	地下水検査基準	0.02以下	0.01以下	0.01以下	0.05以下	0.002以下
上流	2020/3/9 （稼働前）	ND	ND	0.001	ND	ND
	2026/5/7 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND
下流①	2020/3/9 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2026/5/7 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND
下流②	2020/3/9 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2026/5/7 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)
	地下水検査基準	1以下
上流	2020/3/9 （稼働前）	1.3
	2026/5/7 （稼働後）	0.019
下流①	2020/3/9 （稼働前）	0.57
	2026/5/7 （稼働後）	0.012
下流②	2020/3/9 （稼働前）	1.7
	2026/5/7 （稼働後）	0.0093

※ 放射性物質汚染対処特措法施行規則別表第三（第二十六条関係）の改正（2026年4月施行）により、「六価クロム」の基準が「0.05mg/L以下」から「0.02mg/L以下」へ変更された。

NDとは、定量下限値未満であることを示す。

廃棄物貯蔵施設（双葉2工区）のモニタリング測定地点（年次測定）



★：施設の位置



【 凡例 】
◆：地下水検査項目（井戸）
---- ：敷地境界線

廃棄物貯蔵施設（双葉2工区）のモニタリング測定結果（年次測定）

◆地下水検査項目

測定地点	測定項目 / 測定日	アルキル水銀 (mg/L)	総水銀 (mg/L)	カドミウム (mg/L)	鉛 (mg/L)	六価クロム※ (mg/L)
	地下水検査基準	検出されないこと	0.0005以下	0.003以下	0.01以下	0.05以下
上流	2023/10/2 （稼働前）	不検出	ND	ND	0.077	ND
	2026/5/8 （稼働後）	不検出	ND	ND	ND	ND
下流	2023/10/2 （稼働前）	不検出	ND	ND	0.001	ND
	2026/5/8 （稼働後）	不検出	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	砒素 (mg/L)	全シアン (mg/L)	PCB (mg/L)	トリクロロエチレン (mg/L)	テトラクロロエチレン (mg/L)
	地下水検査基準	0.01以下	検出されないこと	検出されないこと	0.01以下	0.01以下
上流	2023/10/2 （稼働前）	0.005	不検出	不検出	ND	ND
	2026/5/8 （稼働後）	0.002	不検出	不検出	ND	ND
下流	2023/10/2 （稼働前）	ND	不検出	不検出	ND	ND
	2026/5/8 （稼働後）	ND	不検出	不検出	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	ジクロロメタン (mg/L)	四塩化炭素 (mg/L)	1,2-ジクロロエタン (mg/L)	1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	1,2-ジクロロエチレン (mg/L)
	地下水検査基準	0.02以下	0.002以下	0.004以下	0.1以下	0.04以下
上流	2023/10/2 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2026/5/8 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND
下流	2023/10/2 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2026/5/8 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	1,1,1-トリクロロエタン (mg/L)	1,1,2-トリクロロエタン (mg/L)	1,3-ジクロロプロペン (mg/L)	チウラム (mg/L)	シマジン (mg/L)
	地下水検査基準	1以下	0.006以下	0.002以下	0.006以下	0.003以下
上流	2023/10/2 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2026/5/8 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND
下流	2023/10/2 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2026/5/8 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

測定地点	測定項目 / 測定日	チオベンカルブ (mg/L)	ベンゼン (mg/L)	セレン (mg/L)	1,4-ジオキサン (mg/L)	クロロエチレン (mg/L)
	地下水検査基準	0.02以下	0.01以下	0.01以下	0.05以下	0.002以下
上流	2023/10/2 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2026/5/8 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND
下流	2023/10/2 （稼働前）	ND	ND	ND	ND	ND
	2026/5/8 （稼働後）	ND	ND	ND	ND	ND

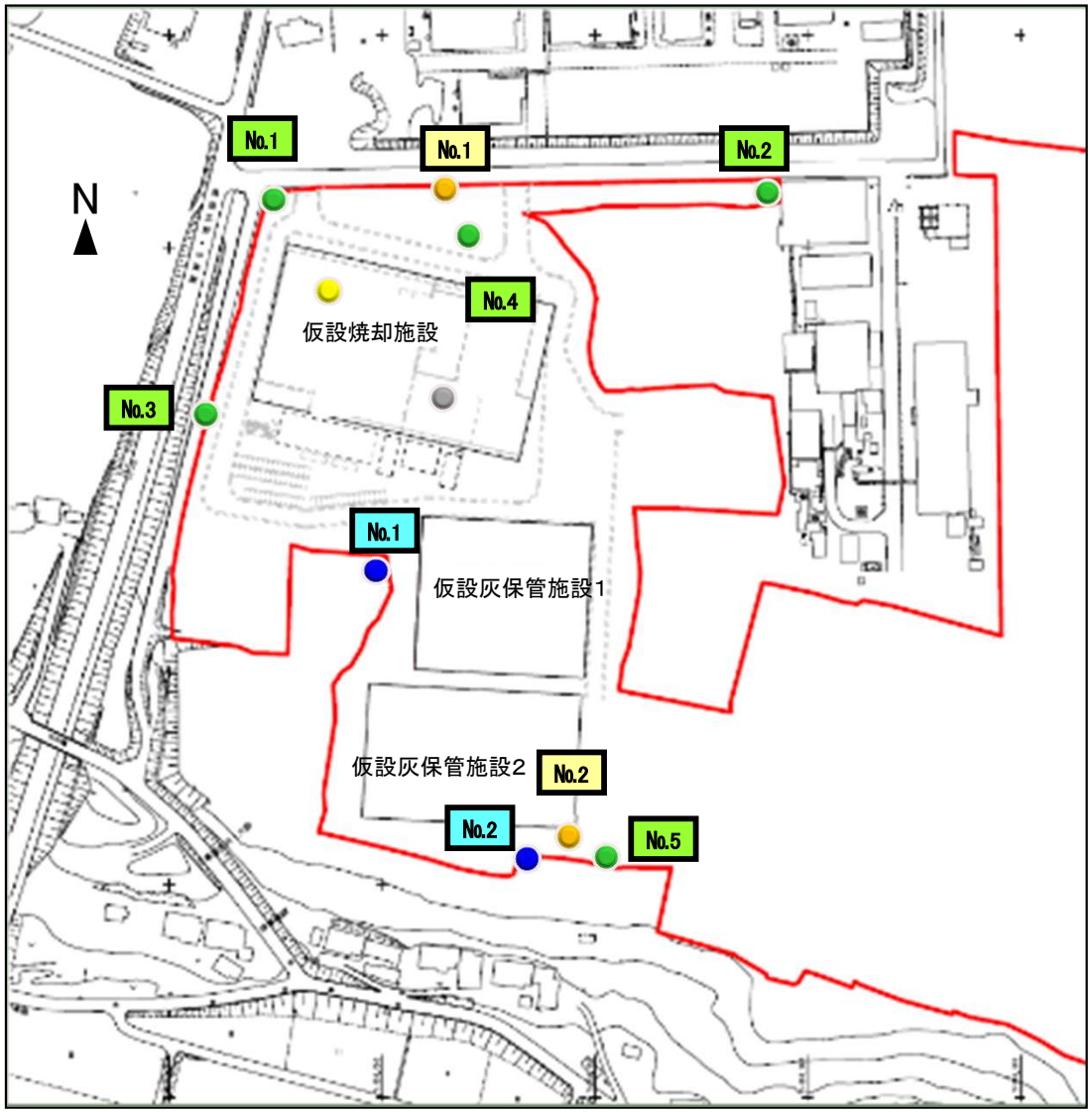
測定地点	測定項目 / 測定日	ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)
	地下水検査基準	1以下
上流	2023/10/2 （稼働前）	0.099
	2026/5/12 （稼働後）	0.011
下流	2023/10/2 （稼働前）	0.039
	2026/5/8 （稼働後）	0.017

※ 放射性物質汚染対処特措法施行規則別表第三（第二十六条関係）の改正（2026年4月施行）により、「六価クロム」の基準が「0.05mg/L以下」から「0.02mg/L以下」へ変更された。

NDとは、定量下限値未満であることを示す。

仮設焼却施設のモニタリング結果

大熊町仮設焼却施設のモニタリング測定地点



凡例

- 排ガス中の放射性物質濃度
- 地下水（井戸）中の放射性物質濃度
- 雨水（雨水排水集水桝）中の放射能濃度
- 空間線量率
- 粉じん濃度

大熊町仮設焼却施設のモニタリング測定結果

悪臭

測定地点	測定日	臭気指数	
		基準値	測定値
業務用地境界(東)	2025/12/1	15	<10
業務用地境界(西)	2025/12/1	15	<10
業務用地境界(南)	2025/12/1	15	<10
業務用地境界(北)	2025/12/1	15	<10
業務用地境界(南西)	2025/12/1	15	<10
気体排出口	2025/12/1	35	17

排ガス中のダイオキシン類濃度

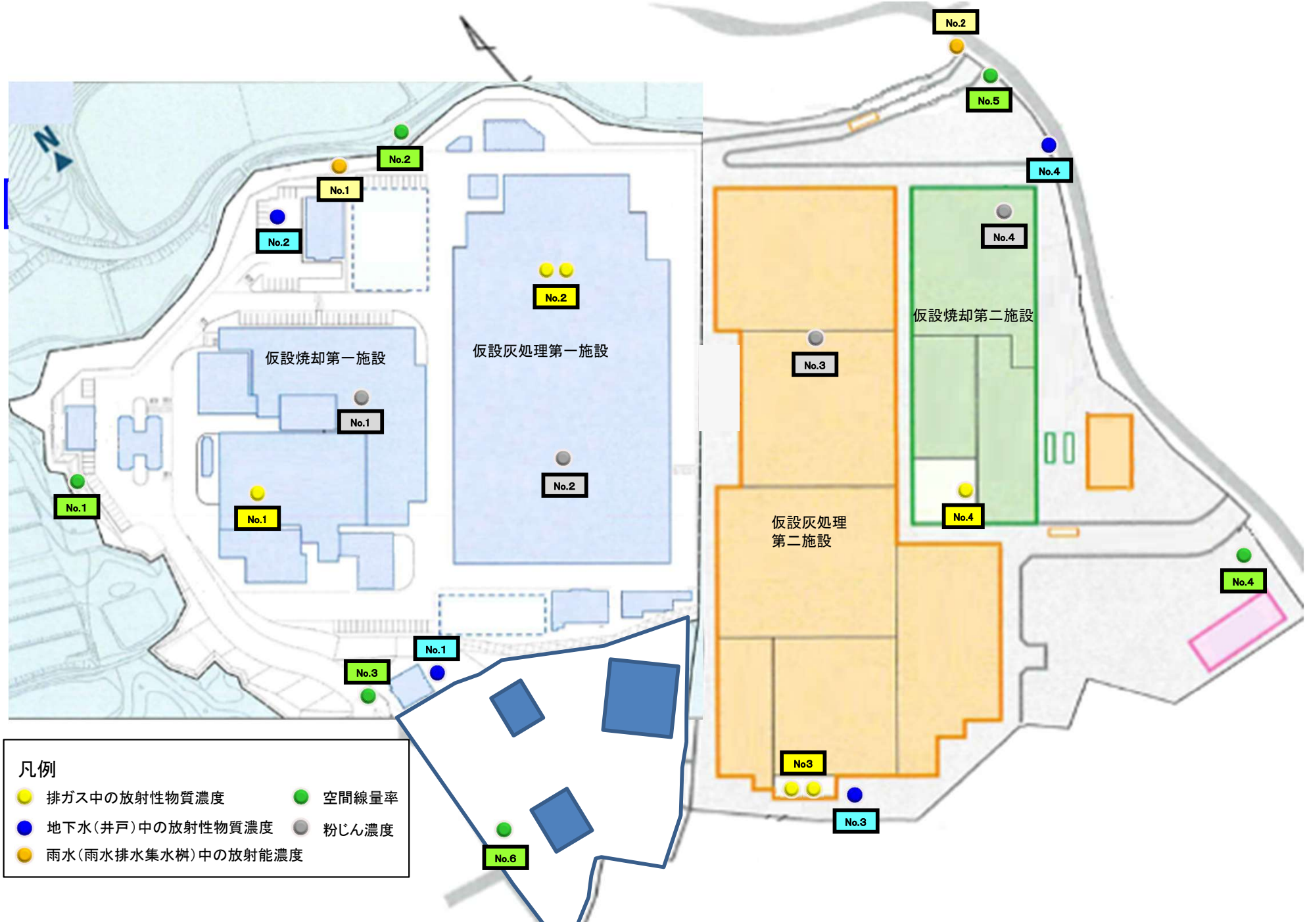
測定対象	測定日	ダイオキシン類濃度(ng-TEQ/m3・N)	
		基準値	測定値
排ガス	2025/12/1	0.1以下	0.000031

焼却灰・ばいじん中のダイオキシン類濃度

測定対象	測定日	ダイオキシン類濃度(ng-TEQ/g)	
		基準値	測定値
焼却灰	2025/12/1	3	0.000037
ばいじん	2025/12/1	3	0.059

※2026年12月に測定予定

双葉町仮設処理施設のモニタリング測定地点



双葉町仮設処理施設のモニタリング測定結果
仮設焼却第一施設・仮設灰処理第一施設

悪臭

測定地点	測定日	臭気指数	
		基準値	測定値
業務用地境界(風上)	2026/4/22	15	<10
業務用地境界(風下)	2026/4/22	15	<10
気体排気口 (仮設焼却第一施設)	2026/4/22	38	33
気体排気口 (仮設灰処理第一施設・1号炉)	2026/4/8	38	27
気体排気口 (仮設灰処理第一施設・2号炉)	2026/5/15	38	22

排ガス中のダイオキシン類濃度

測定対象	測定日	ダイオキシン類濃度(ng-TEQ/m3・N)	
		基準値	測定値
排ガス (仮設焼却第一施設)	2026/4/21	0.1以下	0.00012
排ガス (仮設灰処理第一施設・1号炉)	2026/4/8	0.1以下	0.000015
排ガス (仮設灰処理第一施設・2号炉)	2026/5/15	0.1以下	0.000013

生成物・ばいじん中のダイオキシン類濃度

測定対象	測定日	ダイオキシン類濃度(ng-TEQ/g)	
		基準値	測定値
生成物 (仮設焼却第一施設)	2026/4/20	0.25	0
生成物 (仮設灰処理第一施設)	2026/4/8	0.25	0
ばいじん (仮設焼却第一施設)	2026/4/21	―	0.032
ばいじん (仮設灰処理第一施設)	2026/4/8	―	0.61

双葉町仮設処理施設のモニタリング測定結果
仮設焼却第二施設・仮設灰処理第二施設

悪臭

測定地点	測定日	臭気指数	
		基準値	測定値
業務用地境界(風上)	2026/7/27	15	<10
業務用地境界(風下)	2026/7/27	15	<10
気体排気口 (仮設焼却第二施設)	2026/7/27	38	27
気体排気口 (仮設灰処理第二施設・1号炉)	2026/7/27	38	31
気体排気口 (仮設灰処理第二施設・2号炉)	2026/7/27	38	19

排ガス中のダイオキシン類濃度

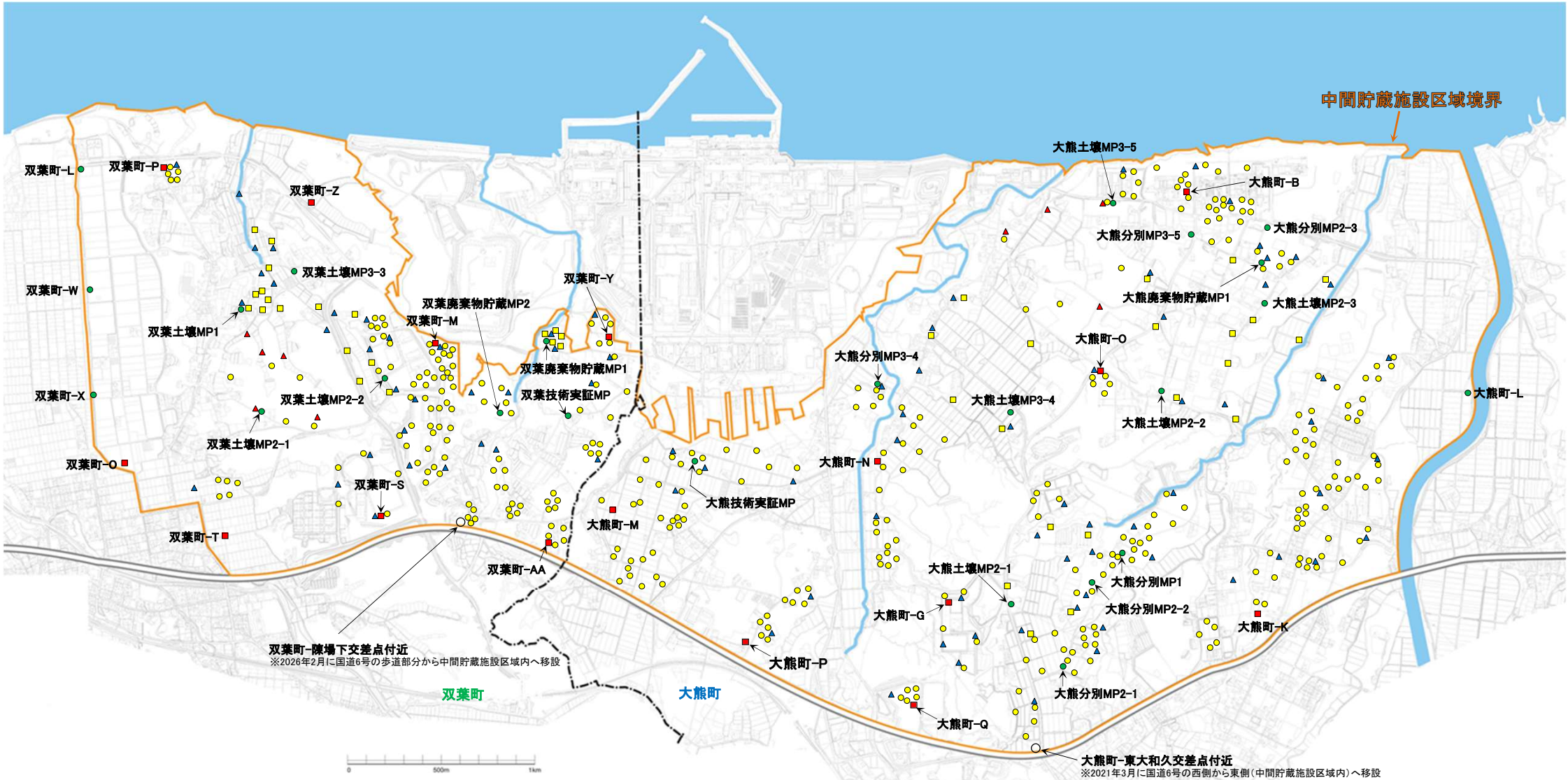
測定対象	測定日	ダイオキシン類濃度(ng-TEQ/m3・N)	
		基準値	測定値
排ガス (仮設焼却第二施設)	2026/6/6	0.1以下	0
排ガス (仮設灰処理第二施設・1号炉)	2026/7/6	0.1以下	0.0000053
排ガス (仮設灰処理第二施設・2号炉)	2026/7/4	0.1以下	0.00000015

焼却灰・生成物・ばいじん中のダイオキシン類濃度

測定対象	測定日	ダイオキシン類濃度(ng-TEQ/g)	
		基準値	測定値
焼却灰 (仮設焼却第二施設)	2026/6/6	―	0.00000011
生成物 (仮設灰処理第二施設)	2026/7/4	0.25	0.00000087
ばいじん (仮設焼却第二施設)	2026/6/6	―	0.00016
ばいじん (仮設灰処理第二施設)	2026/7/4	―	0.025

中間貯蔵施設区域におけるモニタリング結果

中間貯蔵施設区域における放射線モニタリング位置図

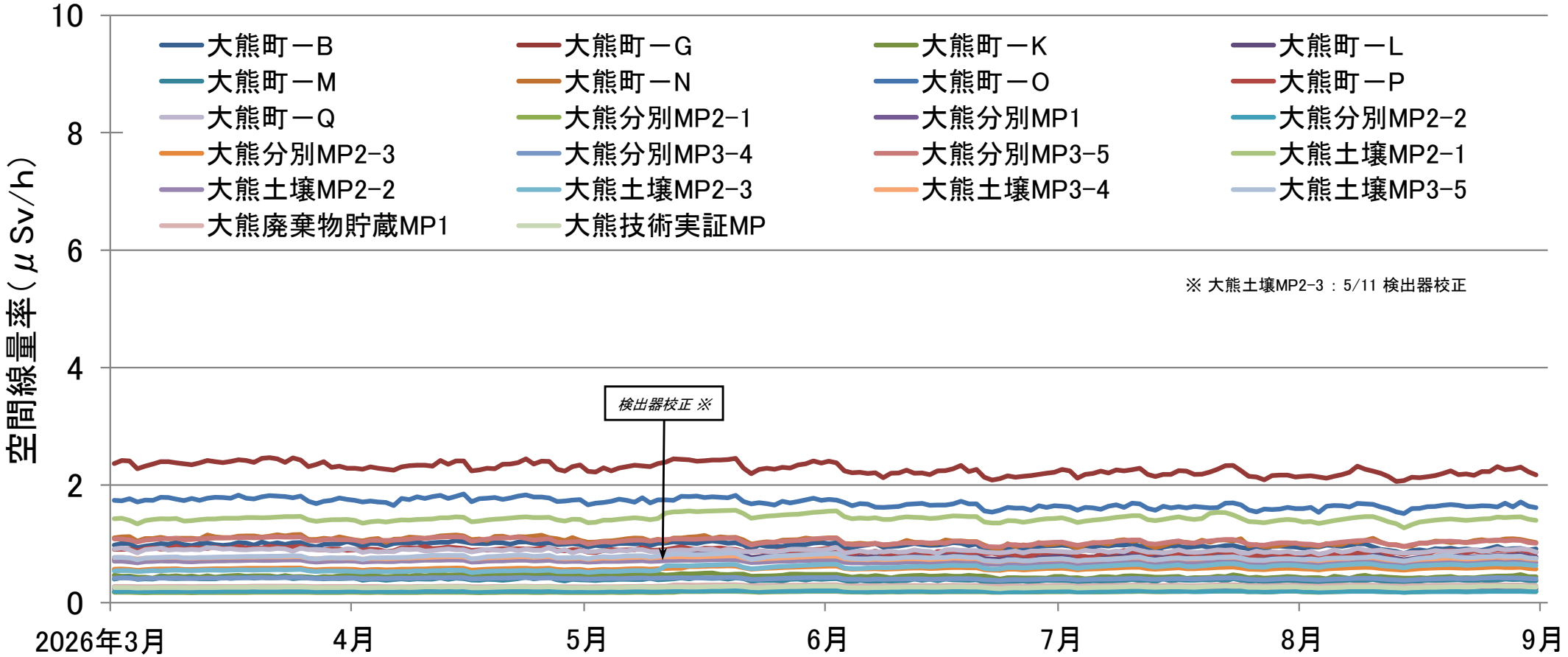


- 空間線量率測定地点（リアルタイムデータ自動送信）
- 空間線量率測定地点（連続測定週次データ回収）
- 空間線量率測定地点（週次測定）
- 空間線量率測定地点（月次測定）
- 地下水中放射能濃度測定地点（月次測定）
- 地下水中放射能濃度測定地点（週次測定）
- 大気中放射能濃度、空間線量率測定地点（リアルタイムデータ自動送信）

2026年8月31日時点

空間線量率及び地下水中の放射能濃度の測定結果（大熊町）

○ モニタリングの地点数：連続測定22箇所、週次測定250箇所で空間線量率の測定を行っている。
○ モニタリングの結果　：空間線量率は0.17～5.16μSv/hの範囲であり、降雨等による変動が見られたが、除去土壌等の保管・処理・貯蔵、灰処理ばいじんを封入した鋼製角形容器の貯蔵及び除去土壌等を用いた実証試験事業等による周辺への影響は見られなかった。また、解体作業を実施している施設や除去土壌の貯蔵作業が完了した施設においても周辺への影響は見られなかった。

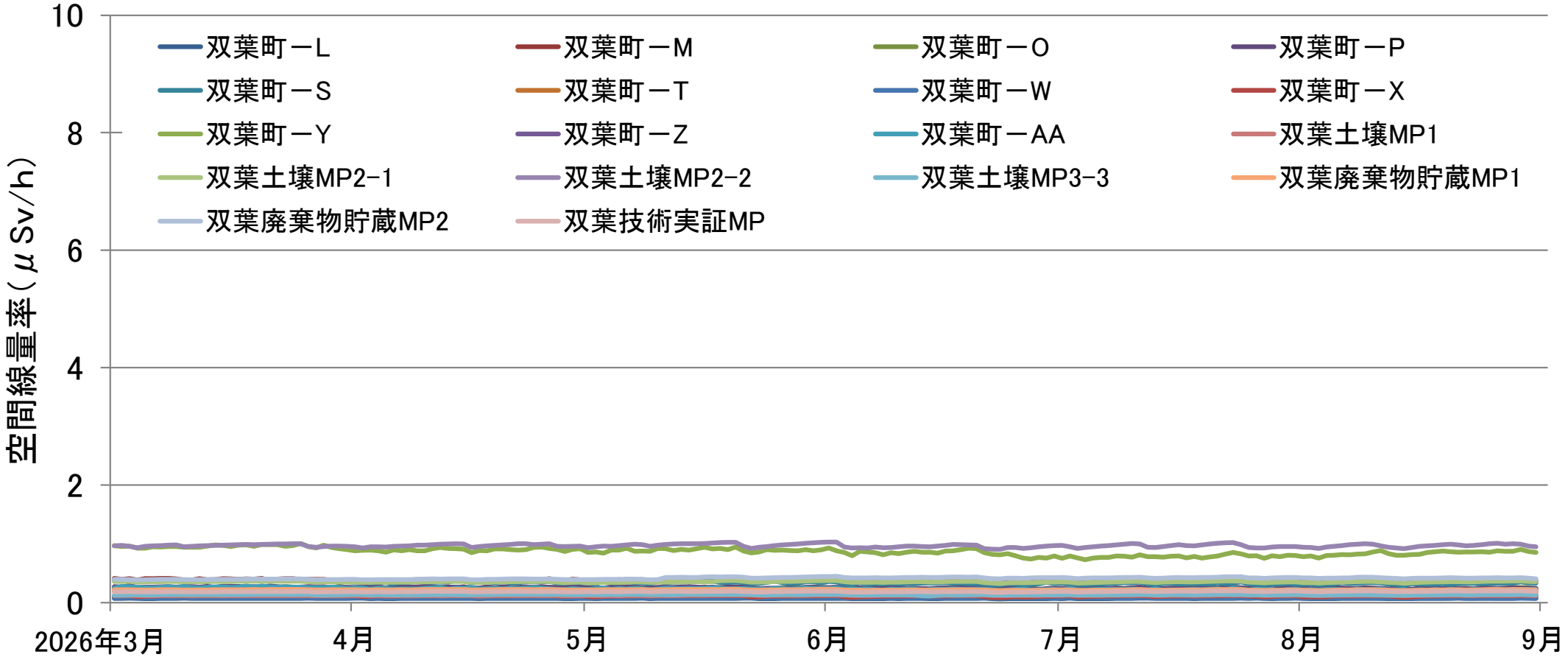


空間線量率の推移（連続測定）（2026年3月1日～8月31日）

○ 地下水中の放射能濃度は、全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。

空間線量率及び地下水中の放射能濃度の測定結果（双葉町）

○ モニタリングの地点数：連続測定18箇所、週次測定150箇所で空間線量率の測定を行っている。
○ モニタリングの結果　：空間線量率は0.11～4.28μSv/hの範囲であり、降雨等による変動が見られたが、除去土壌等の保管・貯蔵、灰処理ばいじんを封入した鋼製角形容器の貯蔵による周辺への影響は見られなかった。また、除去土壌の貯蔵作業が完了した施設においても周辺への影響は見られなかった。



空間線量率の推移（連続測定）（2026年3月1日～8月31日）

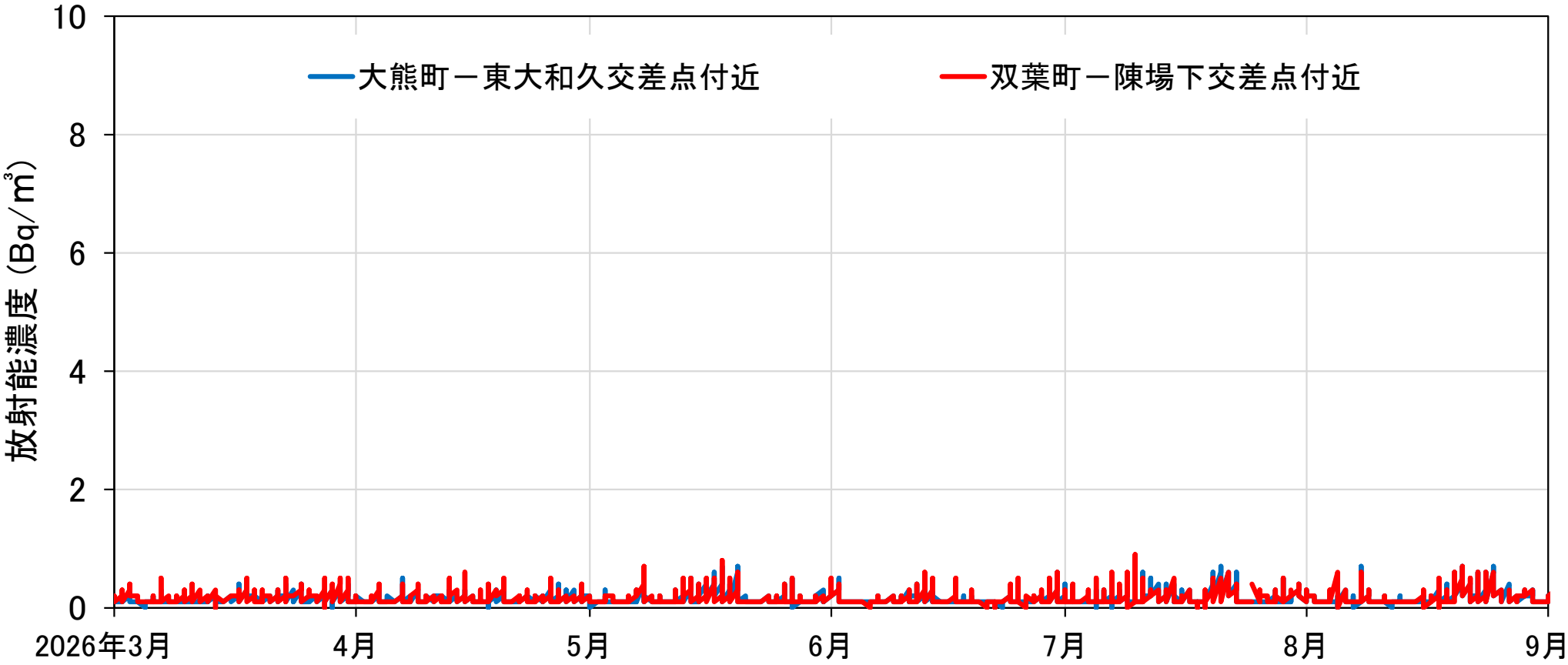
○ 地下水中の放射能濃度は、全て検出下限値（1Bq/L）未満であることを確認した。

中間貯蔵施設区域境界における大気中放射能濃度の測定結果

○ 区域境界における大気中放射能濃度は全て検出下限値未満であることを確認した（測定頻度：週1回）。

※検出下限値は数万分の1Bq/m³程度、濃度限度はセシウム134濃度/20+セシウム137濃度/30≦1

○ 放射能濃度の変化をより迅速に把握するため、β線の放射能濃度をリアルタイムに監視している。
連続測定結果は下図のとおりであり、通常の変動の範囲内で推移している。

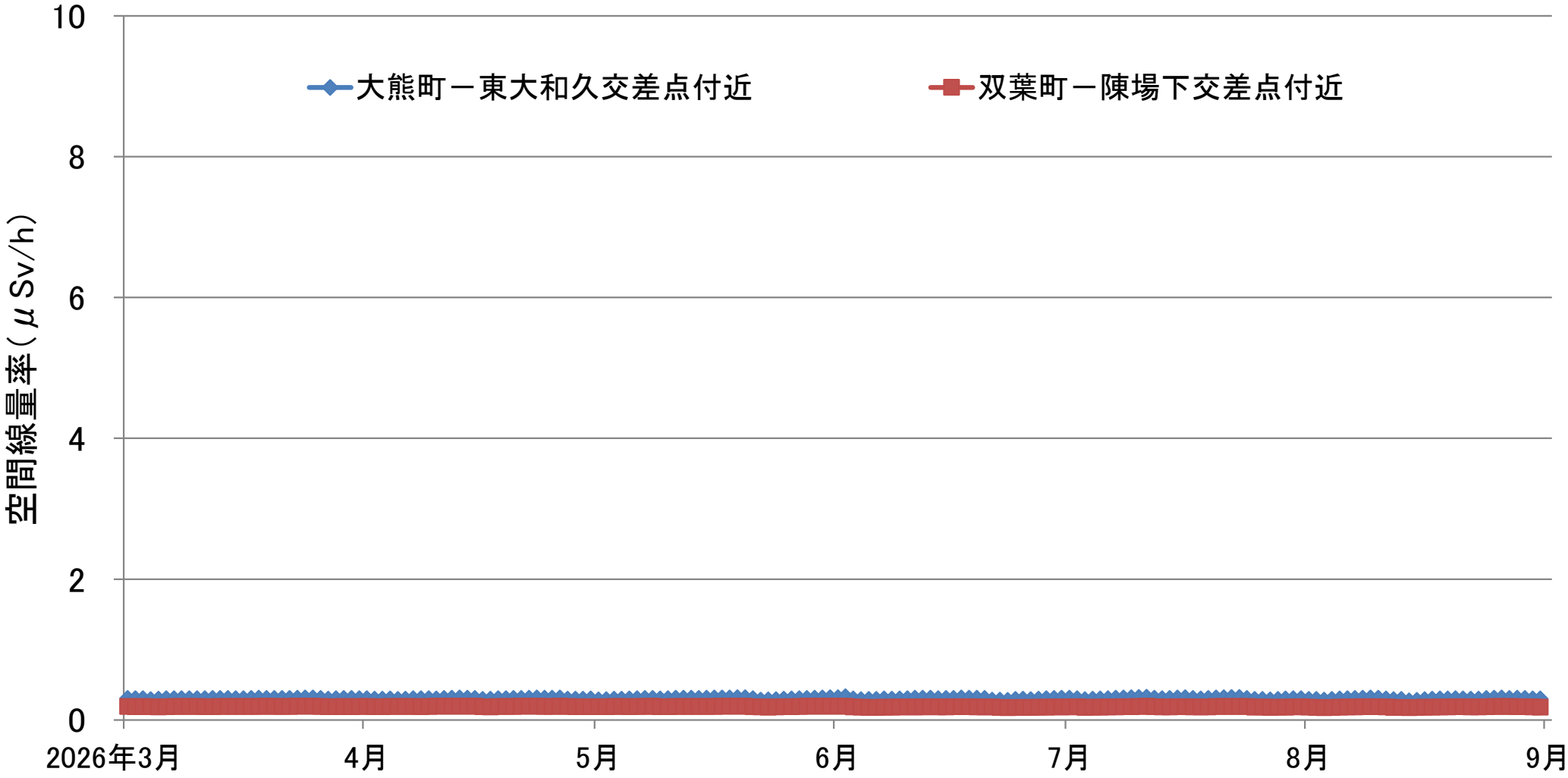


中間貯蔵施設区域境界における大気中のβ線の放射能濃度（連続測定）
（2026年3月1日～8月31日）

※期間中（7/25、30、8/4、26 陳場下交差点付近）の一部の時間帯で設備の不具合によりデータの欠測がありましたが、
Ge半導体検出器を用いたγ線測定を行い放射性セシウムが検出されていないことを確認しています。

中間貯蔵施設区域境界における空間線量率の測定結果（連続測定）

○ 区域境界における空間線量率は下図のとおりであり、降雨等による変動が見られたが、通常の変動の範囲内で推移している。



中間貯蔵施設区域境界における空間線量率の推移（連続測定）
（2026年3月1日～8月31日）

輸送路における放射線量率の測定結果

輸送路における放射線量率の測定地点

○ 輸送車両の通過地点のうち交差点や速度低下地点において、遮へい板付きの測定器を用いて周囲の放射線の影響を除去し、車道から歩道方向に入射する放射線量率の変化を測定している。



輸送路における放射線量率の測定結果

○　輸送車両が通る時などに、数十秒間程度、平常時より高い放射線量率が観測される場合があったが、追加被ばく線量は十分に小さいことを確認した。

測定地点	当該地点を通過した輸送車両数[台]	うち通過時に線量率の増加が観測されたもの[台]※1	（参考）当該地点の空間線量率[μSv/h]	（輸送車両通過時）		
				追加被ばく線量率（瞬間最大値）[μSv/h]※2	線量率の増加が観測された時間（累積）[分]※2	追加被ばく線量（累積）[μSv]
①南相馬IC	0	0	0.10	—	—	—
②浪江IC※3	2,548	34	0.21	0.03	5.3	0.002
③大熊IC	2,652	401	0.16	0.06	65	0.01
④常磐双葉IC	3,293	229	0.62	0.03	31	0.009

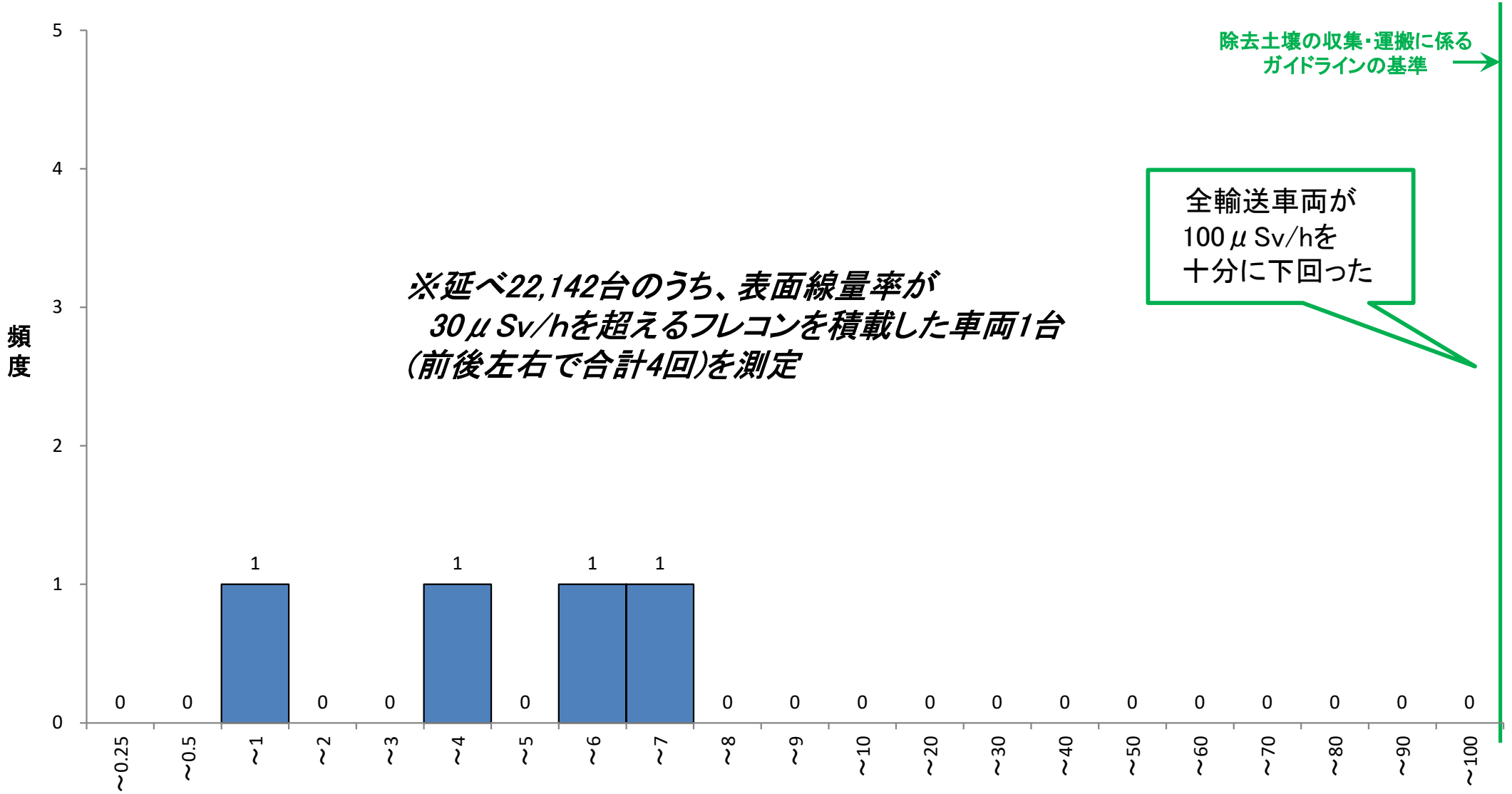
※1　各地点の放射線量率の測定結果について「測定期間の平均値＋標準偏差の3倍」を超過した輸送車両数。
※2　測定は20秒単位。
※3　ICにおける降車と乗車の輸送車両を対象としている。

輸送路における放射線量率の測定結果（2026年3月～8月）

輸送車両のモニタリング結果

仮置場搬出時の輸送車両周辺の空間線量率の測定結果

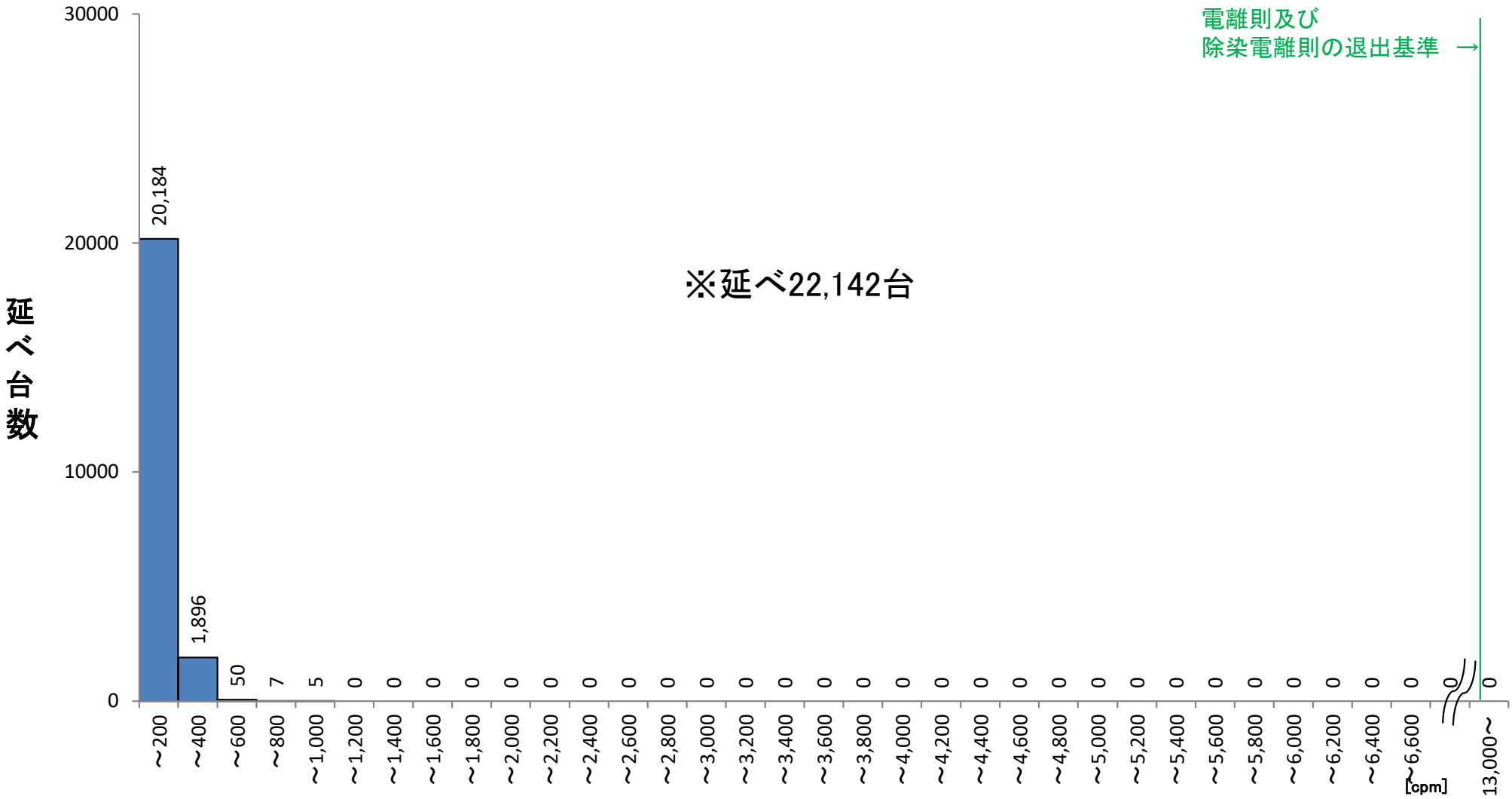
○ 仮置場からの搬出時に、表面線量率が30μSv/hを超えるフレコンを積載した車両について、前後左右1メートル離れた地点で空間線量率を測定し、積載した除去土壌等による周辺への放射線の影響を確認している。



輸送車両周辺の空間線量率の測定結果（2026年3月1日～8月31日） ※バックグラウンドの影響も含む

中間貯蔵施設退出時の輸送車両の表面汚染密度の測定結果

○ 中間貯蔵施設からの退出時に、除去土壌等を荷下ろした輸送車両の汚染検査（スクリーニング）を行い、電離則及び除染電離則に定められた基準を超えていないことを確認している。



輸送車両のスクリーニング時の最大の表面汚染密度の分布(2026年3月1日～2026年8月31日)

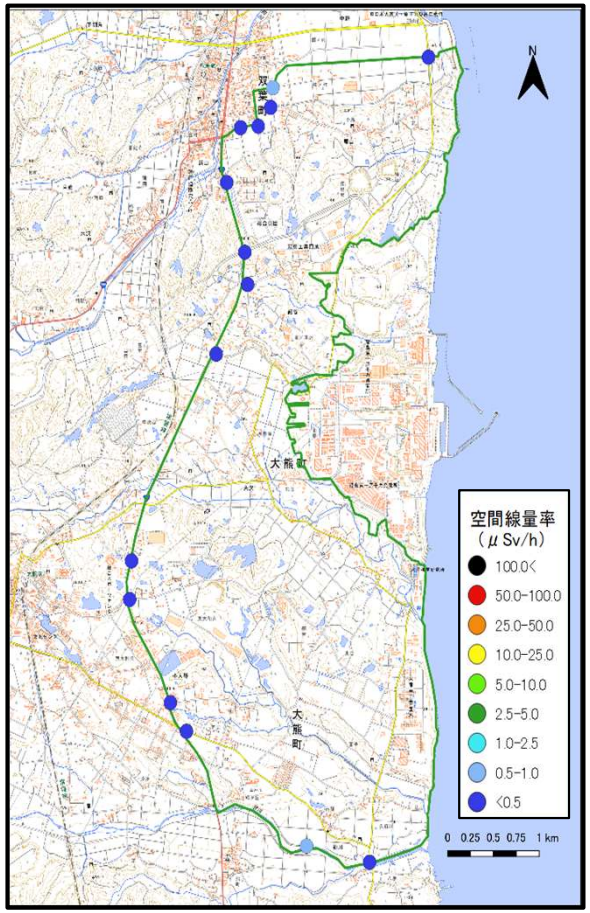
※表面汚染密度の値はバックグラウンドを含むグロス値

中間貯蔵施設区域境界（ゲート付近等）の モニタリング結果

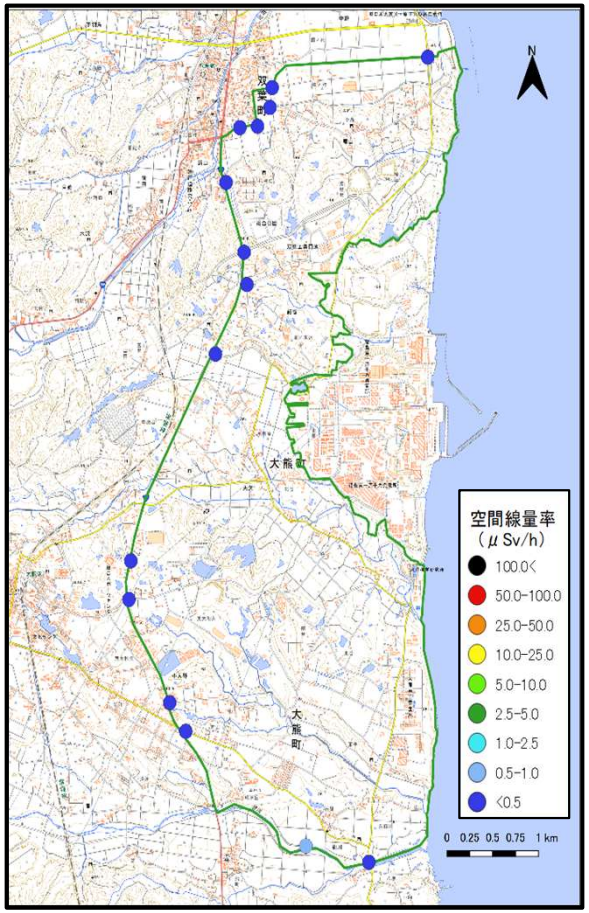
中間貯蔵施設における区域境界（ゲート付近等）のモニタリングの実施について

- 特定復興再生拠点の避難指示解除を踏まえ、中間貯蔵施設区域の安全に係る情報提供として、中間貯蔵施設区域境界（ゲート付近等）の地表面のモニタリング（空間線量率及び表面汚染密度の測定）を実施している。
- 2026年7月の測定結果は以下のとおり。当該データはJESCOホームページにて公表している。

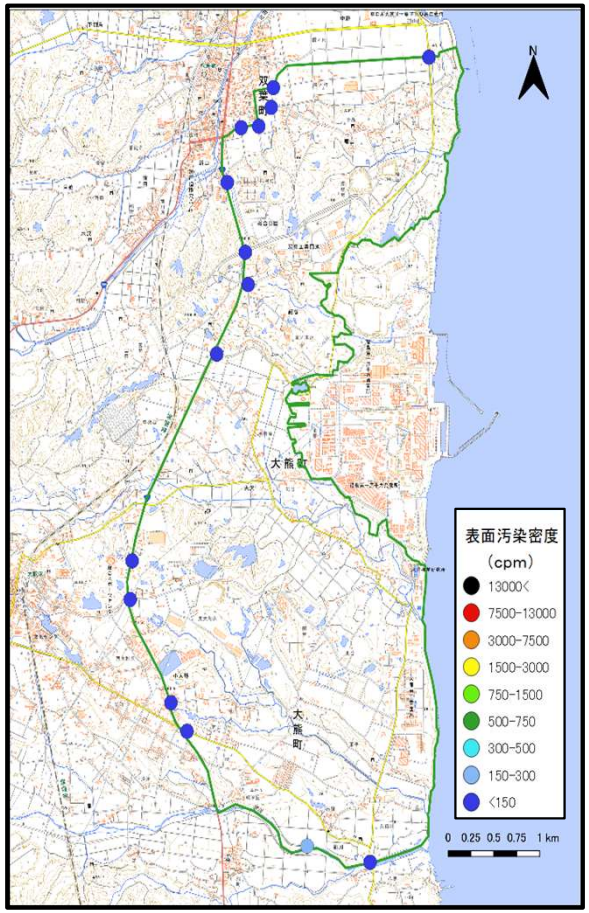
空間線量率（at　1m）



空間線量率（表面）



表面汚染密度（計数率）



中間貯蔵施設区域

福島、
その先の環境へ。

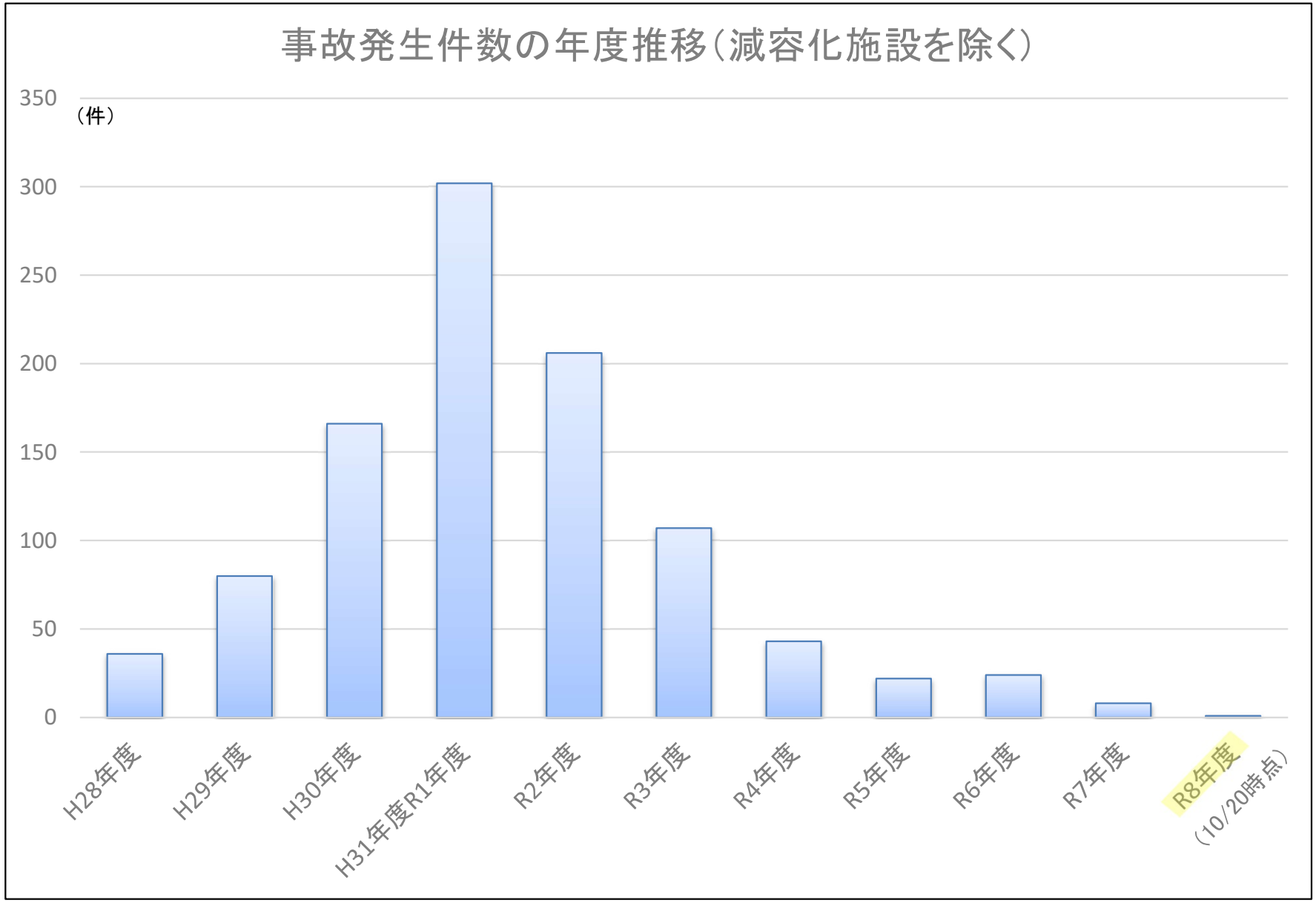
資料2

中間貯蔵施設事業において発生した事故事例と対応等について（2026年3月環境安全委員会報告以降）

2026年10月

環境省

事故発生件数の推移等


事故発生件数の年度推移（減容化施設を除く）
350
（件）
300
250
200
150
100
50
0
H28年度
H29年度
H30年度
H31年度R1年度
R2年度
R3年度
R4年度
R5年度
R6年度
R7年度
R8年度
（10/20時点）

令和8年度 中間貯蔵施設工事 事故防止目標 及び 重点対策

死亡災害・重大事故ゼロ ！
～安全に対する意識を高く持ち、基本に忠実な安全行動の徹底～

事故防止重点事項と対策

（1）重機・機械・設備に係わる事故の防止
- ・基本ルール（退避・合図・手順）の徹底と予定外作業の禁止。
- ・架空線チェックシートによるリスク洗い出しと対策の徹底。
- ・正しい機械・工具の使い方と設計段階から安全装置を導入。

（2）墜落・転落、転倒事故の防止
- ・作業手順の整備・改善と安全装備の適切な使用。
- ・日々のKY活動と現場での注意喚起。

（3）運搬、荷役作業に係わる事故の防止
- ・施工体制外の業者を含め、安全確認・安全行動の指導実施。
- ・車両の点検整備と運搬側・荷役側双方で荷姿チェック。

（4）輸送車両の安全走行と漏水防止対策の徹底
- ・健康管理・運行前点検の確実な実施と安全運転の指導継続。
- ・漏水防止フローに基づく対策の徹底。

（5）業務車両及び通勤時の交通事故削減
- ・事故事例の周知と繰り返しの教育・指導実施。事前の注意喚起。

（6）相談・報告しやすい職場・環境づくり
- ・初動対応マニュアルの更新・展開と報告しやすい職場づくりへの工夫。

事業において発生した事故事例と対応等

	【事例の内容】	【主な発生要因】	【主な再発防止策】
交通事故	該当事例無し		
輸送車両の故障等	輸送車両（空車）が工事用道路と県道252号線との交差点においてルート逸脱	・退域ゲートで通行許可証の提示に意識がいってしまい、右折ウインカーを出すのを忘れてしまった ・交通誘導警備員は、当該車両のウインカーが出ていなかったため直進方向に誘導し、当該運転手は誘導に従って直進してしまった	①緊急安全教育を実施 ナビ音声の復唱 退域ゲートでのウインカー点灯 ②運行管理者による添乗確認を実施
作業場での事故等	焼却施設の溶融炉内清掃作業を終え、仮設電動ホイストを取り外した際、上部作業員Bの手から外れ、受け取りのため下部で待機していた作業員Aの左足安全長靴の先端付近に落下し、左足親指を骨折した	・足元が不安定な状態かつ高所作業であったにもかかわらず重量物の落下防止対策、受渡し対策を取っていなかった ・当該作業等（準備・片付け等の非定常作業）について、詳細な作業手順書が作成されていなかった	・当該作業を不要とした （電動ホイストは取外し不要な位置へ常設） ・全作業の総点検を実施。類似作業の洗い出しと、作業手順書の充実等の安全対策を図る
その他	施設の点検清掃に当たり焼却施設の給じん装置下に設置した仮設クリーンルームのビニールが燃焼 設備本体への影響および外部への放射性物質の影響はなし	・給じん装置下に発生した堆積物が除去作業に伴い発熱し、仮設クリーンルームのビニールが燃焼 ・燃焼しやすい容器残さ主体のごみを少量ずつ焼却していたため、焼却炉の熱が給じん部へ伝わり、（通常ごみが燃えることのない）給じん部でごみが発熱し、残さが給じん装置下へ落下、堆積 ・給じん装置下で溶けたごみがくすぶる中堆積物除去作業に伴い空気が流入し、発熱を促進除去作業（削岩機使用）で発生した摩擦熱が発熱を誘発	・給じん装置下（シュート管）に温度監視装置設置 →100℃以上で焼却処理停止 ・容器残さの混焼率を低減（30%程度）、ごみ発熱量の上昇を抑制 ・シュート管に点検口（のぞき窓）を設置し毎日内部を目視確認 ・クリーンルーム設置の際は難燃材を使用

令和8年3月16日～令和8年10月20日までに発生した事例

輸送車両の故障等（ルート逸脱）

事例の概要

輸送車両（空車）が工事用道路中央台線と大熊町県道252号線との交差点においてルート逸脱

2026年10月19日　11時40分頃＜（株）日新土建＞

3回転目の輸送終了後、4回転目の輸送のため工事用道路中央台線の中間貯蔵施設退域ゲートを出て、県道252号線との交差点を右折すべきところを、そのまま工事用道路を直進し本来のルートを逸脱した。

発生要因

・退域ゲートで通行許可証の提示に意識がいってしまい、右折ウインカーを出すのを忘れてしまった。
・交通誘導警備員は、当該車両のウインカーが出ていなかったため直進方向に誘導し、当該運転手は誘導に従って直進してしまった。

再発防止策

①緊急安全教育を実施
ナビ音声の復唱、退域ゲートでのウインカー点灯
②運行管理者による添乗確認を実施

ルート逸脱後の対応

交差点通過後、直ぐにルート逸脱に気付き、交差点から70mほど先の安全な場所に停車して元請の運行管理に連絡をした。



【事案発生場所】
㈱日新土建より提供資料を加筆修正



【事案発生場所拡大写真】
地理院地図航空写真に矢印他追記

現場での事故等（足の骨折）

事例の概要

双葉町仮設焼却施設（その1） 電動ホイスト落下による骨折

- ３月27日16時頃、焼却施設の溶融炉内清掃作業を終え、仮設の電動ホイスト（※）を取り外した際、上部作業員Bの手から外れ、受け取りのため下部で待機していた作業員Aの左足安全長靴の先端付近に落下し、左足親指を骨折した。

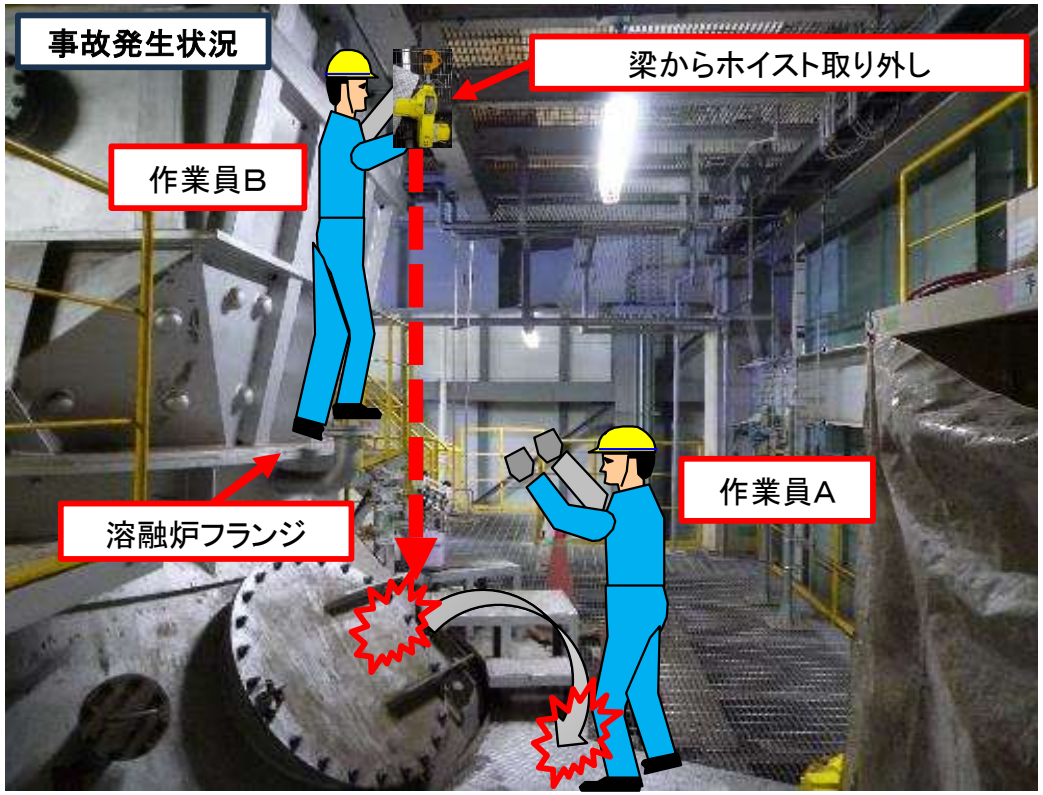
※電動モーターでロープを巻き取り、重い機材を昇降させるための装置。清掃作業のために一時的に設置していた保護機材を固定する目的で取り付けていた。

発生要因

・足元が不安定な状態、かつ電動ホイストの設置位置が高かった（約2.5m）にもかかわらず、当該電動ホイスト（約15kg）の落下防止対策、受渡し対策を取っていなかった
・当該作業（準備・片付け等の非定常作業）について、詳細な作業手順書が作成されていなかった

再発防止策

・当該作業を不要とした
（電動ホイストは取外し不要な位置へ常設）
・作業の総点検を実施。類似作業の洗い出しと、作業手順書の充実等の安全対策を図る



参考：災害再現写真・図

現場での事故等（火災）

事例の概要

双葉町仮設焼却施設（その2）仮設クリーンルームの焼損（火災）

- 操業の過程で給じん装置下（※）に堆積物が固着したため、5月2日9時頃、除去作業のためにビニール製の仮設クリーンルームを設置（参考2）。

  ※ホッパに蓄えられた廃棄物を焼却炉に送り出すための装置。装置位置は参考1。
- 5月2日15時頃、仮設クリーンルームのビニールの焼損を確認（参考3）。16時10分頃に初期消火が完了し、その後消防により鎮火確認。
- 施設本体への影響及び外部への放射性物質の影響はなし。

発生要因（推定）

給じん装置下に発生した堆積物がその除去作業に伴い発熱。その熱が仮設クリーンルームのビニールに伝わり燃焼したと考えられる。

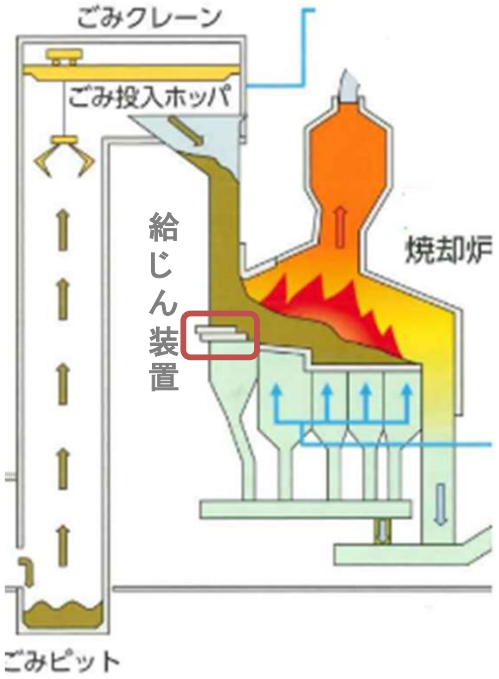
【堆積物の発生の原因】
- 燃焼しやすい容器残さ主体のごみを少量ずつではあるものの焼却していたため、焼却炉の熱が給じん部へ伝わり、（通常ごみが燃えることのない）給じん部でごみが発熱し、残さが給じん装置下へ落下、堆積

【堆積物の発熱の原因】
- 給じん装置下で溶けたごみがくすぶっているところに、堆積物除去作業に伴い空気が流入し、発熱を促進
- 除去作業（削岩機使用）で発生した摩擦熱が発熱を誘発

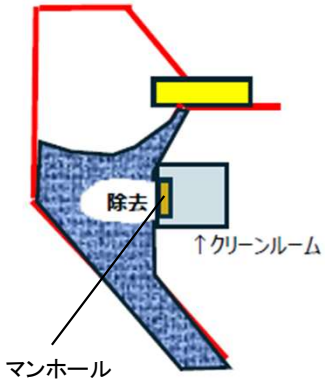
再発防止策

① 給じん装置下（シュート管）に温度監視装置設置→100℃以上で焼却処理停止
② 容器残さの混焼率を低減（30%程度）。ごみ発熱量の上昇を抑制
③ シュート管に点検口（のぞき窓）を設置し毎日内部を目視確認
④ クリーンルーム設置の際は難燃材を使用

参考1：火災発生箇所（赤枠部分）



参考2：火災発生箇所（詳細）



参考3：溶けたクリーンルーム



双葉②工区　浸出水送水管からの漏水への対応について

資料2
当日追加

- 土壌貯蔵施設（双葉2工区）の浸出水を処理施設まで送水する管において、腐食により一部漏水していることが令和8年10月28日の点検時に判明。発見してすぐに送水を停止し、同日中に以下の処置を実施済。

①漏水していると思われる赤さびが出ている堰堤土壌を除去。
②雨水排水側溝の滞留水は除去・洗浄を行い、流出先の貯水池の水を回収・測定。
結果：回収・測定した水の放射能濃度は検出下限値未満（ND）（※漏水確認直後に送水管内から採取した浸出水原水の放射能濃度は0.69Bq/L）
③他工区の緊急点検を実施し異常のないことを確認。

※点検開始の同日10時時点では異常が確認されなかったため、ポンプ作動確認点検中の10～11時の間に漏水が生じたものと推定される。
※漏水発生箇所は保温材を巻いていた箇所であり、事前に目視による送水管本体の状態を確認できなかった。





☆：土壌貯蔵施設
（浸出水処理施設）









安全対策①（類似事故の再発防止、安全意識を高く持ち続ける取組）

「伝えるべきときに しっかり伝わるよう 伝える」

- 「令和8年度中間貯蔵施設工事事故防止目標及び重点対策」を繰り返し伝達、確認。
- 事故発生情報を周知。類似事故防止を呼びかけ。
- 過去の事例に基づく重要な教訓、反省を集約した「場面別 再発防止チェックシート」を作成。日々の作業場面に応じた類似事故防止対策を下支え。
- 工事の進捗、季節気象に応じた声かけ、注意喚起を、発注者から積極的に実施。
- 労働安全コンサルタントによるパトロール時の指摘事項を項目別にチェックシート化し、受注者に活用していただき、同じ指摘を受けない（同じリスクを放置しない）よう指導。

安全対策について②（作業員安全研修）

作業員研修

2022年度より、仮置場を含めて中間貯蔵施設工事に携わる全ての作業員を対象に安全研修を実施。
2026年度は9月末までに4回開催、計106名が受講。

＜主な内容＞

- ルール遵守の重要性・発生事故事例を基に再発防止に重要となるポイントを周知。
- 通勤・帰宅時の交通事故の状況と交通安全の指導・教育を実施。
- 中間貯蔵施設事業は、地域の多大なご協力の下に実施されていることをあらためて説明。
- 本事業において発生した事故等の状況を説明し、労働災害含む危険予知の気付きを促す教育を実施。





作業員安全研修

安全対策について③（運転者研修）

新任運転者研修

輸送車両の運転者及び受注者職員等を対象に、中間貯蔵施設への除去土壌等の輸送に係る研修を実施。
2026年度は9月末までに2回開催。

＜主な内容＞

- 福島県警察本部からの県内の交通事情、高速道路での交通安全対策、事故時の対応等について指導。
- 環境省から緊急時の対応に関するマニュアルの周知を行い、緊急時の迅速な通報・連絡訓練を実施。

現任運転者研修

輸送に従事している全ての運転者が毎年度の再研修として受講。2026年度は9月末までに2回開催。

＜主な内容＞

- 中間貯蔵施設工事・輸送は地域の多大なご協力の下に実施される事業であることについて、地元の方々から寄せられているご意見も含めて改めて説明。
- 中間貯蔵施設工事・輸送において発生している事故等の状況を説明。
- 自らの運転の自己評価や危険予知の気付きを促す教育を実施。



新任運転者研修



現任運転者研修

安全対策について④（協議会）

中間貯蔵工事等安全協議会

労働安全衛生・公衆災害・交通安全の情報交換と安全施工の向上を目的に2015年12月より開催。
重大事故等の発生要因及び再発防止策等の共有と、安全課題に対するテーマを決め定期的に意見交換を行い、各現場における安全対策の強化・改善につなげている。
・2026年度は対面、Webにより8回計画しており、5回目の対面開催を10月8日に受入分別施設及び浸出水処理施設の建設工事に伴う安全対策について意見交換を行った。

労働災害防止協議会

福島県労働局及び富岡労働基準監督署の指導により、中間貯蔵施設工事の安全管理の更なる向上を目的に、2020年9月より開催。
・2026年度は対面、Webにより8回計画しており、5回目は10月8日に対面で開催し、令和8年度労働災害発生状況のご説明及び安衛法、作業環境測定法の改正ポイントについてご指導いただいた。



7月14日　中間貯蔵工事等安全協議会



7月14日　労働災害防止協議会

安全対策について⑤（安全パトロール）

受注者と環境省職員による合同安全パトロール

受注者と環境省職員による合同安全パトロールを実施。

・ 2026年度は新規受注者等を対象に上期1回、下期1回計画し、下期分として10月8日に受入分別施設及び浸出水処理施設の建設工事の安全対策を重点的にパトロールを実施した。

労働安全コンサルタントによる安全パトロール

環境省職員と労働安全コンサルタントによる安全パトロールを実施。

・ 2026年度は新規受注者や過去に発生した事故の現場等を対象に10回計画し、9/30時点で7回実施。現場の安全衛生管理状況の確認と指導を行っている。

走行状況のパトロール

速度超過や交通安全に注意すべき箇所等において、輸送車両等の（帰投時を含む）走行状況を確認。

・ 2026年度は大熊町、双葉町、浪江町において実施した。



受注者と環境省職員による
合同安全パトロール



労働安全コンサルタントによる
安全パトロール



走行状況のパトロール

安全対策について⑥（優良ドライバー表彰）

優良ドライバー表彰

運転手の安全意識とモチベーションの維持・向上のため、安全な輸送を100日以上行った者に、受注者を通じて優良ドライバー認定証（ヘルメット及び車両ダッシュボードに掲示）を交付することとしている。



金：300日以上

銀：200日以上300日未満

銅：100日以上200日未満

優良ドライバー認定証
（安全輸送の継続日数ごとに3種類）



認定証の交付

資料３

令和8年度中間貯蔵施設における福島県の取組について（中間報告）

令和８年10月30日
福島県生活環境部
中間貯蔵・除染対策課

1　状況確認（１）　（令和8年9月末現在）

【 目　的 】 安全協定に基づき、施設の周辺地域の安全の確保について確認する。

【 確認内容 】 放射性物質汚染対処特措法に基づく除去土壌処理基準等への適合状況
中間貯蔵施設に係る指針（環境省策定）の順守状況

対象		確認場所	確認日	確認者	確認方法	確認項目
施設		土壌貯蔵施設	5月25日 6月30日	福島県 大熊町 双葉町	・現地での目視確認 ・書類確認	・作業の安全性 ・除去土壌等の飛散流出防止対策 ・施設の維持管理状況 ・施設の点検記録 ・モニタリング実施状況及び結果
		廃棄物貯蔵施設	7月15日 7月21日			
		保管場 （抽出による）	6月17日 7月15日 7月21日			
		容器残さ 分別処理施設	8月26日			
		減容化施設	5月22日※			
		受入・分別施設	9月14日			
輸送	中間貯蔵施設への搬入	積込場 （浪江町、大熊町）	4月21日 9月16日			・積込作業の安全性 ・除去土壌の飛散流出防止対策 ・事故時対応用資機材の携行状況 ・必要書面の備え付け状況
	中間貯蔵施設からの搬出	中間貯蔵施設内保管場（大熊町）	4月24日			

※　火災の発生を受け実施。

1　状況確認（２）　（令和8年9月末現在）

【結　果】　一時集積所の水質検査について疑義が生じたため以下のとおり確認し、現時点では適正に実施されている。その他については、関係法令等に基づき、事業が適正に実施されていることが確認できた。

項目	要求事項	対応要求日
輸送	井手一時集積所の水質検査について、放射性物質汚染対処特措法における除去土壌の保管基準に基づく地下水の水質検査がなされていないため、水質検査の要否を環境省へ確認した。 （環境省回答） これまでは、側溝の水質の検査により保管場所周縁の地下水への影響を確認していたが、県からの指摘を受けて今後は地下水の水質検査に変更する。 （７月から実施済み）	4月21日

（状況確認の様子）



土壌貯蔵施設における測定
（施設）



受入・分別施設の整備
（施設）



輸送車両の携行品の確認
（輸送）



点検記録等の確認
（輸送）

1　状況確認（３）　（令和8年9月末現在）

双葉町仮設焼却施設（その2）で発生した火災に対する再発防止策の確認

◆経緯

5月　2日　点検作業のため設置していたビニルシート（焼却炉外側）が発火し、作業員が消火器により消火
5月22日　県と双葉町による状況確認を実施
5月28日　運転再開



現地確認の状況（火災発生現場付近）
※防炎のビニルシートへ対策後の写真

◆原因

焼却炉の清掃・点検の際、給じんシュートの点検口を開けて作業を行ったところ、内部に堆積したごみが空気の流入により発熱し、ビニルシートが発火したもの。

◆再発防止策

清掃・点検の際にビニルシートを使用する場合は防炎のものを使用するとともに、給じんシュートの外側の温度を測定する。



現地確認の状況（給じんシュート点検口）

◆県と双葉町による状況確認

5月22日に火災発生現場や堆積したごみの状況を確認するとともに、火災発生の原因や再発防止策等について聞き取りを行い、環境省に対し再発防止の徹底を求めた。

2　環境モニタリング　（令和8年9月末現在）

【 目　　的 】 安全協定に基づき、施設の周辺地域の安全の確保について確認する。

【 **調査内容** 】 中間貯蔵施設に係る指針（環境省策定）の順守状況

調査対象	調査月	調査者	調査項目	結果
土壌貯蔵施設	4月～9月 計26回	福島県	①空間線量率	①変化なし
廃棄物貯蔵施設				
保管場			②放射能濃度 （大気浮遊じん、地下水、雨水、放流水）	②不検出
容器残さ分別処理施設				
研究施設			③有害物質等 （地下水、放流水）	③不検出 又は 基準値以下
敷地境界				



大気浮遊じんの試料採取と
空間線量率の測定の様子



地下水の採取の様子



雨水の採取の様子

【 **結　　果** 】これまでの結果と同程度であり、周辺環境への影響は確認されなかった。

資料３　別添

令和８年度
中間貯蔵施設事業に係るモニタリング結果

福島県中間貯蔵・除染対策課

令和８年度中間貯蔵施設事業に係るモニタリング結果一覧

調査場所	調査項目	調査地点数	結果
土壌貯蔵施設	地下水中の放射能濃度	45	すべて検出下限値未満
	地下水中の有害物質等	5	（調査未了）
	放流水中の放射能濃度	3	（調査未了）
	放流水中の有害物質等	3	（調査未了）
廃棄物貯蔵施設	地下水中の放射能濃度	4	すべて検出下限値未満
	地下水中の有害物質等	4	基準超過なし
	雨水排水中の放射能濃度	2	すべて検出下限値未満
保管場	地下水中の放射能濃度	6	すべて検出下限値未満
容器残さ 分別処理施設	空間線量率	1	これまでの結果と同程度
	大気浮遊じん中の放射能濃度	1	検出下限値未満
	地下水中の放射能濃度	1	検出下限値未満
	雨水排水中の放射能濃度	1	検出下限値未満
減容化施設	雨水排水中の放射能濃度	4	（調査未了）
	排ガス中の放射能濃度	5	（調査未了）
研究施設	空間線量率	2	これまでの結果と同程度
	大気浮遊じん中の放射能濃度	2	すべて検出下限値未満
敷地境界	空間線量率	2	これまでの結果と同程度
	大気浮遊じん中の放射能濃度	2	すべて検出下限値未満
河川	河川水中の放射能濃度	6	（調査未了）
	河川底質中の放射能濃度	6	（調査未了）

1　土壌貯蔵施設

（１）地下水中の放射能濃度　　（単位：Bq/L）

調査地点	調査日	調査項目	地図番号	分析結果	
				Cs-134	Cs-137
大熊①工区	R8.5.12	井戸	4	不検出	不検出
			5	不検出	不検出
			80	不検出	不検出
		集排水	2	不検出	不検出
			3	不検出	不検出
			79	不検出	不検出
大熊②工区（１期）	R8.5.12	井戸	9	不検出	不検出
		集排水	8	不検出	不検出
大熊②工区（２期）	R8.5.12	井戸	16	不検出	不検出
			17	不検出	不検出
		集排水	12	不検出	不検出
			13	不検出	不検出
			14	不検出	不検出
			15	不検出	不検出
大熊③工区	R8.5.14	井戸	22	不検出	不検出
		集排水	20	不検出	不検出
			21	不検出	不検出
			81	不検出	不検出
大熊④工区	R8.5.14	井戸	29	不検出	不検出
			30	不検出	不検出
			31	不検出	不検出
		集排水	25	不検出	不検出
			26	不検出	不検出
			27	不検出	不検出
大熊⑤工区	R8.5.14	井戸	37	不検出	不検出
			38	不検出	不検出
			110	不検出	不検出
		集排水	34	不検出	不検出
			35	不検出	不検出
			36	不検出	不検出
			109	不検出	不検出
双葉①工区（１期）	R8.4.16	井戸	48	不検出	不検出
		集排水	47	不検出	不検出
双葉①工区（２期）	R8.4.16	井戸	52	不検出	不検出
			53	不検出	不検出
			112	不検出	不検出
		集排水	50	不検出	不検出
			51	不検出	不検出
			111	不検出	不検出
双葉②工区	R8.4.16	井戸	57	不検出	不検出
		集排水	56	不検出	不検出
双葉③工区	R8.4.16	井戸	60	不検出	不検出
			107	不検出	不検出
		集排水	59	不検出	不検出
			113	不検出	不検出

［検出下限値：１］

（２）放流水中の放射能濃度

（調査未了）

（３）放流水中の有害物質等濃度

（調査未了）

２　廃棄物貯蔵施設

（１）地下水中の放射能濃度　　（単位：Bq/L）

調査地点	調査日	地図番号	分析結果	
			Cs-134	Cs-137
大熊工区	R8.6.11	40	不検出	不検出
		41	不検出	不検出
双葉１工区	R8.6.23	62	不検出	不検出
双葉２工区	R8.6.23	108	不検出	不検出

［検出下限値：１］

（２）地下水中の有害物質等濃度

	調査項目	単位	大熊工区		双葉1工区	双葉2工区	基準（※）	測定方法
			地図番号40	地図番号41	地図番号62	地図番号108		
			R8.6.11	R8.6.11	R8.6.23	R8.6.23		
1	アルキル水銀	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	検出されないこと	環告第10号
2	総水銀	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005 以下	環告第10号
3	カドミウム	(mg/L)	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003 以下	環告第10号
4	鉛	(mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.01 以下	環告第10号
5	六価クロム	(mg/L)	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	0.02 以下	環告第10号
6	砒素	(mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.01 以下	環告第10号
7	全シアン	(mg/L)	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	検出されないこと	環告第10号
8	ポリ塩化ビフェニル	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	検出されないこと	環告第10号
9	トリクロロエチレン	(mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01 以下	環告第10号
10	テトラクロロエチレン	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.01 以下	環告第10号
11	ジクロロメタン	(mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.02 以下	環告第10号
12	四塩化炭素	(mg/L)	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002 以下	環告第10号
13	1,2-ジクロロエタン	(mg/L)	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	0.004 以下	環告第10号
14	1,1-ジクロロエチレン	(mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.1 以下	環告第10号
15	1,2-ジクロロエチレン	(mg/L)	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	0.04 以下	環告第10号
16	1,1,1-トリクロロエタン	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	1 以下	環告第10号
17	1,1,2-トリクロロエタン	(mg/L)	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.006 以下	環告第10号
18	1,3-ジクロロプロペン	(mg/L)	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002 以下	環告第10号
19	チウラム	(mg/L)	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.006 以下	環告第10号
20	シマジン	(mg/L)	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003 以下	環告第10号
21	チオベンカルブ	(mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.02 以下	環告第10号
22	ベンゼン	(mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01 以下	環告第10号
23	セレン	(mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.01 以下	環告第10号
24	1,4-ジオキサン	(mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.05 以下	環告第10号
25	クロロエチレン	(mg/L)	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002 以下	環告第10号
26	ダイオキシン類	(pg-TEQ/L)	0.056	0.057	0.058	0.060	1 以下	日本産業規格 K0312
27	電気伝導率	(mS/m)	17	12	22	21	－	日本産業規格 K0102-1 13
28	塩化物イオン	(mg/L)	6	6	5	6	－	日本産業規格 K0102-2 6

※：「地下水の水質汚濁に係る環境基準について」（平成9年環境庁告示第10号）

（ただし、ダイオキシン類については、「ダイオキシン類による大気の汚染、水質の汚濁（水底の底質の汚染を含む。）及び土壌の汚染に係る環境基準」（平成11年環境庁告示第68号）による。）

（３）雨水排水中の放射能濃度　　（単位：Bq/L）

調査地点	調査日	地図番号	分析結果	
			Cs-134	Cs-137
大熊工区	R8.6.11	102	不検出	不検出
双葉２工区	R8.6.23	88	不検出	不検出

［検出下限値：１］

3　保管場

（１）地下水中の放射能濃度　（単位：Bq/L）

調査地点	調査日	地図番号	分析結果	
			Cs-134	Cs-137
緑ヶ丘保管場c	R8.4.14	43	不検出	不検出
東平仮設灰保管施設	R8.4.14	44	不検出	不検出
東台保管場a	R8.4.14	45	不検出	不検出
工業団地保管場d	R8.4.14	68	不検出	不検出
陳場沢保管場b	R8.4.14	69	不検出	不検出
大森仮設灰保管施設b	R8.4.14	70	不検出	不検出

［検出下限値：１］

4　容器残さ分別処理施設

（１）空間線量率　（単位：μSv/h）

調査地点	調査日	地図番号	測定時刻	調査結果
容器残さ分別処理施設	R8.8.26	123	10:33	0.27

（２）大気浮遊じん中の放射能濃度　（単位：mBq/m^3）

調査地点	調査日	地図番号	分析結果	
			Cs-134	Cs-137
容器残さ分別処理施設	R8.8.26	123	不検出	不検出

［検出下限値：５］

（３）地下水中の放射能濃度　（単位：Bq/L）

調査地点	調査日	地図番号	分析結果	
			Cs-134	Cs-137
容器残さ分別処理施設	R8.8.26	124	不検出	不検出

［検出下限値：１］

（４）雨水排水中の放射能濃度　（単位：Bq/L）

調査地点	調査日	地図番号	分析結果	
			Cs-134	Cs-137
容器残さ分別処理施設	R8.8.26	125	不検出	不検出

［検出下限値：１］

5　減容化施設

（1）雨水排水中の放射能濃度

（調査未了）

（2）排ガス中の放射能濃度

（調査未了）

6　研究施設

（1）空間線量率　（単位：μSv/h）

調査地点	調査日	地図番号	測定時刻	調査結果
技術実証施設（旧飛灰洗浄施設）	R8.5.27	104	10:02	0.23
技術実証フィールド	R8.5.27	105	10:53	0.38

（2）大気浮遊じん中の放射能濃度　（単位：mBq/m^3）

調査地点	調査日	地図番号	分析結果	
			Cs-134	Cs-137
技術実証施設（旧飛灰洗浄施設）	R8.5.27	104	不検出	不検出
技術実証フィールド	R8.5.27	105	不検出	不検出

［検出下限値：5］

7　敷地境界

（1）空間線量率　（単位：μSv/h）

調査地点	調査日	地図番号	測定時刻	調査結果
大熊町東大和久	R8.8.6	78	10:38	0.33
双葉町陣場下	R8.8.6	77	10:00	0.21

（2）大気浮遊じん中の放射能濃度　（単位：mBq/m^3）

調査地点	調査日	地図番号	分析結果	
			Cs-134	Cs-137
大熊町東大和久	R8.8.6	78	不検出	不検出
双葉町陣場下	R8.8.6	77	不検出	不検出

［検出下限値：5］

8　河川

（1）河川水中の放射能濃度

（調査未了）

（2）河川底質中の放射能濃度

（調査未了）